

介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

報告書

令和8年3月
加 茂 市

目 次

1 調査概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 報告書の見方	1
2 調査結果	2
調査対象者本人について	2
問 1 家族や生活状況について	4
(1) 家族構成をお教えてください	4
(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか	5
①お孫さんなど 18 歳未満の人に介護・介助してもらうことはありますか	6
(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか	6
問 2 からだを動かすことについて	7
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	7
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	8
(3) 15 分くらい続けて歩いていますか	9
(4) この 1 年間に転んだ経験がありますか	10
(5) 転倒に対する不安は大きいですか	11
(6) 週に 1 回以上は外出していますか	12
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	13
(8) 外出を控えていますか	14
①外出を控えている理由は、次のどれですか	15
問 3 食べることについて	16
(1) 身長・体重	16
(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	17
(3) お茶や汁物などでむせることがありますか	18
(4) 口の渇きが気になりますか	19
(5) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください	20
①毎日入れ歯の手入れをしていますか	21
(6) 噛み合わせはよいですか	21
(7) 6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか	21

(8) 家族や友人など、どなたかと食事を共にする機会がありますか	22
問 4 毎日の生活について	24
(1) 物忘れが多いと感じますか	24
(2) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるといわれますか	25
(3) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	26
(4) 今日が何月何日かわからないときがありますか	27
(5) バスや電車を使って 1 人で外出していますか	28
(6) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか	29
(7) 自分で食事の用意をしていますか	30
(8) 自分で請求書の支払いをしていますか	31
(9) 自分で預貯金の出し入れをしていますか	32
(10) 年金などの書類が書けますか	33
(11) 新聞を読んでいますか	34
(12) 本や雑誌を読んでいますか	35
(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか	36
(14) 友人の家を訪ねていますか	38
(15) 家族や友人の相談にのっていますか	39
(16) 病人を見舞うことができますか	40
(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか	41
(18) 生きがいがありますか	42
問 5 地域での活動について	44
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか	44
① ボランティアのグループ	44
② スポーツ関係のグループやクラブ	46
③ 趣味関係のグループ	48
④ 学習・教養サークル	50
⑤ 運動教室、けんこつ体操、かも健康ポイント事業など	52
⑥ 老人クラブ	54
⑦ 町内会・自治会	56
⑧ 収入のある仕事	58
(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか	60
(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか	62

問 6 助けあいについて	64
(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人	64
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人	66
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人	68
(4) 反対に、あなたが看病や世話をしてあげる人	70
問 7 健康について	72
(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか	72
(2) あなたは、現在どの程度幸せですか	74
(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか ..	75
(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	76
(5) ここ2週間、以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる	77
(6) ここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えない	78
(7) ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがする	79
(8) お酒は飲みますか	80
(9) タバコは吸っていますか	81
(10) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか	82
問 8 認知症にかかる相談窓口の把握について	83
(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか	83
(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか	83
(3) 令和6年10月1日に施行された「認知症とともに生きる笑顔あふれるまち加茂基本条例」について、内容を知っていますか	85
(4) あなたが認知症になったら、どのように暮らしたいですか	86
(5) 認知症に対する取り組みで知っているものはありますか	86
問 9 人生の最期の過ごし方について	87
(1) 人生の最期をどこで過ごしたいと思いますか	87
(2) 自分の最期について、どのようにしてほしいかなどを誰かに話したり書面で残したりしていますか	88
3 評価項目別のリスク分析結果	89
運動器の機能低下	89
転倒	91
閉じこもり	93
低栄養	95

口腔機能の低下	97
認知機能の低下	99
うつ傾向	101
IADL（手段的 ADL）	103
知的能動性（知的 ADL）	105
社会的役割（社会的 ADL）	107
4 考察	109
リスク判定結果の分析	109
介護予防に向けて	113

1 調査の概要

1. 調査目的

「加茂市老人福祉計画・第10期加茂市介護保険事業計画」を策定するにあたり、高齢者の健康状態や日常生活の状況、地域のニーズや課題を把握し、これからの福祉サービスや健康づくり事業の一層の向上を図るための基礎資料とするとともに、効果的な健康づくり、介護予防教室などの事業案内・介護施策の立案および効果評価を目的として実施しました。

2. 調査方法

- 調査対象者：令和7年4月1日時点において、市内在住で要介護認定を受けていない65歳以上の市民から無作為抽出
- 調査期間：令和7年6月2日～令和7年6月20日
- 調査方法：郵送による配布・回収

3. 回収結果

- 配布数：1,628件
- 回収数（回収率）：955件（58.7%）
- 有効回答数：954件

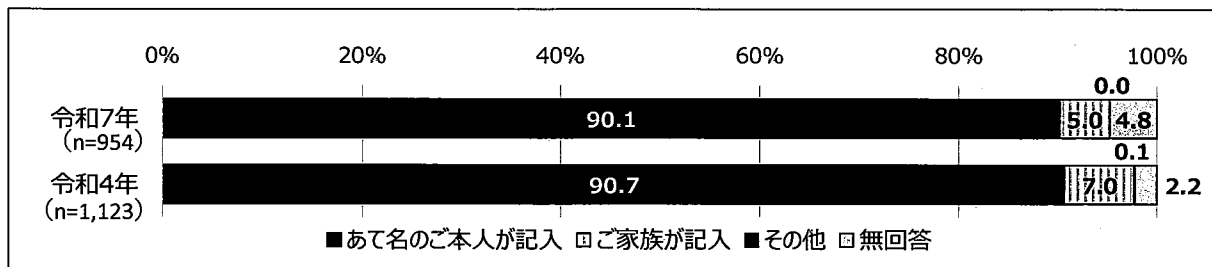
4. 報告書の見方

- ① 報告書中の「n」の数値は、設問への回答者数を表します。
- ② 回答の比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しています。このため、回答率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ③ 回答の比率（%）は、その設問の回答者数を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、回答率の合計が100.0%を超えることがあります。
- ④ 年齢など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値とは一致しない場合があります。
- ⑤ 設問により、令和4年6月に実施した前回調査結果を比較したグラフや、家族構成別、性別、年齢別等のクロス集計結果のグラフを表記しています。

2 調査結果

■ 調査票記入者

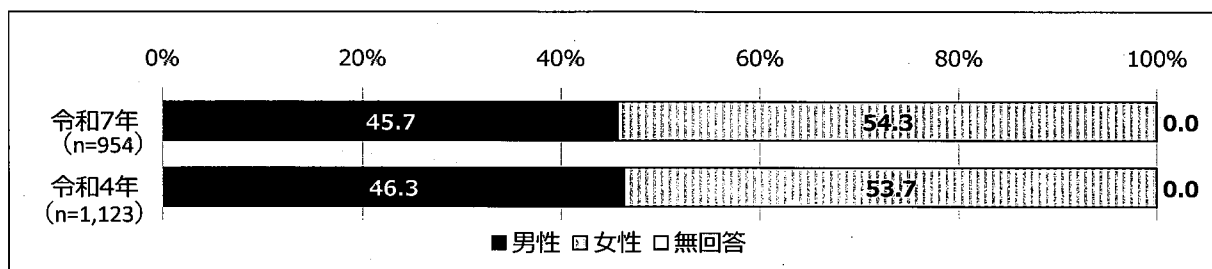
「あて名のご本人が記入」が90.1%となっています。



調査対象者本人について

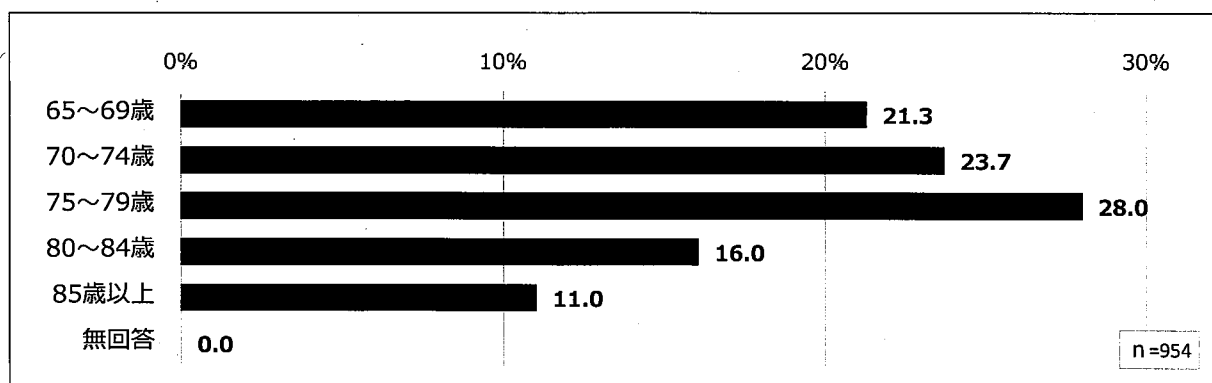
■ 性別

「男性」が45.7%、「女性」が54.3%となっています。



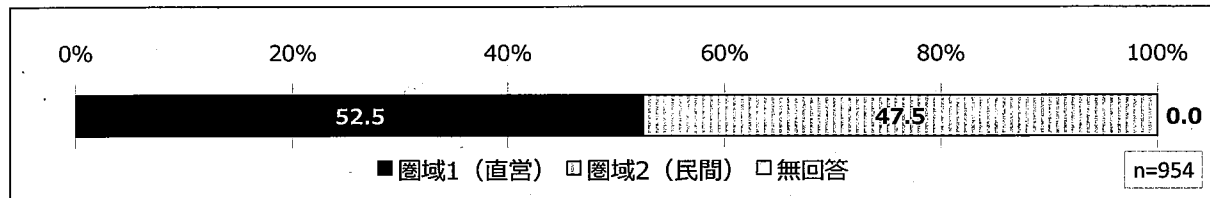
■ 年齢

平均年齢は73.6歳となっています。



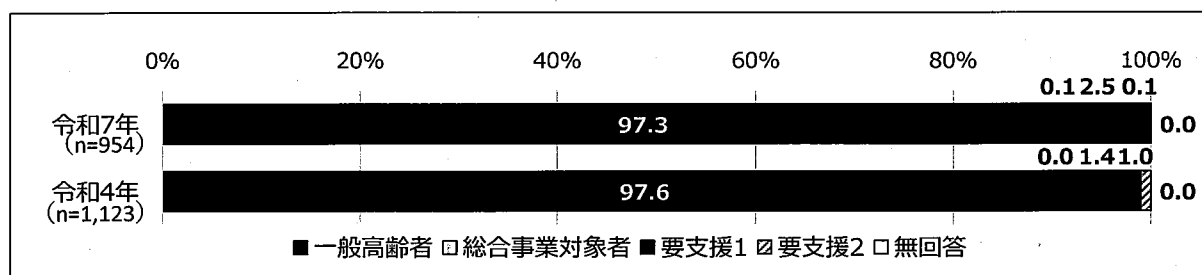
■ 圏域

「圏域1（直営）」が52.5%、「圏域2（民間）」が47.5%となっています。



■ 認定区分

「要支援1」が1.4%、「要支援2」が1.0%、「総合事業対象者」は0.0%で、97.6%がいずれの認定も受けていない一般高齢者となっています。



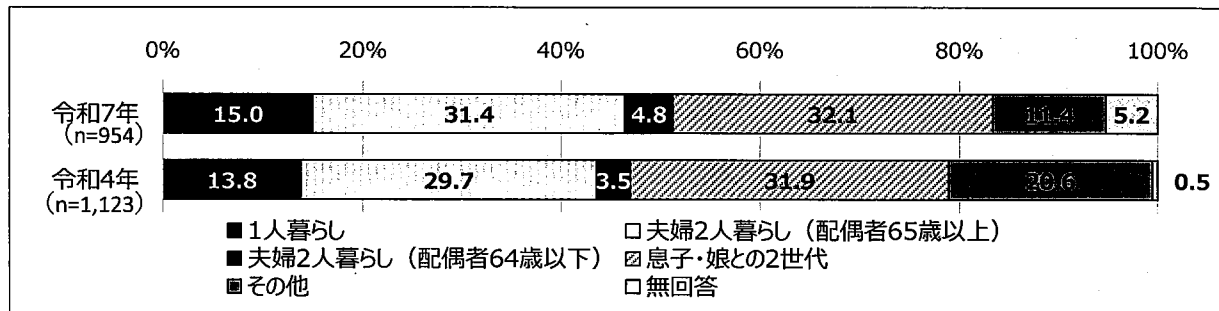
問 1 家族や生活状況について

■ 家族構成

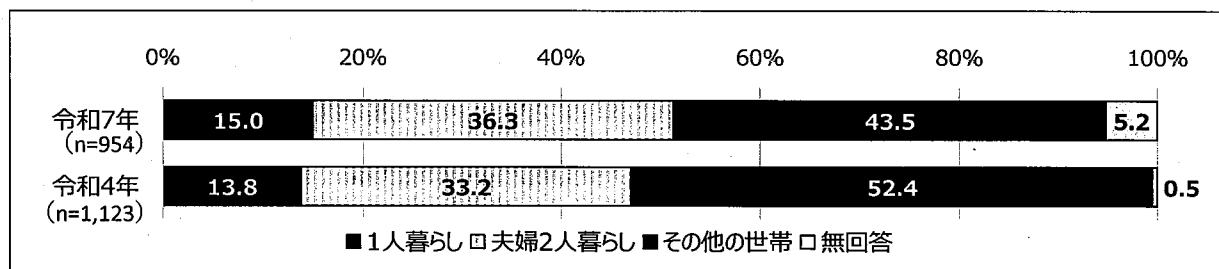
(1) 家族構成をお教えてください

この設問は、家族構成を問う設問です。高齢者の世帯状況や、世帯構成別の回答結果を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「息子・娘との2世代」の割合が最も高く 32.1%となっています。



家族構成を「1人暮らし」「夫婦2人暮らし」「その他の世帯」の3区分に分類してみると、「その他世帯」の割合が最も高くなっていますが、令和4年の前回調査と比較すると 8.9 ポイント低くなっています。



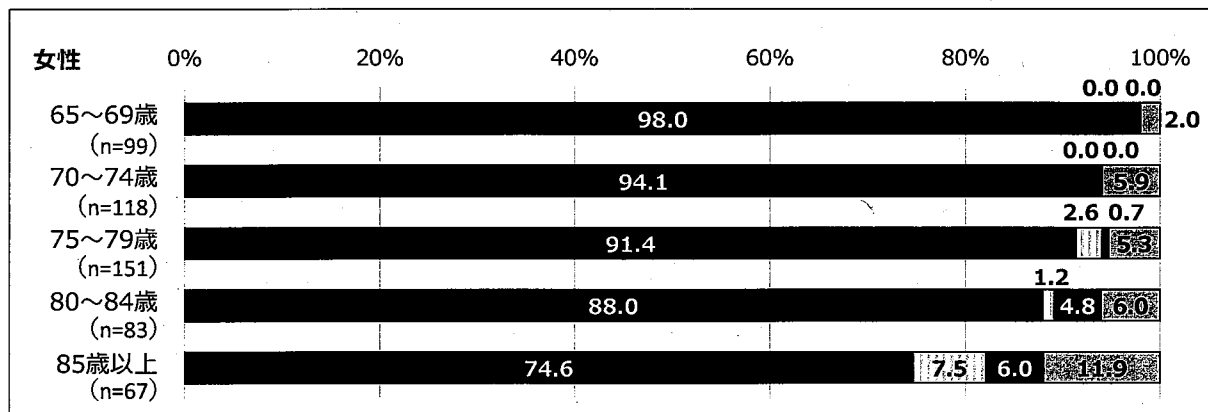
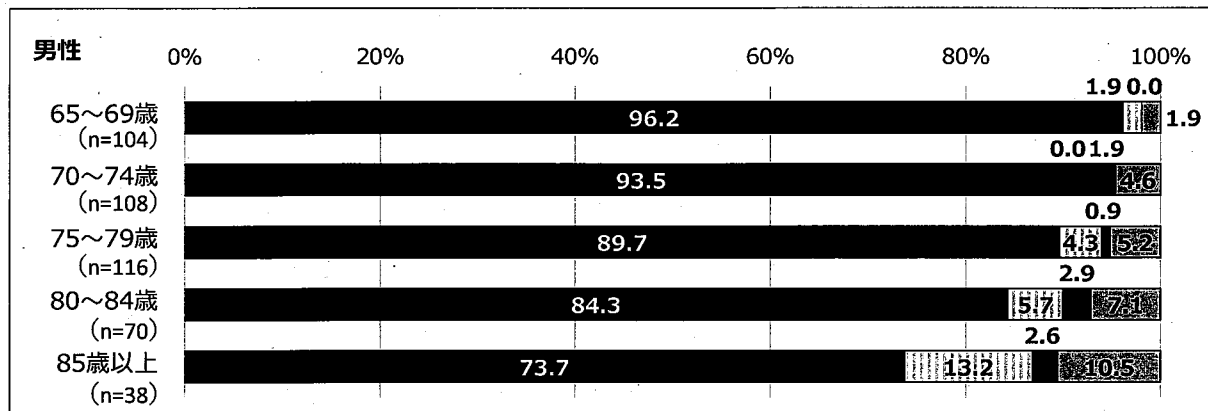
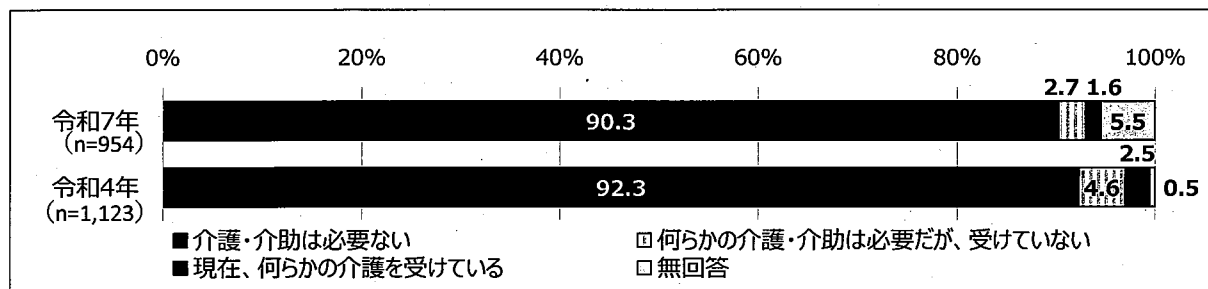
■ 介護・介助の必要性

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

この設問は、主観的な介護の必要度を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の介護の必要度を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「介護・介助は必要ない」が90.3%となっています。

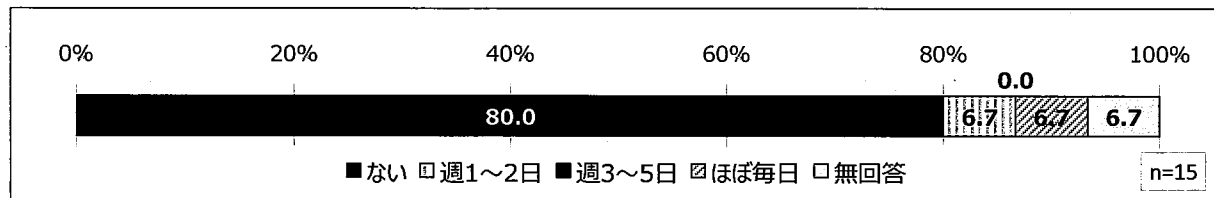
性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「介護・介助は必要ない」の割合が低くなる傾向がみられます。



現在何らかの介護を受けている人のみ

問 1 (2) ① お孫さんなど 18 歳未満の人に介護・介助してもらうことはありますか

「ない」の割合が 80.0%となっていますが、「ほぼ毎日」「週 1～2 日」が 6.7% (1 人) いる状況です。



■ 主観的経済状況

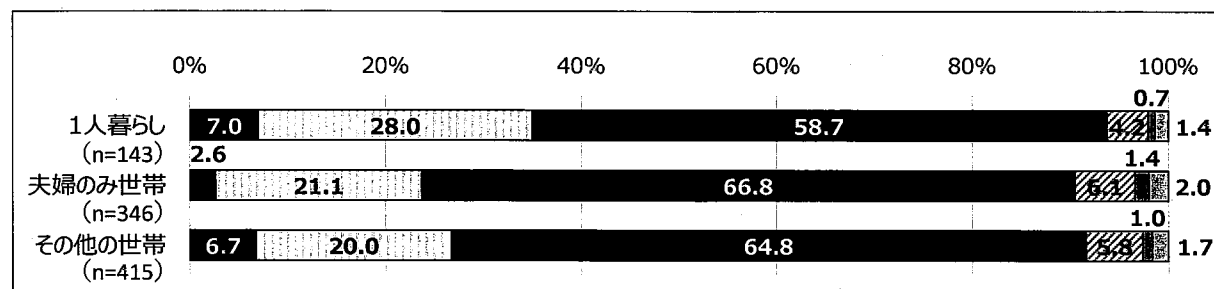
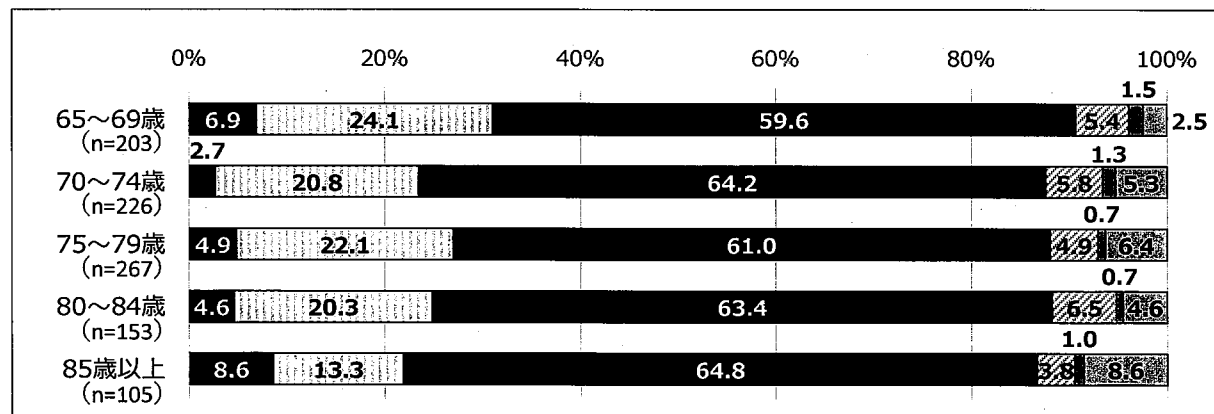
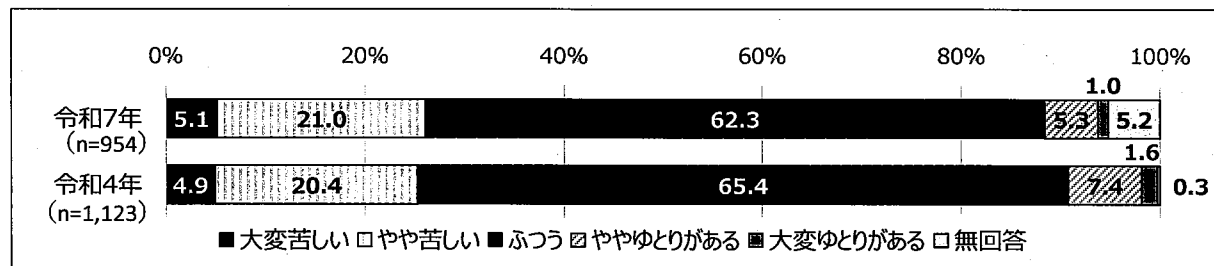
(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

この設問は、主観的な経済状態を問う設問です。高齢者の経済状態を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「ふつう」の割合が 62.3%と最も高くなっています。

家族構成別にみると、1 人暮らし世帯で経済的に苦しいと感じる割合が高く、「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせると 35.0%となっています。

年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、年齢が上がるほど経済的に苦しいと感じる割合が低くなる傾向がみられます。



問 2 からだを動かすことについて

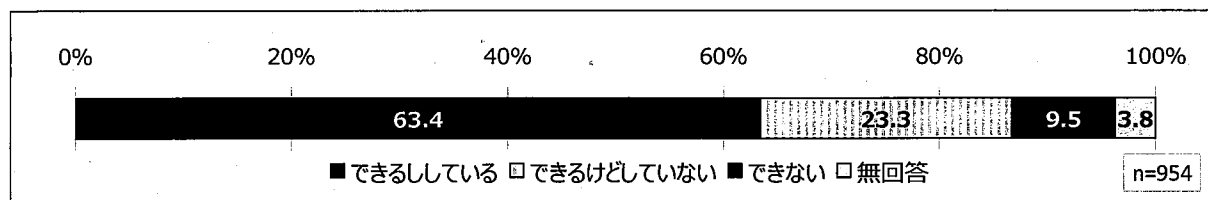
■ 運動器の機能

問 2 (1) ～ (5) は、運動器の機能低下を問う設問です。運動器の機能が低下している高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

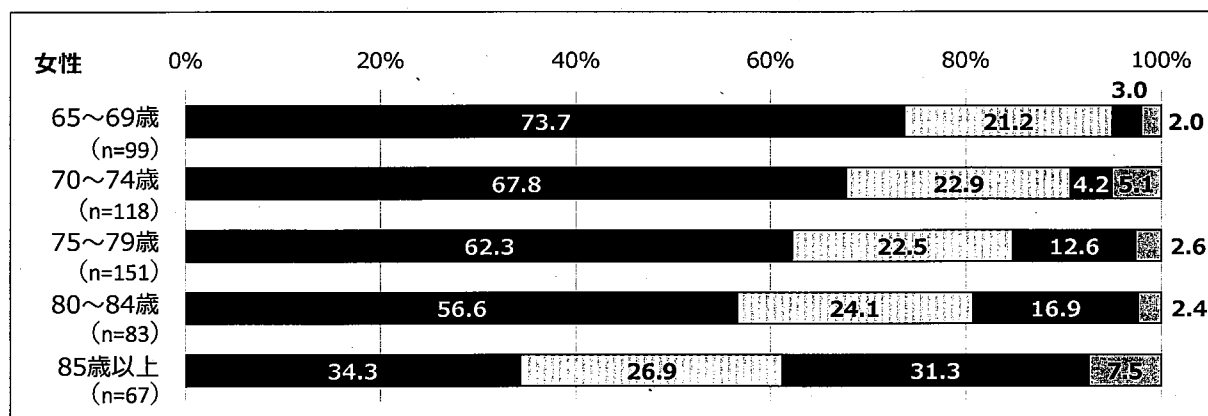
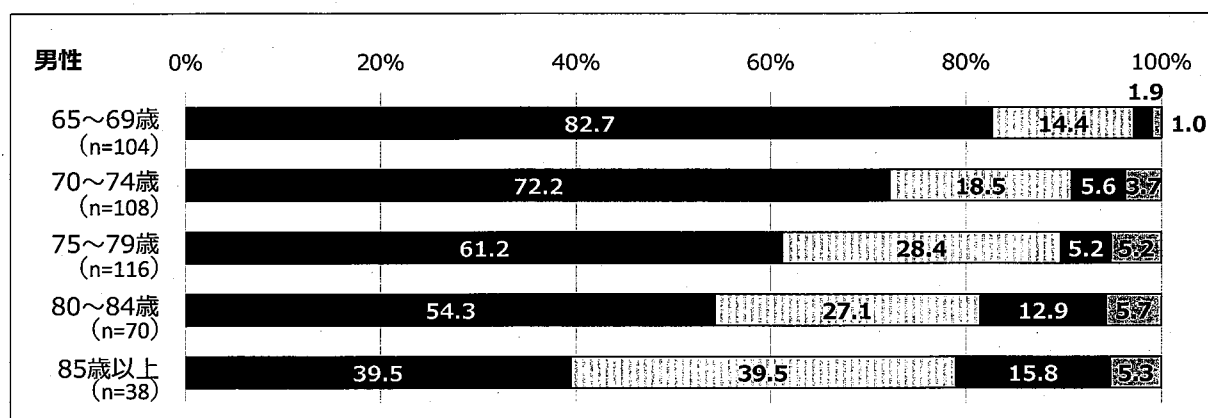
(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

「できるししている」の割合は 63.4%で、「できない」は 9.5%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「できるししている」の割合が低く、「できない」の割合が高くなる傾向がみられます。



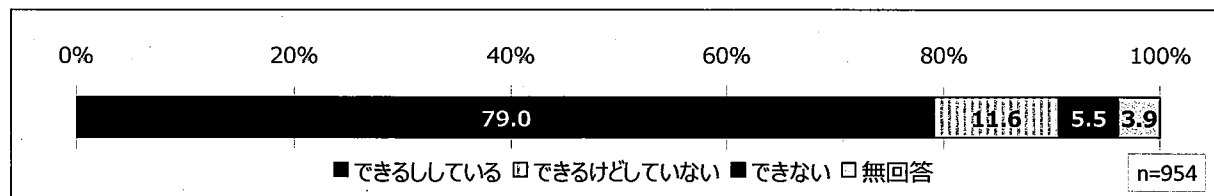
※ 令和 4 年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。



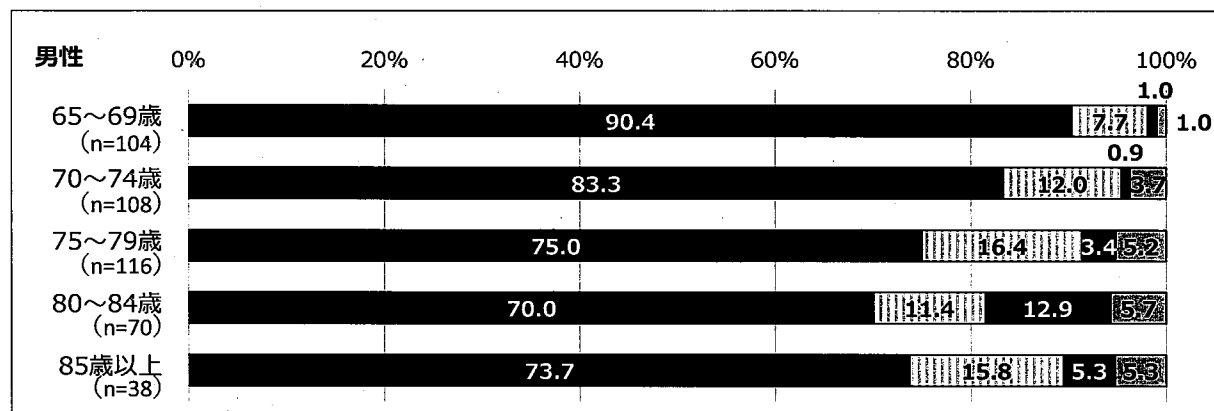
(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

「できるししている」の割合は 79.0%で、「できない」は 5.5%となっています。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「できるししている」の割合が低くなる傾向がみられます。



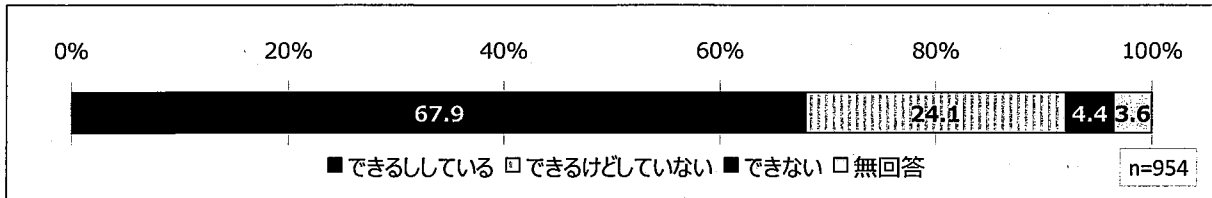
※ 令和 4 年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。



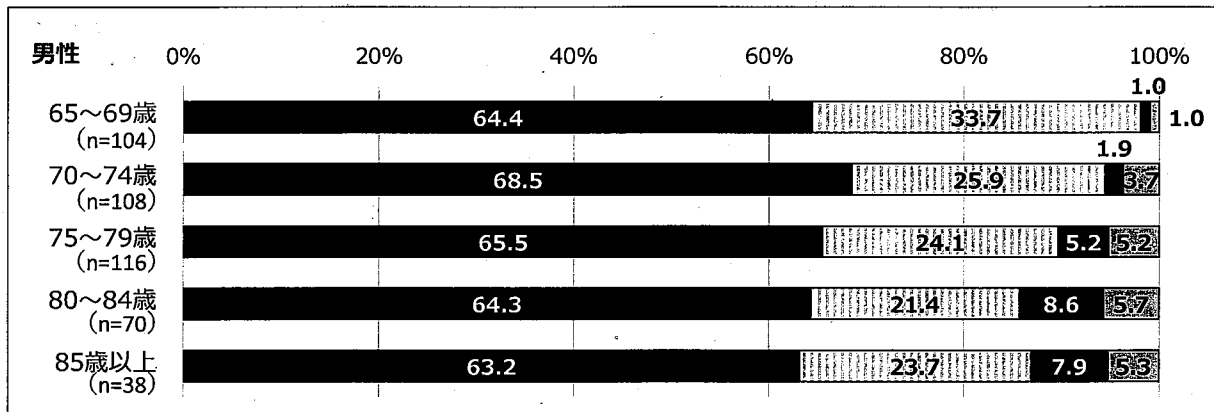
(3) 15 分くらい続けて歩いていますか

「できるししている」の割合は 67.9%で、「できない」は 4.4%となっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが「できるししている」の割合がやや高くなっています。
年齢による明らかな傾向はみられませんでした。



※ 令和 4 年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。

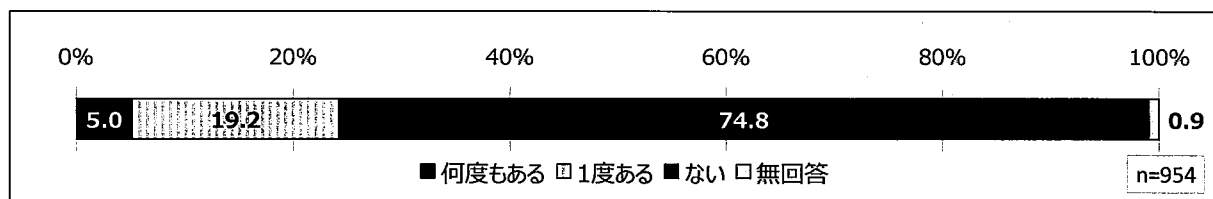


■ 転倒

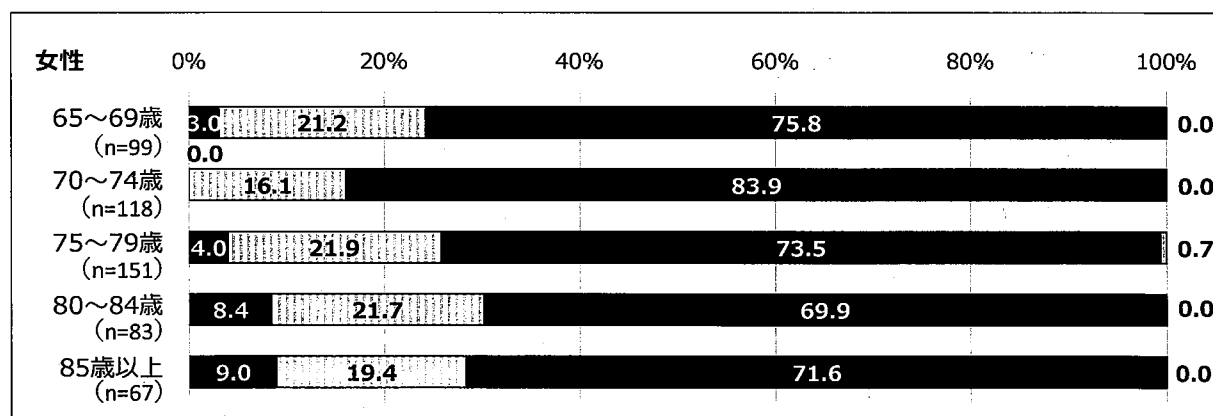
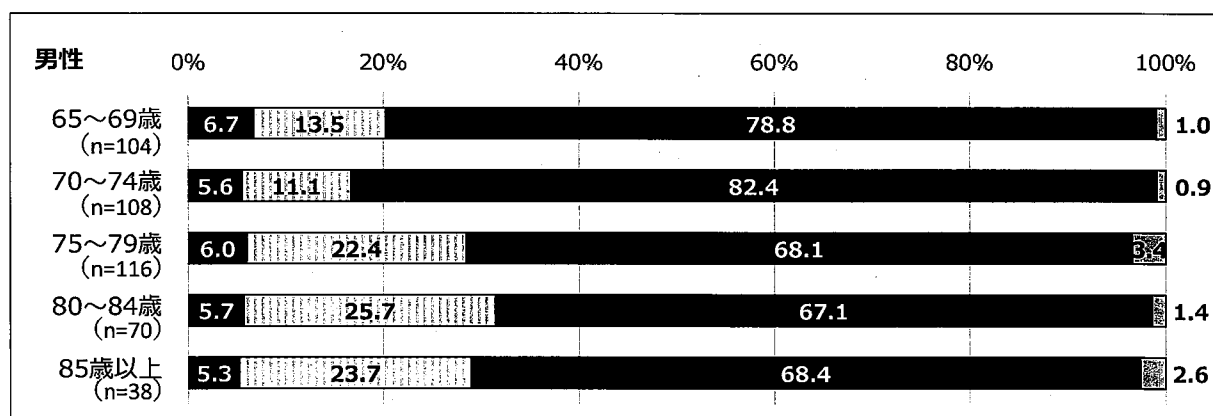
問 2 (4) (5) は、運動器の機能低下に加えて転倒リスクを問う設問です。転倒リスクのある高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

(4) この 1 年間に転んだ経験がありますか

「何度もある」の割合は 5.0%、「1 度ある」は 19.2%で、「ない」が 74.8%となっています。
性別・年齢別にみられる傾向はみられませんが、男性・女性とも 70～74 歳で「ない」の割合が最も高くなっています。



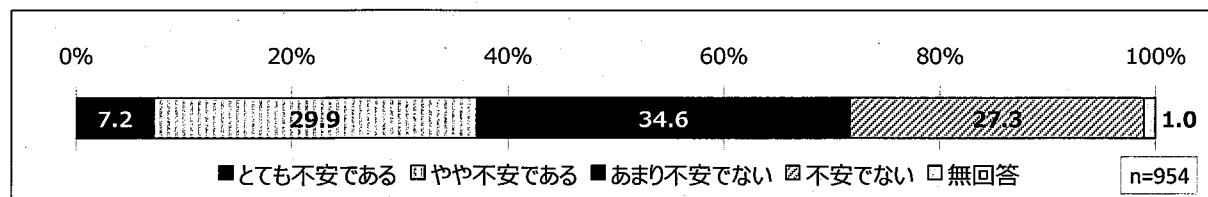
※ 令和 4 年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。



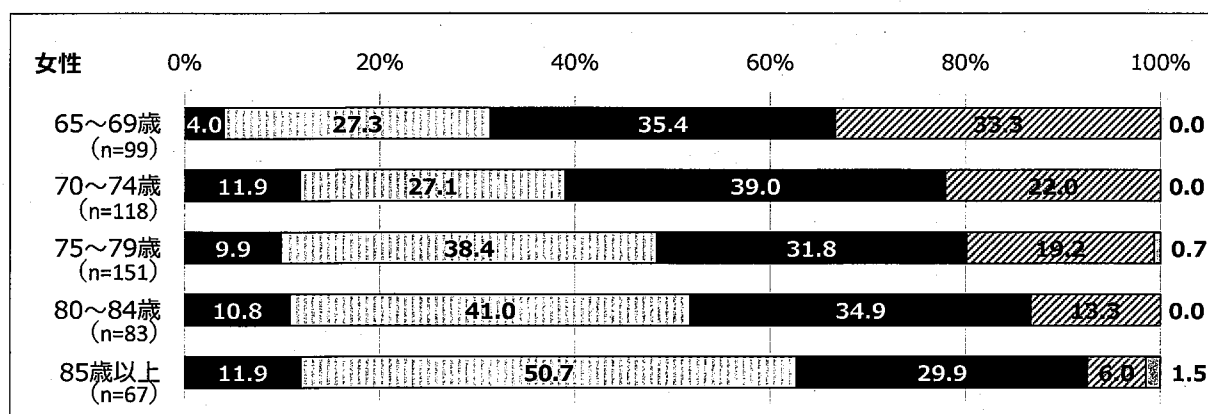
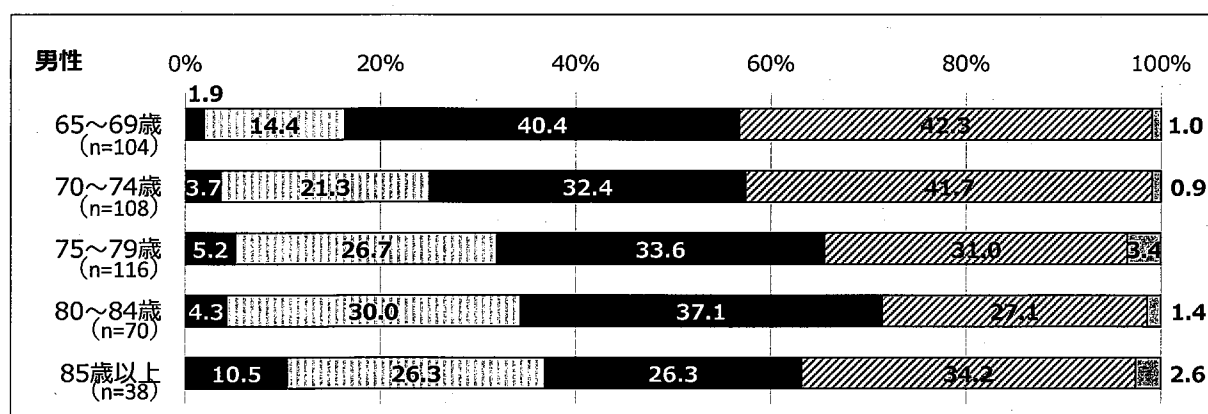
(5) 転倒に対する不安は大きいですか

「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた“転倒が不安な人”の割合は37.1%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが“転倒が不安な人”の割合が高くなっています。また、男性・女性とも年齢が上がるほど“転倒が不安な人”の割合が高くなる傾向がみられます。



※ 令和4年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。



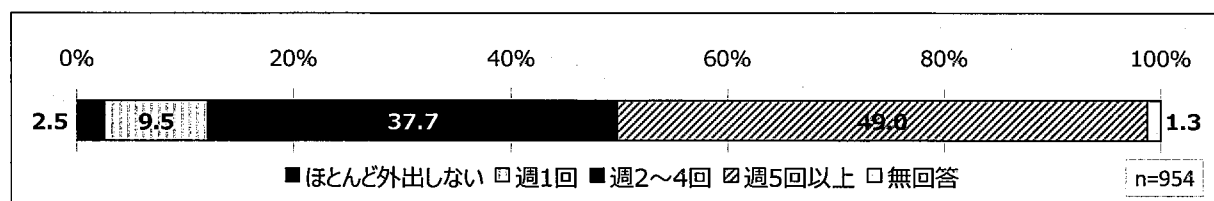
■ 外出

問 2 (6) (7) は、閉じこもり傾向を問う設問です。閉じこもり傾向のある高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

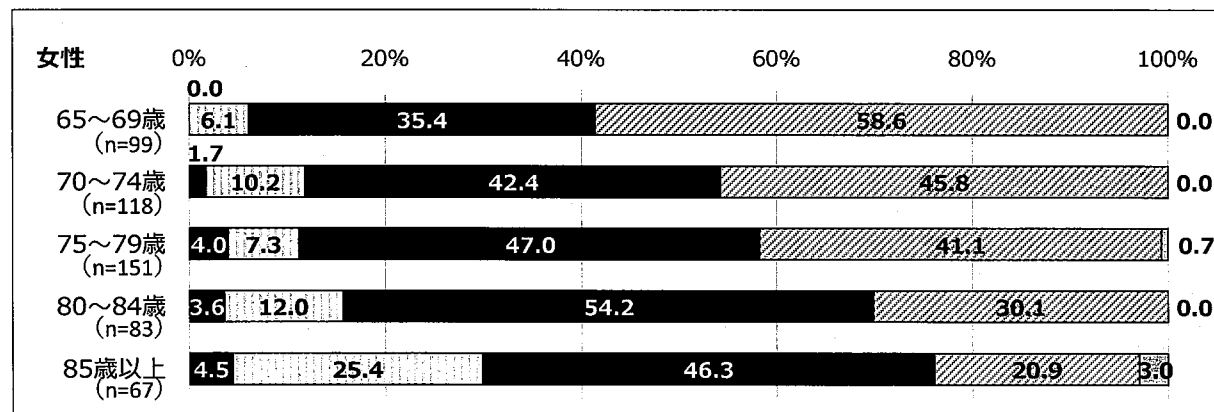
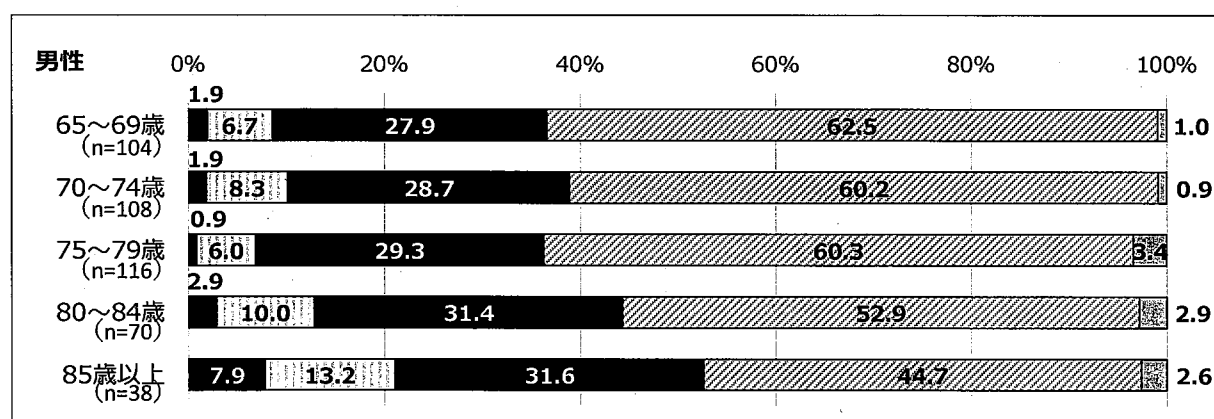
(6) 週に 1 回以上は外出していますか

「週 5 回以上」の割合が 49.0%と最も高く、次いで「週 2～4 回」が 37.7%で、「ほとんど外出しない」は 2.5%となっています。

性別・年齢別にみると、男性のほうが外出の頻度が高くなっており、85 歳未満の男性は半数以上が「週 5 回以上」外出をしています。また、男性・女性とも年齢が上がるほど外出の頻度が低くなる傾向がみられます。



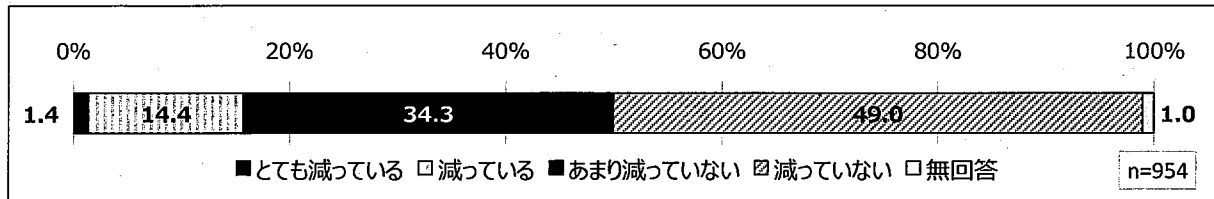
※ 令和 4 年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。



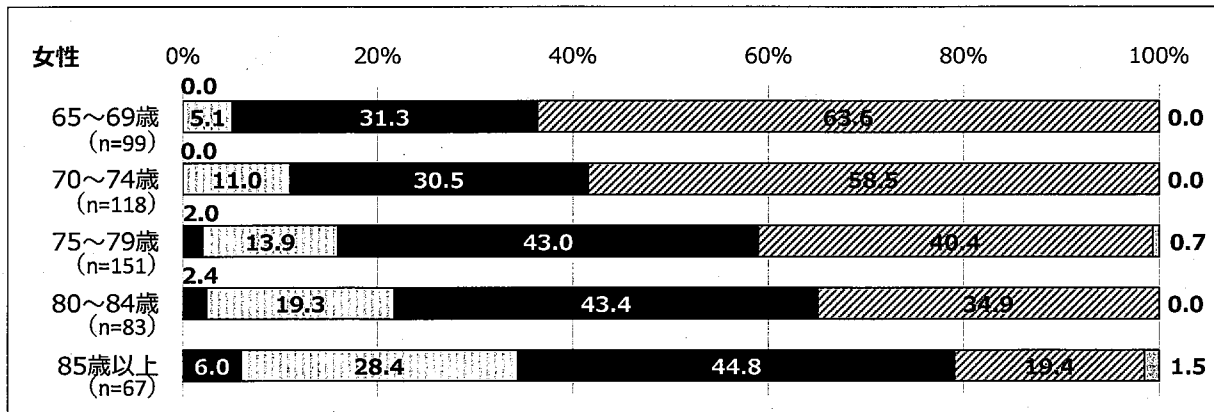
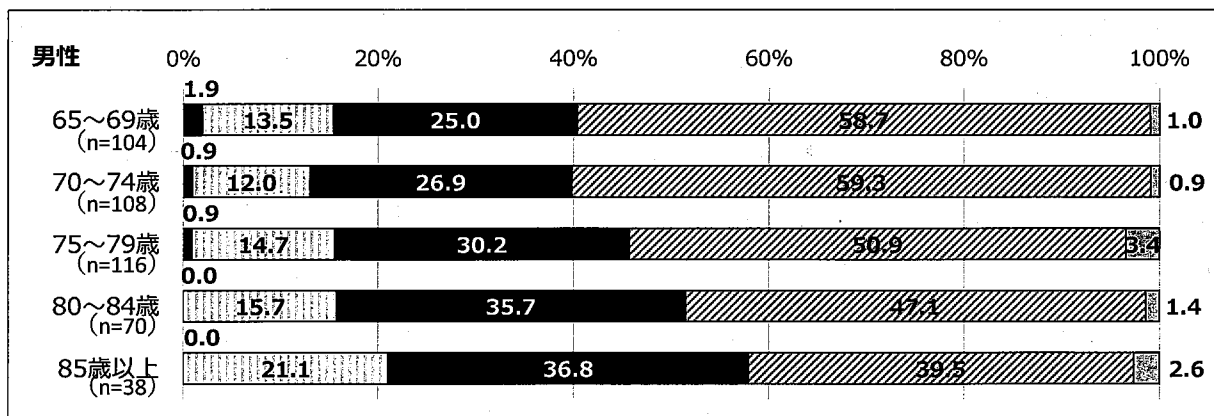
(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

「とても減っている」と「減っている」を合わせた“外出の回数が減っている人”の割合は15.8%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性とも年齢が上がるほど“外出の回数が減っている人”の割合が高くなる傾向がみられますが、特に女性でその傾向が強く表れています。



※ 令和4年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。

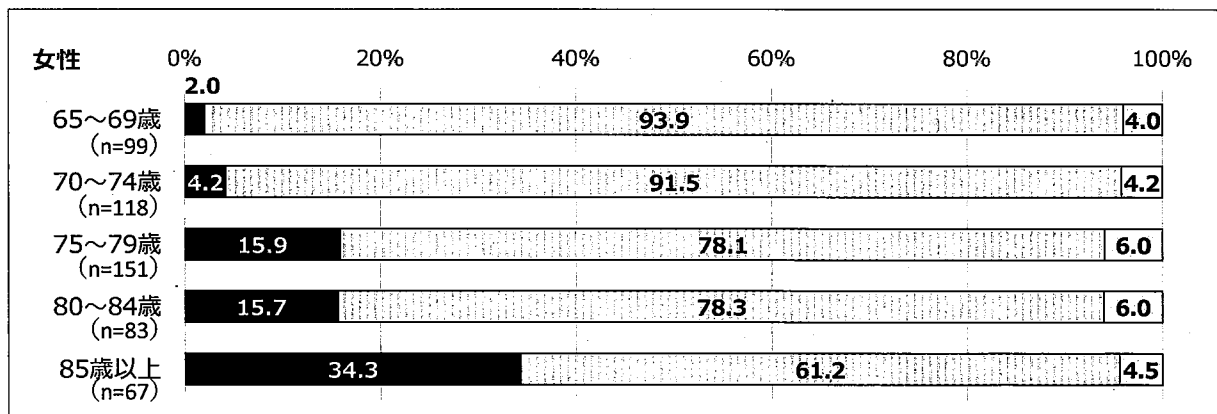
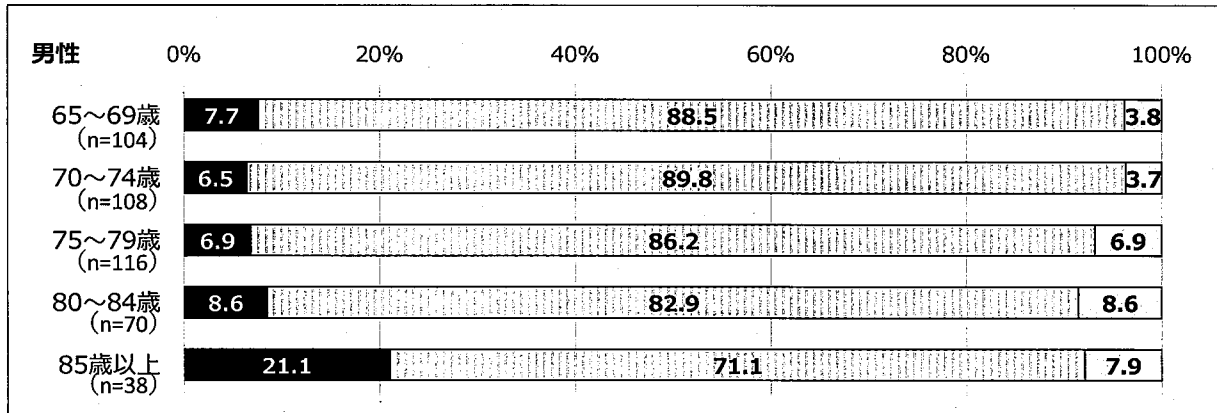
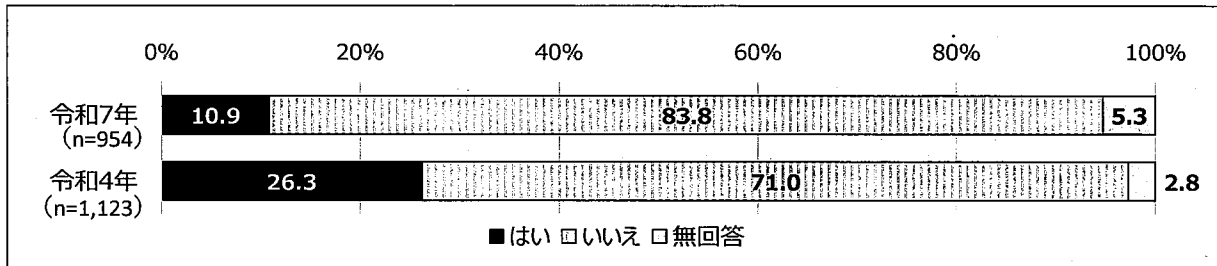


(8) 外出を控えていますか

問 2 (8) と (8) ①は、外出を控えている場合の原因を問う設問です。閉じこもり傾向のある高齢者の原因を把握することにより、課題（閉じこもり傾向のある高齢者に不足している対策）の把握が可能になります。

「はい」の割合は、新型コロナウイルス感染症の影響で外出を控える人が多かった令和 4 年の前回調査より 15.4 ポイント低い 10.9%となっています。

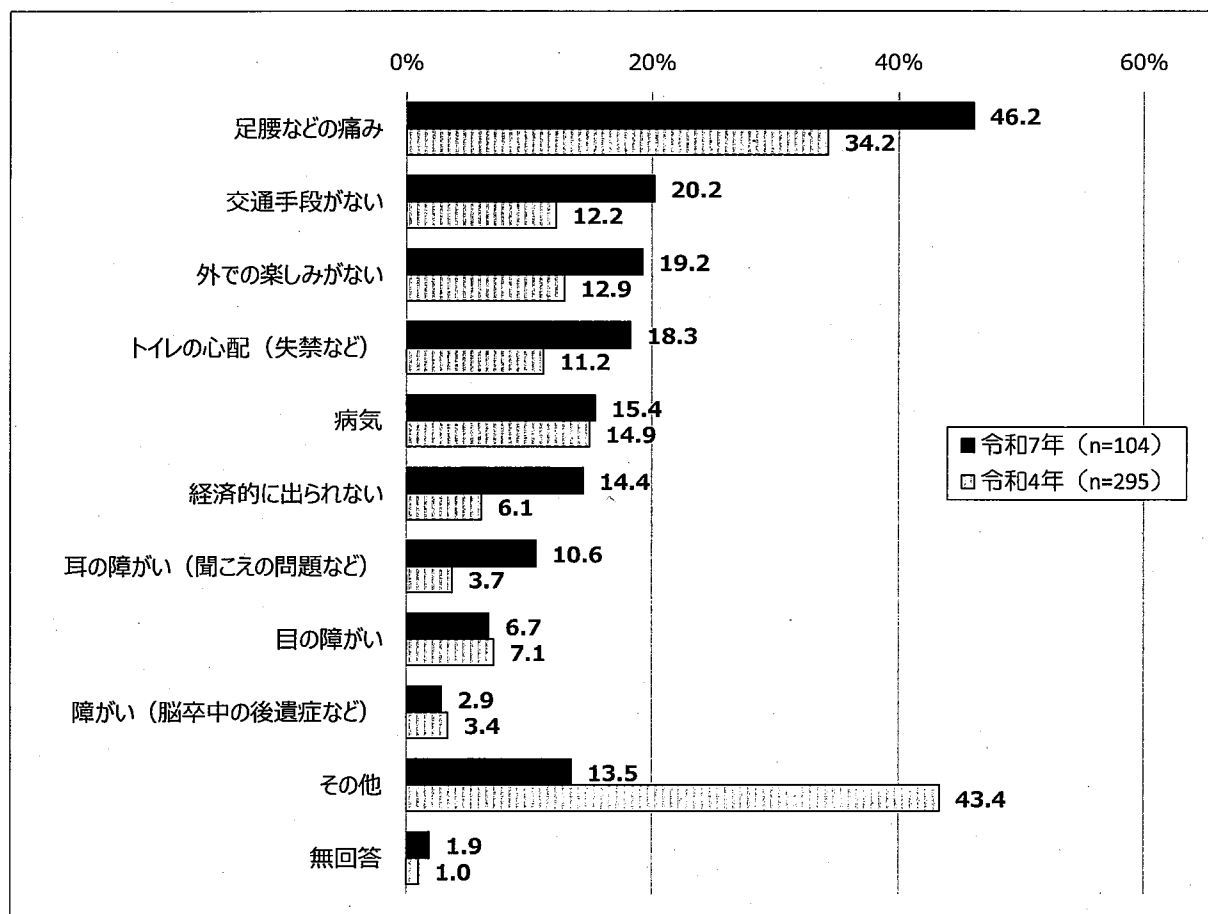
性別・年齢別にみると、男性は、85 歳未満は年齢による傾向はみられませんが、85 歳以上になると「はい」の割合が 20%を超えています。女性は年齢が上がるにつれて「はい」割合が高くなる傾向がみられます。



外出を控えている人のみ

① 外出を控えている理由は、次のどれですか（○はいくつでも）

「足腰などの痛み」が46.2%と最も高く、次いで「交通手段がない」が20.2%、「外での楽しみがない」が19.2%、「トイレの心配（失禁など）」が18.3%などとなっています。



※ 令和4年は「その他」と回答した128人の83.6%にあたる107人が新型コロナウイルス感染症を理由にあげており、全体の36.3%となっています。

問3 食べることについて

■ BMI

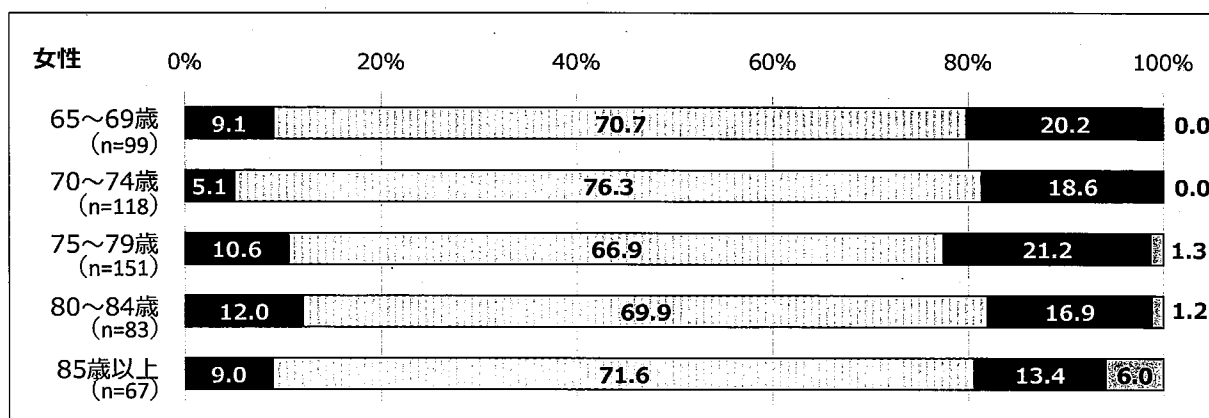
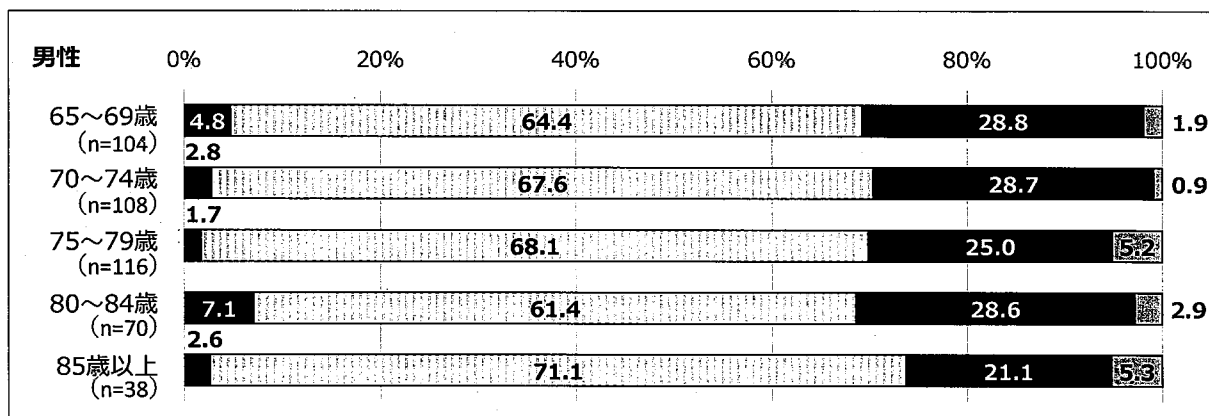
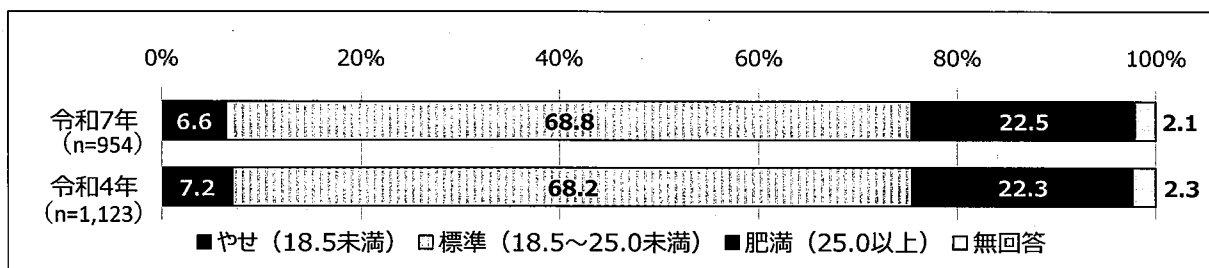
BMI (Body mass index) は、体重 kg ÷ (身長 m)² で算出される体格指数です。この BMI が男性・女性ともに 22 の時に高血圧、高脂血症等の有病率が最も低いとされています。

(1) 身長・体重

この設問は、低栄養の傾向を問う設問です。低栄養状態にある高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「標準(18.5～25.0 未満)」の割合が 68.8% と最も高く、次いで「肥満(25.0 以上)」が 22.5%、「やせ(18.5 未満)」が 6.6% となっています。

性別・年齢別にみると、男性のほうが「肥満」の割合が高く、女性のほうが「やせ」の割合が高くなっています。年齢による明らかな傾向はみられませんでした。



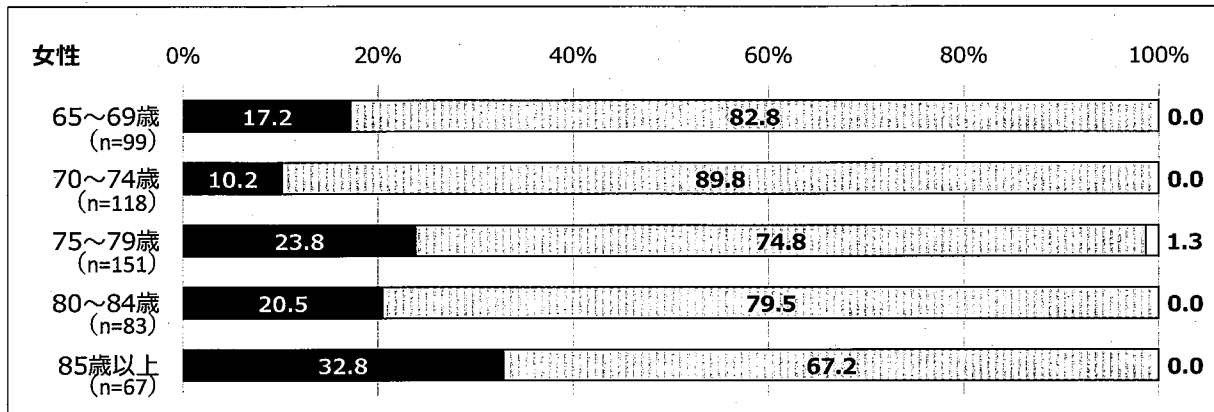
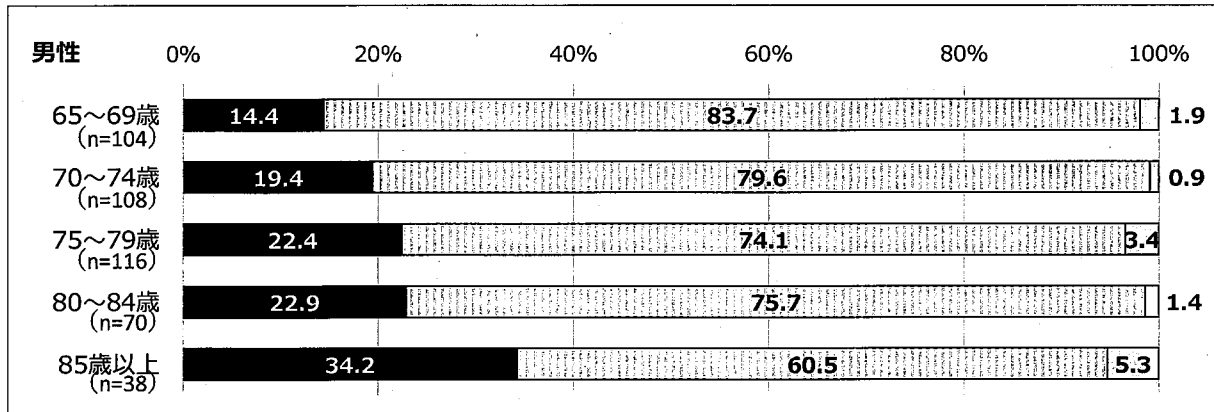
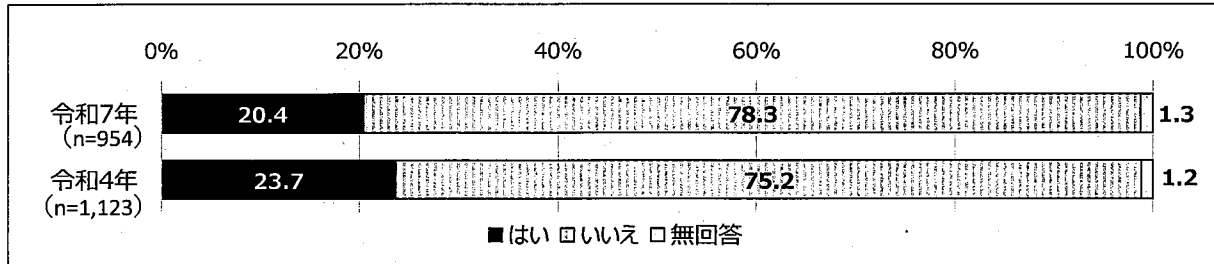
■ 歯と口腔

(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか

この設問は、口腔機能の低下のうち咀嚼機能の低下を問う設問です。口腔機能が低下している高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「はい」の割合が20.4%、「いいえ」が78.3%となっています。

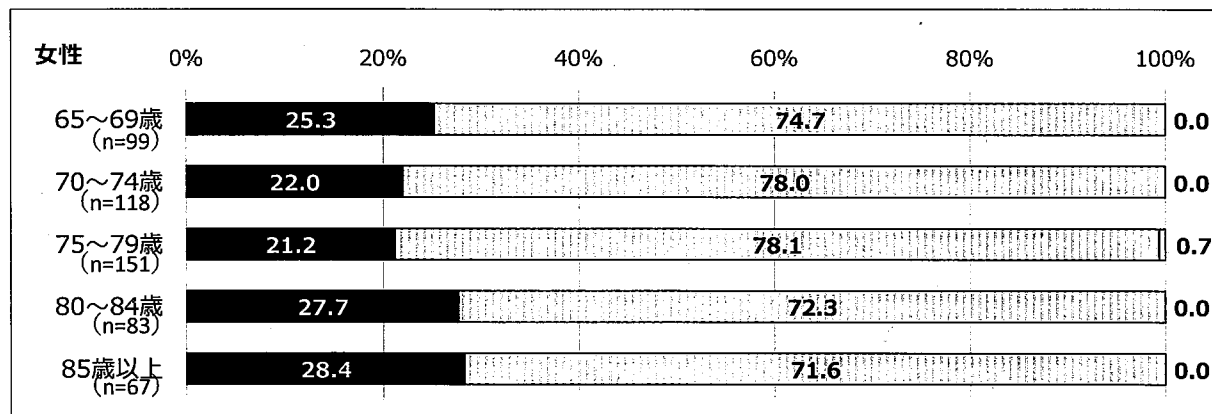
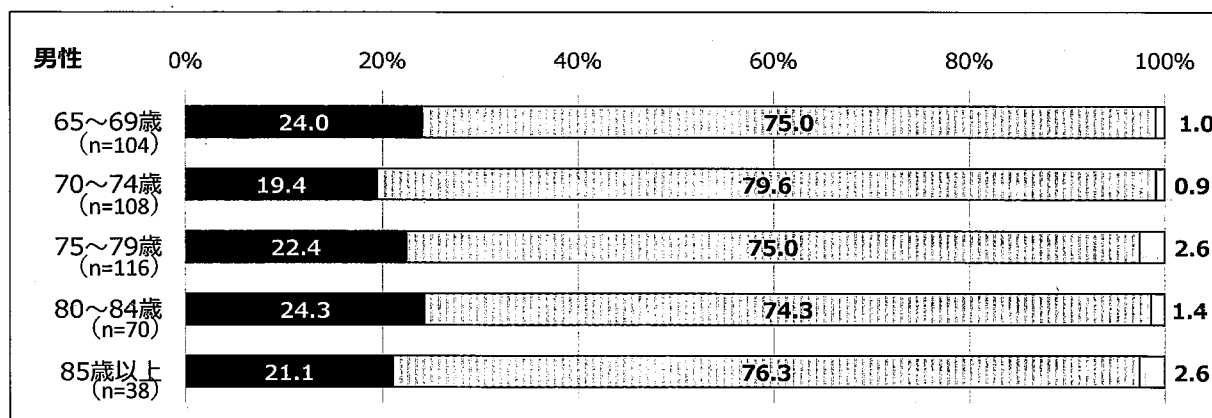
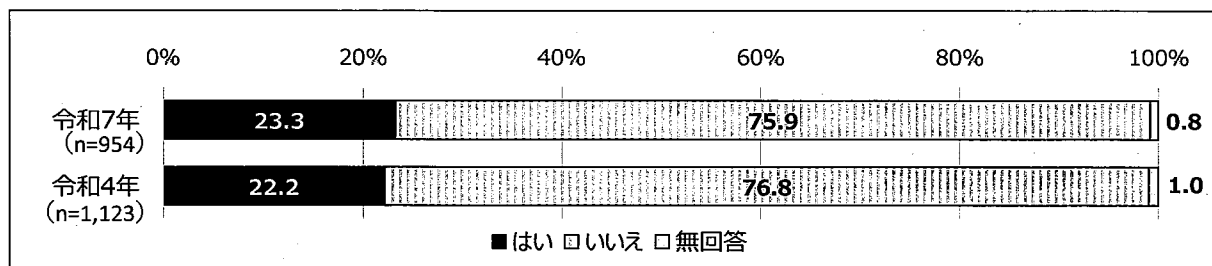
性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



(3) お茶や汁物などでむせることがありますか

この設問は、口腔機能の低下のうち嚥下機能の低下を問う設問です。

「はい」の割合が23.3%、「いいえ」が75.9%となっています。
性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

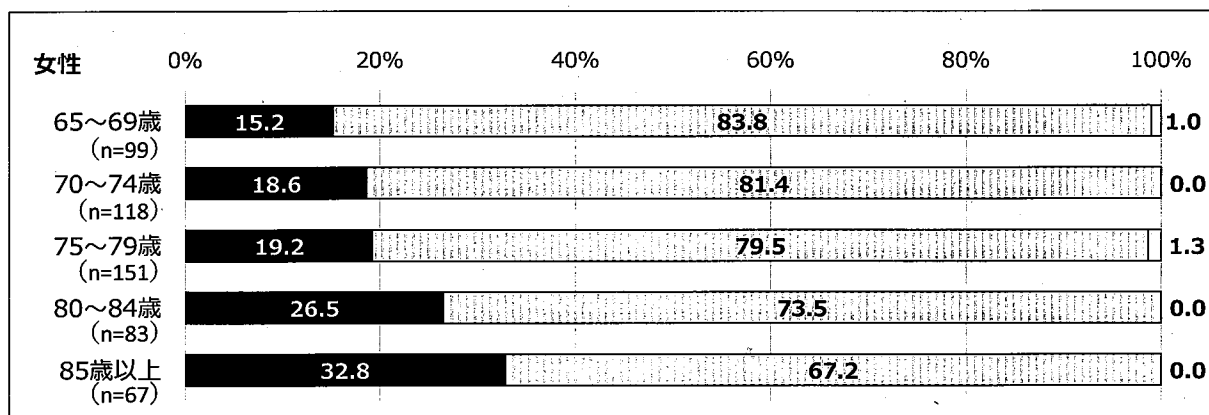
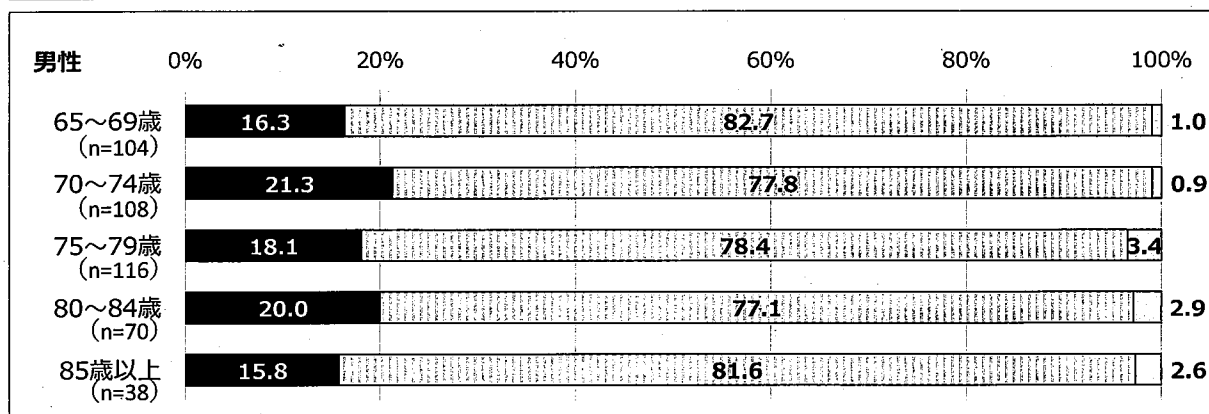
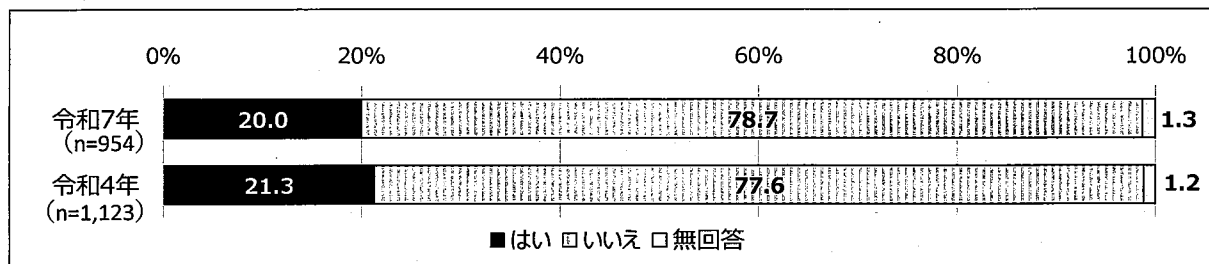


(4) 口の渇きが気になりますか

この設問は、口腔機能の低下のうち肺炎発症リスクを問う設問です。

「はい」の割合が20.0%、「いいえ」が78.7%となっています。

性別・年齢別にみると、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんが、女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。

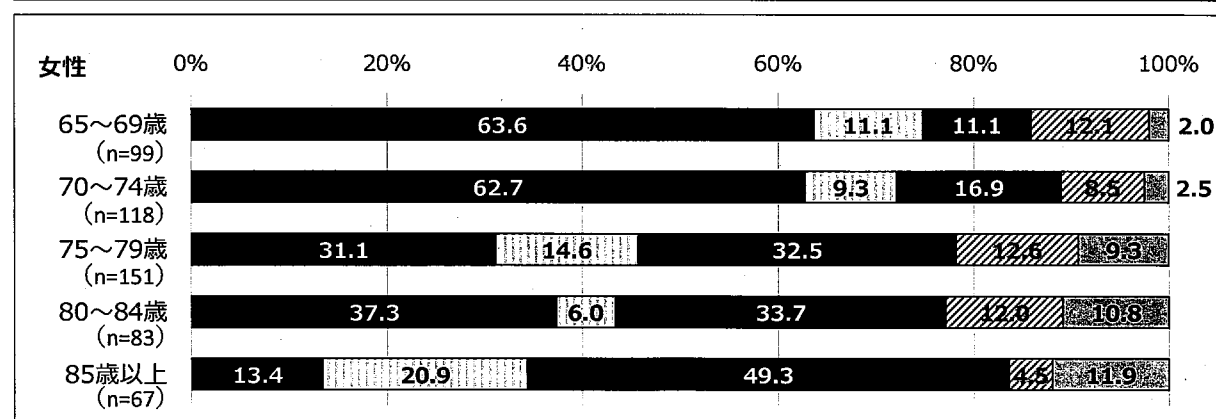
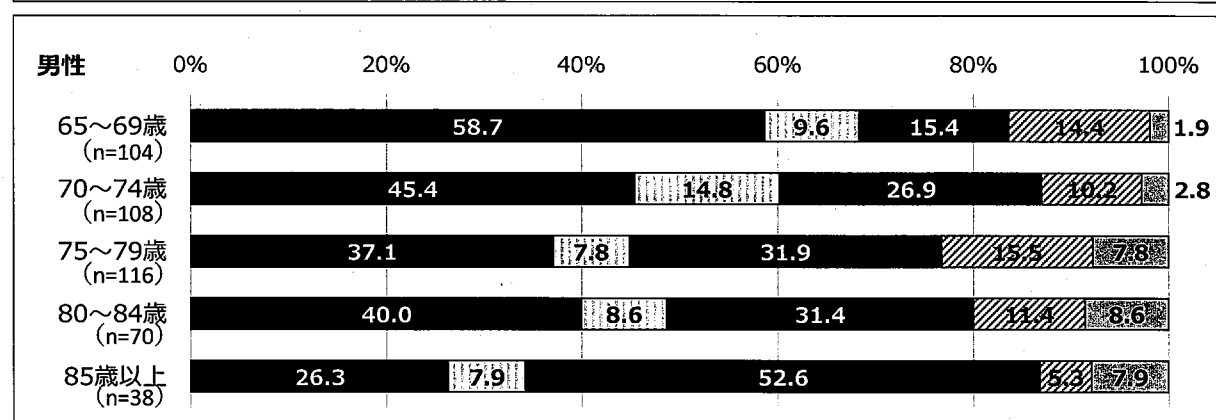
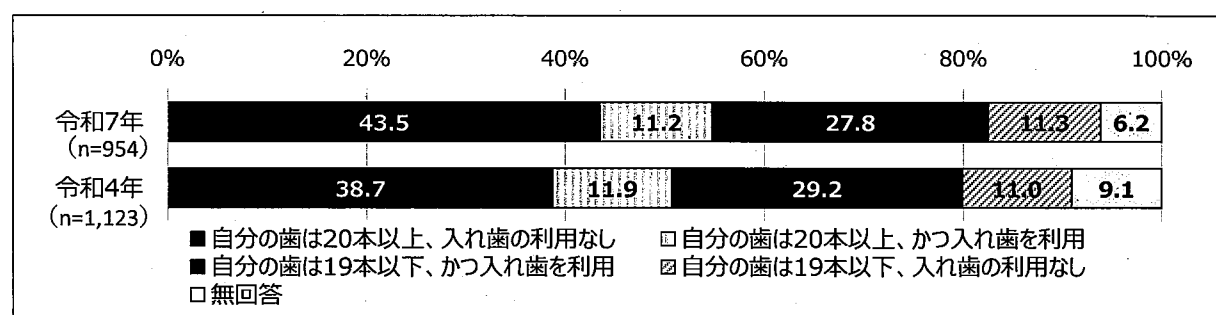


(5) 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください

この設問は、義歯の有無と歯数を問う設問です。高齢者の口腔の健康状態や義歯の使用状況の把握により、歯科医療や口腔機能の向上に関するニーズの把握の参考になります。

「自分の歯は20本以上、入れ歯の利用なし」の割合が43.5%と最も高く、次いで「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」が27.8%となっています。自分の歯が20本以上ある割合は54.7%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて、自分の歯が20本以上ある割合が低くなっています。

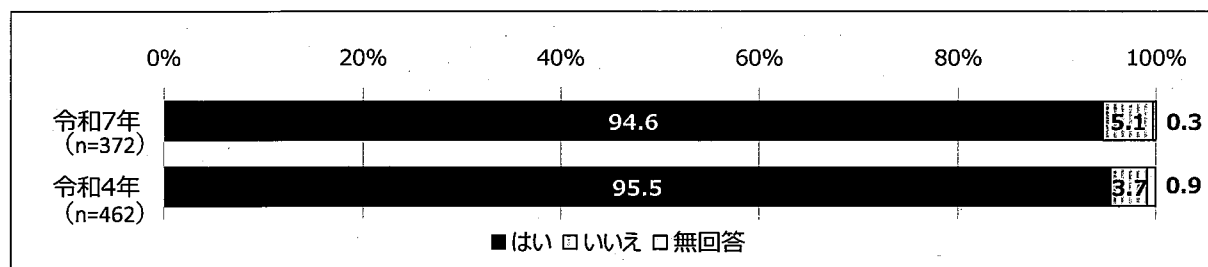


入れ歯を利用している人のみ

① 毎日入れ歯の手入れをしていますか

この設問は、義歯の管理を問う設問です。口腔衛生の状況を把握することにより、口腔に関する課題の把握が可能になります。

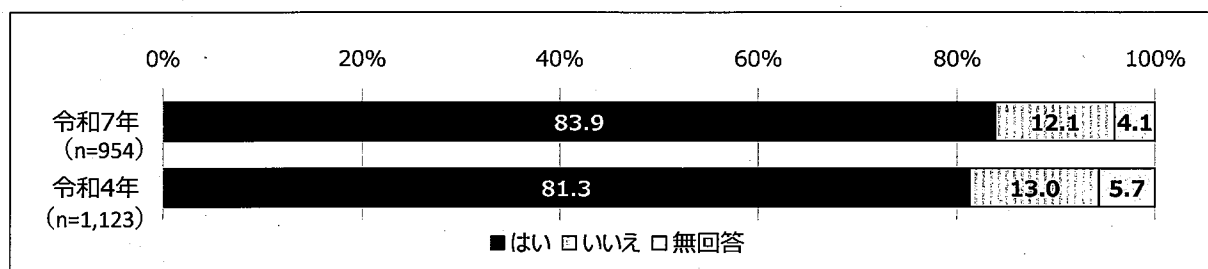
「はい」の割合が 94.6%となっています。



(6) 噛み合わせはよいですか

この設問は、咬合状態を問う設問です。咀嚼機能の状況を把握することにより、口腔に関する課題の把握が可能になります。

「はい」の割合が 83.9%となっています。

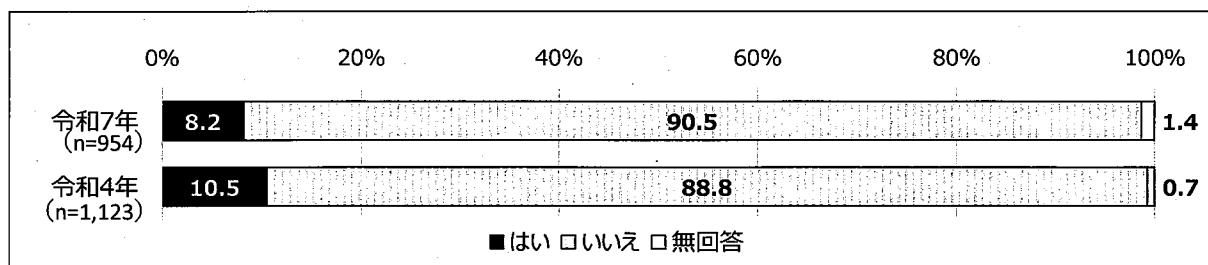


■ 体重減少

(7) 6 か月間で 2~3kg 以上の体重減少がありましたか

この設問は、低栄養の傾向を問う設問です。低栄養の傾向のある高齢者を把握することは、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

「はい」の割合が 8.2%、「いいえ」が 90.5%となっています。



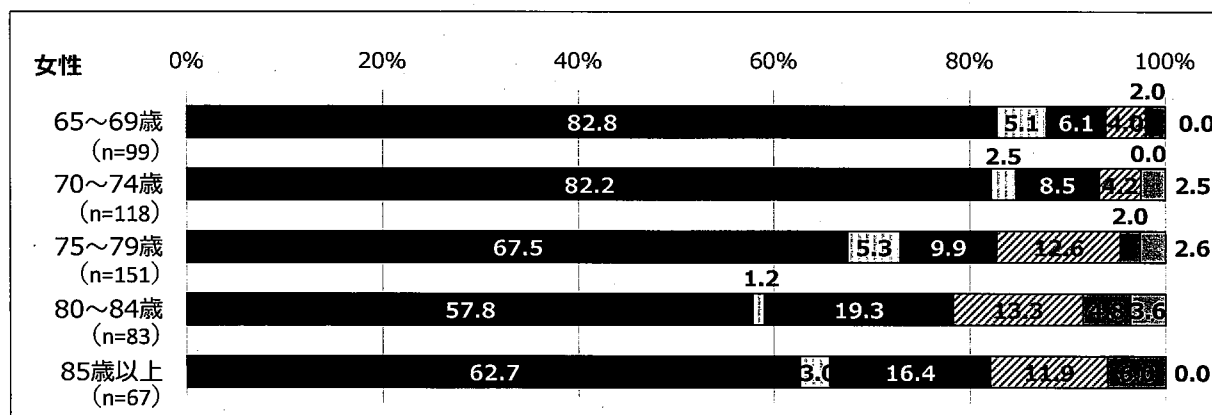
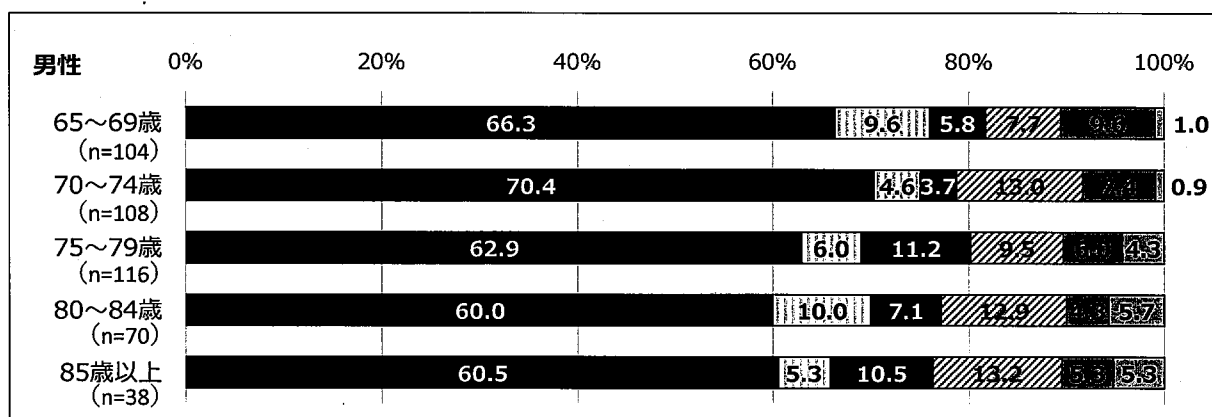
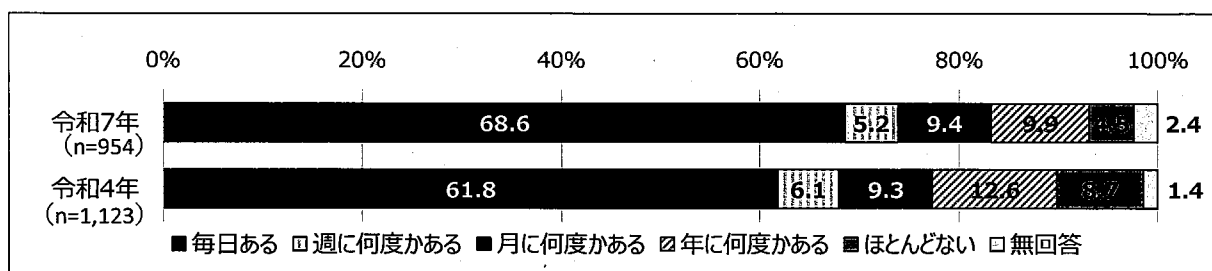
■ 食習慣

(8) 家族や友人など、どなたかと食事を共にする機会がありますか

この設問は、孤食の状況を問う設問です。閉じこもり傾向と孤食の関係性を把握することで、課題（閉じこもり傾向の原因）の把握が可能になります。

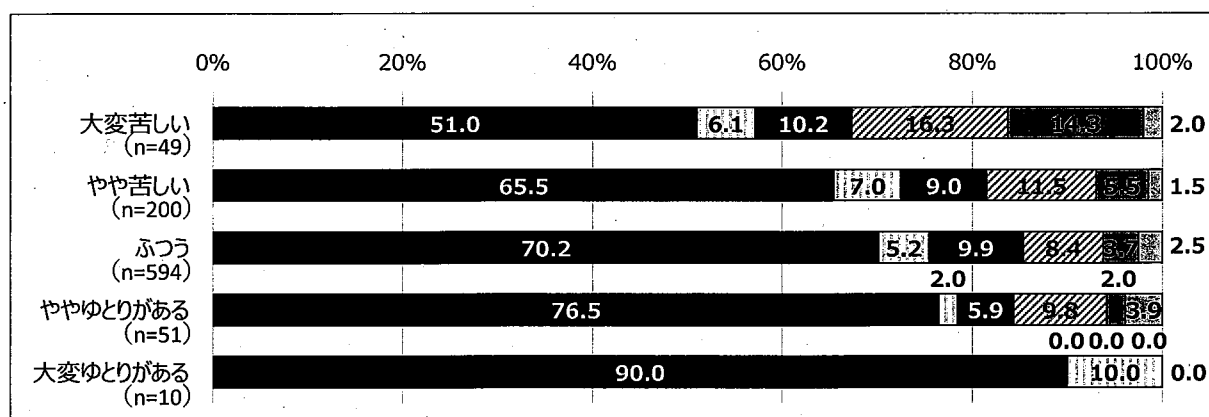
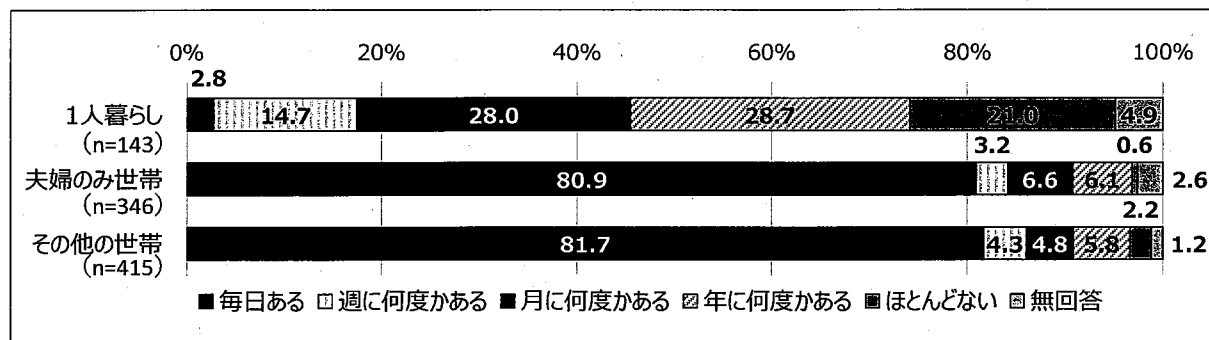
「毎日ある」の割合が68.6%と最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが「毎日ある」の割合が高く、「ほとんどない」の割合は男性のほうが高くなっています。また、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるにつれて「毎日ある」の割合が低くなっています。



家族構成別にみると、1人暮らしでは「年に何度かある」が28.7%と最も高く、次いで「月に何度かある」が28.0%で、「毎日ある」は2.8%となっています。

主観的な経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが「毎日ある」の割合が高い傾向がみられます。



問 4 毎日の生活について

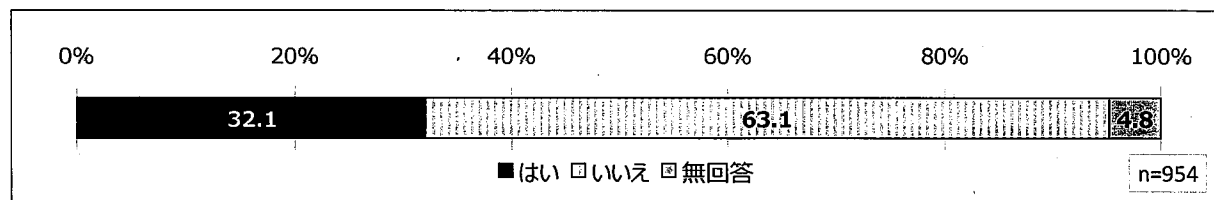
■ 認知機能

問 4 (1) ～ (4) は、認知機能の低下を問う設問です。認知機能が低下している高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

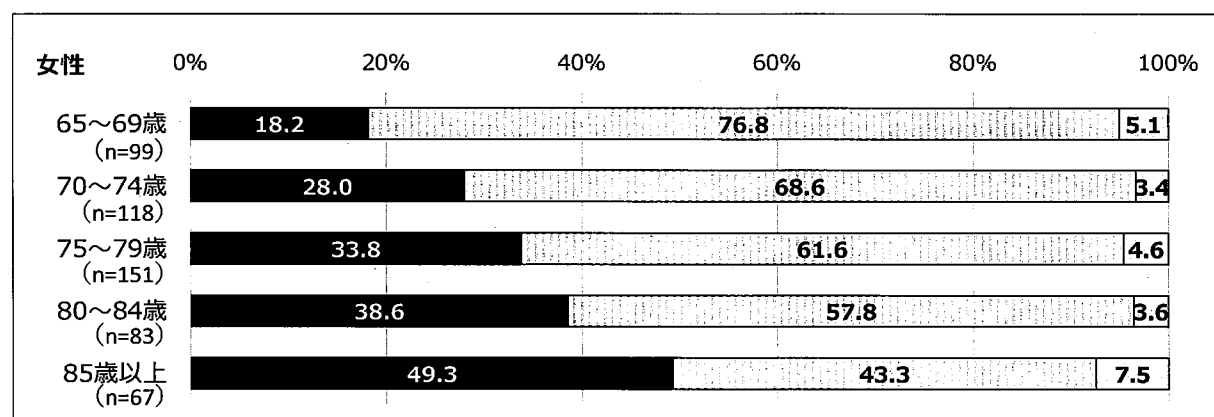
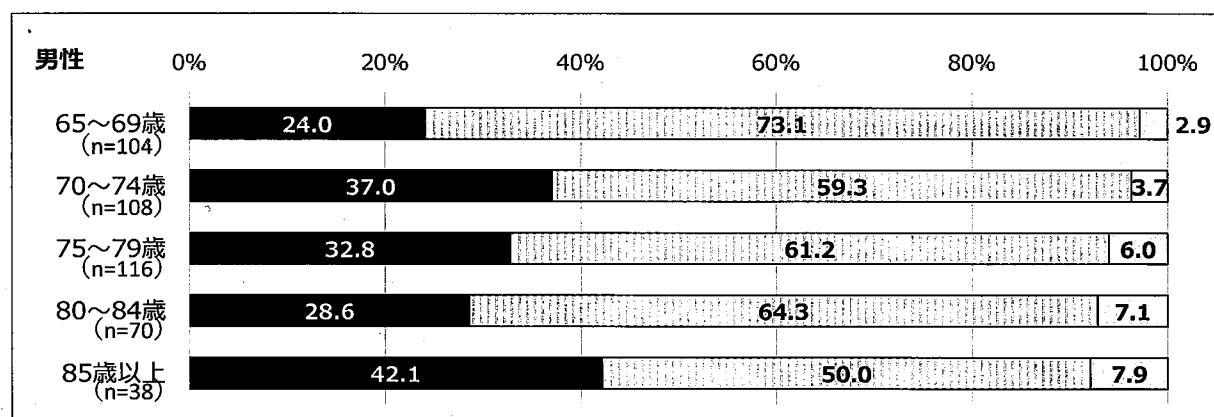
(1) 物忘れが多いと感じますか

「はい」の割合が 32.1%、「いいえ」が 63.1%となっています。

性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられますが、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。



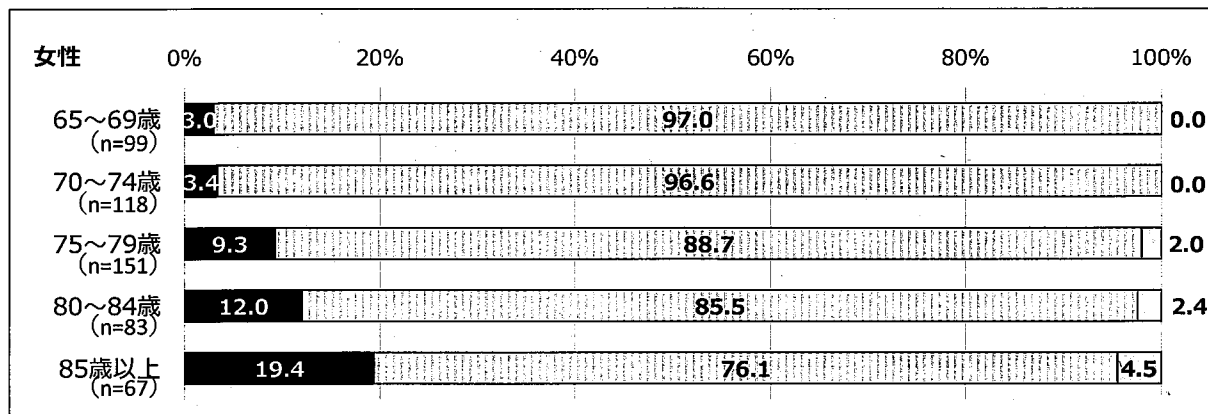
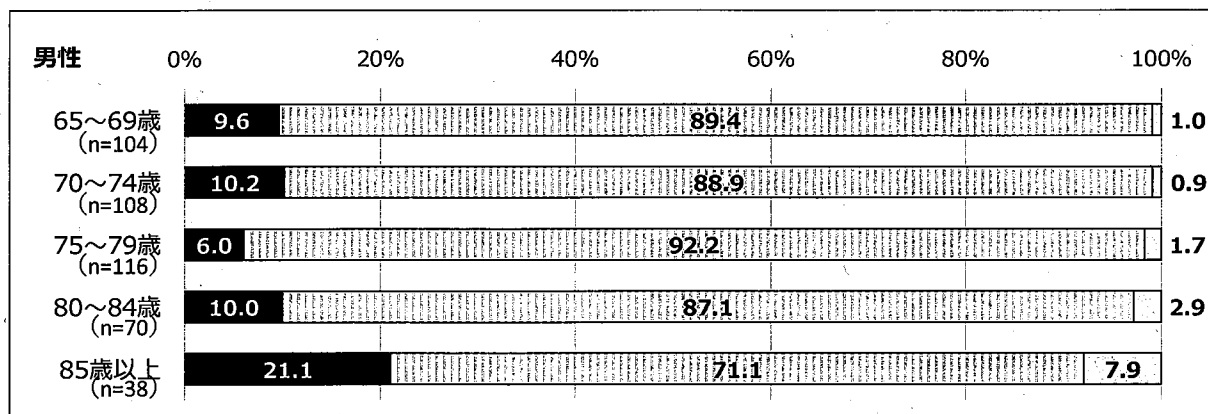
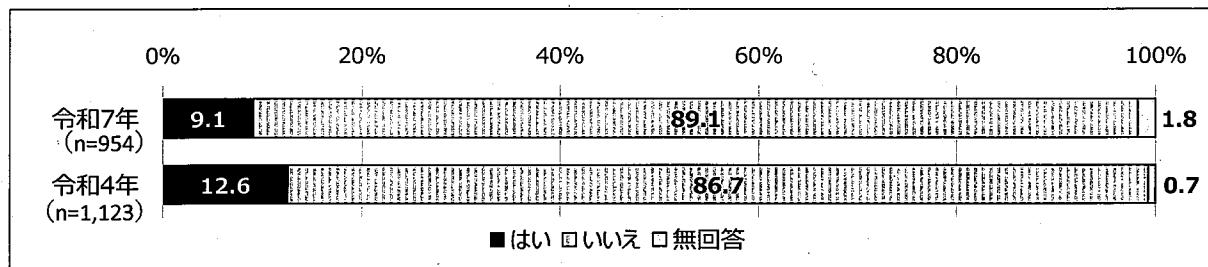
※ 令和 4 年の前回調査にこの設問はありませんでした。



(2) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるといわれますか

「はい」が9.1%、「いいえ」が89.1%となっています。

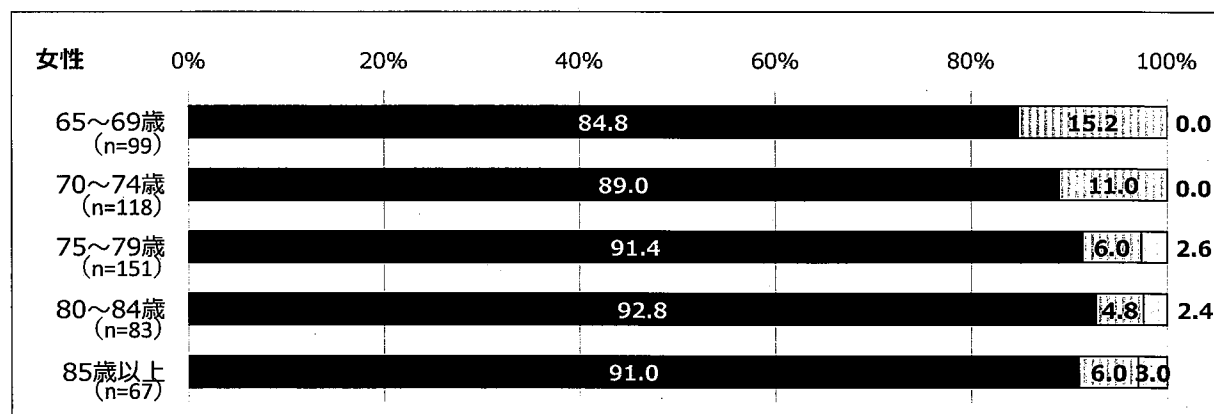
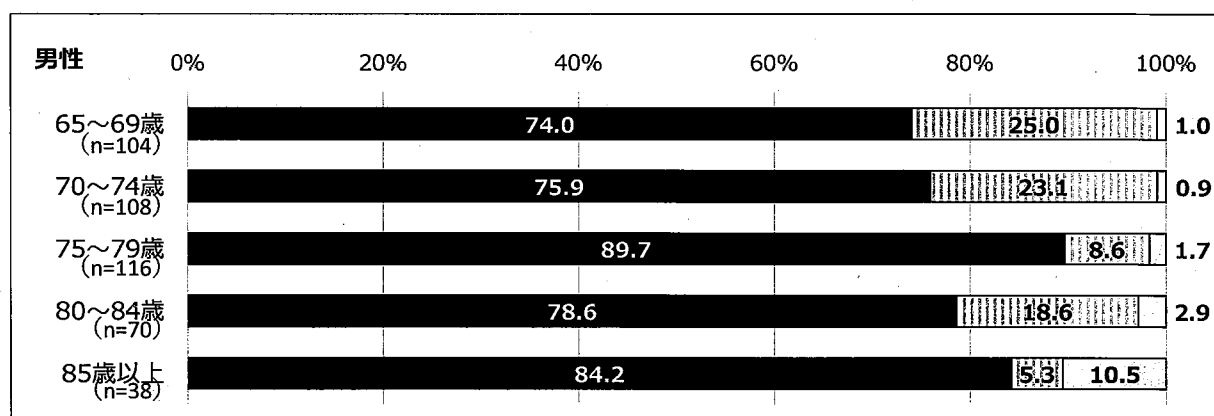
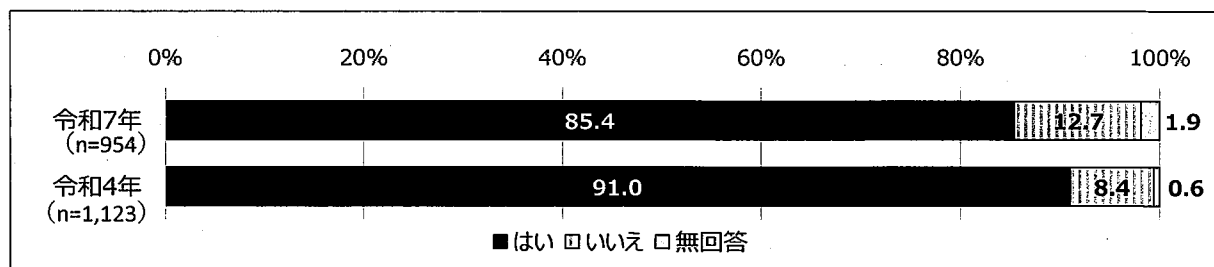
性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられますが、男性は75～79歳で「はい」の割合が最も低くなっています。



(3) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか

「はい」の割合が85.4%となっています。

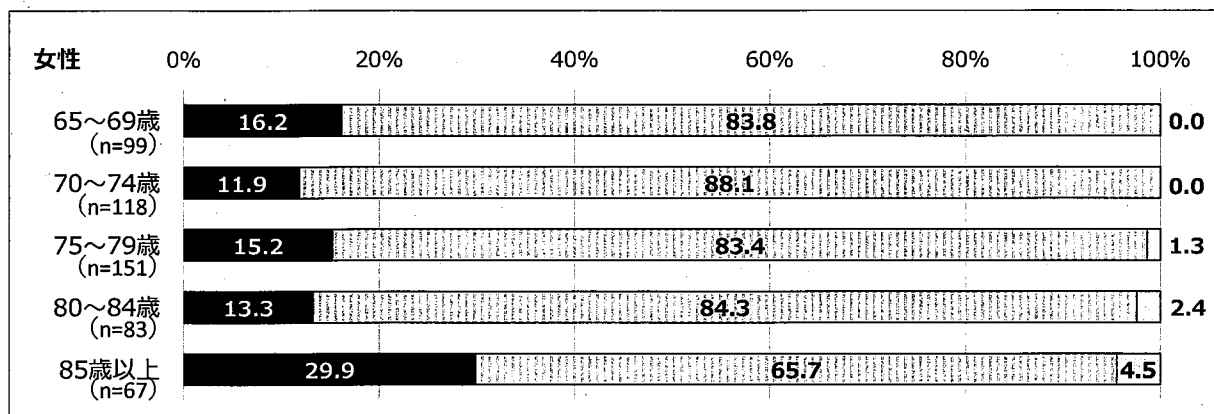
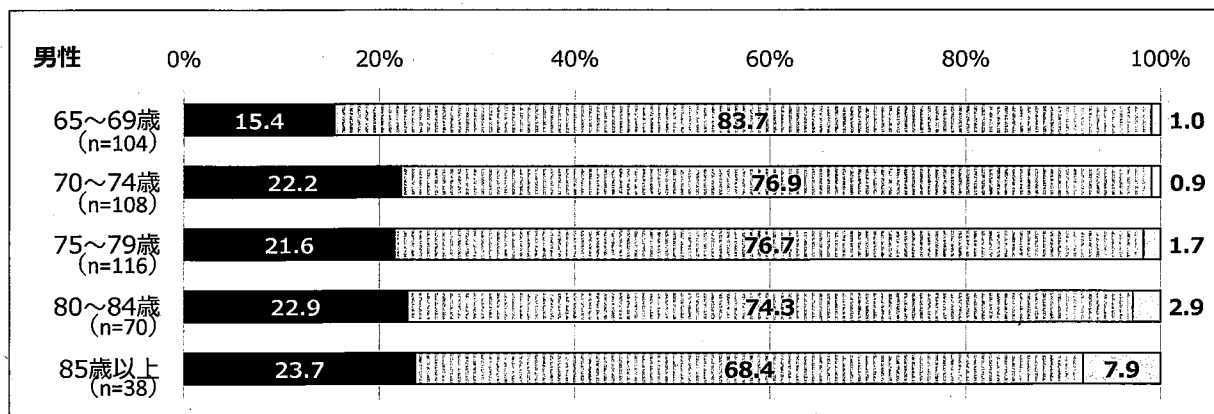
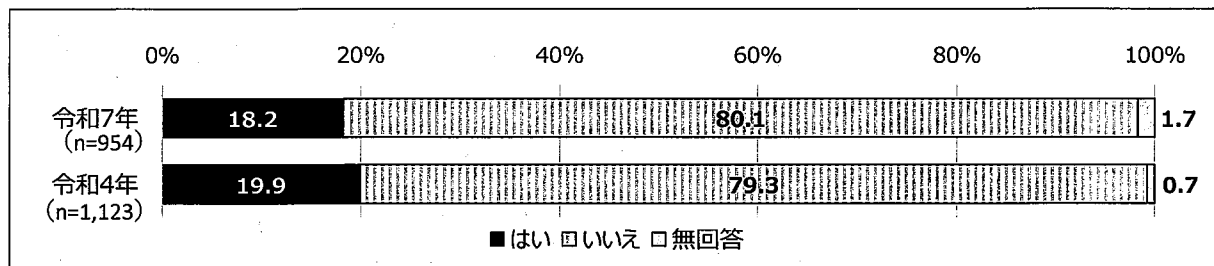
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっています。また、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。



(4) 今日が何月何日かわからないときがありますか

「はい」の割合が18.2%、「いいえ」が80.1%となっています。

性別・年齢別にみると、男性は年齢が上がるほど「はい」の割合が少しずつ高くなっていますが、女性は85歳以上の女性で「はい」の割合が最も高くなっている一方で、その他の年齢層では全体の平均値（18.2%）より低い割合となっています。



■ IADL

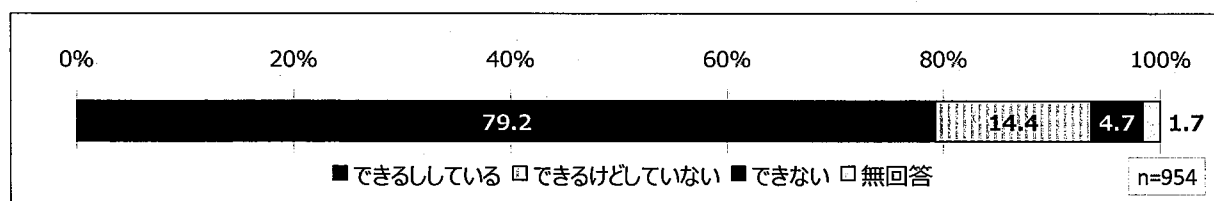
問 4 (5) ～ (9) は、IADL の低下を問う設問です。IADL が低下している高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

(5) バスや電車を使って 1 人で外出していますか（自家用車でも可）

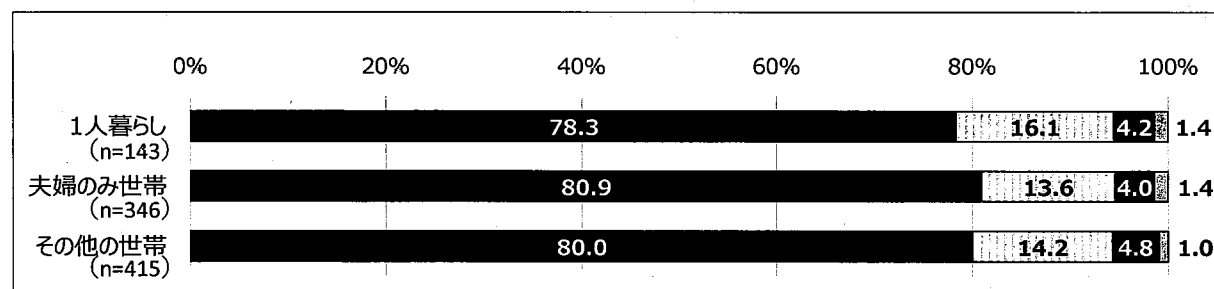
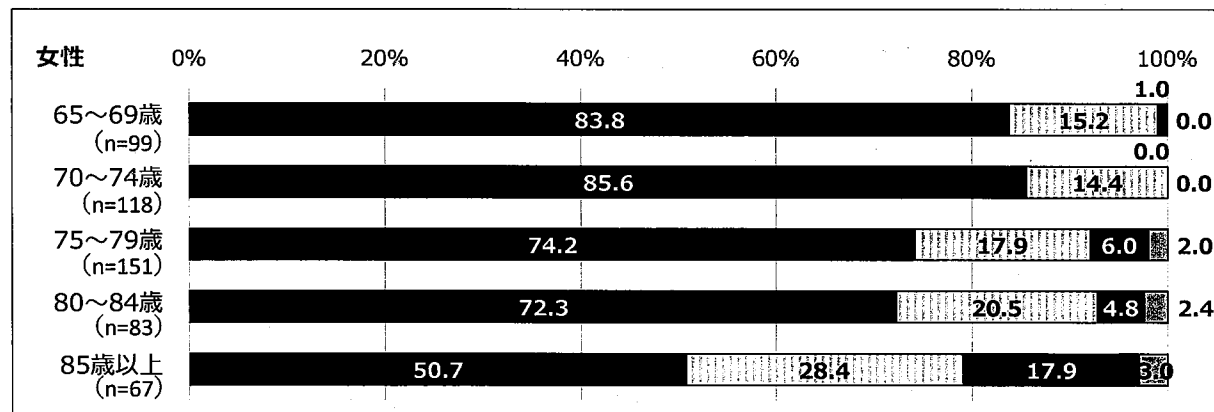
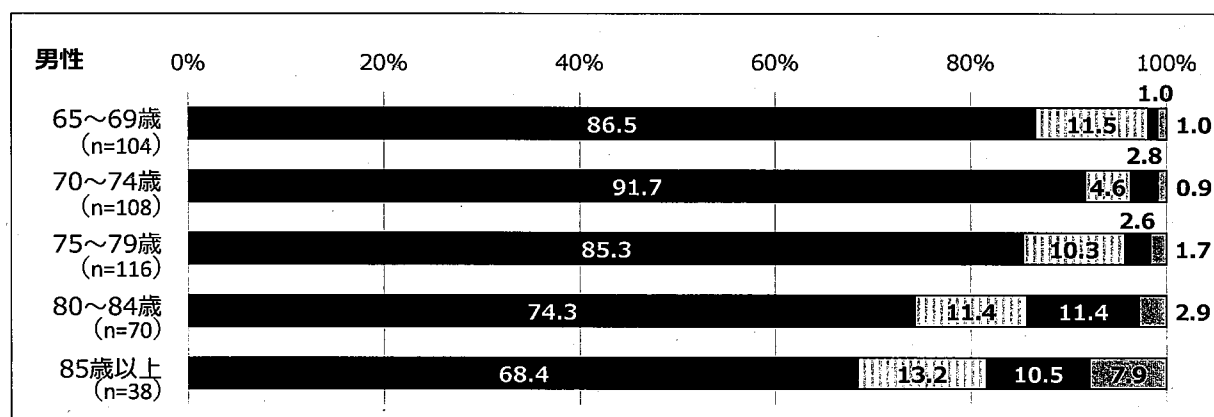
「できるししている」の割合が 79.2%で、「できない」は 4.7%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で男性のほうが「できるししている」の割合が高くなっています。男性・女性ともに 70～74 歳をピークに、年齢が上がるにつれて「できるししている」の割合が低くなる傾向がみられます。

家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。



※ 令和 4 年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。

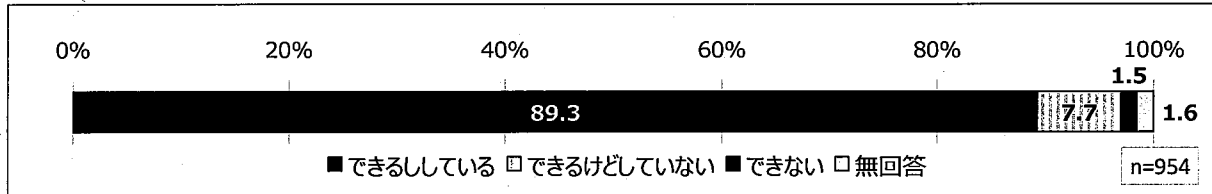


(6) 自分で食品・日用品の買い物をしていますか

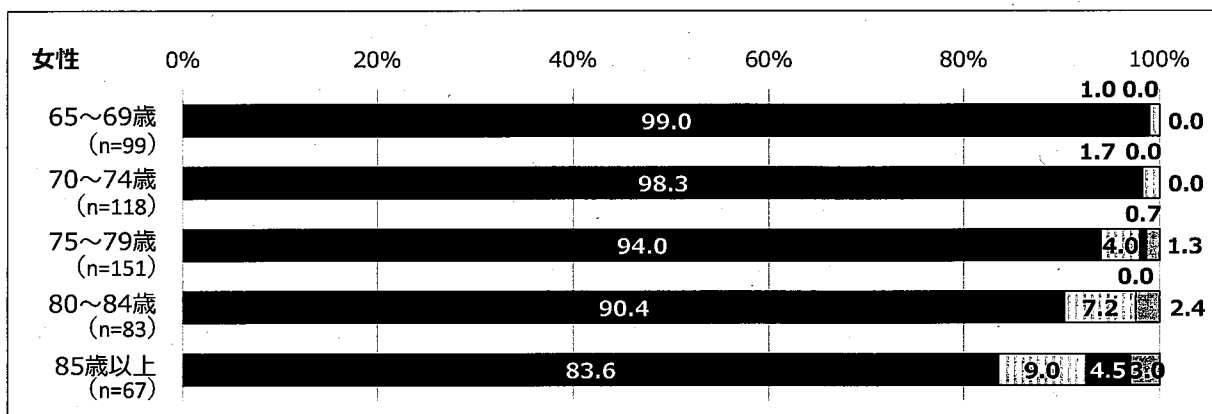
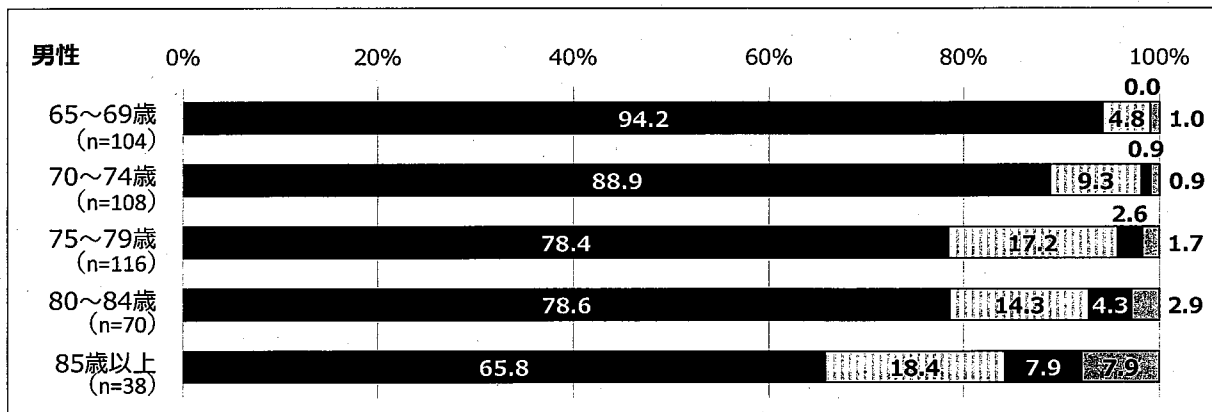
「できるししている」の割合が 89.3%で、「できない」は 1.5%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「できるししている」の割合が高くなっています。男性・女性ともに年齢が上がるほど「できるししている」の割合が低くなる傾向がみられます。

家族構成別にみると、1人暮らしで「できるししている」の割合が高く 97.9%となっています。



※ 令和4年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。

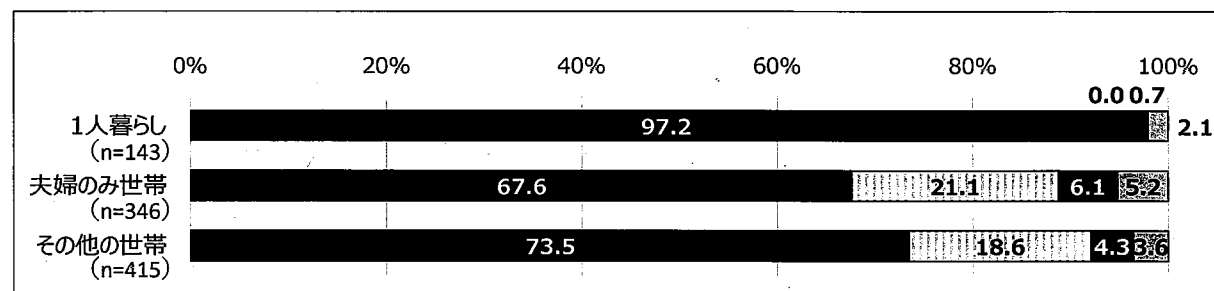
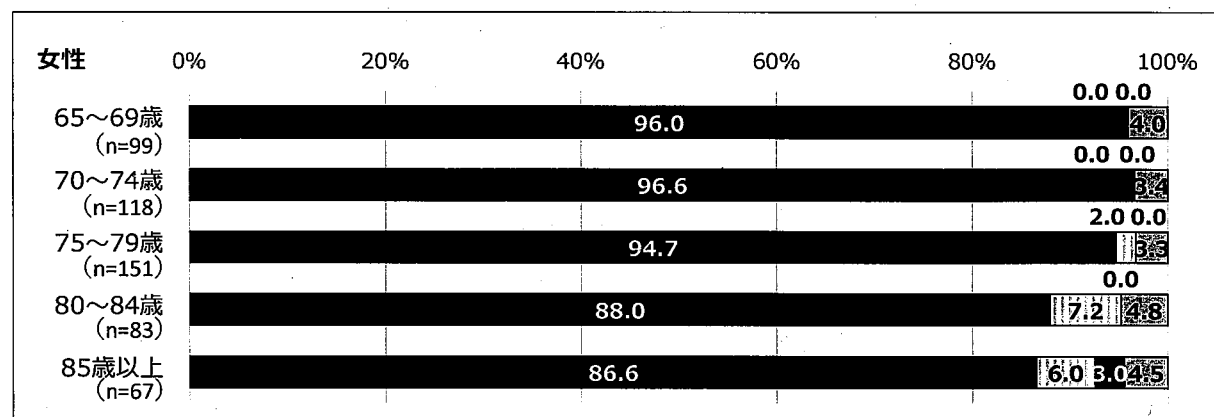
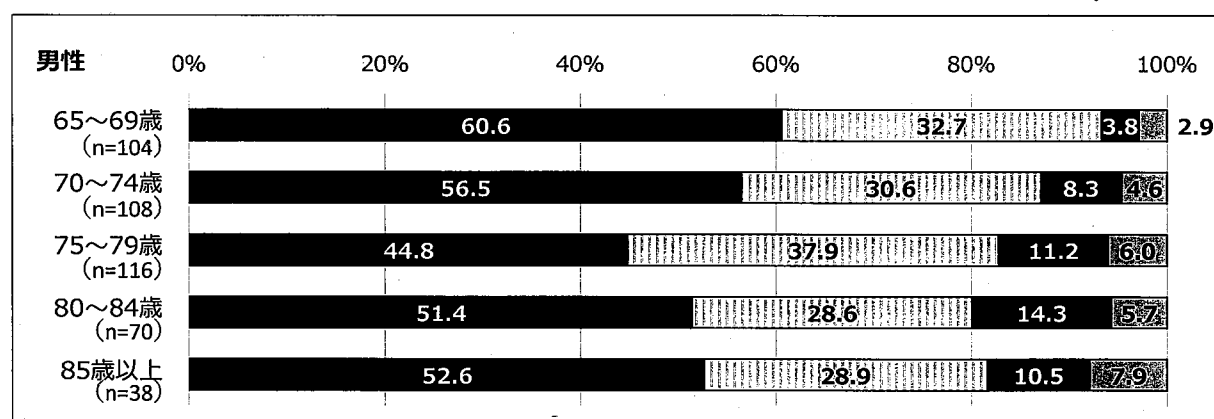
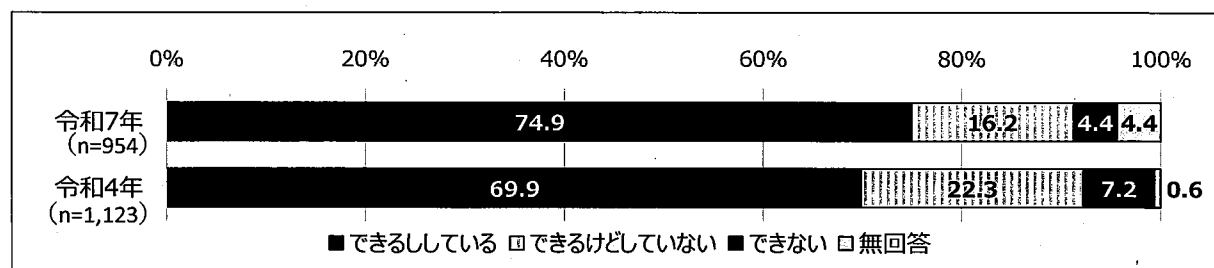


(7) 自分で食事の用意をしていますか

「できるししている」の割合が74.9%で、「できない」は4.4%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「できるししている」割合が高くなっています。75歳以上の男性は「できない」の割合が10%以上となっています。

家族構成別にみると、1人暮らしで「できるししている」の割合が高く97.2%となっています。

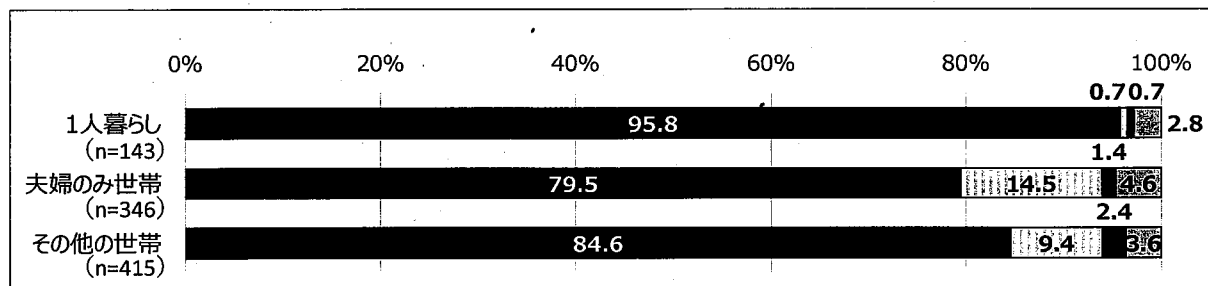
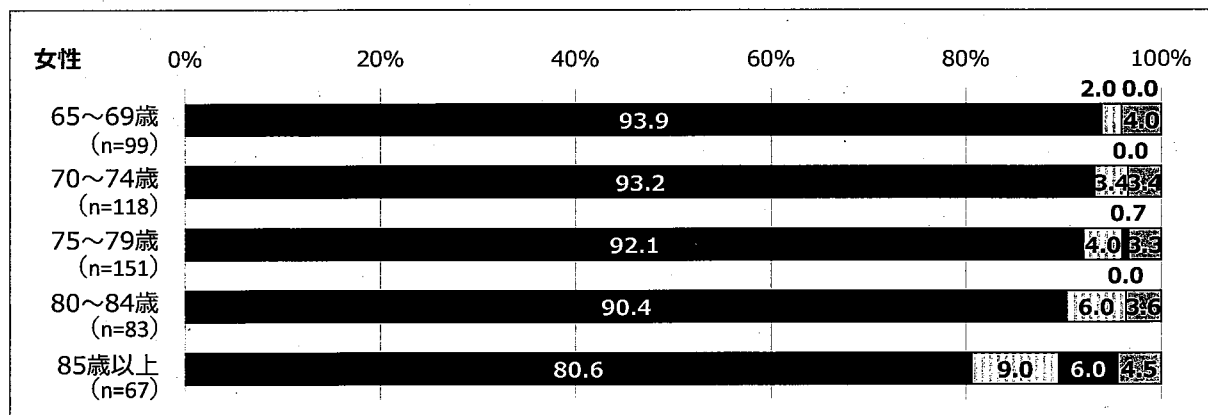
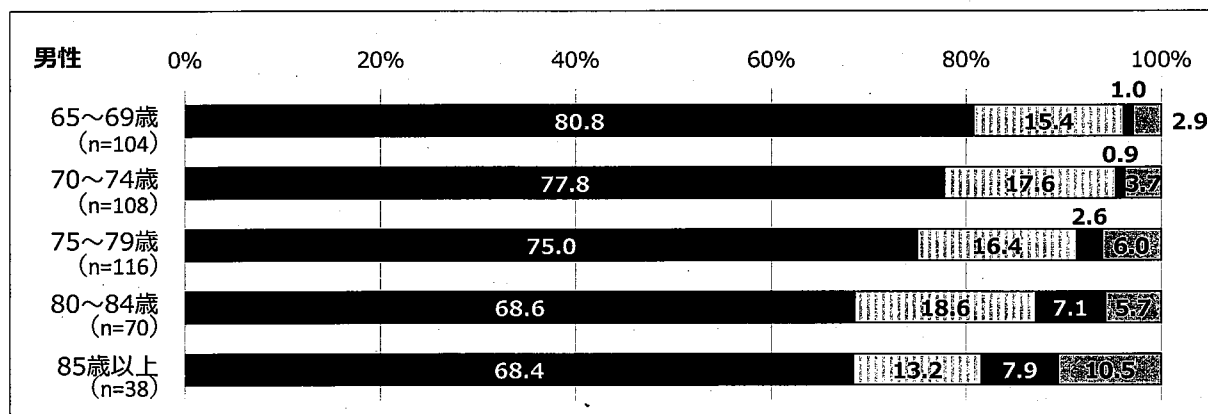
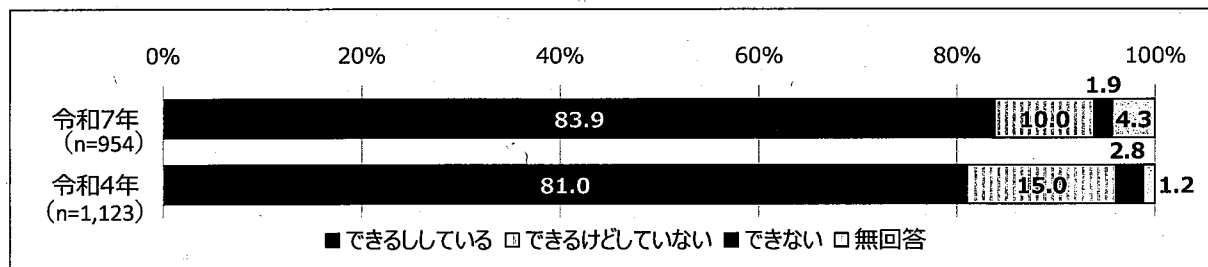


(8) 自分で請求書の支払いをしていますか

「できるししている」の割合が 83.9%で、「できない」は 1.9%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「できるししている」の割合が高くなっています。また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「できるししている」の割合が低くなる傾向がみられます。

家族構成別にみると、1人暮らしで「できるししている」の割合が高く 95.8%となっています。

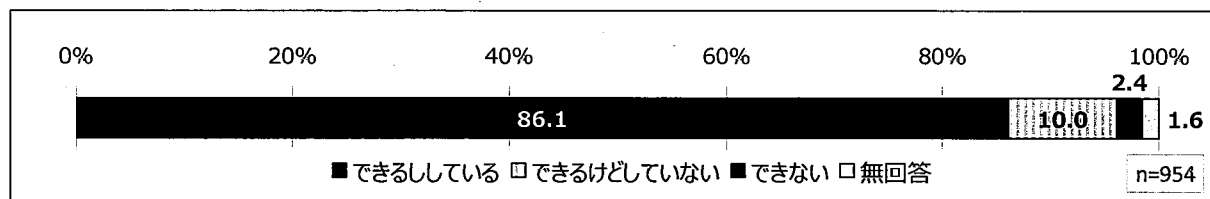


(9) 自分で預貯金の出し入れをしていますか

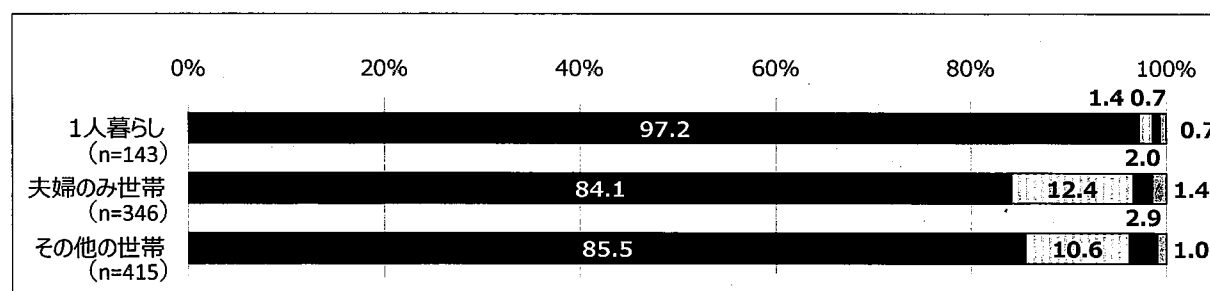
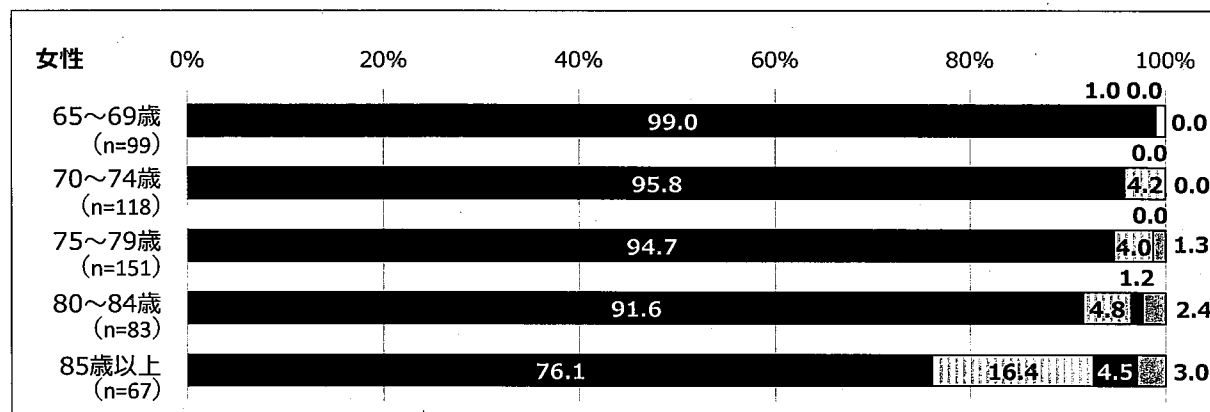
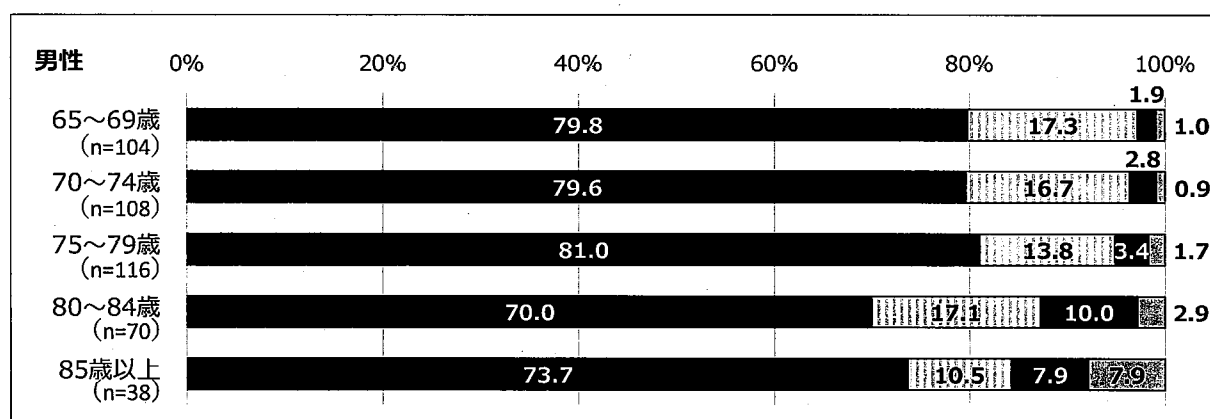
「できるししている」の割合が86.1%で、「できない」は2.4%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「できるししている」の割合が高くなっていますが、年齢が上がるにつれてその割合は低くなる傾向がみられます。

家族構成別にみると、1人暮らしで「できるししている」の割合が高く97.2%となっています。



※ 令和4年の前回調査は選択肢が異なるため比較していません。



■ 知的能動性

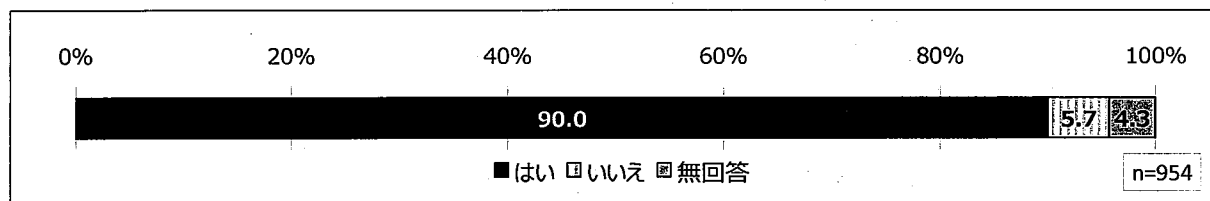
問 4 (10) ～ (13) は、老研式活動能力指標に基づく知的能動性の低下を問う設問です。本指標が低下している高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

(10) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか

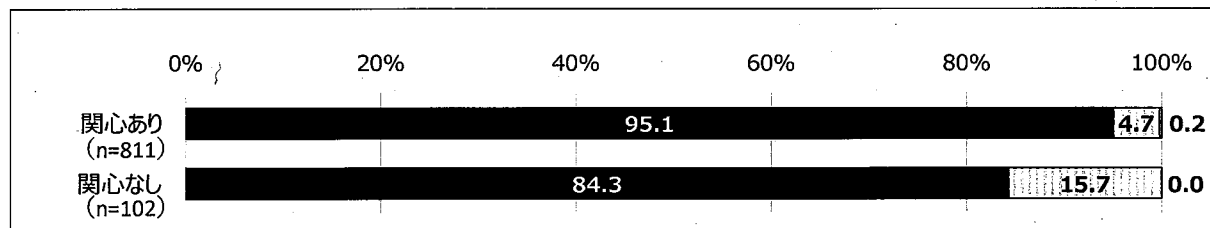
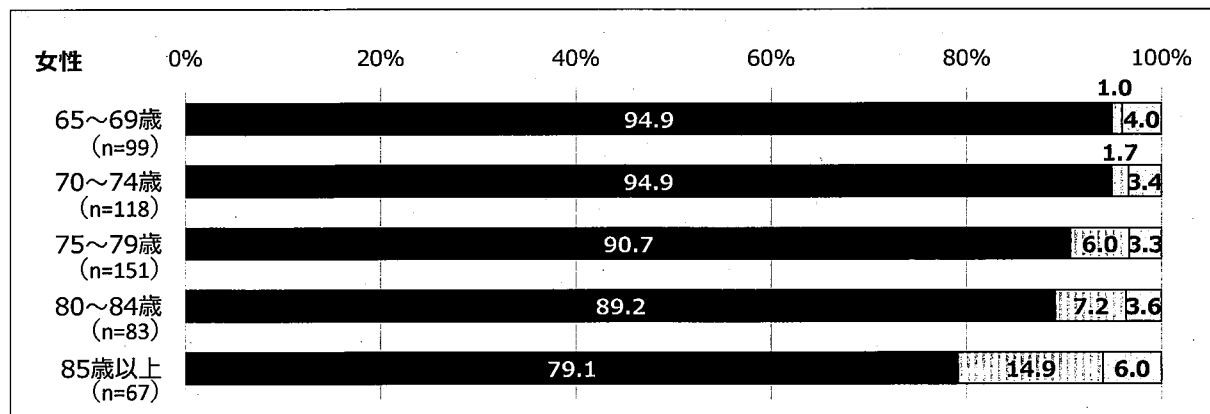
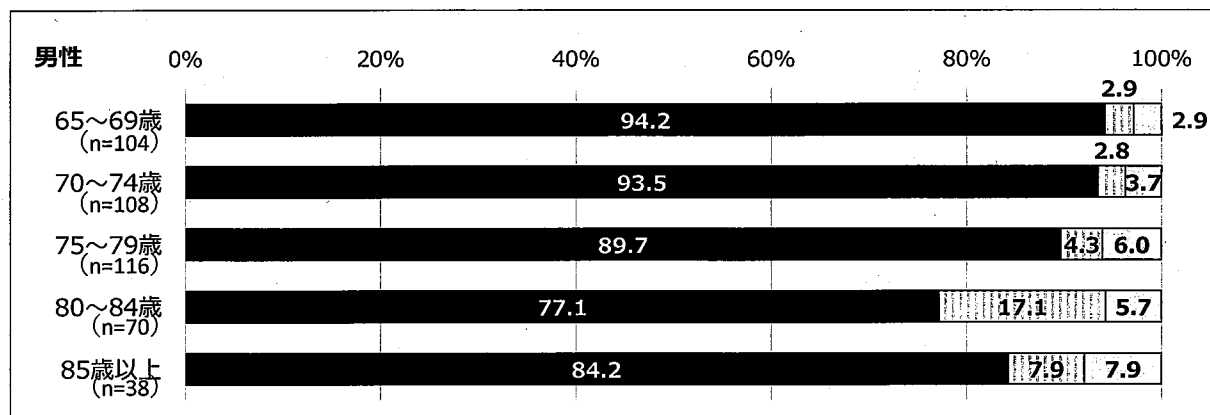
「はい」の割合が 90.0%、「いいえ」が 5.7%となっています。

性別・年齢別にみると、数値にばらつきはありますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなる傾向がみられます。

健康への関心の有無（p.36）別にみると、健康に関心があるほうが「はい」の割合が高くなっています。

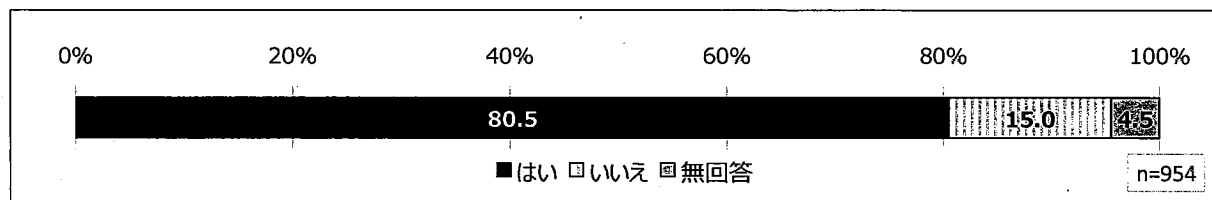


※ 令和 4 年の前回調査にこの設問はありませんでした。

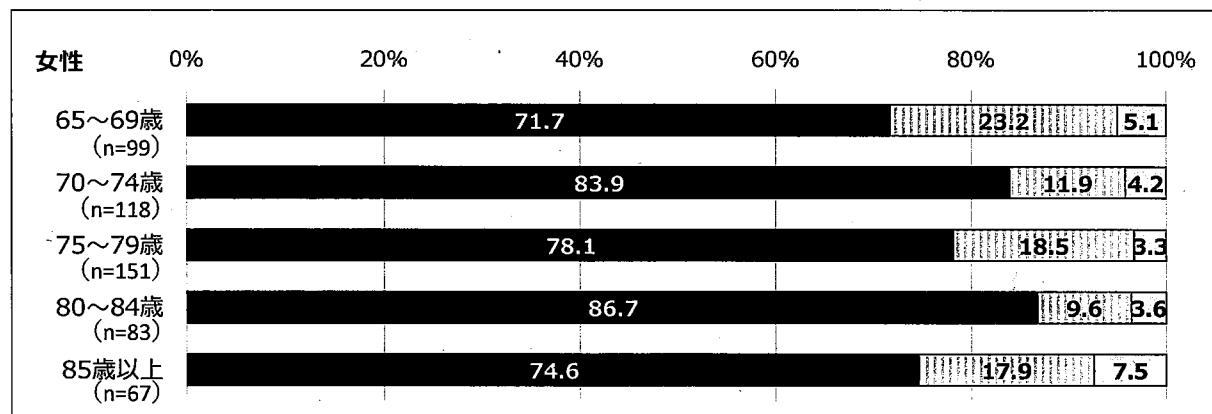
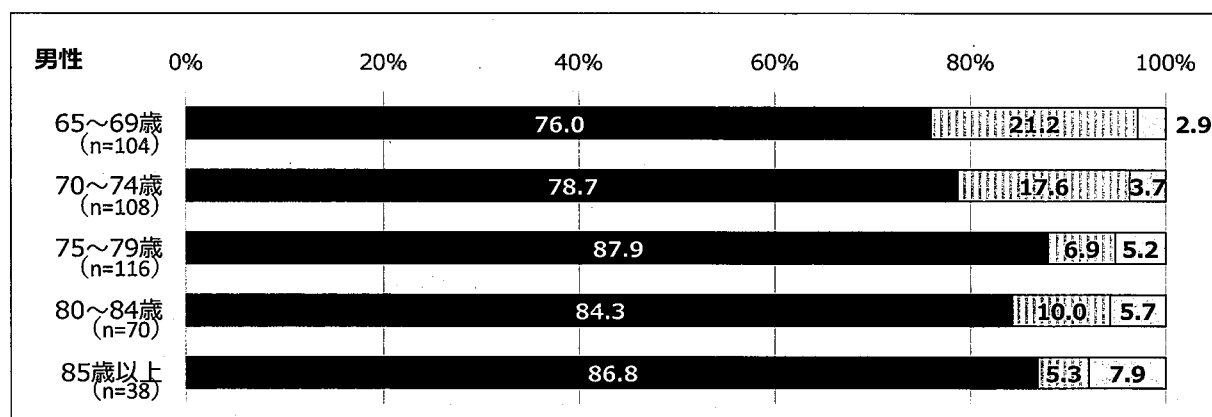


(11) 新聞を読んでいますか

「はい」の割合が80.5%、「いいえ」が15.0%となっています。
性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。



※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。

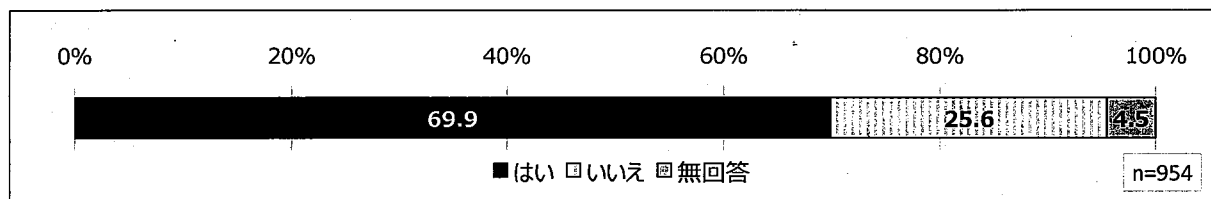


(12) 本や雑誌を読んでいますか

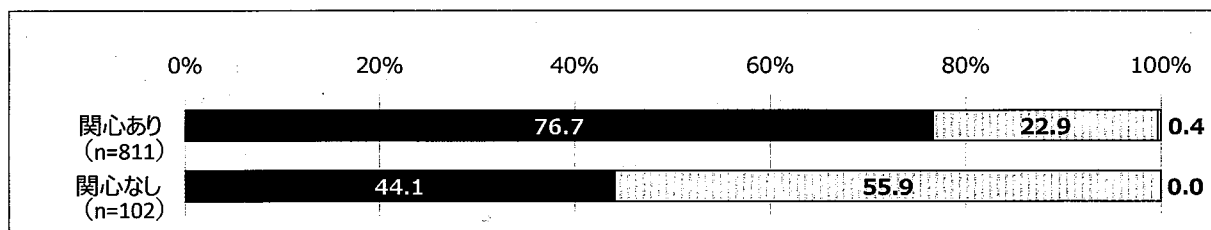
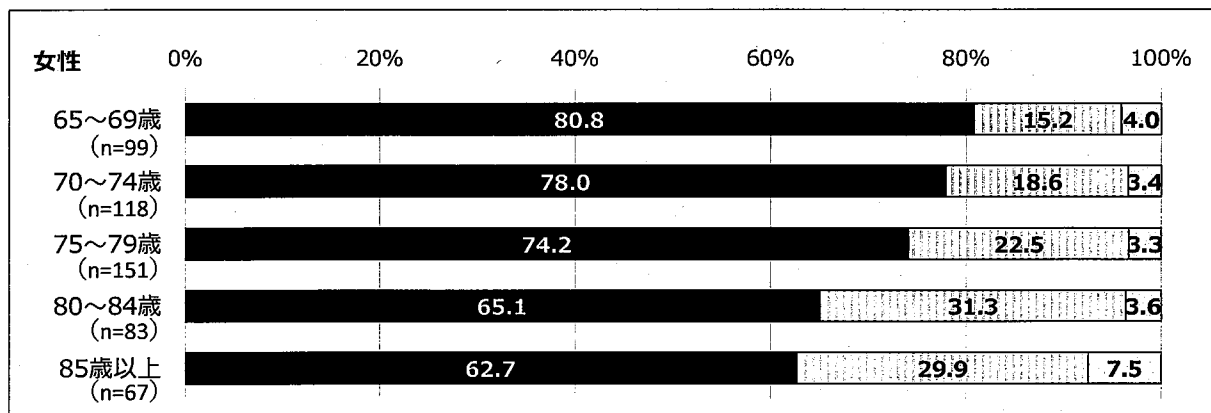
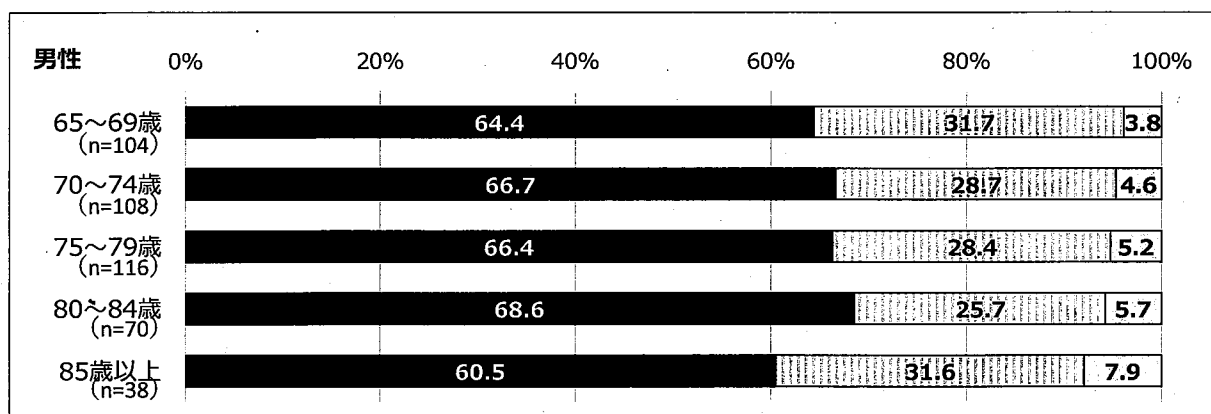
「はい」の割合が69.9%、「いいえ」が25.6%となっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが「はい」の割合が高くなっていますが、年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなる傾向がみられます。男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。

健康への関心の有無（p.36）別にみると、健康に関心があるほうが「はい」の割合が高くなっています。



※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。

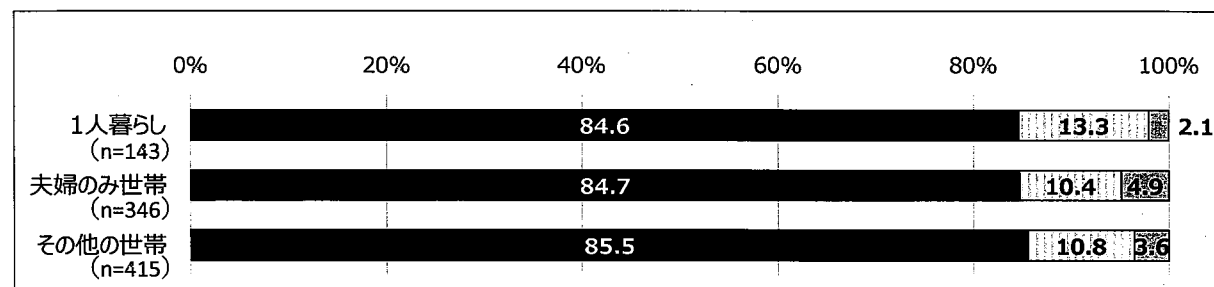
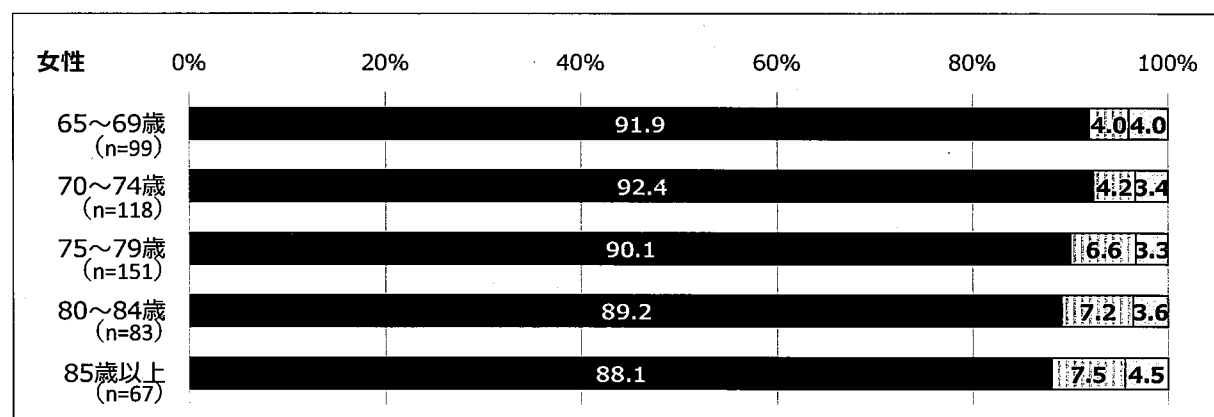
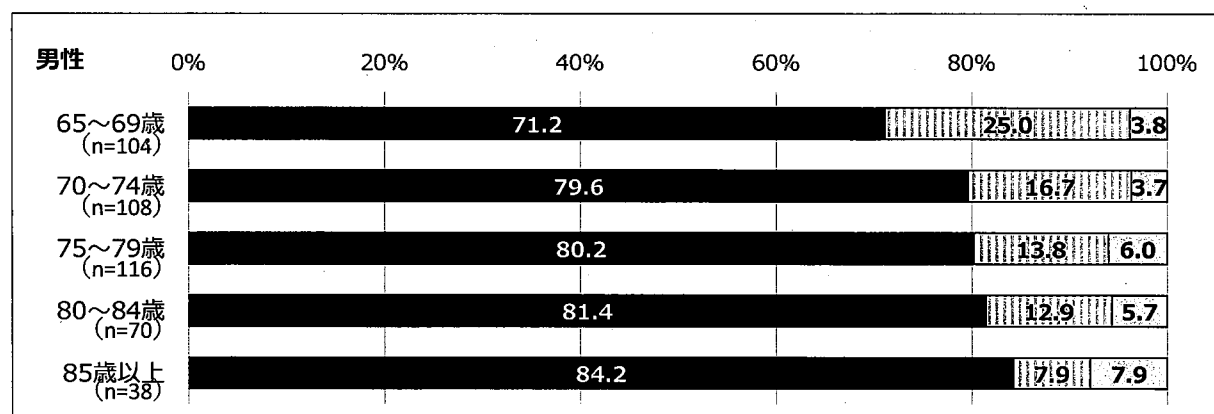
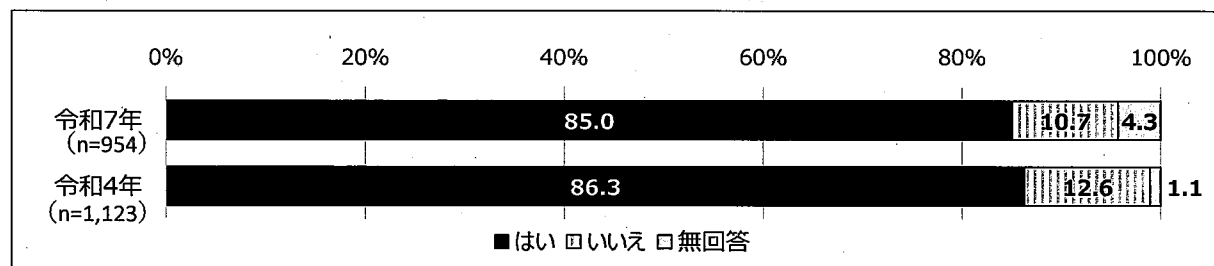


(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか

「はい」の割合が85.0%、「いいえ」が10.7%となっています。

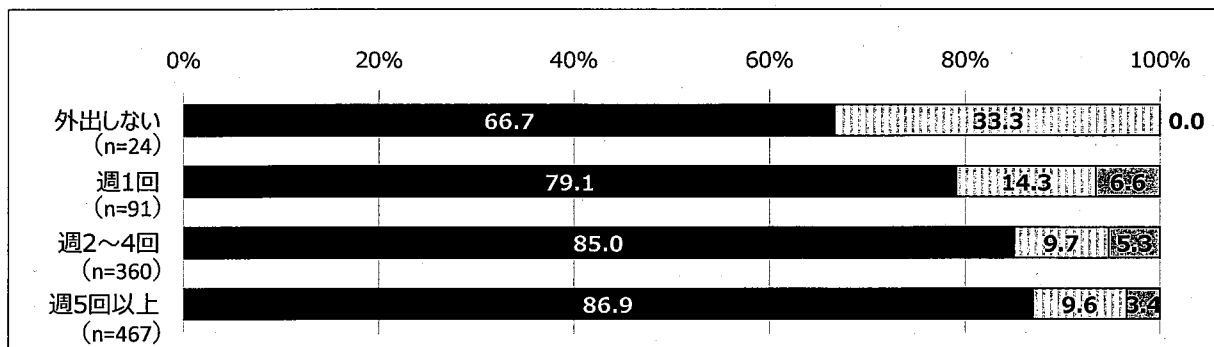
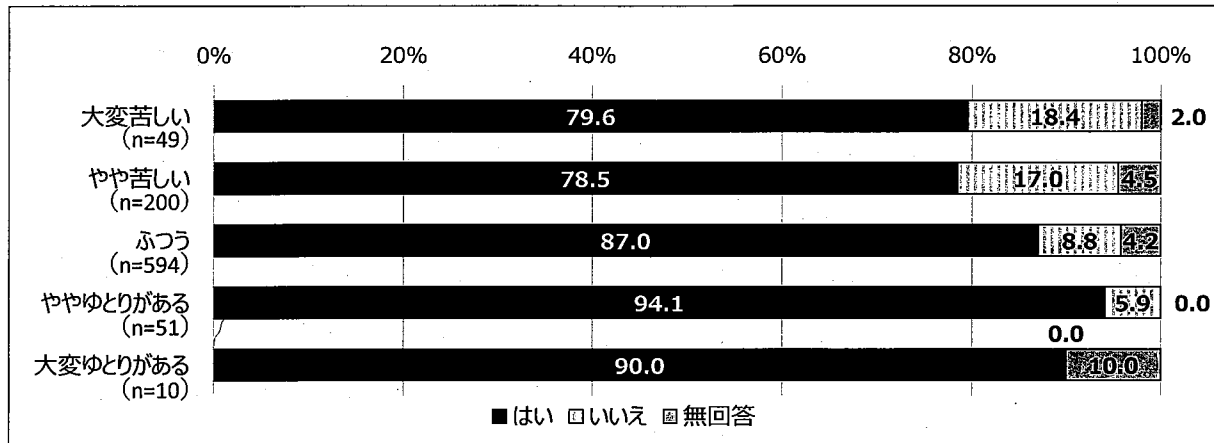
性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっています。男性は年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっているのに対し、女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなっています。

家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。



主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが健康に関する記事や番組に関心がある割合が高い傾向がみられます。

外出の頻度別にみると、外出する頻度が高いほど「はい」の割合が高くなっています。



■ 他者との関わり

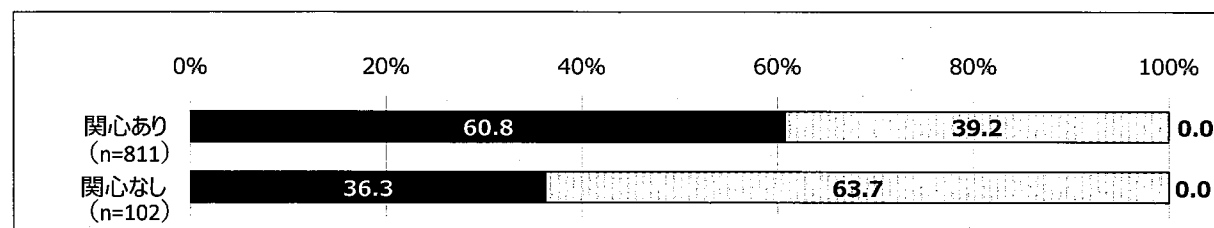
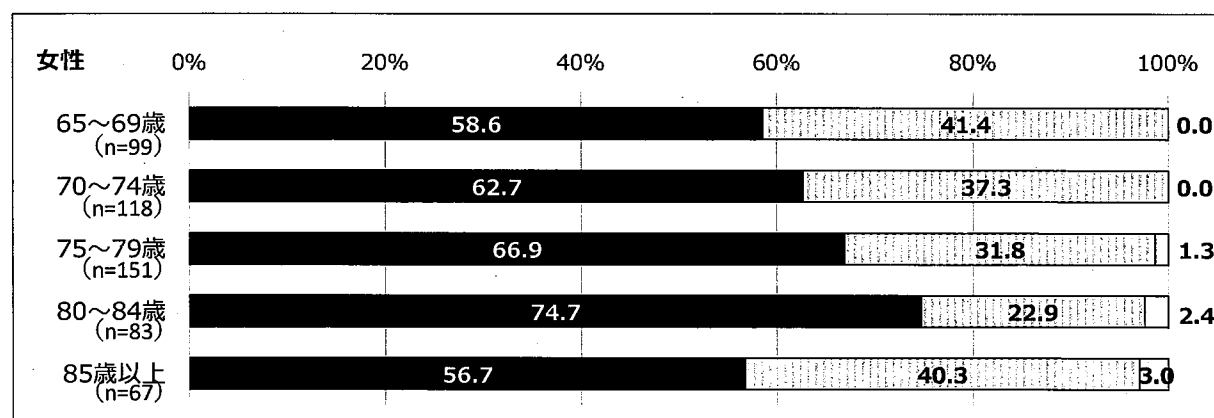
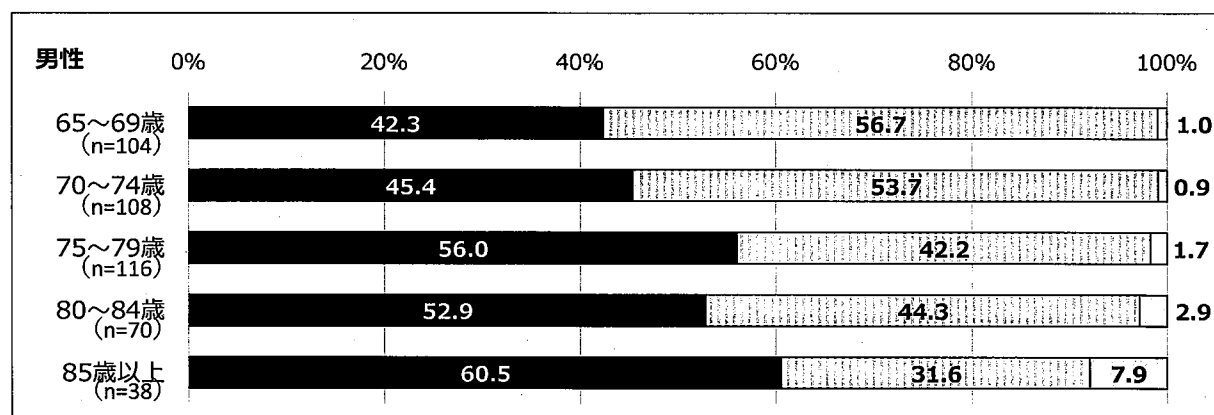
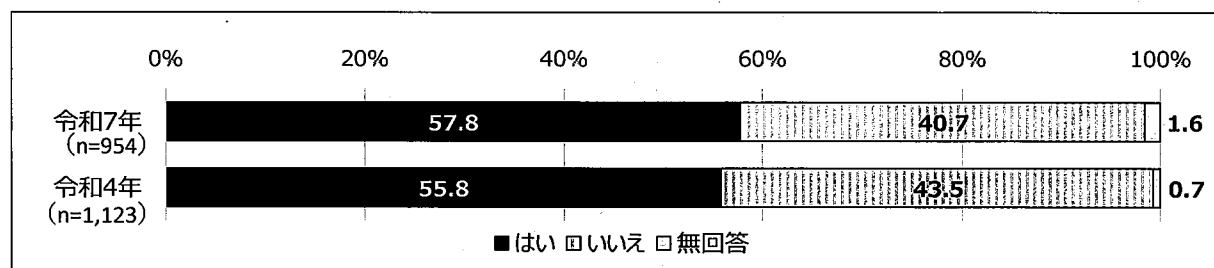
問 4 (14) ～ (17) は、他者との関わりについて問う設問です。課題（他者との関わりの低さ）の把握が可能となります。

(14) 友人の家を訪ねていますか

「はい」の割合が 57.8% で、新型コロナウイルス感染症の影響で外出を控える人が多かった令和 4 年の前回調査より 2.0 ポイントの増加にとどまっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが「はい」の割合が高くなっています。また、数値にばらつきがありますが、男性・女性ともに年齢が低いほど「はい」の割合が低い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが「はい」の割合が高くなっています。

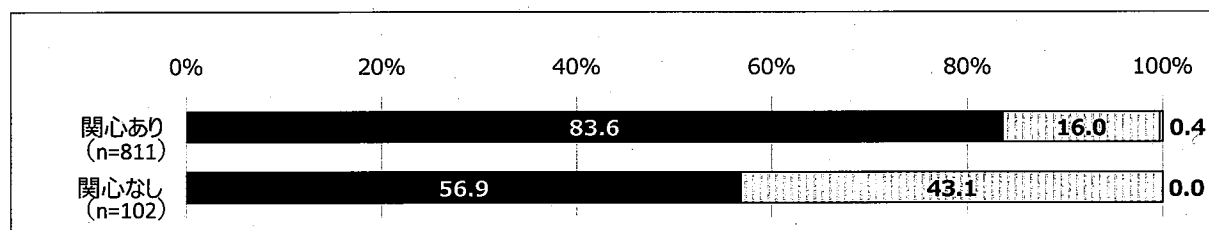
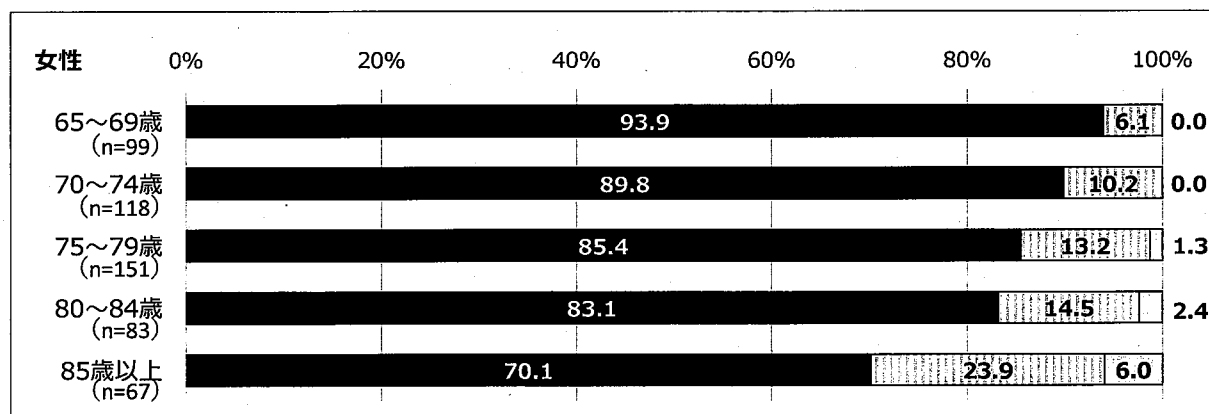
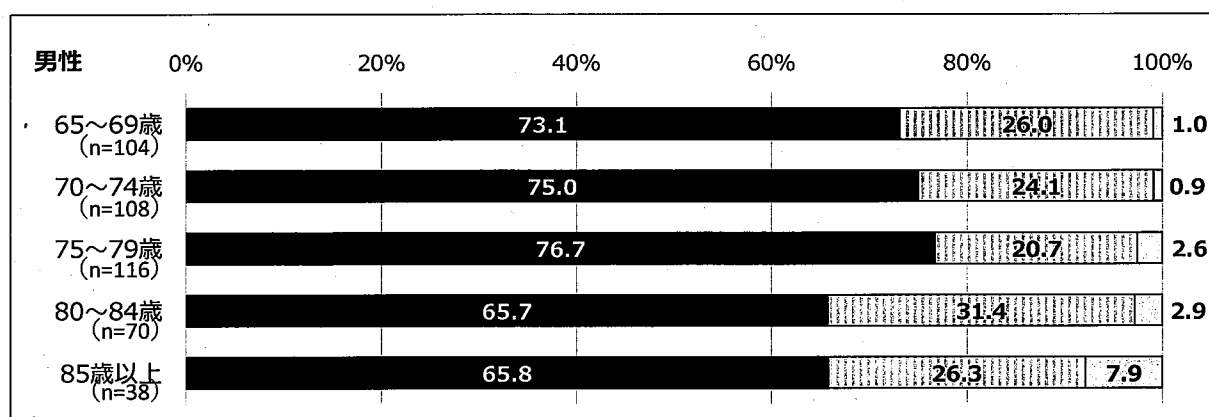
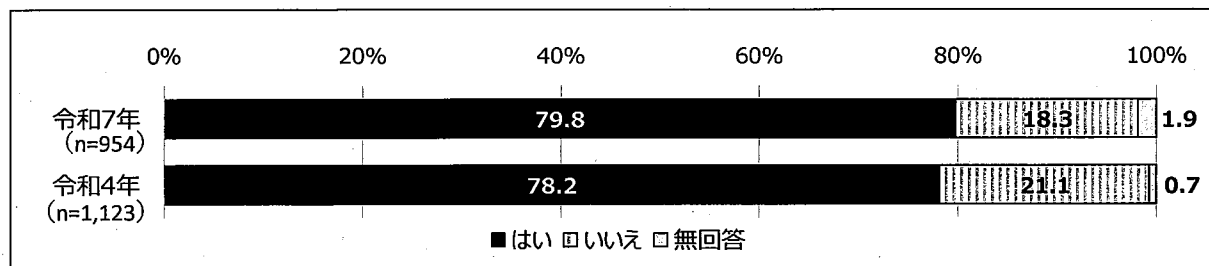


(15) 家族や友人の相談にのっていますか

「はい」の割合が79.8%、「いいえ」が18.3%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっていますが、年齢が上がるにつれてその割合が低くなる傾向がみられます。

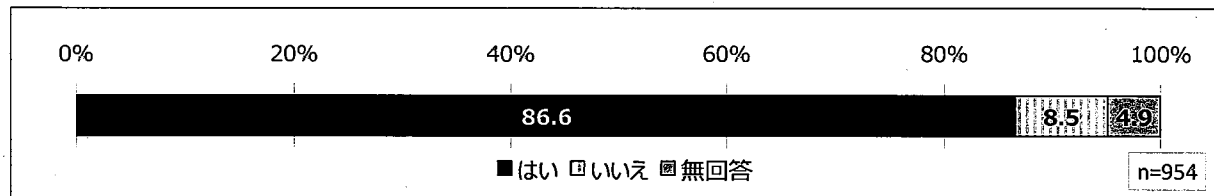
健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが「はい」の割合が高くなっています。



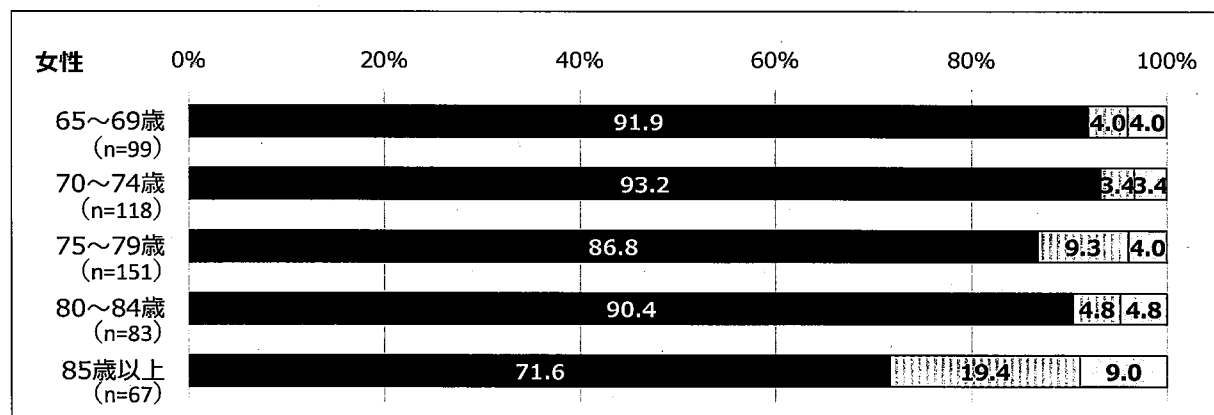
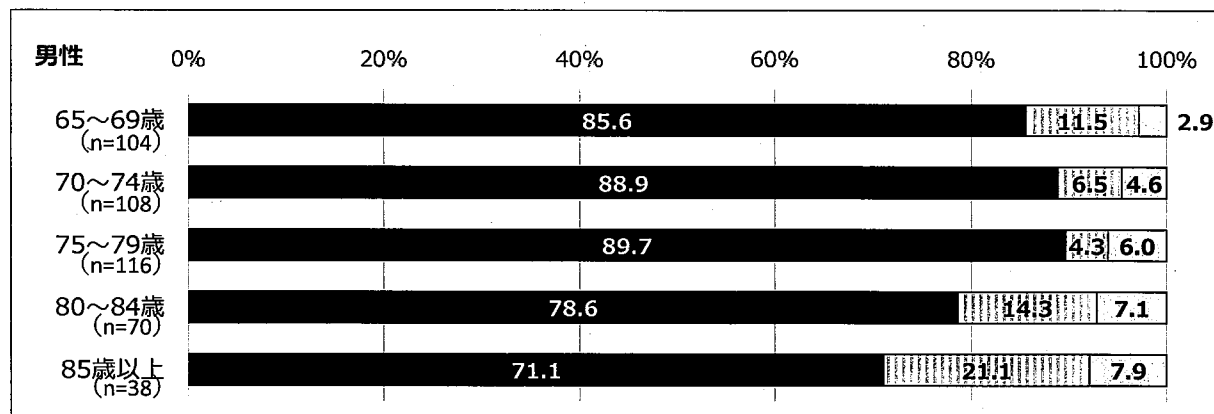
(16) 病人を見舞うことができますか

「はい」の割合が86.6%、「いいえ」が8.5%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。男性・女性ともに85歳以上で「はい」の割合が低くなっています。



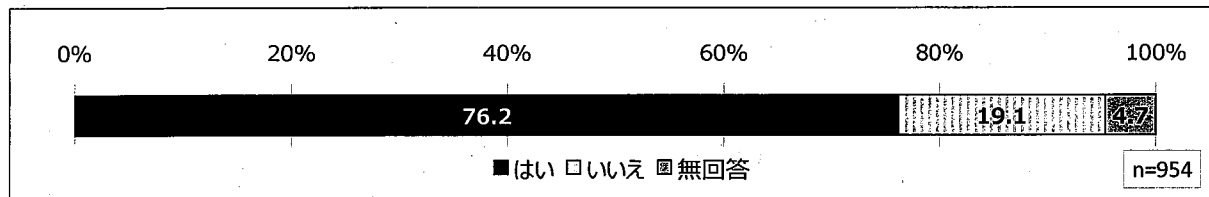
※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。



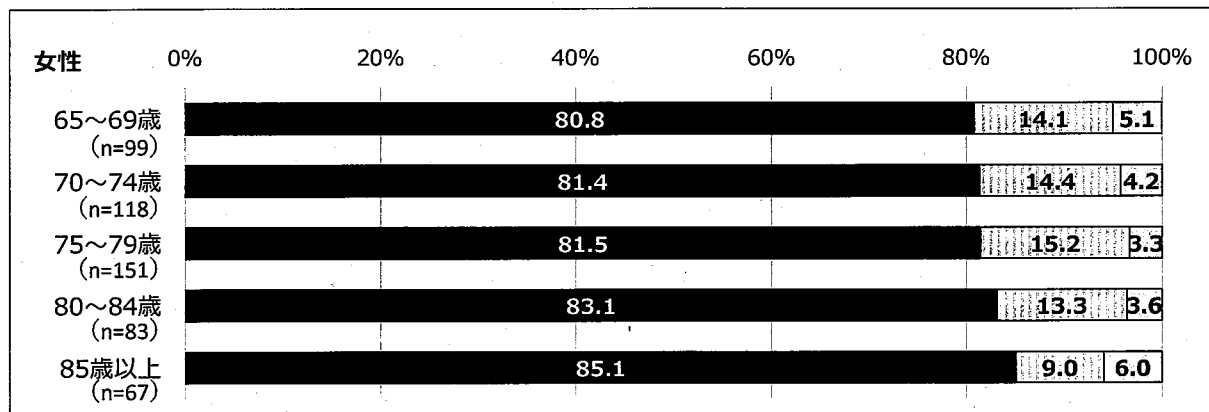
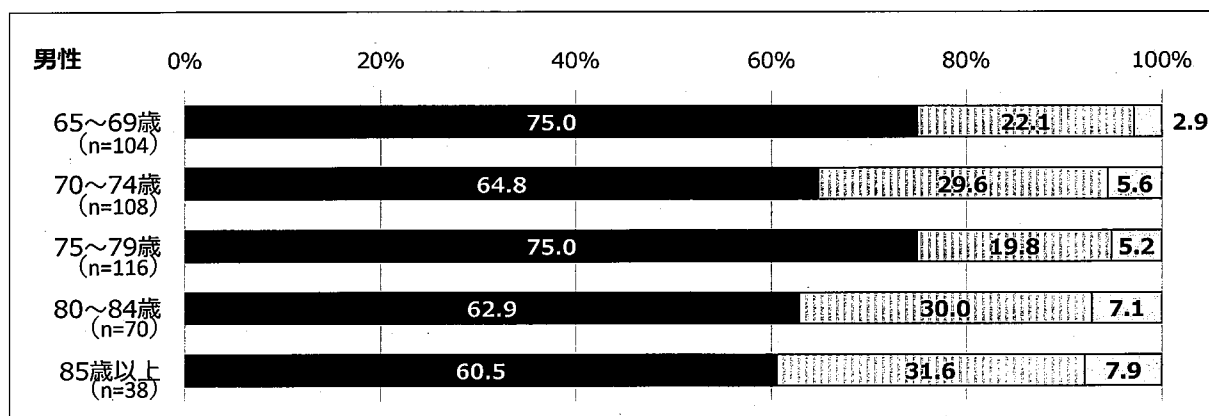
(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか

「はい」の割合が76.2%、「いいえ」が19.1%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっています。男性は年齢が上がるほど「はい」の割合が低くなっていますが、女性は少しずつ割合が高くなる傾向がみられます。



※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。



■ 生きがい

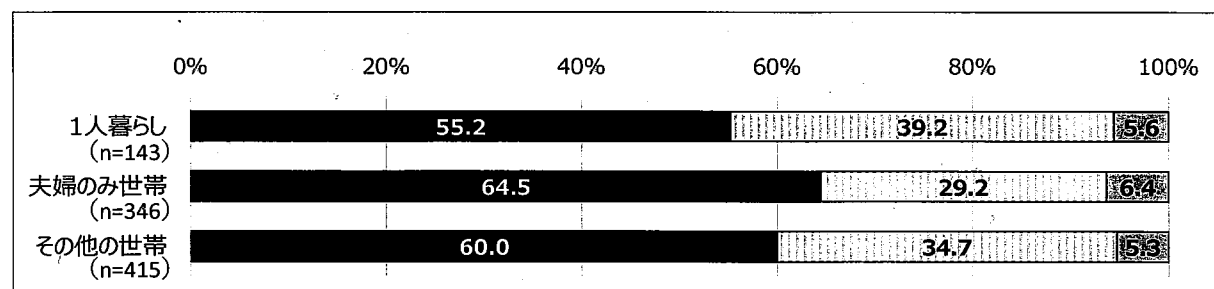
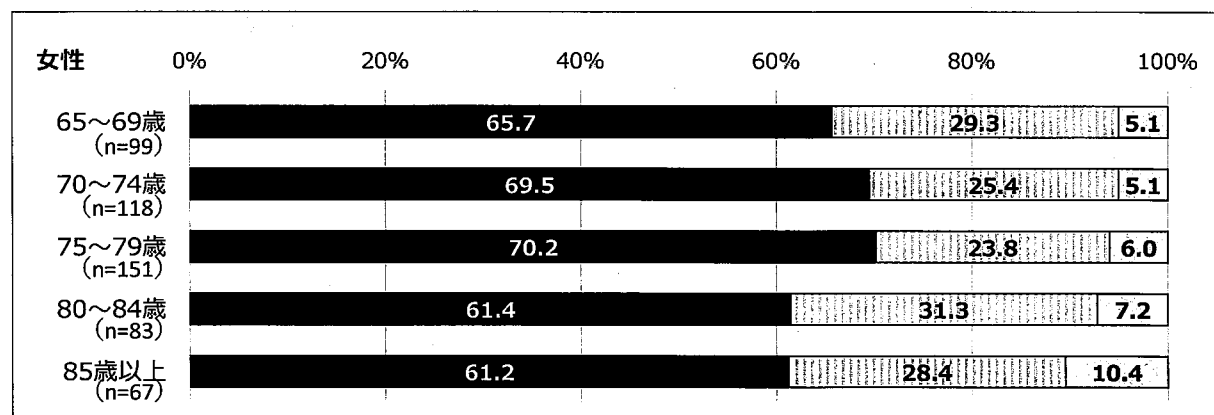
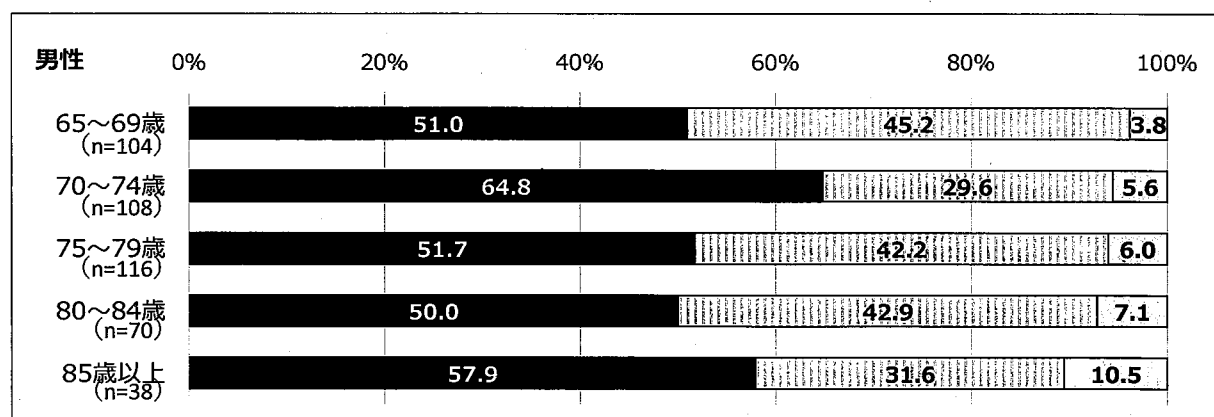
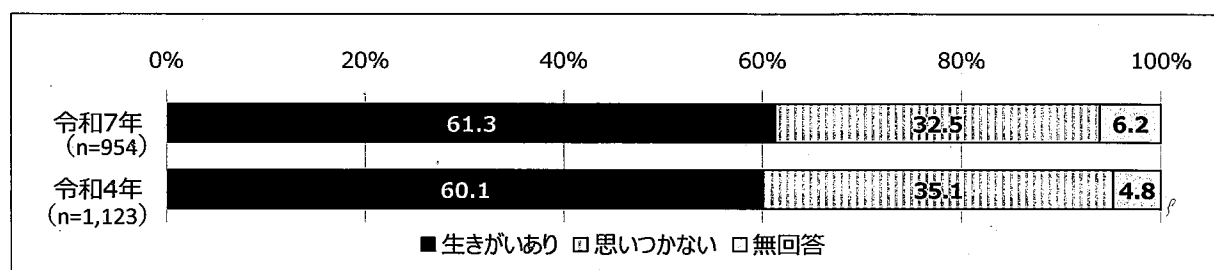
(18) 生きがいはありますか

この設問は、生きがいを問う設問です。本項目と社会参加の関係性を把握することにより、社会参加する高齢者の傾向の把握が可能になります。

「生きがいあり」の割合が61.3%、「思いつかない」が32.5%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「生きがいあり」の割合が高くなっています。年齢による明らかな傾向はみられませんでした。

家族構成別にみると、夫婦のみ世帯で「生きがいあり」の割合がやや高くなっています。

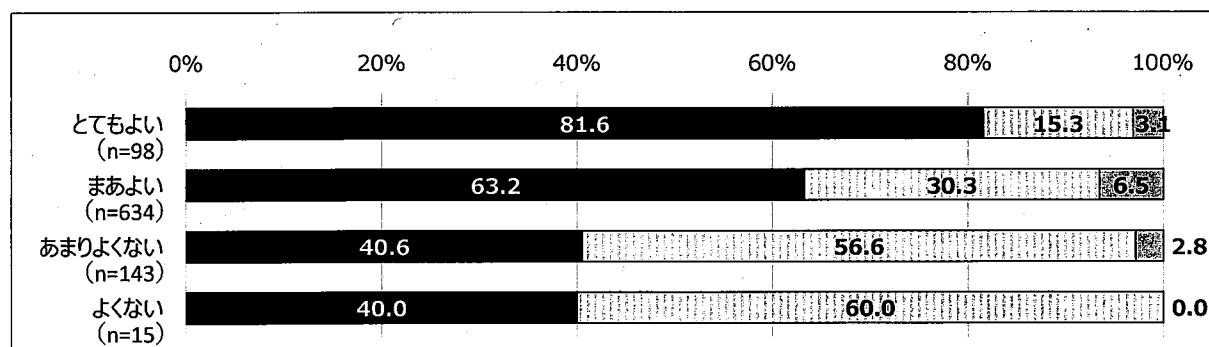
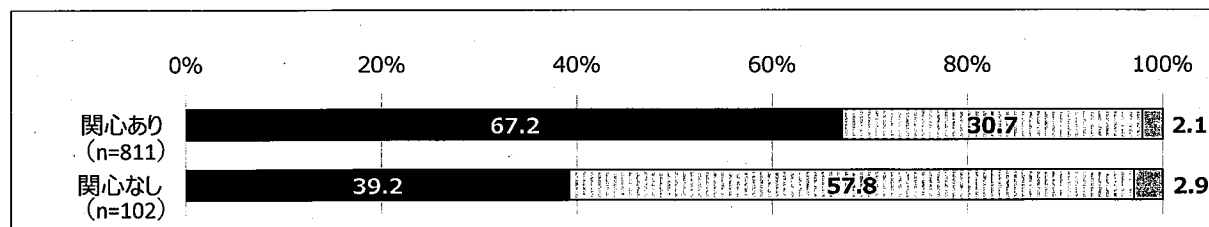
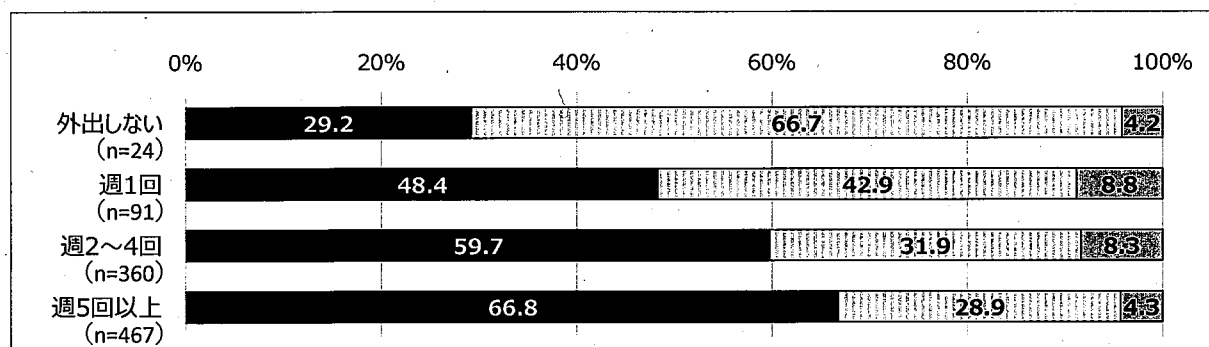
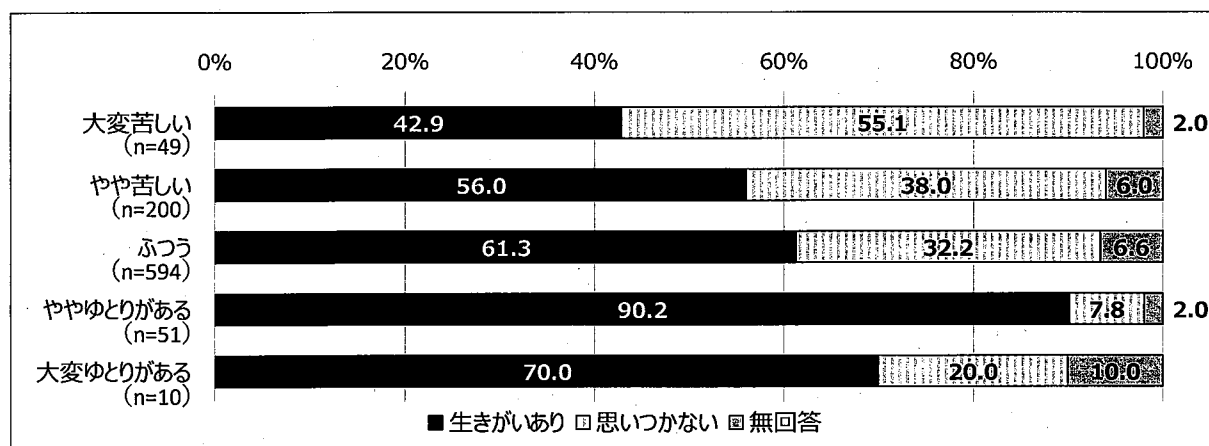


主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが「生きがいあり」の割合が高い傾向がみられます。

外出の頻度別にみると、外出する頻度が高いほど「生きがいあり」の割合が高くなっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが「生きがいあり」の割合が高くなっています。

主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態が良いほど「生きがいあり」の割合が高くなっています。



※ 具体的な生きがいは、孫や子どもをはじめとする家族、ガーデニングやスポーツなどの趣味、友人と過ごす時間、旅行、家庭菜園や仕事などとなっています。

問 5 地域での活動について

■ 地域活動への参加の頻度

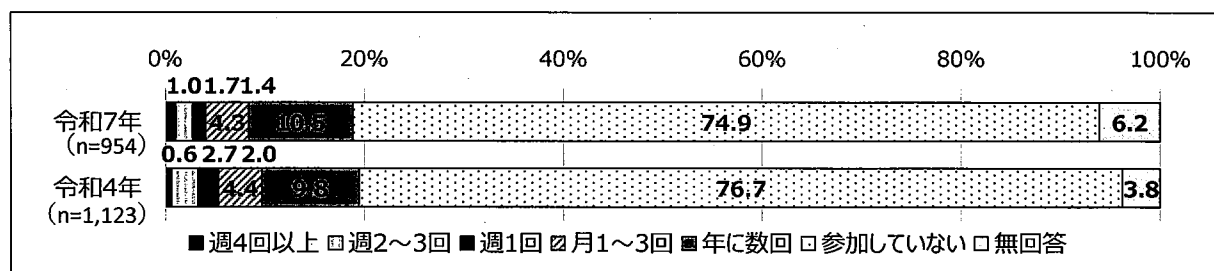
(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか

この設問は、社会参加活動を問う設問です。

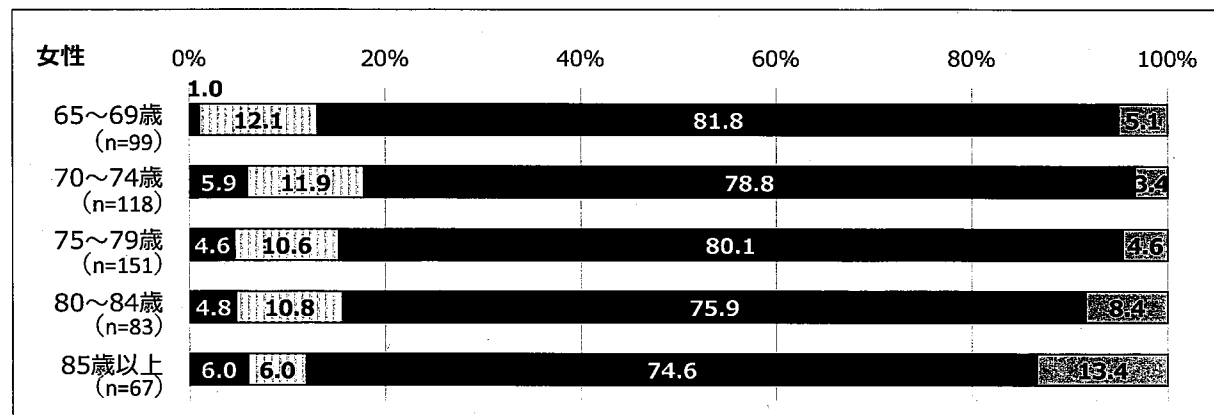
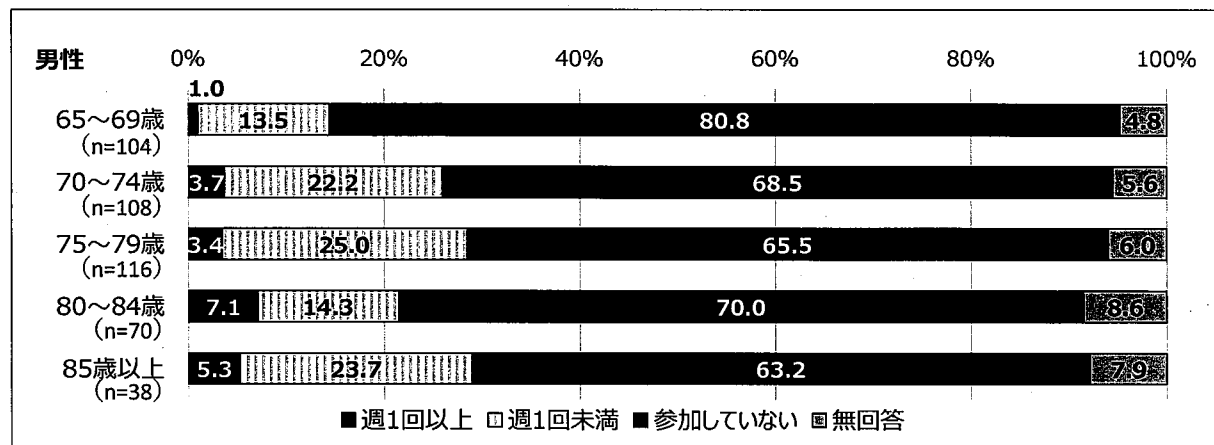
① ボランティアのグループ

週に1回以上参加している割合は4.1%、月に1回以上参加している割合は8.4%で、「参加していない」の割合が74.9%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに65～69歳で「参加していない」の割合が最も高く、80%程度となっています。



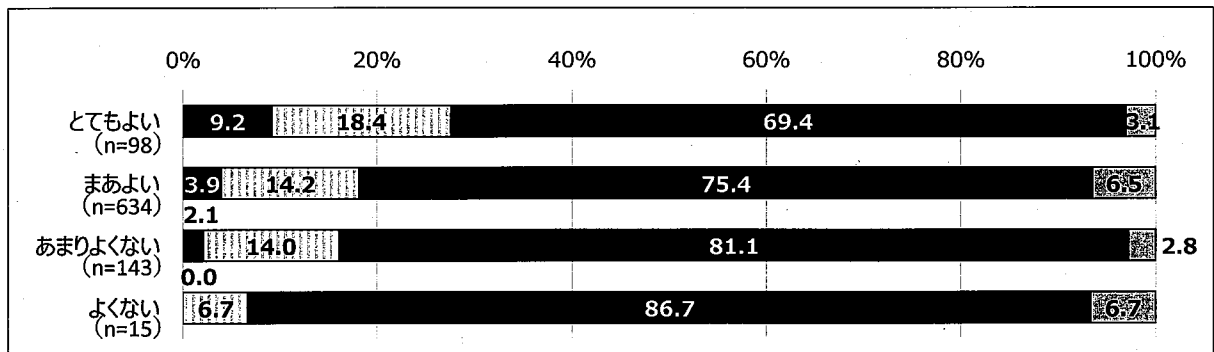
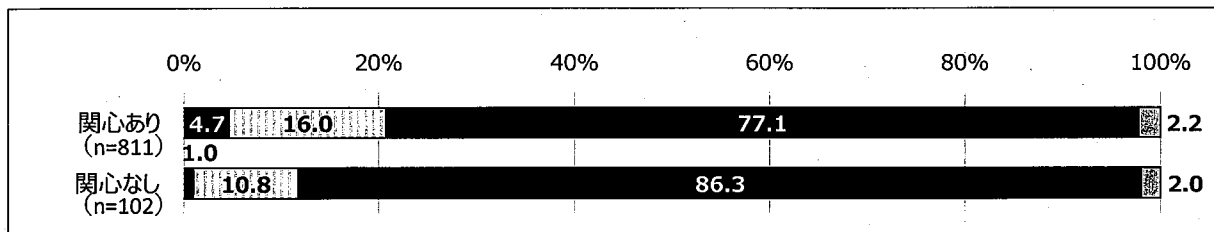
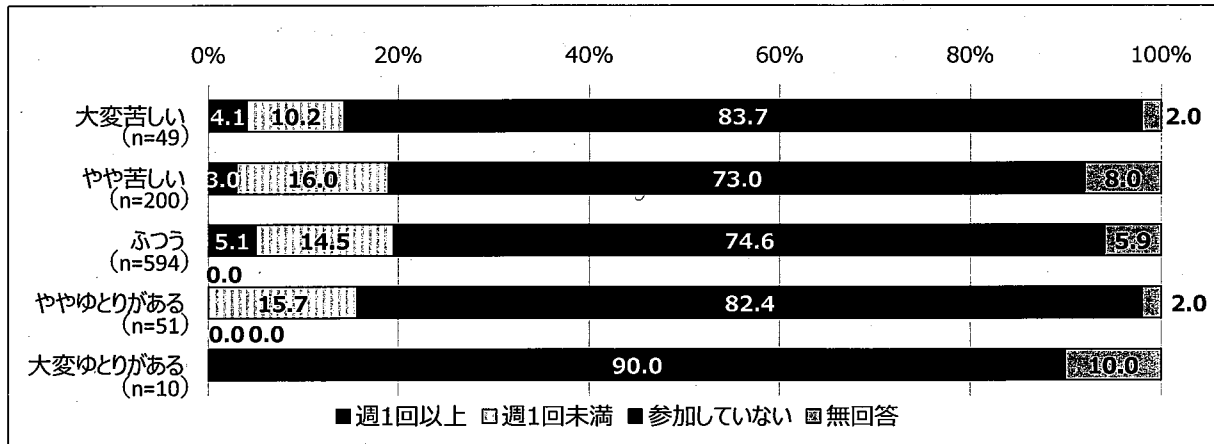
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別に明らかな傾向はみられませんでした。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうがボランティアのグループに参加している割合が高くなっています。

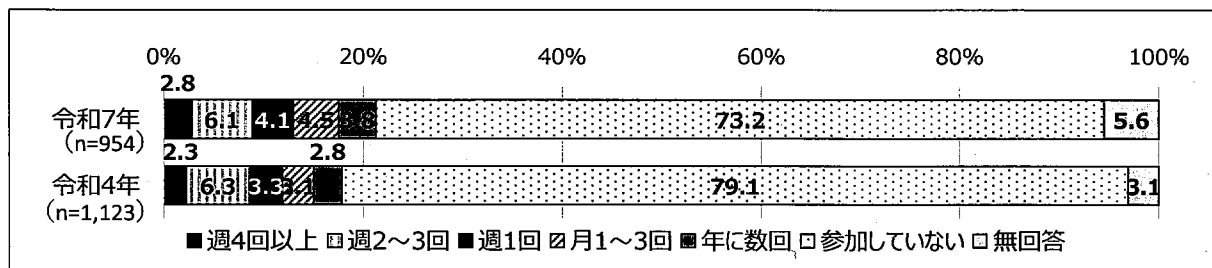
主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態がよいほど参加している割合が高い傾向がみられます。



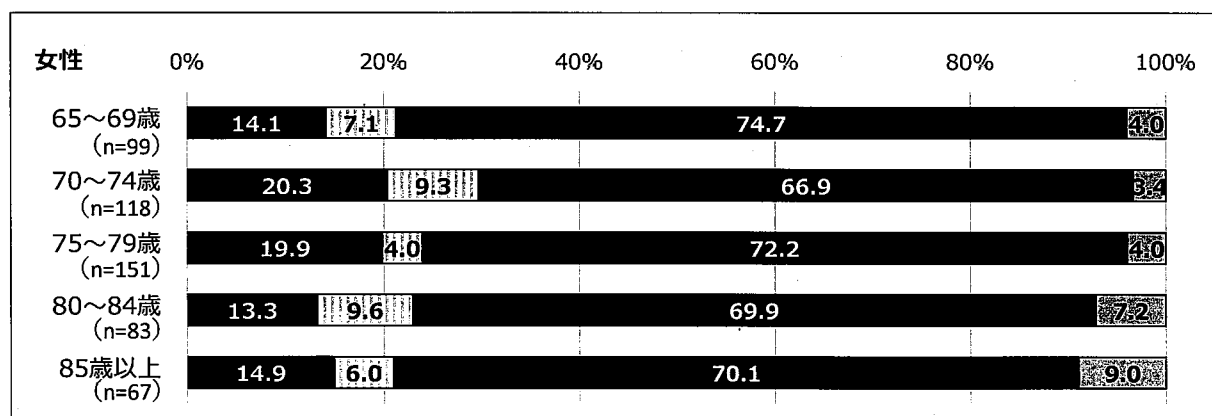
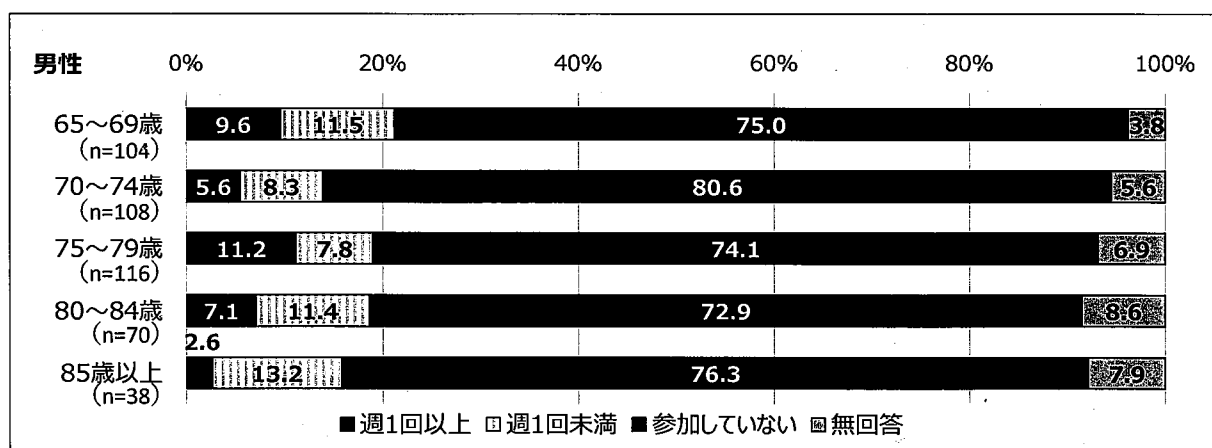
② スポーツ関係のグループやクラブ

週に1回以上参加している割合は13.0%、月に1回以上参加している割合は17.5%で、「参加していない」の割合が73.2%となっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが参加している割合、頻度ともにやや高くなっています。



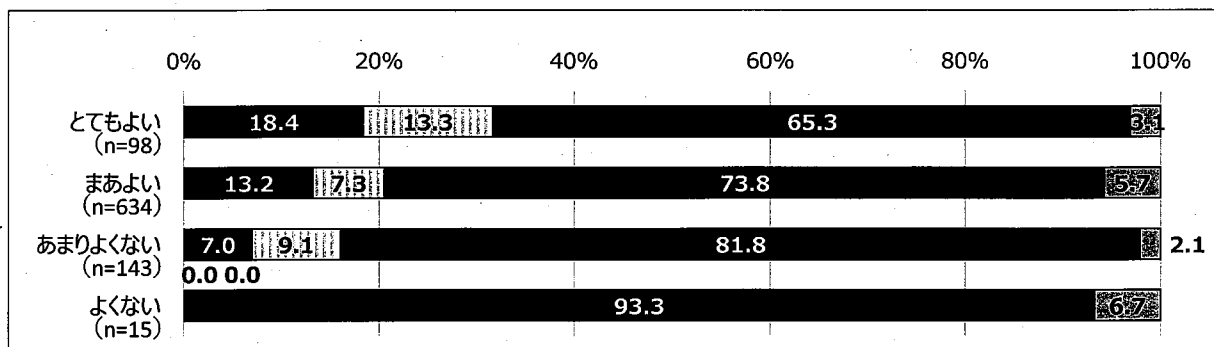
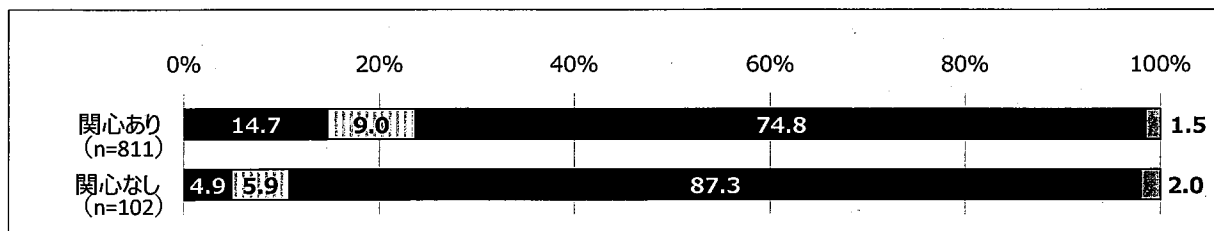
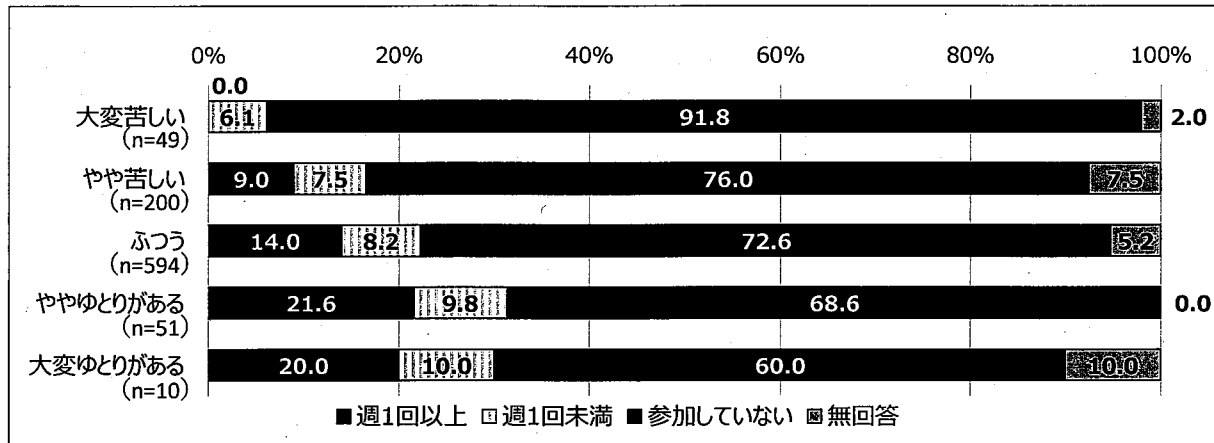
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうがスポーツ関係のグループやクラブに参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが参加している割合が高くなっています。

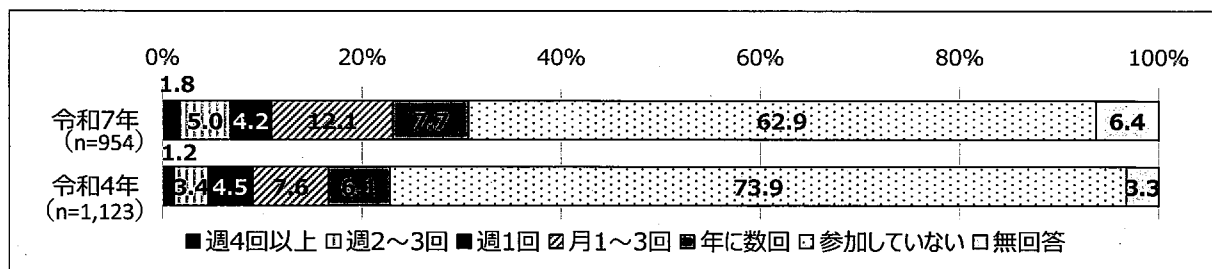
主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態がよいほど参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。



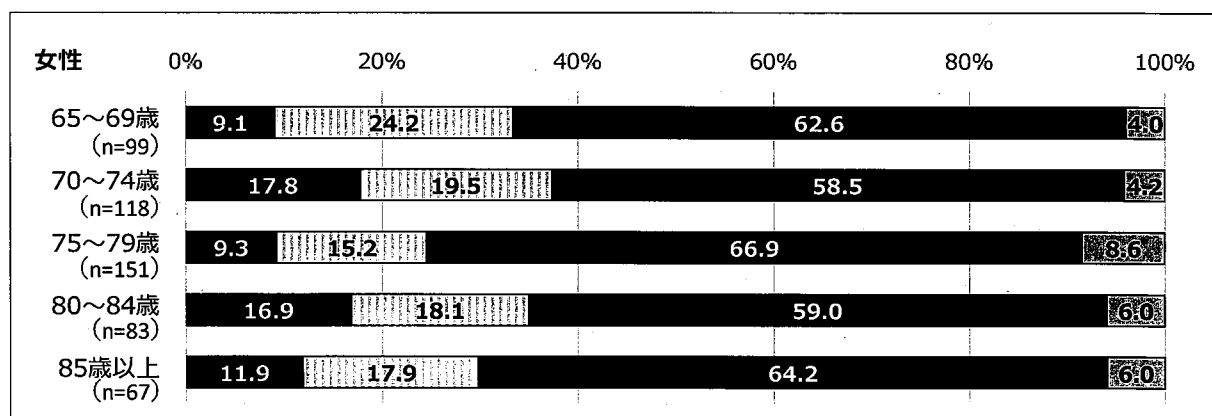
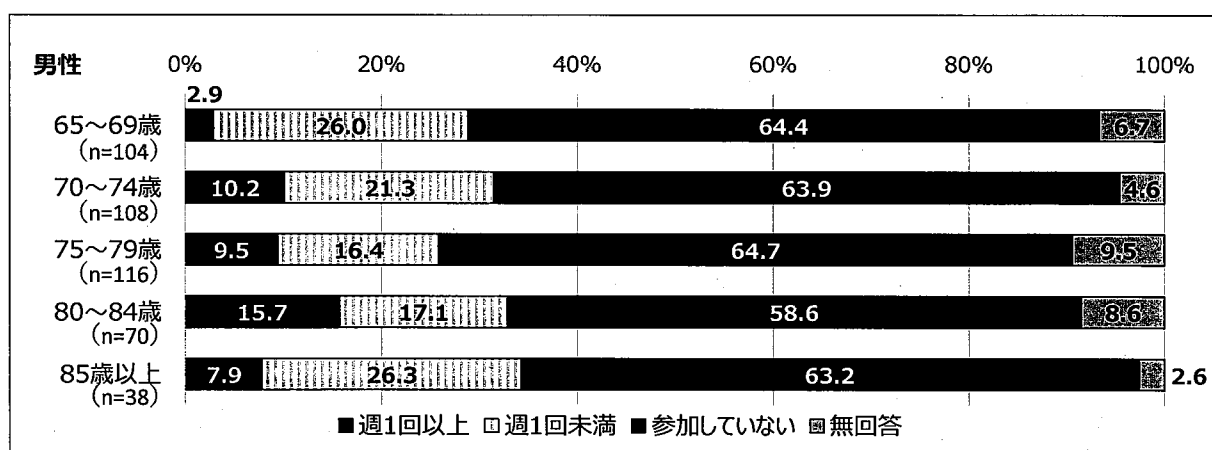
③ 趣味関係のグループ

週に1回以上参加している割合は11.0%、月に1回以上参加している割合は23.1%で、「参加していない」の割合が62.9%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。



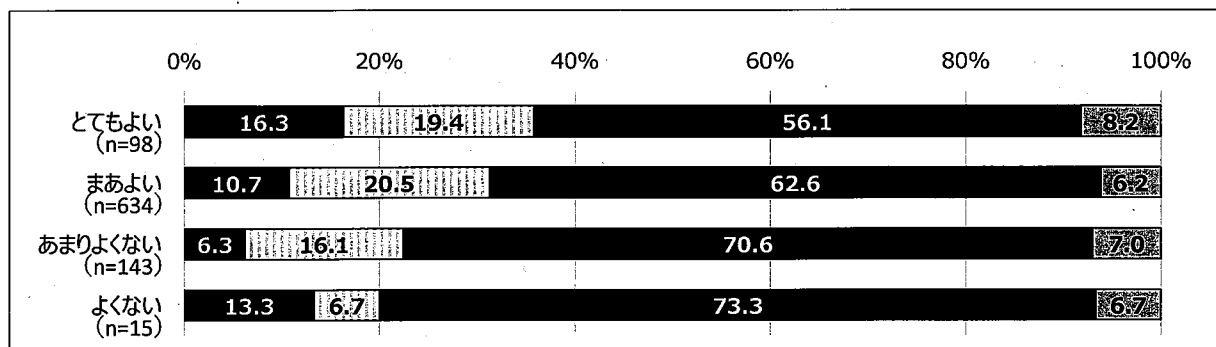
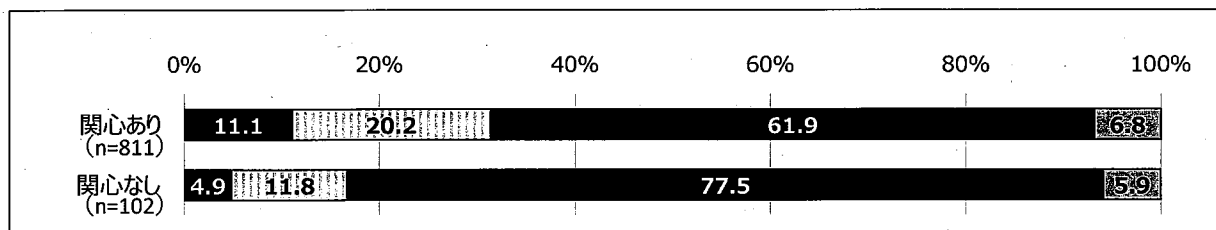
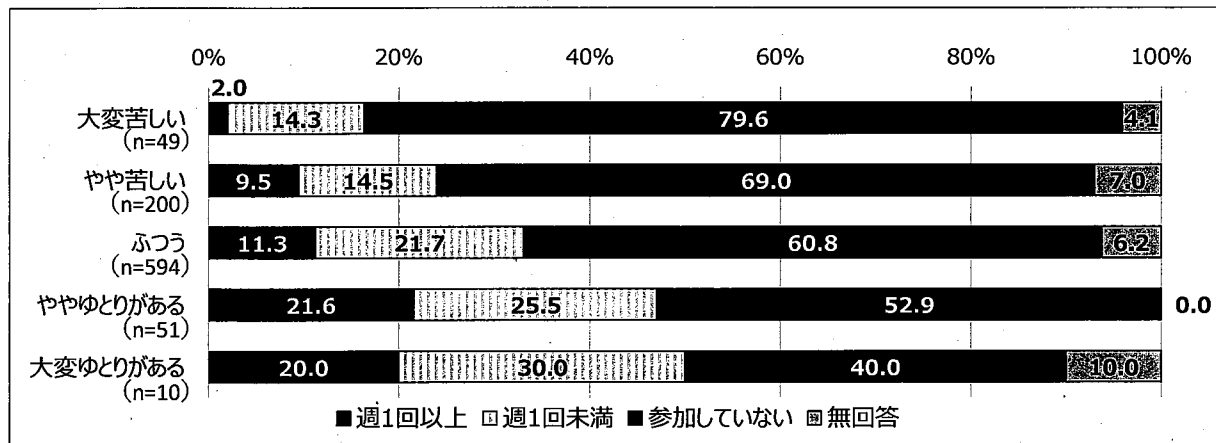
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが趣味関係のグループに参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが参加している割合が高くなっています。

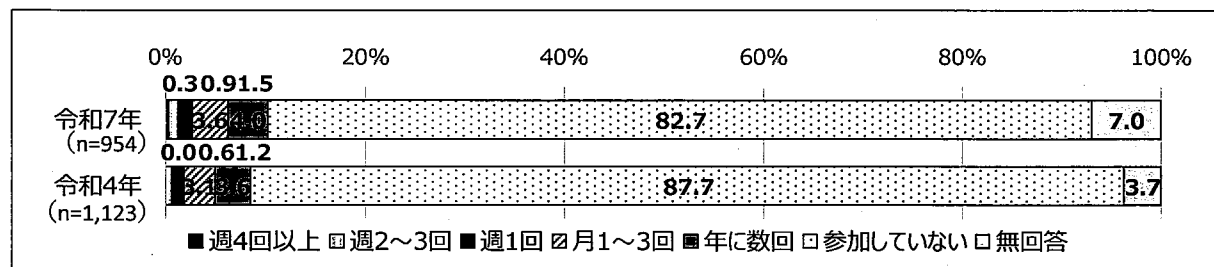
主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態がよいほど参加している割合が高い傾向がみられます。



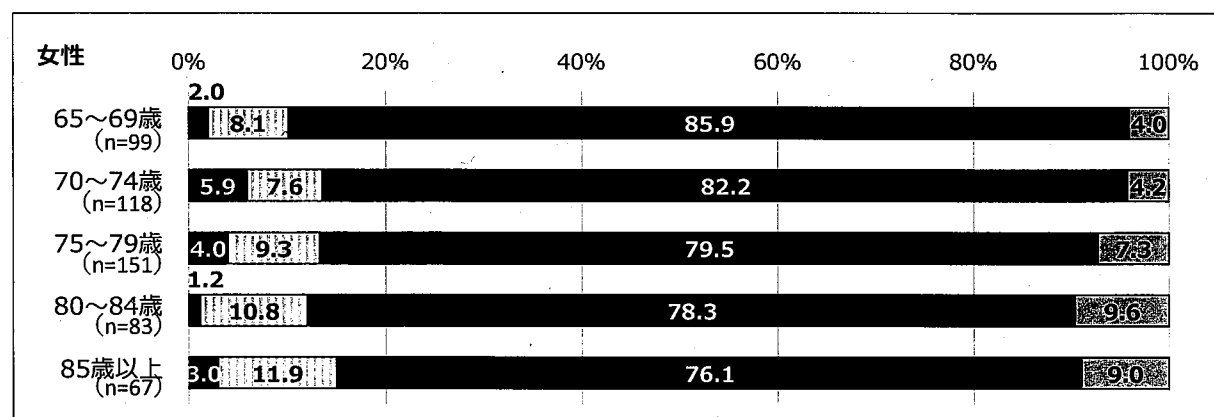
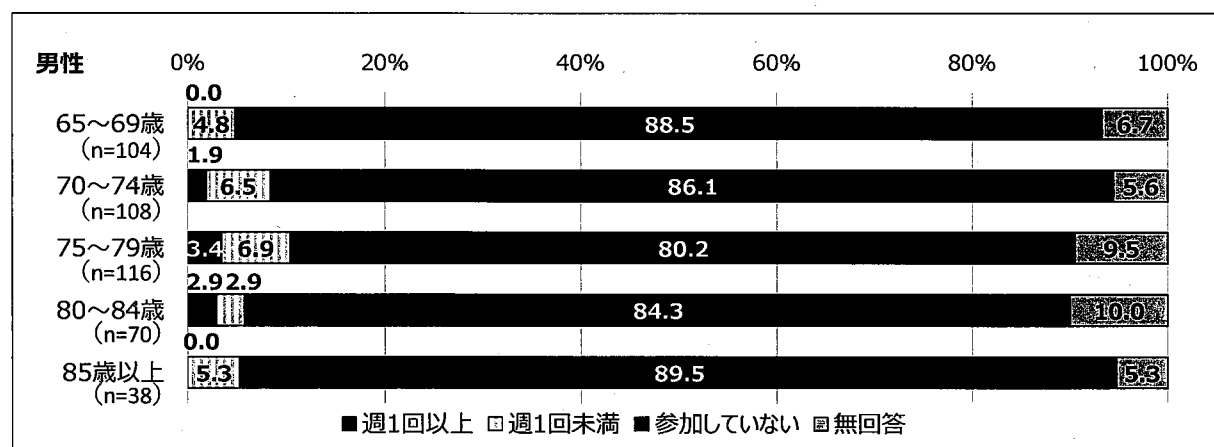
④ 学習・教養サークル

週に1回以上参加している割合は2.7%、月に1回以上参加している割合は6.3%で、「参加していない」の割合が82.7%となっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが参加している割合、頻度ともにやや高くなっています。



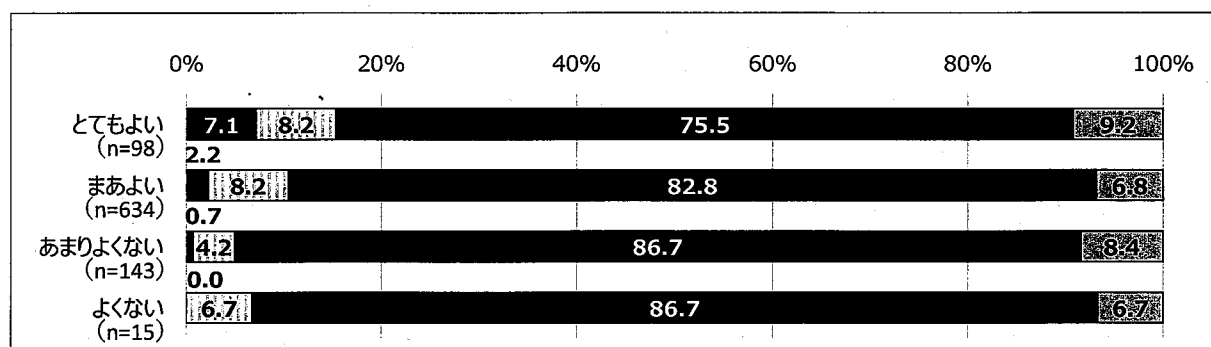
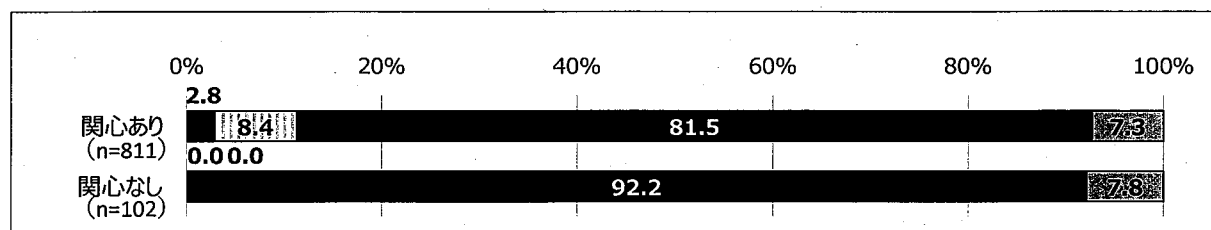
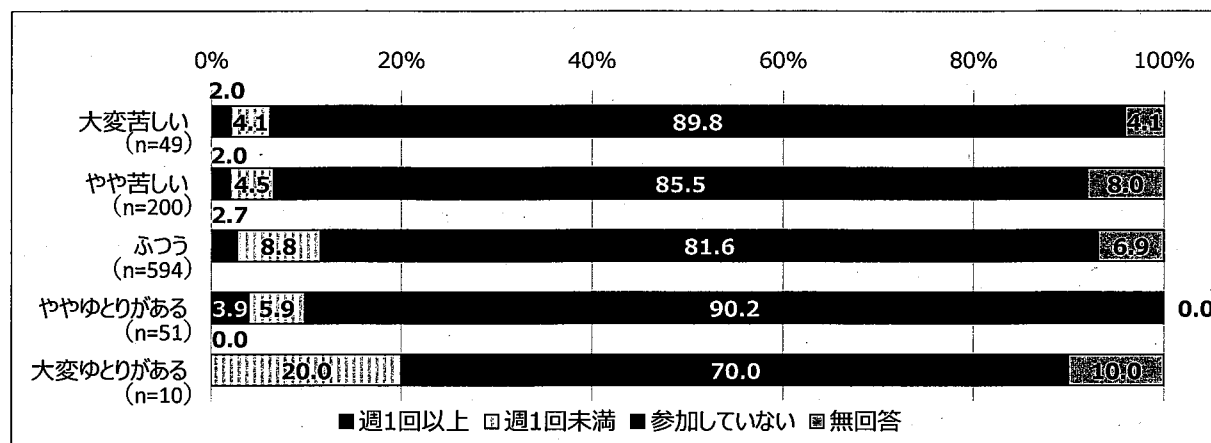
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが趣味関係のグループに参加している割合が高い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心がない群では、参加している割合は 0.0%となっています。

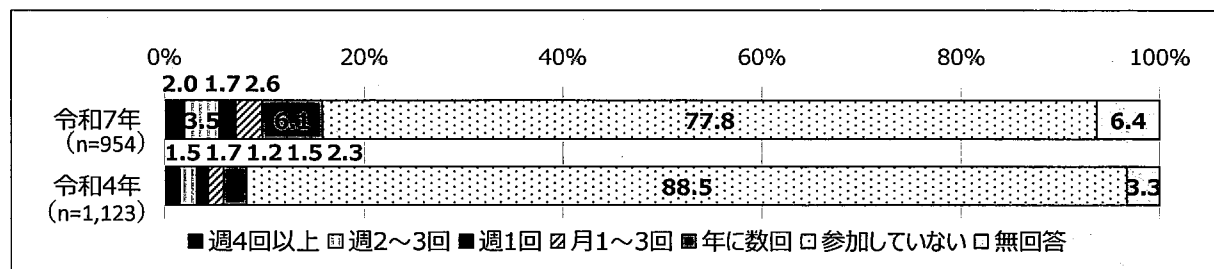
主観的健康状態 (p.72) 別にみると、健康状態がよいほど参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。



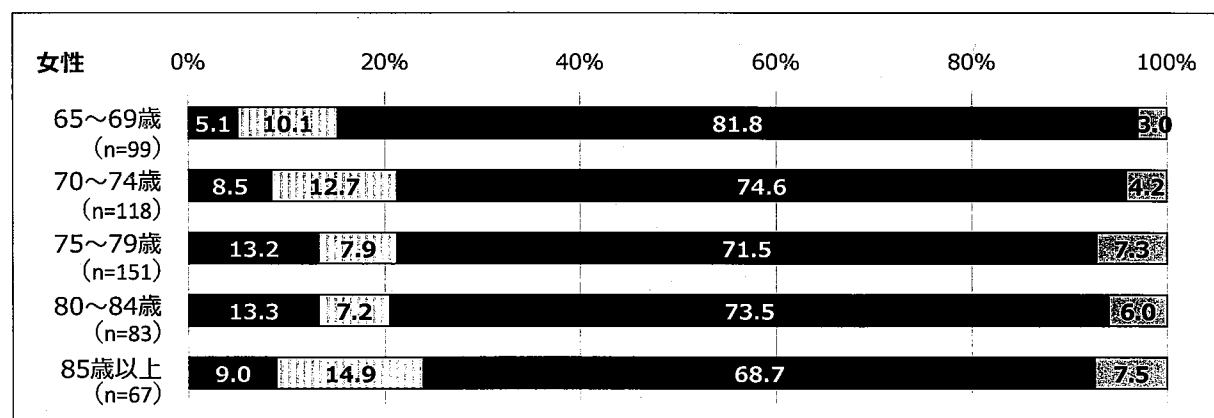
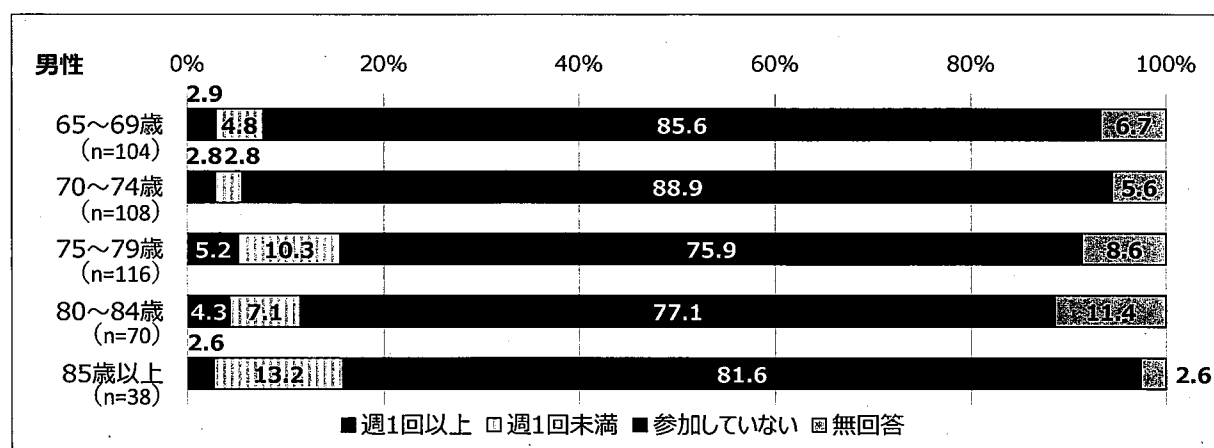
⑤ 運動教室、けんこつ体操、かも健康ポイント事業など

週に1回以上参加している割合は7.2%、月に1回以上参加している割合は9.8%で、「参加していない」の割合が77.8%となっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが参加している割合、頻度ともに高くなっています。



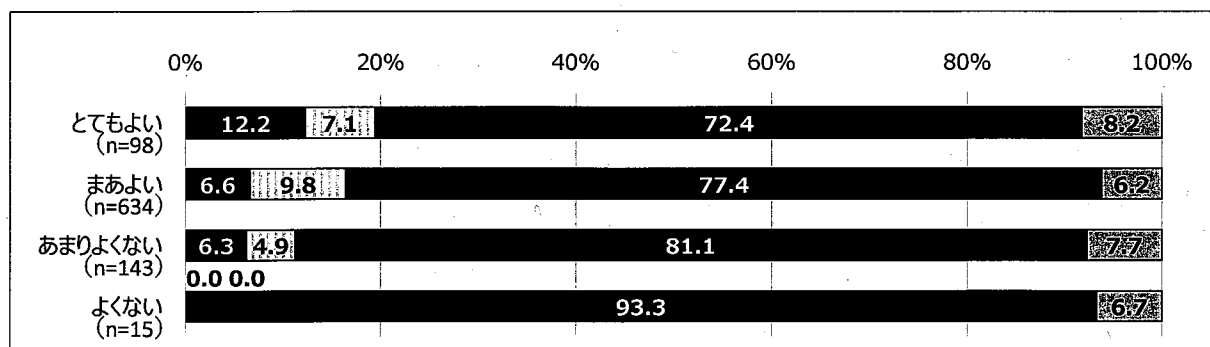
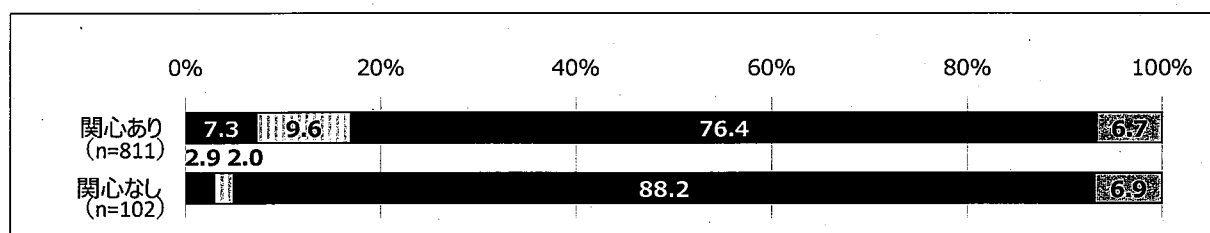
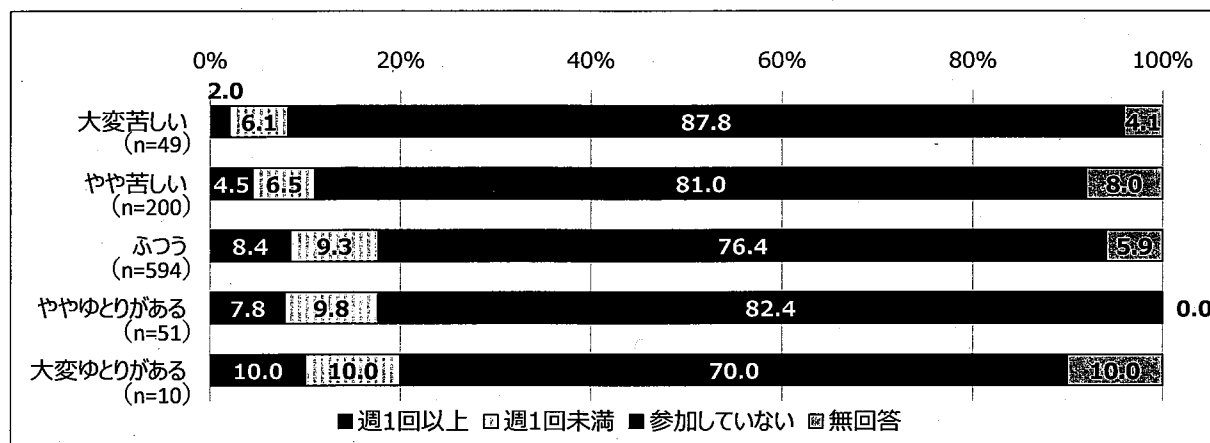
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが運動教室、けんこつ体操、かも健康ポイント事業などに参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが参加している割合が高くなっています。

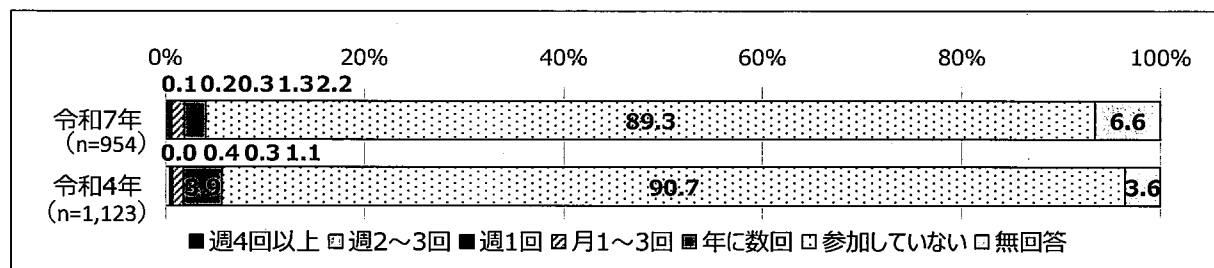
主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態がよいほど参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。



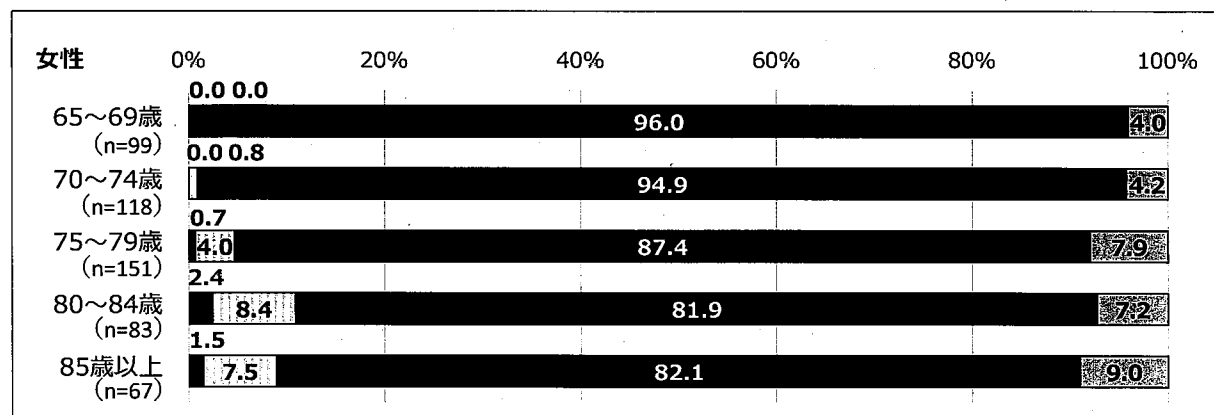
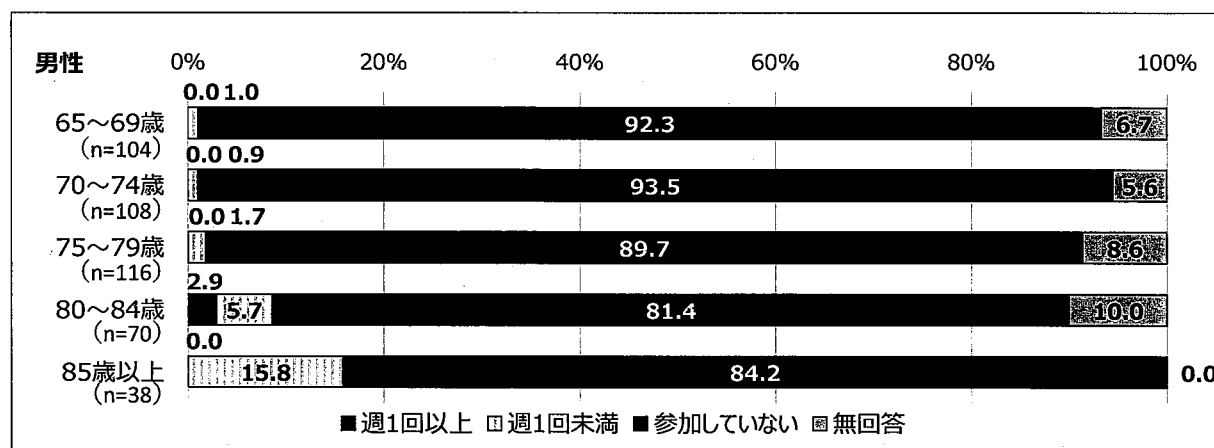
⑥ 老人クラブ

週に1回以上参加している割合は0.6%、月に1回以上参加している割合は1.9%で、「参加していない」の割合が89.3%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに75歳未満は参加している割合が1.0%以下となっています。



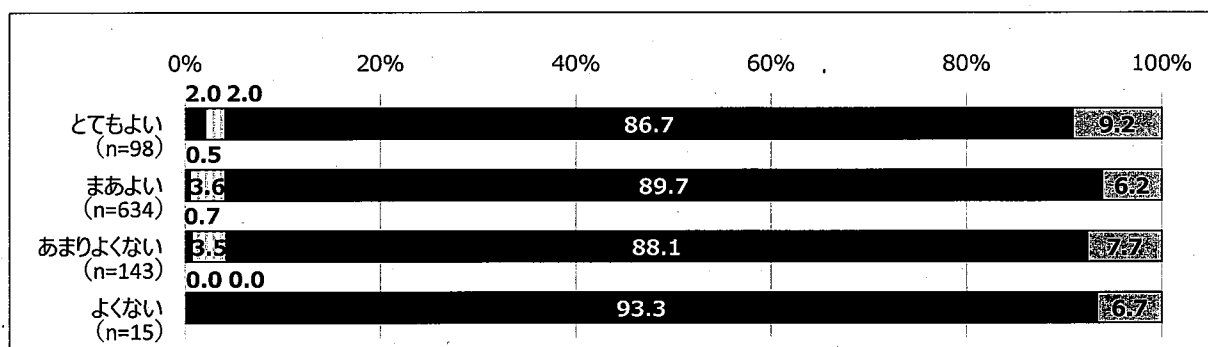
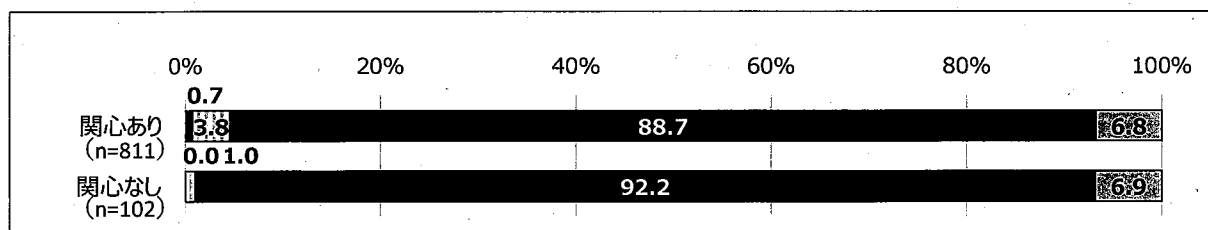
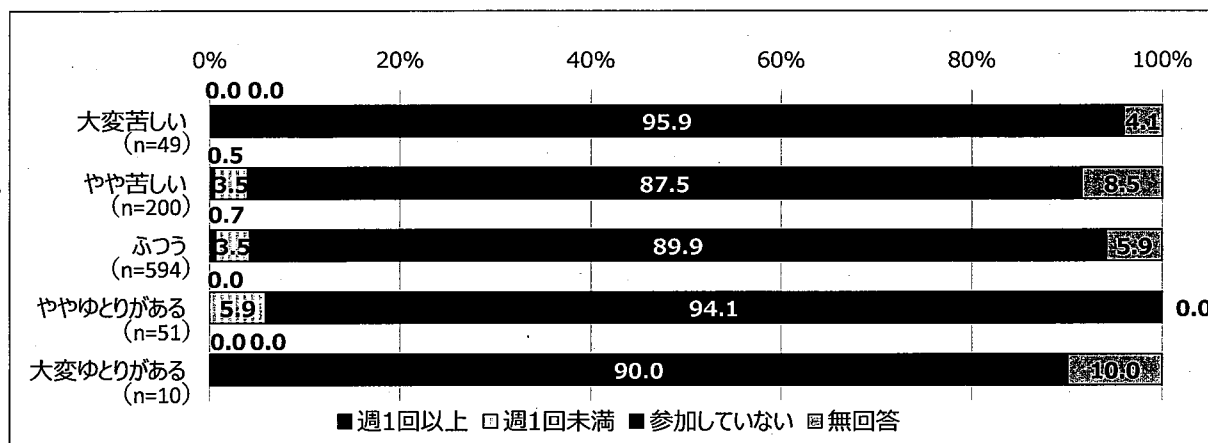
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別に明らかな傾向はみられませんでした。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが老人クラブに参加している割合が高くなっています。

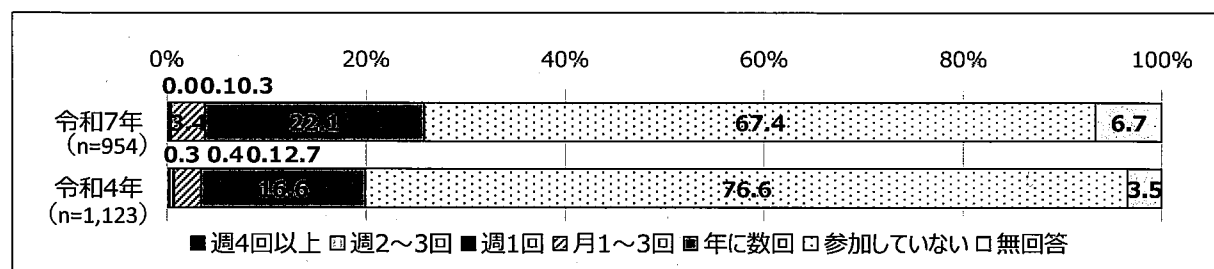
主観的健康状態 (p.72) 別に明らかな傾向はみられませんでした。



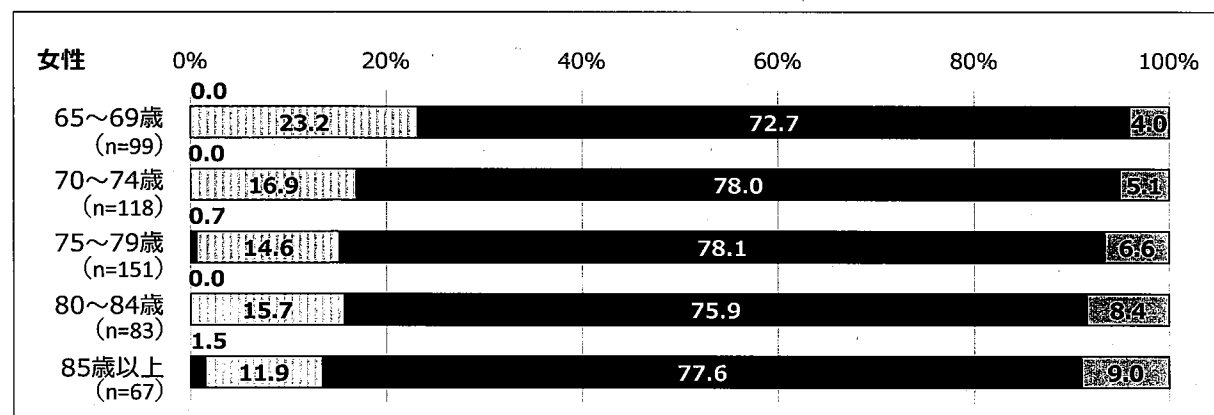
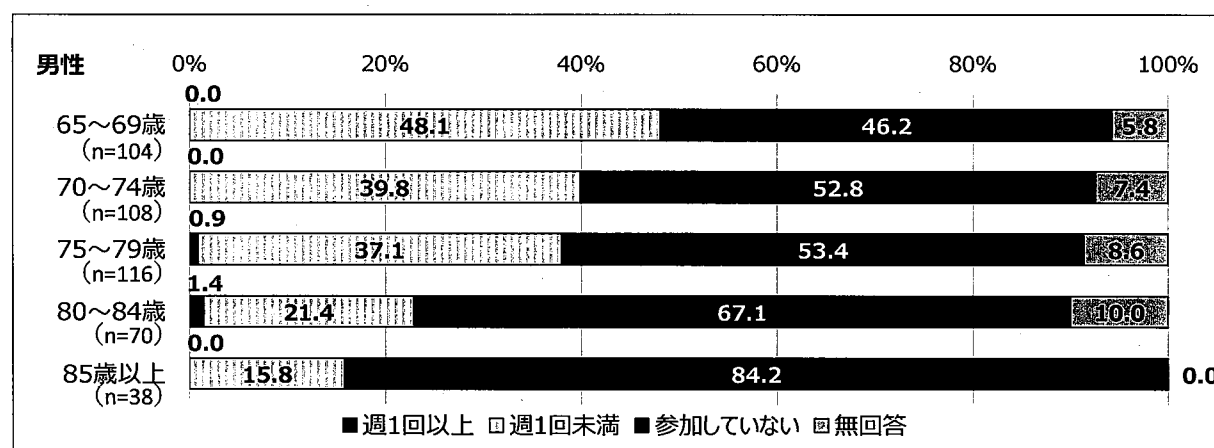
⑦ 町内会・自治会

週に1回以上参加している割合は0.4%、月に1回以上参加している割合は3.8%で、参加している人のほとんどが年に数回の参加となっています。

性別・年齢別にみると、男性のほうが参加している割合が高くなっています。また、男性・女性ともに年齢が上がるほど参加している割合が低くなる傾向がみられます。



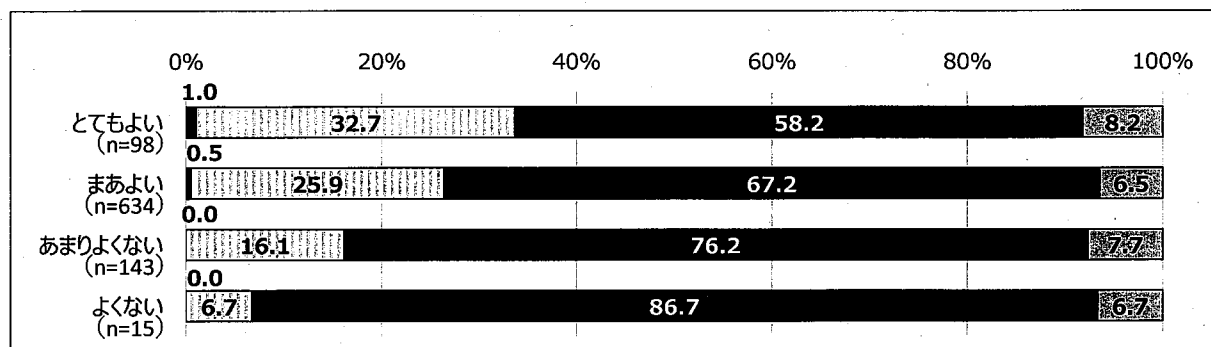
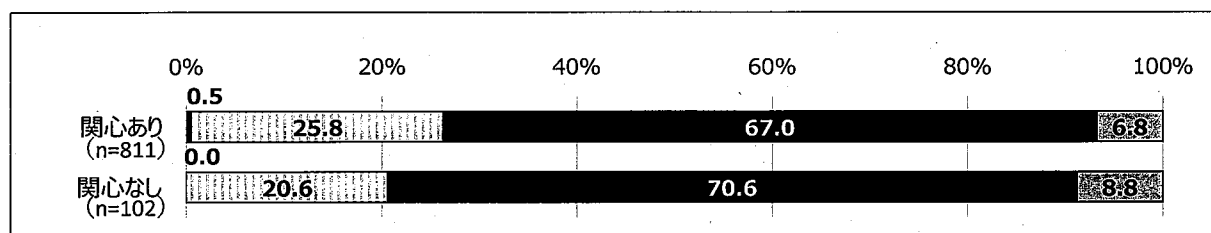
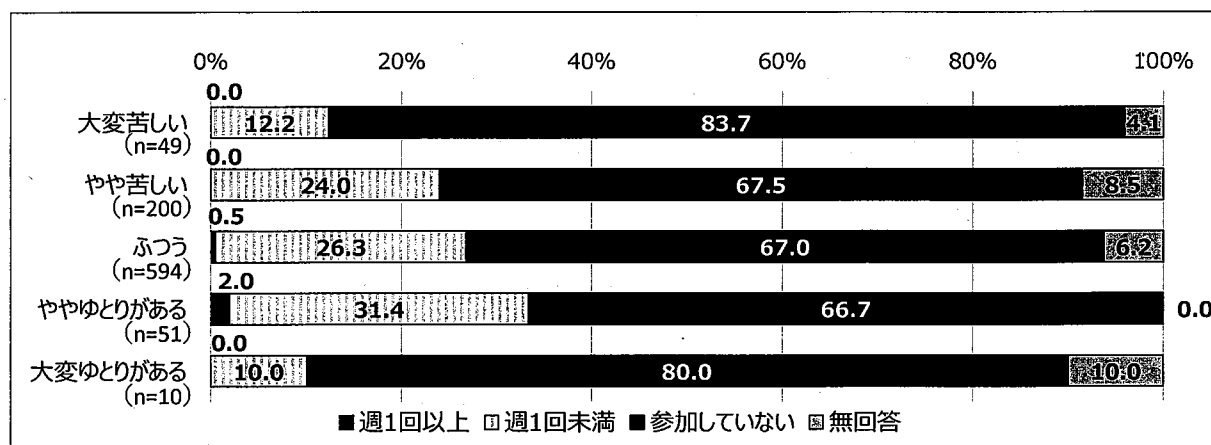
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別にみると、該当者数（n 値）が少ない“大変ゆとりがある”群を除くと、経済的にゆとりがあるほうが町内会・自治会に参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが参加している割合がやや高くなっています。

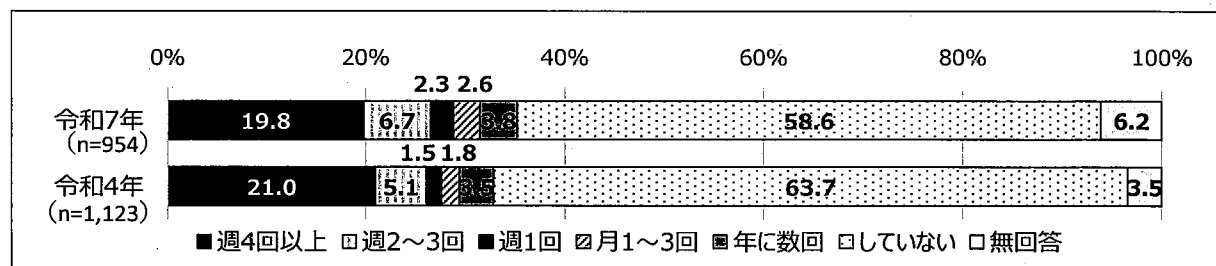
主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態がよいほど参加している割合、頻度ともに高い傾向がみられます。



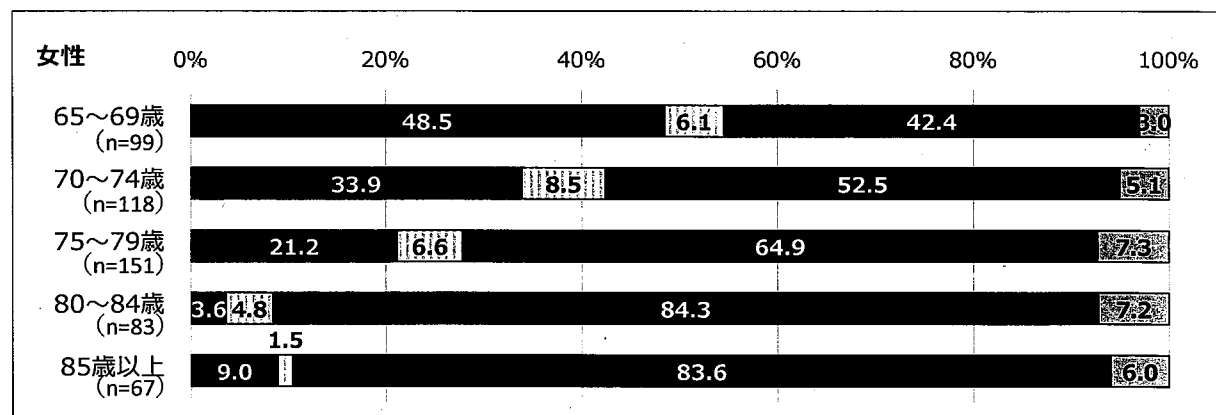
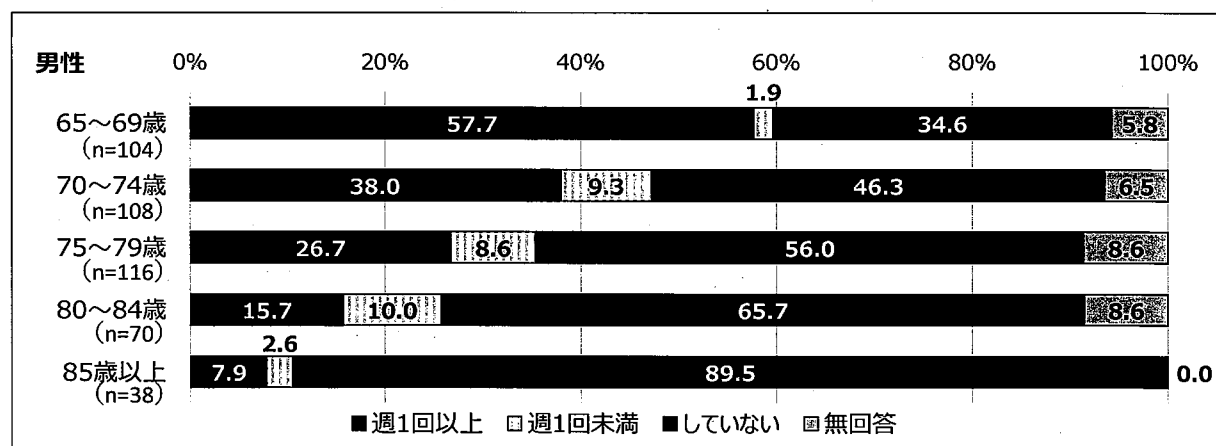
⑧ 収入のある仕事

週に1回以上仕事をしている割合は28.8%、月に1回以上している割合は31.4%で、「していない」の割合は58.6%となっています。

性別・年齢別にみると、男性のほうが仕事をしている割合が高くなっています。また、男性・女性ともに年齢が上がるほど仕事をしている割合が低くなる傾向がみられます。



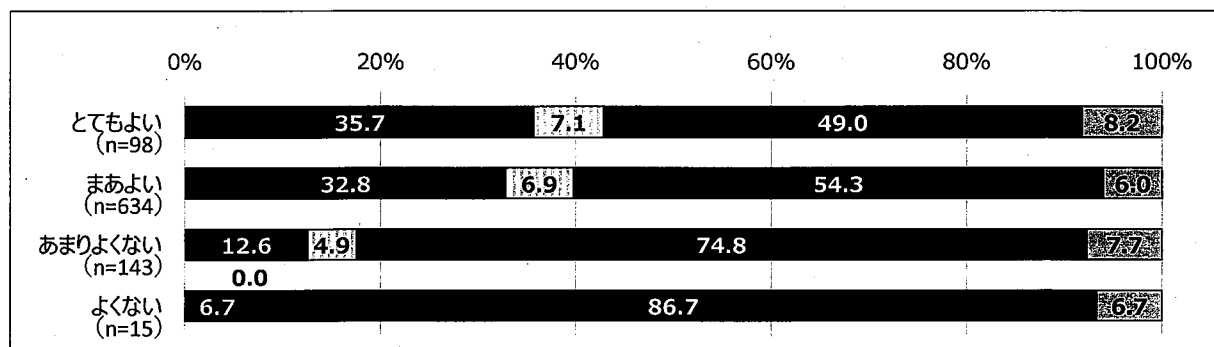
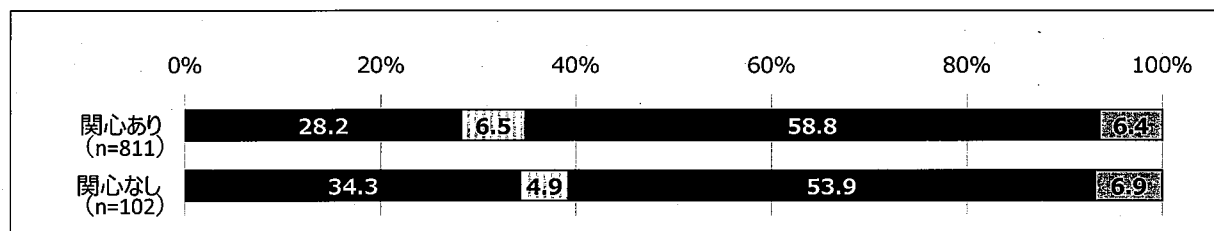
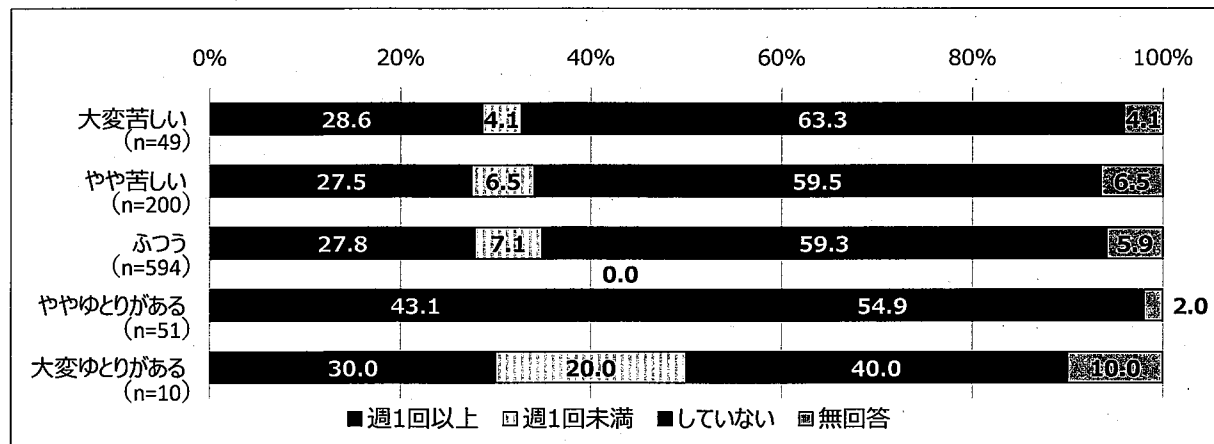
※ 以下のクロス集計では「週1回以上」「週1回未満」「参加していない」の3区分で集計しています。



主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが仕事をしている割合がやや高い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心がないほうが仕事をしている割合がやや高くなっています。

主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態がよいほど仕事をしている割合、頻度ともに高い傾向がみられます。



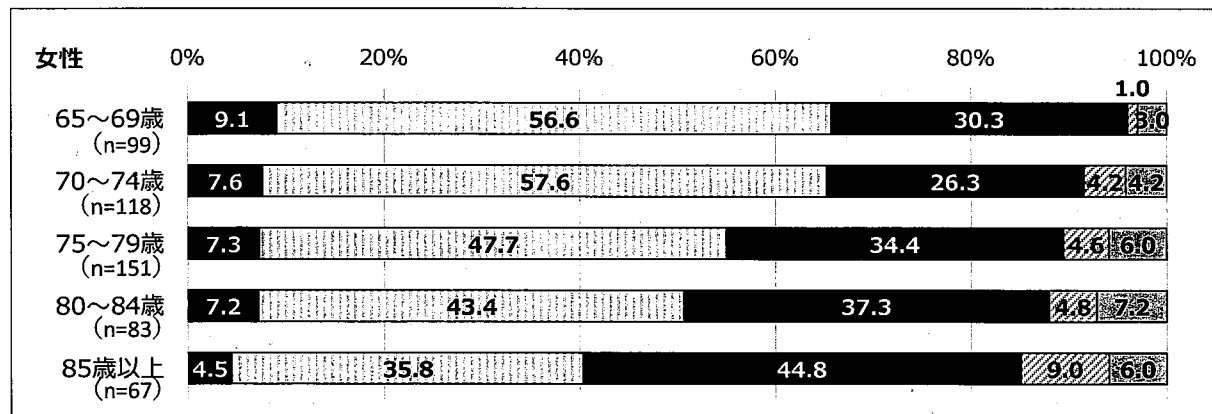
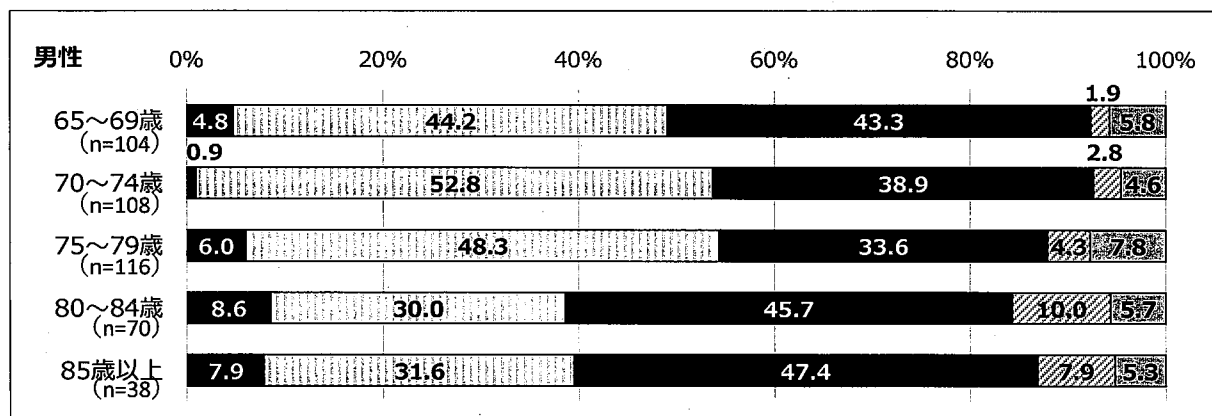
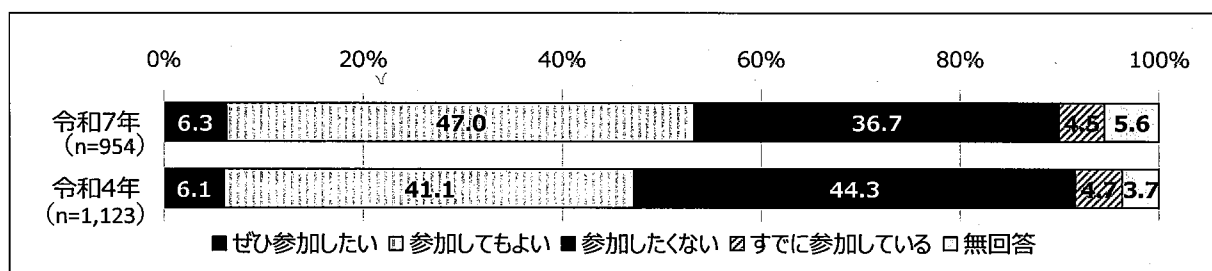
■ 地域づくり活動への参加意向

問 5 (2) (3) は、地域づくりへの参加意向を問う設問です。地域づくりに対して「参加者として」「企画・運営（お世話役として）」の両方の立場における参加の意向を把握することが可能になります。

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味などのグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせると 53.3%で、「参加したくない」は 36.7%となっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが参加意向が高くなっていますが、「すでに参加している」の割合に男女差はみられませんでした。また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「参加したくない」の割合が高くなる傾向にありますが、「すでに参加している」の割合は年齢が上がるほど高くなっています。

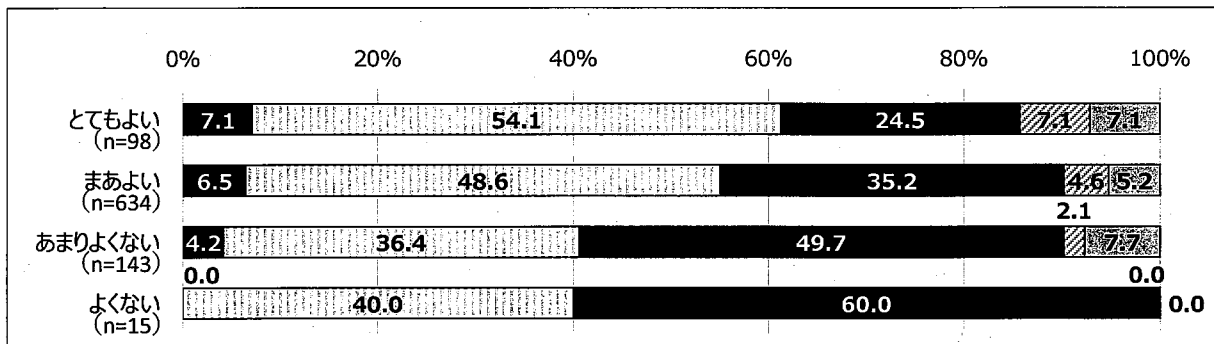
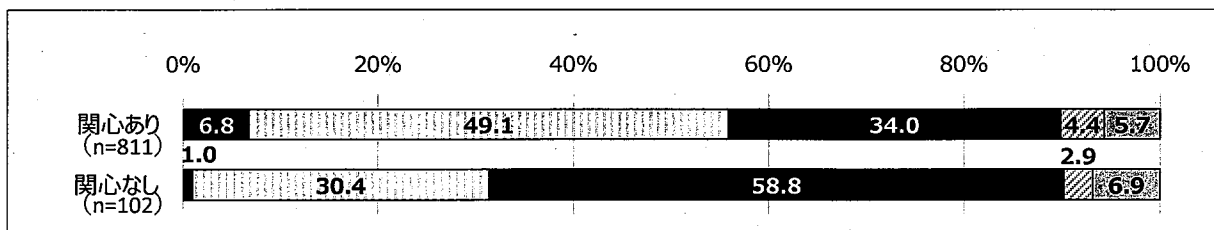
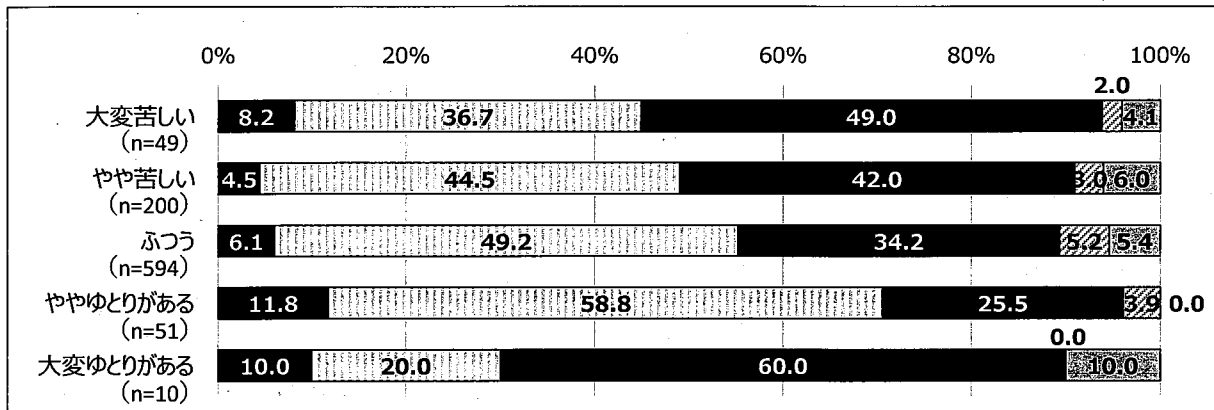
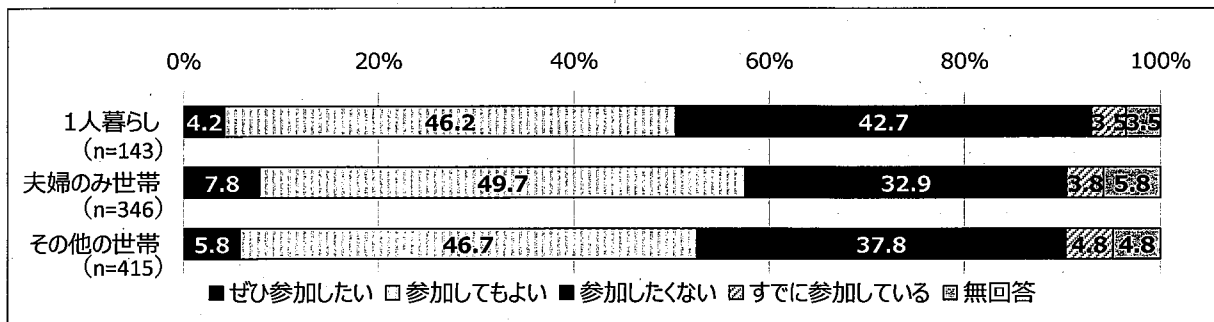


家族構成別にみると、夫婦のみ世帯で参加意向がやや高くなっていますが、「すでに参加している」の割合はその他世帯で最も高くなっています。

主観的経済状況別にみると、該当者数（n 値）が少ない“大変ゆとりがある”群を除くと、経済的にゆとりがあるほうが参加意向が高い傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが参加意向が高くなっています。

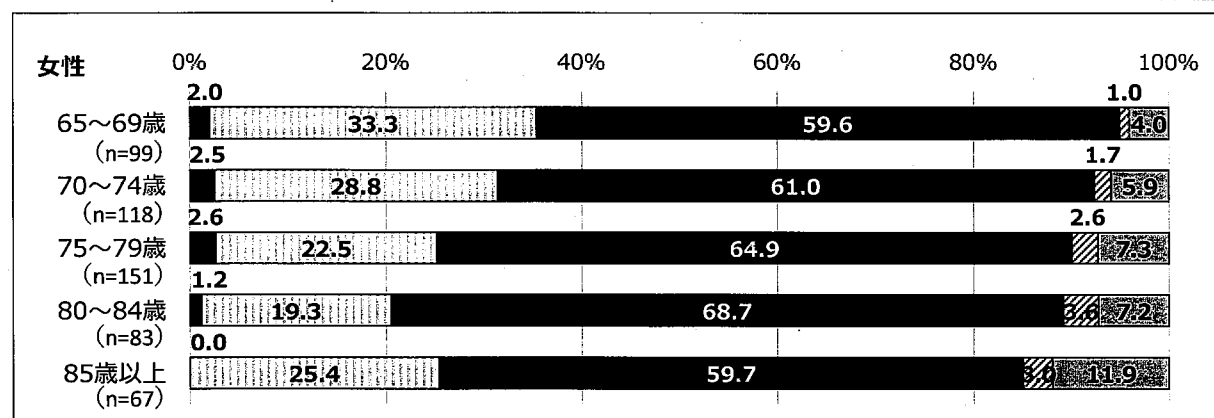
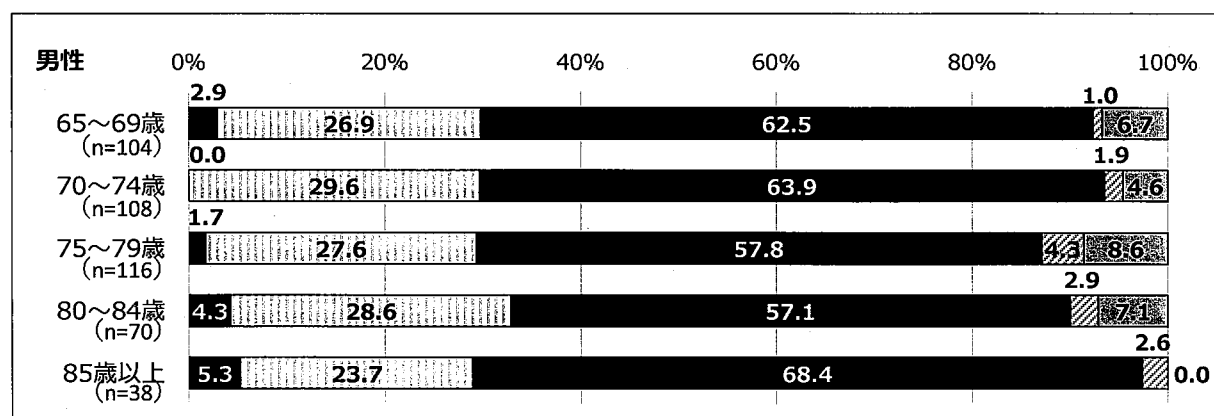
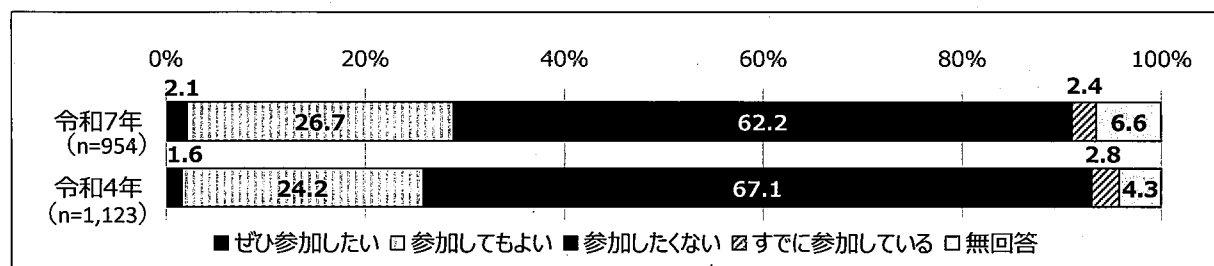
主観的健康状態（p.72）別にみると、健康状態がよいほど参加意向、「すでに参加している」の割合ともに高い傾向がみられます。



(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」を合わせると 28.8%で、「参加したくない」は 62.2%となっています。

性別・年齢別にみると、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんが、女性は年齢が上がるほど「参加したくない」の割合が高くなる傾向にあります、「すでに参加している」の割合は年齢が上がるほど高くなっています。

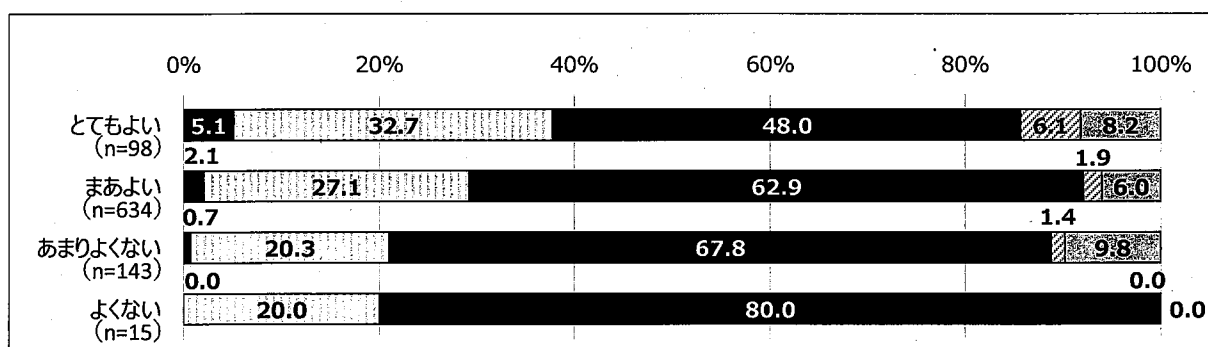
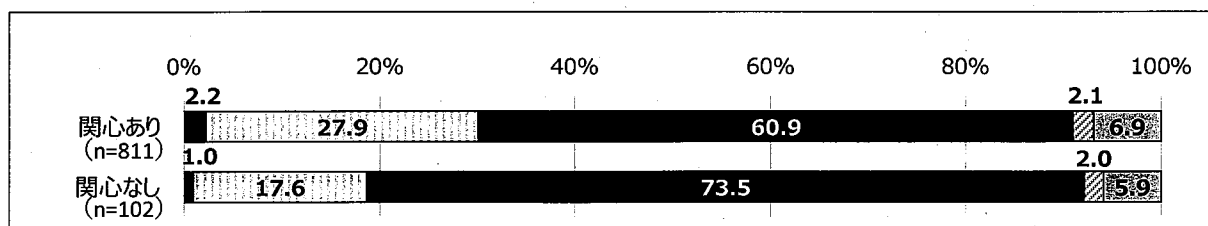
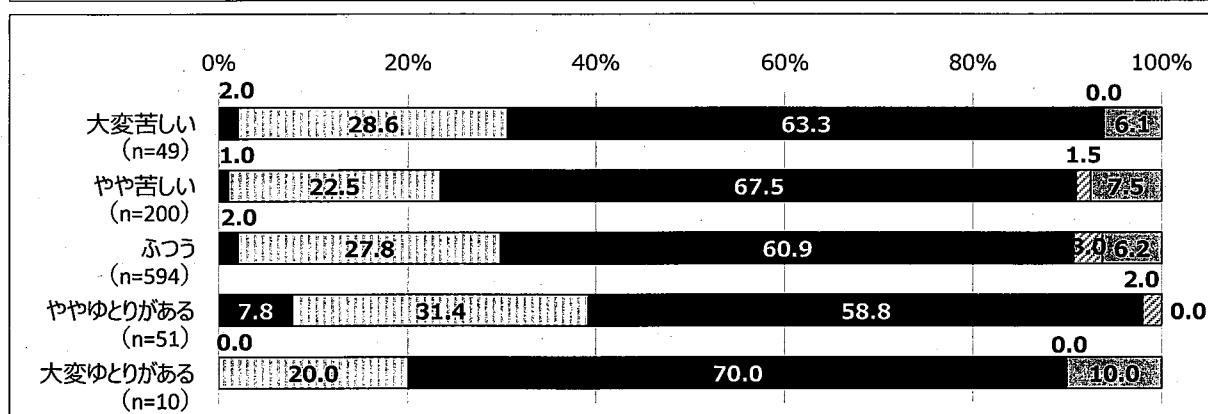
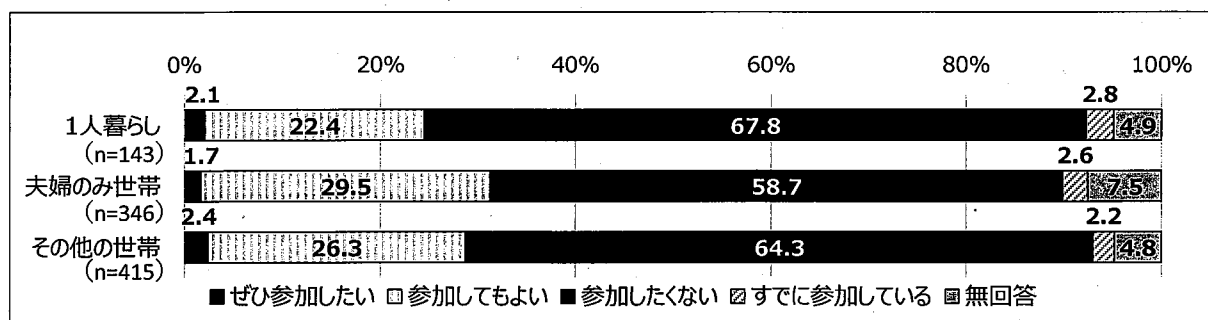


家族構成別にみると、夫婦のみ世帯で参加意向がやや高くなっています。

主観的経済状況別にみると、「ややゆとりがある」群で参加意向が高くなっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが参加意向が高くなっていますが、「すでに参加している」の割合に差はみられませんでした。

主観的健康状態 (p.72) 別にみると、健康状態がよいほど参加意向、「すでに参加している」の割合ともに高い傾向がみられます。



問 6 助けあいについて

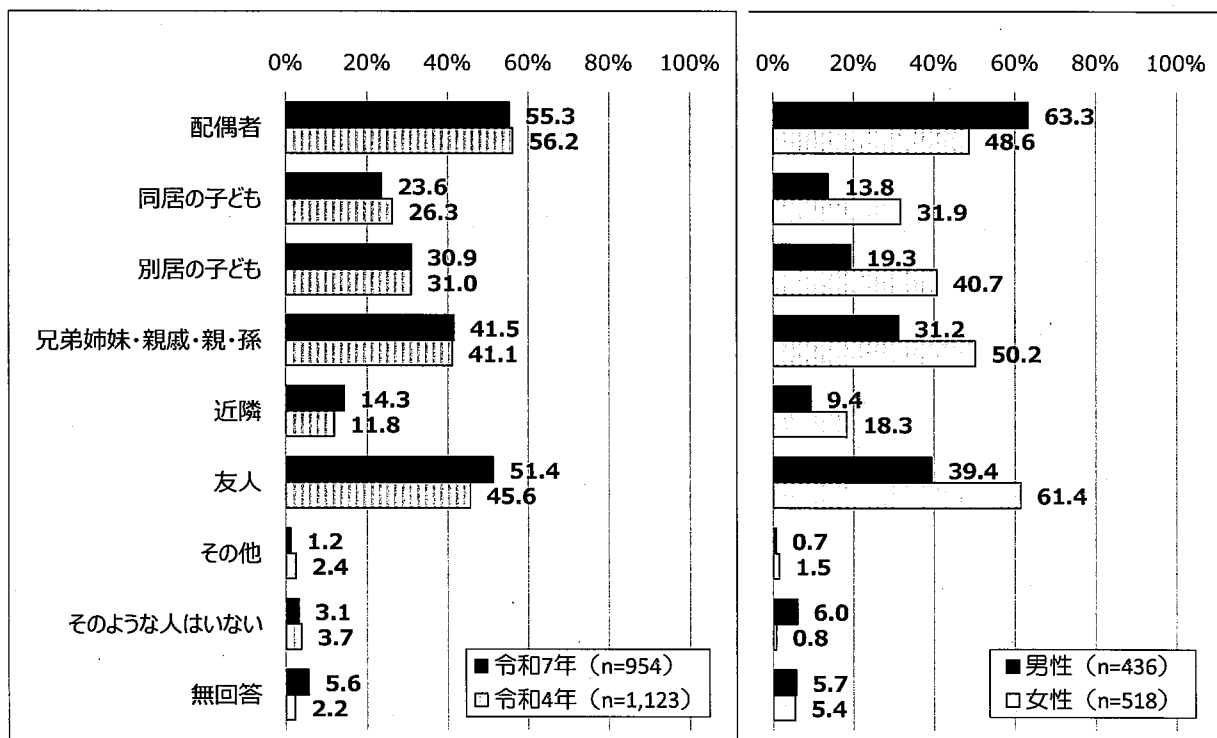
■ 周囲との助けあいの状況

問 6 (1) ～ (4) は、助けあいの状況を把握する設問です。うつ傾向の発生状況を、間接的に把握することが可能になります。

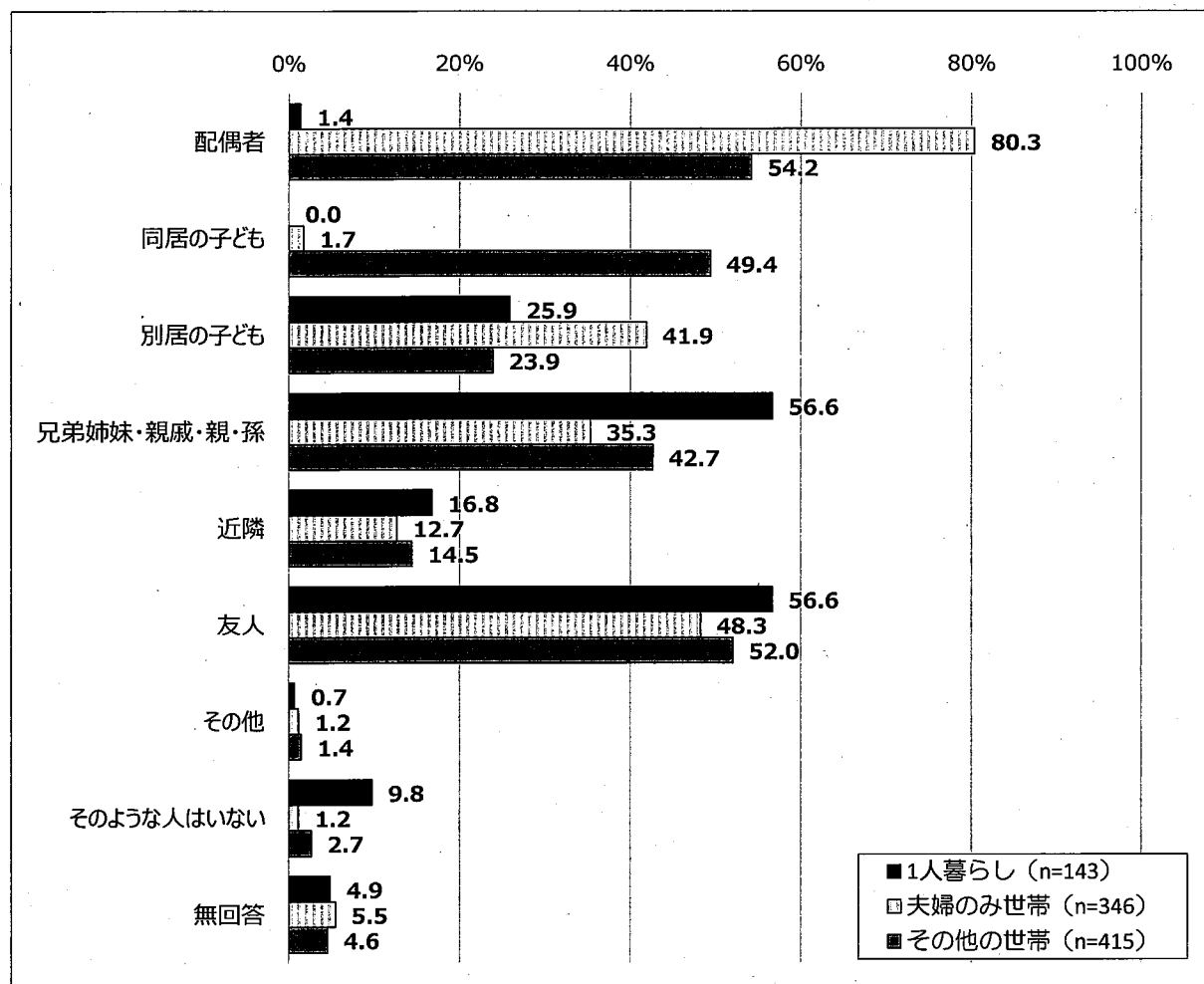
(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人 (○はいくつでも)

「配偶者」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「友人」が 51.4%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 41.5%などとなっています。

性別にみると、男性は「配偶者」の割合が最も高く 63.3%となっていますが、女性は「友人」の割合が 61.4%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 50.2%で、「配偶者」は 48.6%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は男性のほうが割合が高く 6.0%となっています。



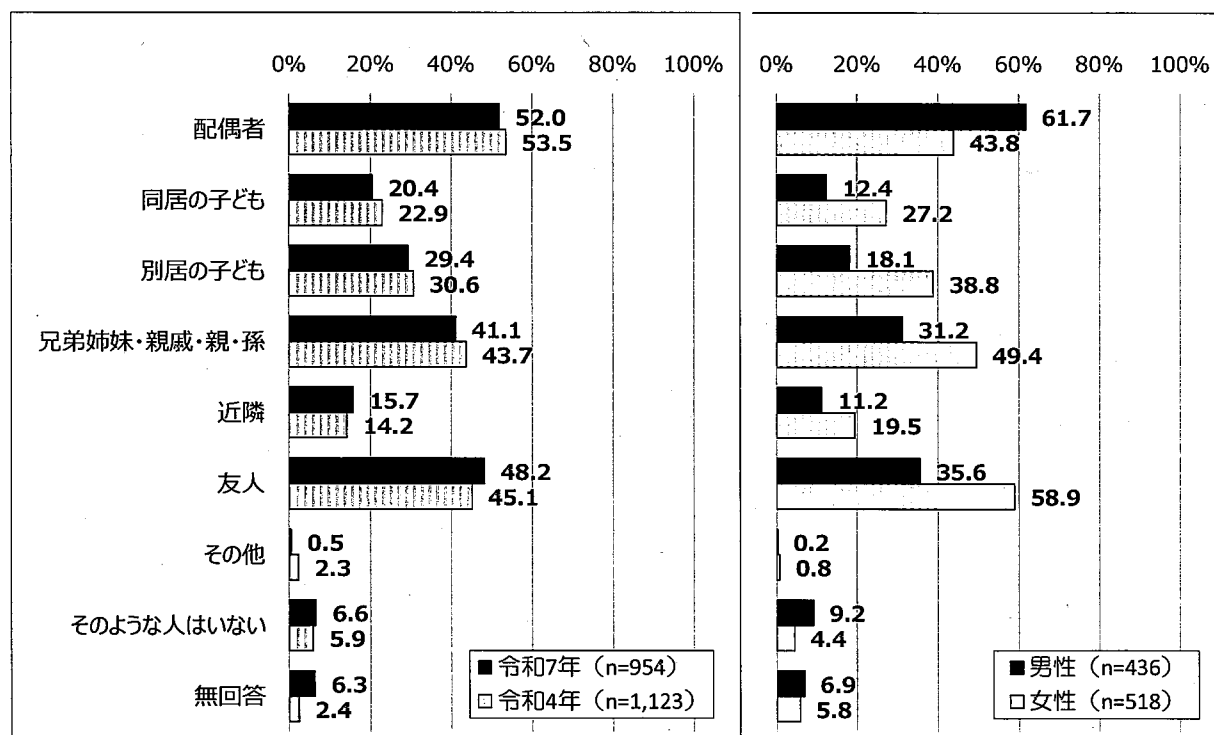
家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は「配偶者」の割合が高く 80.3%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は一人暮らし世帯で高く 9.8%となっています。



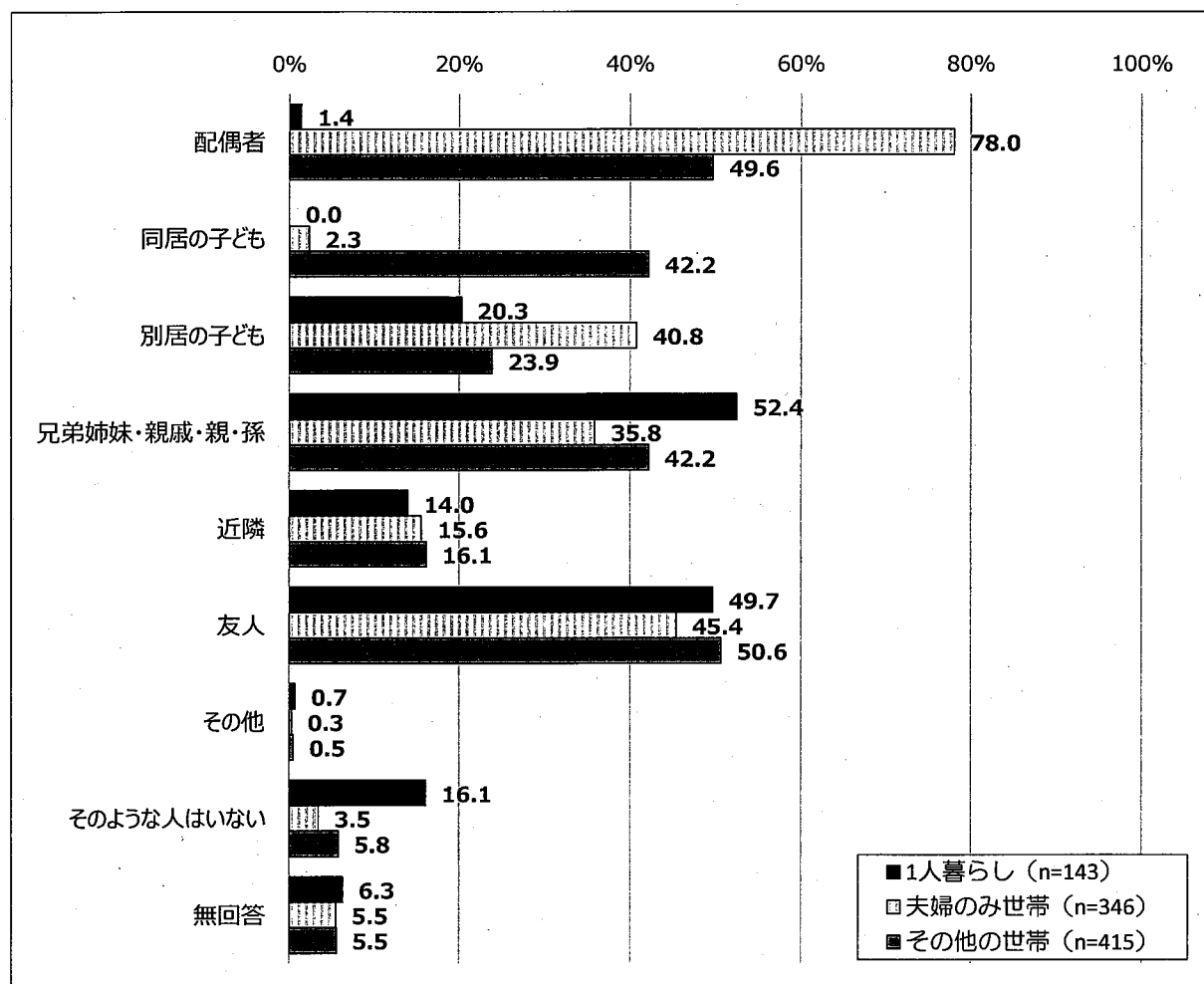
(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人 (○はいくつでも)

「配偶者」の割合が52.0%と最も高く、次いで「友人」が48.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が41.1%などとなっています。

性別にみると、男性は「配偶者」の割合が最も高く61.7%となっていますが、女性は「友人」の割合が58.9%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が49.4%で、「配偶者」は43.8%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は男性のほうが割合が高く9.2%となっています。



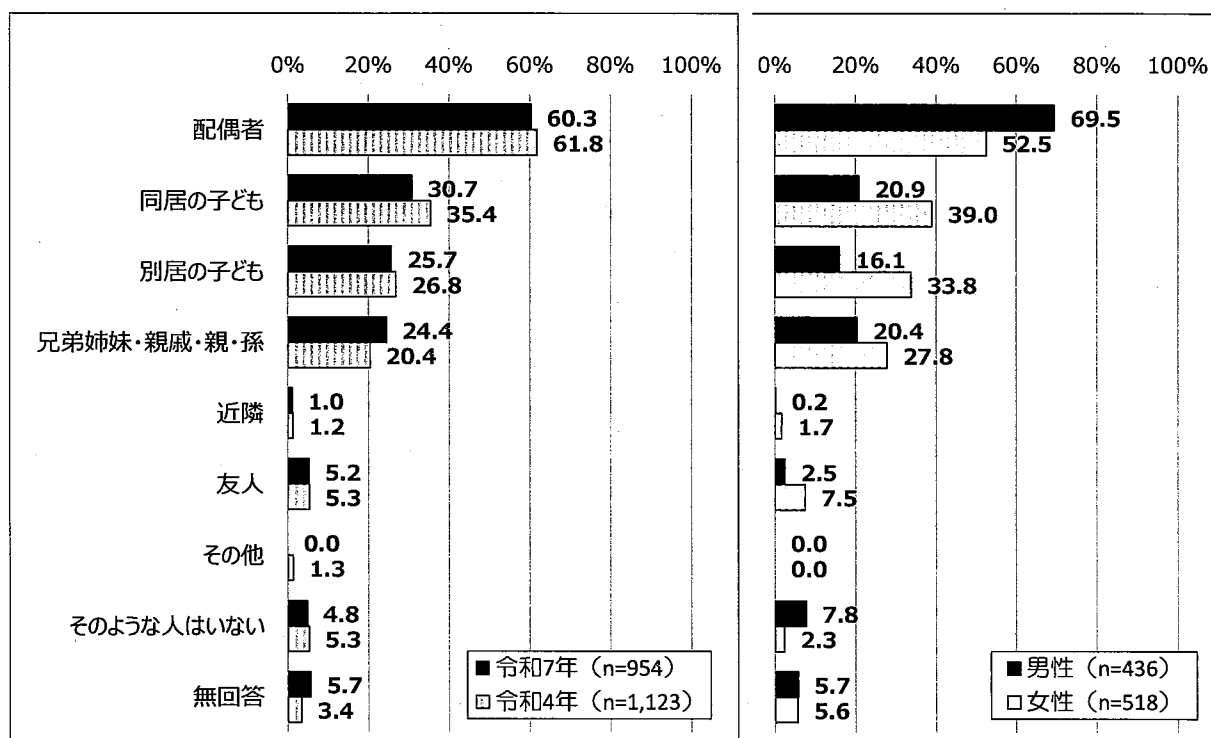
家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は「配偶者」の割合が高く 78.0%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は一人暮らし世帯で高く 16.1%となっています。



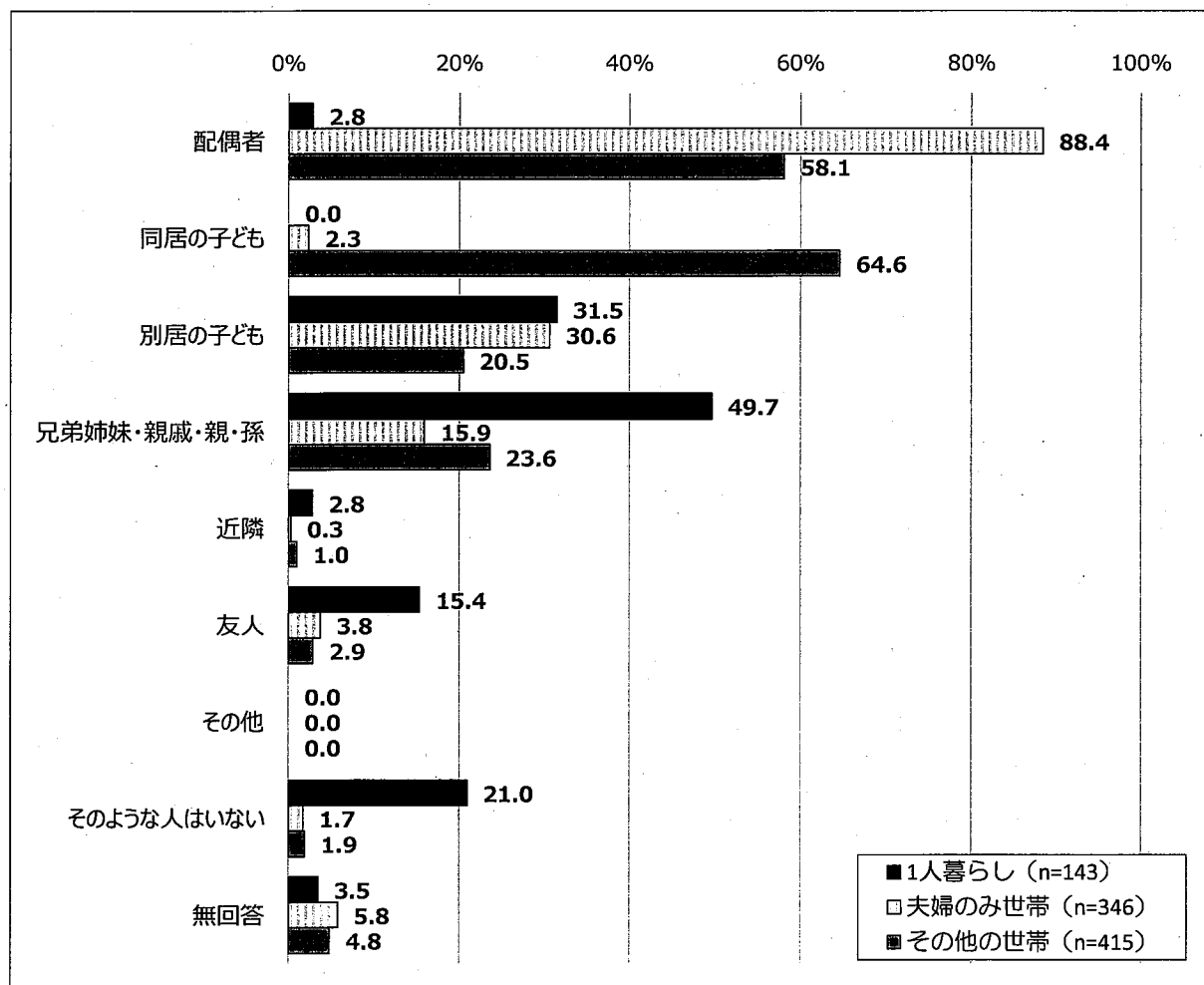
(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（○はいくつでも）

「配偶者」の割合が60.3%と最も高く、次いで「同居の子ども」が30.7%、「別居の子ども」が25.7%などとなっています。

性別にみると、男性・女性ともに「配偶者」の割合が最も高くなっていますが、女性は男性より17.0ポイント低い52.5%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は男性のほうが割合が高く7.8%となっています。



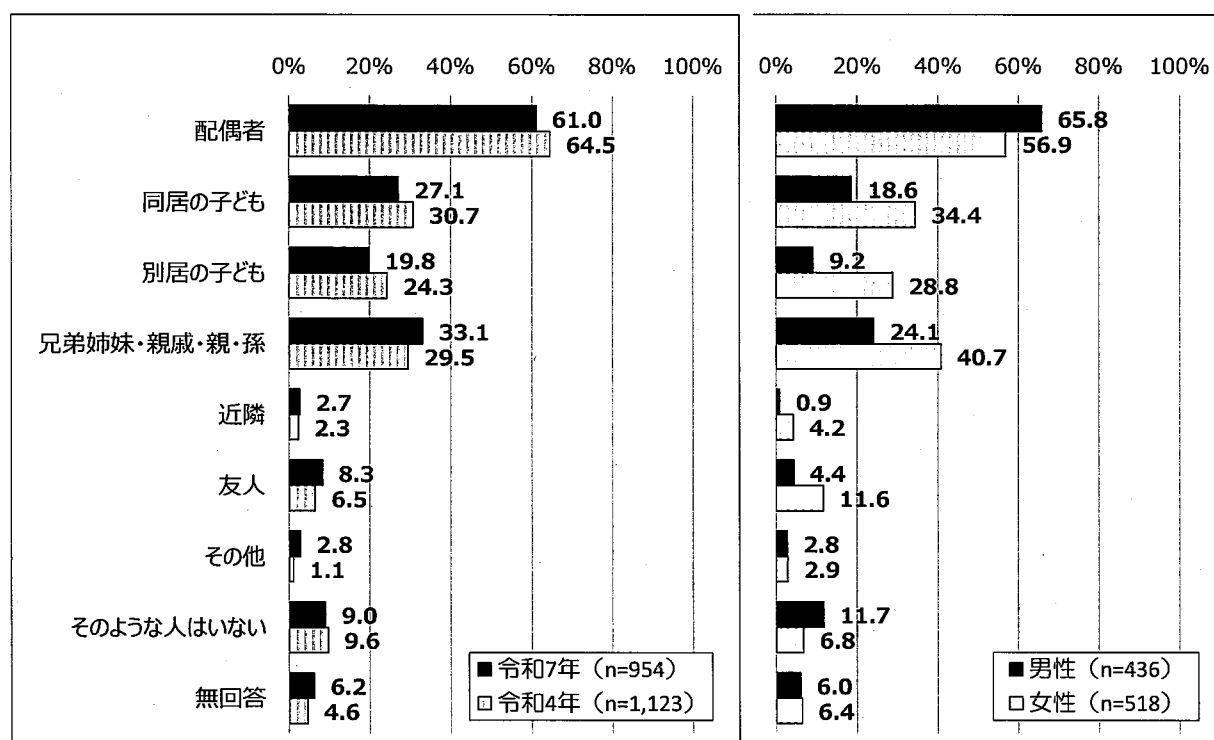
家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は「配偶者」の割合が高く 88.4%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は一人暮らし世帯で高く 21.0%となっています。



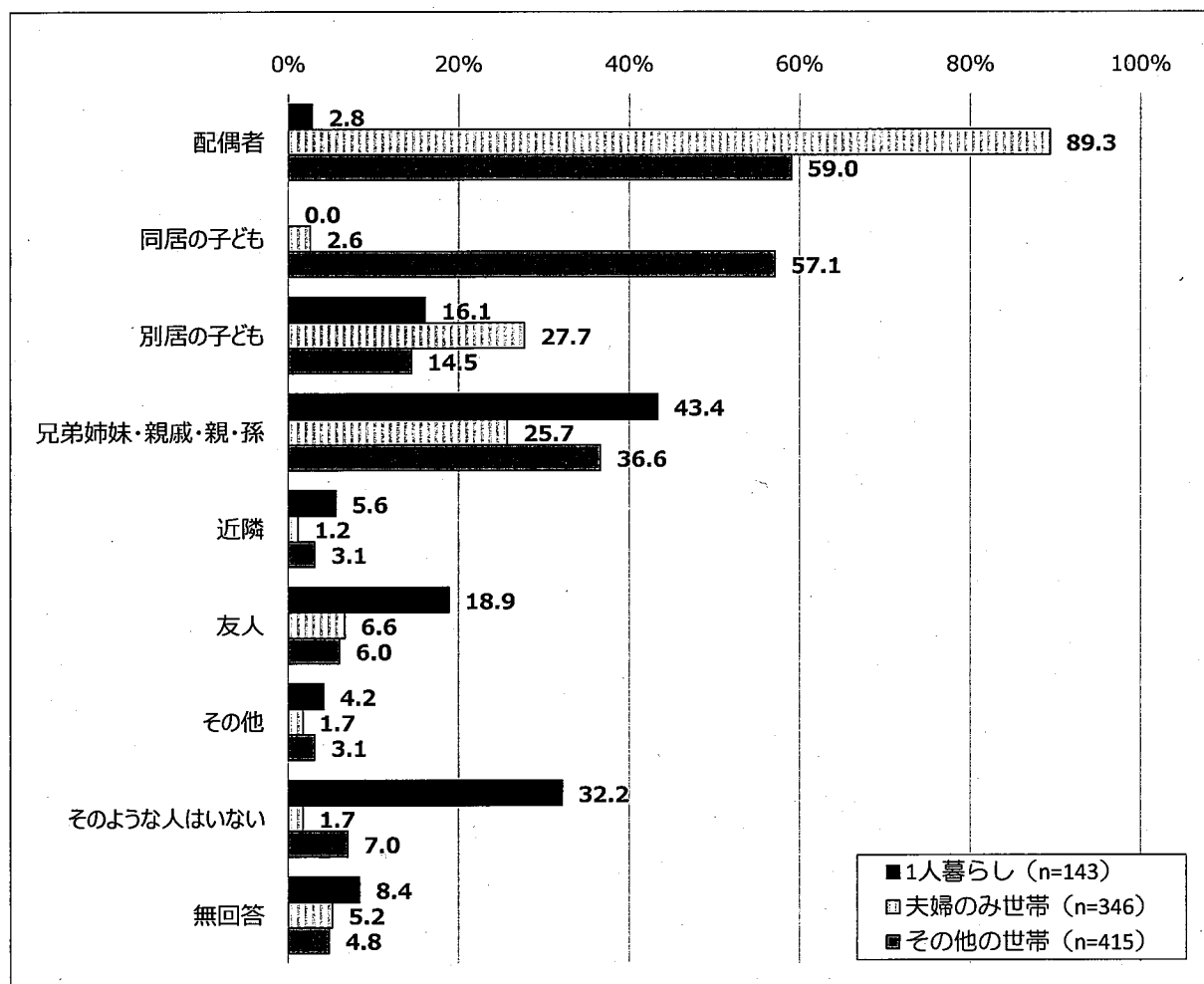
(4) 反対に、あなたが看病や世話をしあげる人（○はいくつでも）

「配偶者」の割合が61.0%と最も高く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が33.1%、「同居の子ども」が27.1%などとなっています。

性別にみると、男性・女性ともに「配偶者」の割合が最も高くなっていますが、女性は男性より8.9ポイント低い56.9%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は男性のほうが割合が高く11.7%となっています。



家族構成別にみると、夫婦のみ世帯は「配偶者」の割合が高く 89.3%となっています。また、「そのような人はいない」の割合は一人暮らし世帯で高く 32.2%となっています。



問 7 健康について

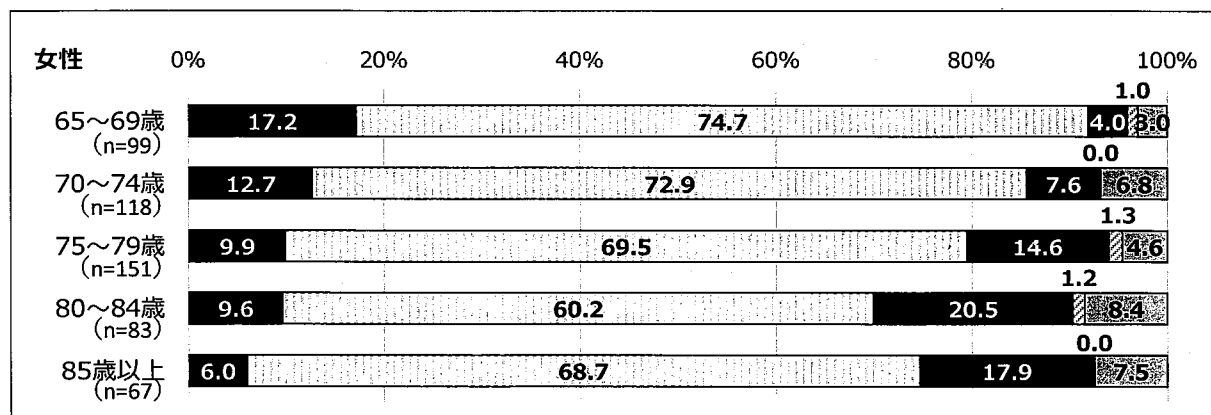
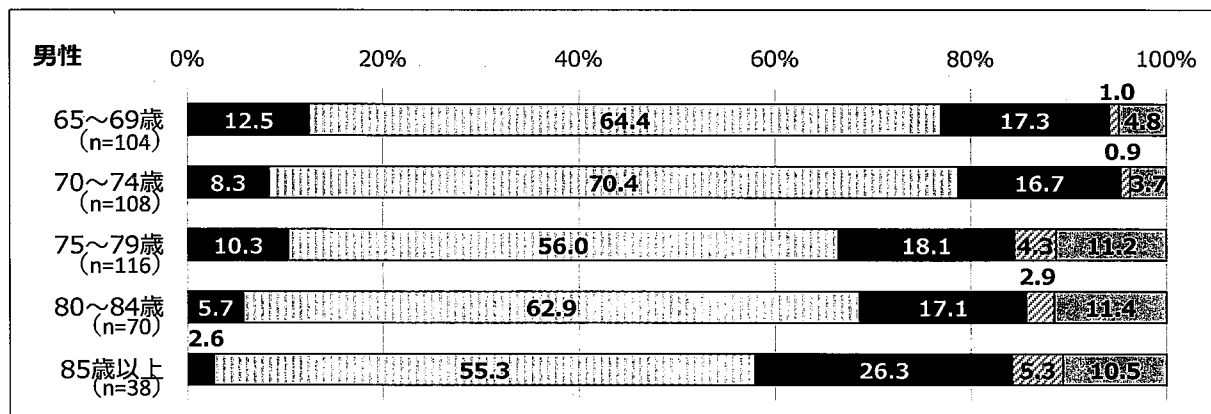
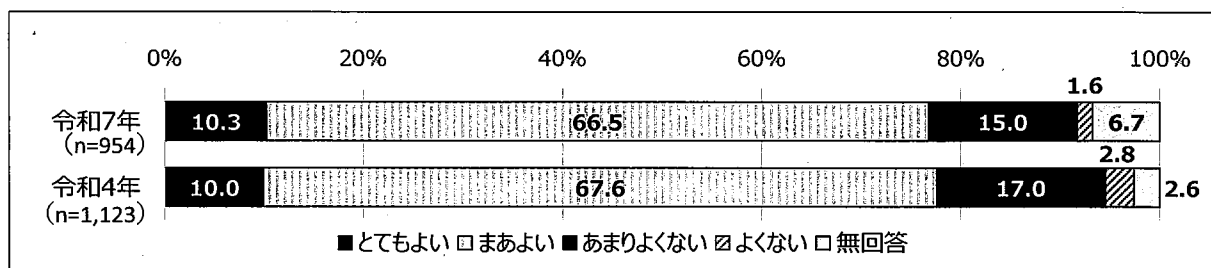
■ 主観的健康状態

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

この設問は、主観的健康感を問う設問です。要介護状態になる前の高齢者の主観的健康感を把握することで、地域の健康度のアウトカム指標として活用することが可能になります。

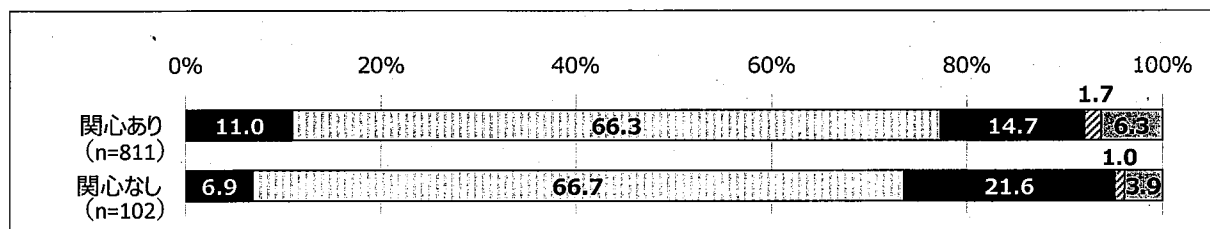
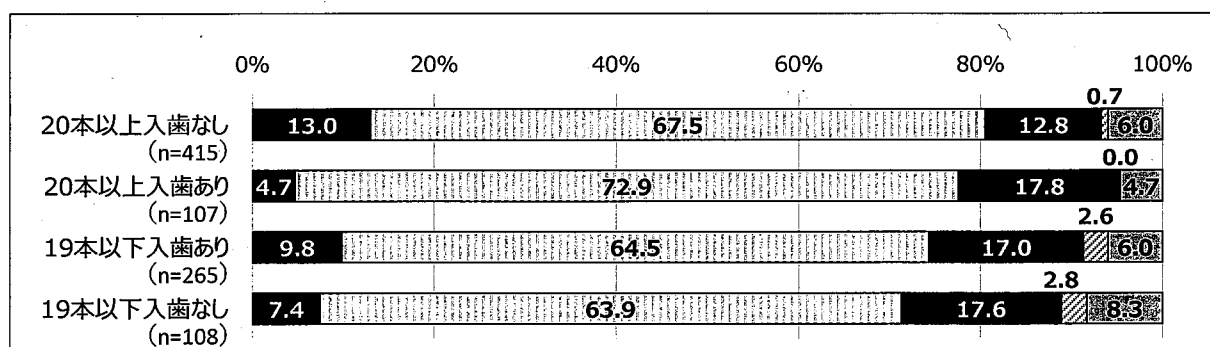
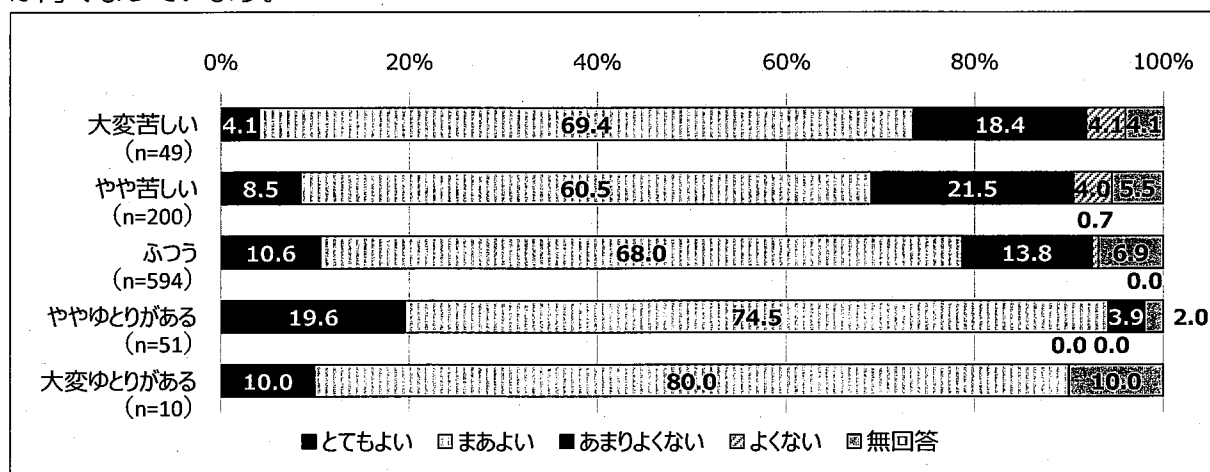
「まあよい」の割合が66.5%と最も高く、「とてもよい」と合わせると76.8%となっています。

性別・年齢別にみると、女性のほうが「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“主観的健康状態が高い群”の割合が高くなっています。また、男性・女性ともに年齢が上がるほど「よくない」と「あまりよくない」を合わせた“主観的健康状態が低い群”の割合が高くなる傾向がみられます。



主観的経済状況別にみると、“ややゆとりがある群”で主観的健康状態が最も高くなっています。
 歯と入れ歯の状態別にみると、“自分の歯が20本以上で入れ歯を使用していない群”で“主観的健康状態が高い群”の割合が最も高く、“歯が19本以下で入れ歯を使用していない群”で最も低くなっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが“主観的健康状態が高い群”の割合が高くなっています。



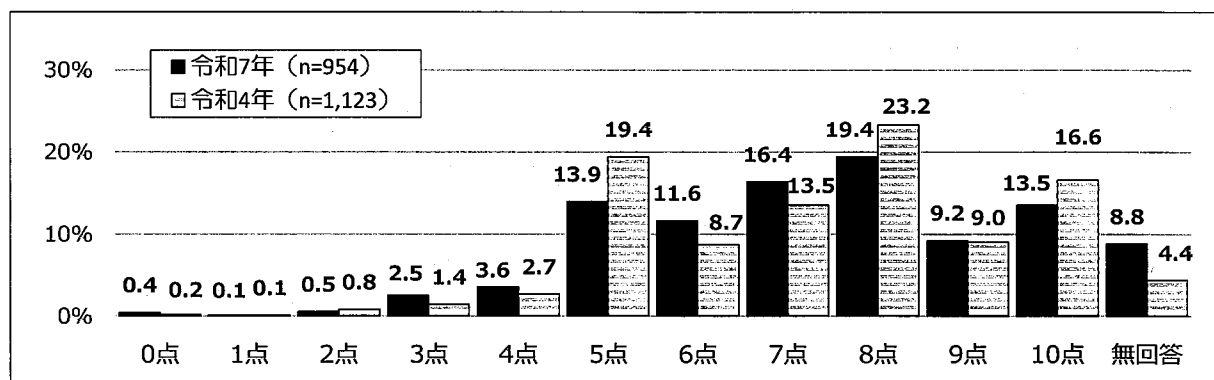
■ 幸福度

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか

(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

この設問は、主観的幸福感を問う設問です。うつ傾向との関係性も想定される、要介護状態になる前の高齢者の主観的幸福感を把握することで、(精神面での)健康度のアウトカム指標として活用することが可能になります。

「8点」が19.4%と最も高く、平均点は7.13点となっています。



幸福度の平均点 クロス集計表

			n値	幸福度 平均点				n値	幸福度 平均点
全体			954	7.13	家族構成	1人暮らし		143	6.62
性別	男性		436	6.78		夫婦2人暮らし		346	7.29
	女性		518	7.43		その他の世帯		415	7.06
年齢	65～69歳		203	7.00	主観的 経済状況	大変苦しい		49	6.19
	70～74歳		226	7.17		やや苦しい		200	6.33
	75～79歳		267	7.10		ふつう		594	7.33
	80～84歳		153	6.96		ややゆとりがある		51	8.08
	85歳以上		105	7.62		大変ゆとりがある		10	8.89
性別×年齢	男性	65～69歳	104	6.45	外出の頻度	ほとんど外出しない		24	6.00
		70～74歳	108	6.80		週1日		91	6.52
		75～79歳	116	6.81		週2～4回		360	7.06
		80～84歳	70	7.07		週5回以上		467	7.38
		85歳以上	38	7.12	歯と入れ歯 の状況	20本以上入れ歯なし		415	7.21
	女性	65～69歳	99	7.56		20本以上入れ歯あり		107	7.16
		70～74歳	118	7.53		19本以下入れ歯あり		265	7.32
		75～79歳	151	7.33		19本以下入れ歯なし		108	6.41
		80～84歳	83	6.87	健康への 関心	関心あり		811	7.19
		85歳以上	67	7.92		関心なし		102	6.65
認定状況	一般高齢者		928	7.14	主観的 健康状態	とてもよい		98	8.61
	総合事業対象者		1	8.00		まあよい		634	7.28
	要支援1		24	6.71		あまりよくない		143	5.66
	要支援2		1	6.00		よくない		15	4.71

■ うつ傾向

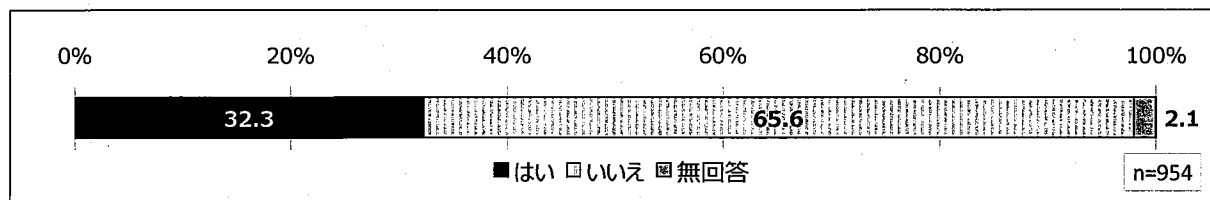
問 7 (3) ～ (7) は、うつ傾向を問設問です。うつ傾向の高齢者を把握することで、事業の対象者・実施内容の検討の際に活用することが可能になります。

(3) この 1 か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

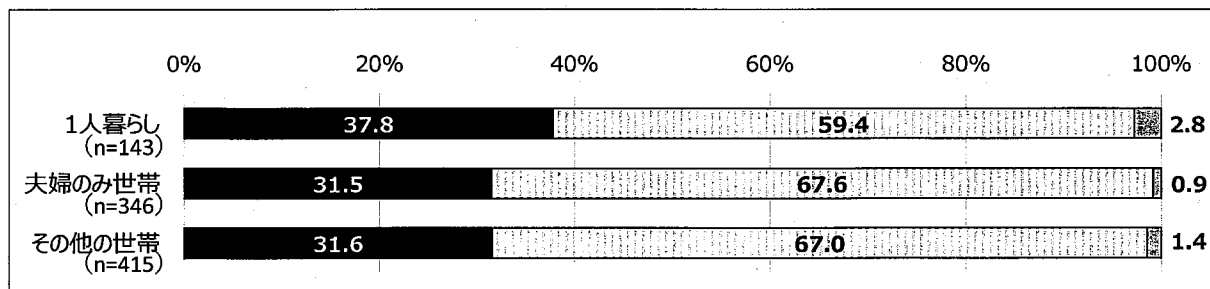
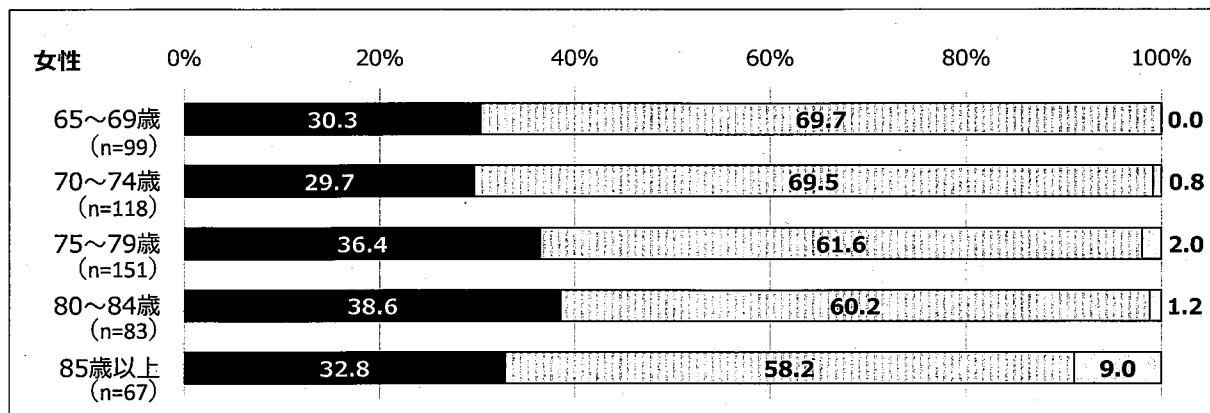
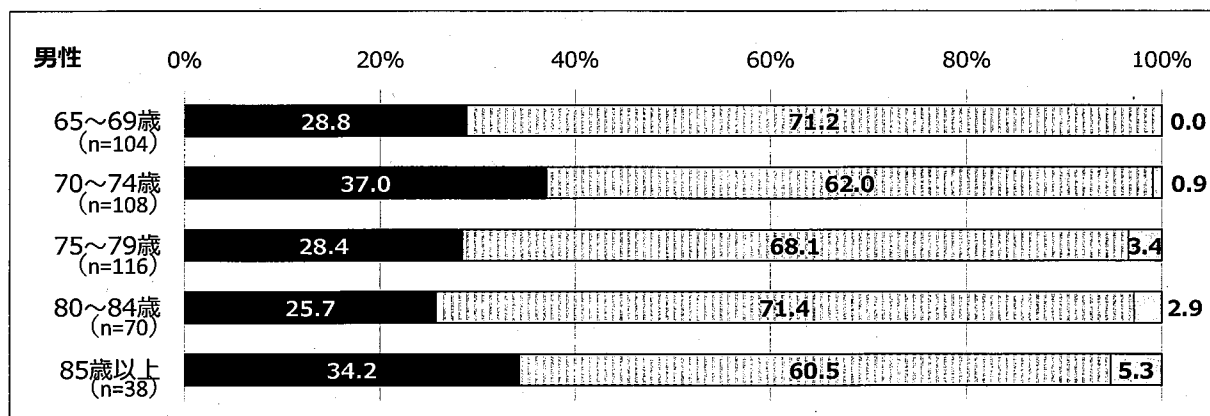
「はい」の割合が 32.3%、「いいえ」が 65.6%となっています。

性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

家族構成別にみると、1 人暮らしで「はい」の割合が高くなっています。



※ 令和 4 年の前回調査にこの設問はありませんでした。

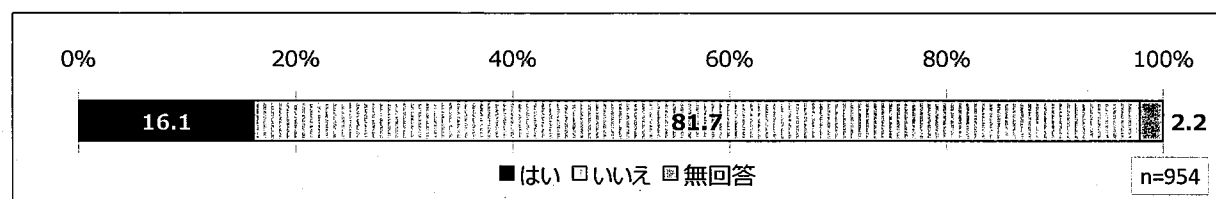


(4) この 1 か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

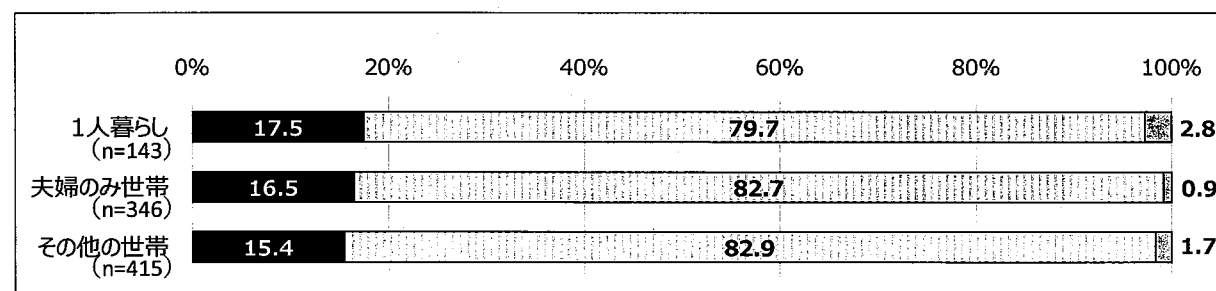
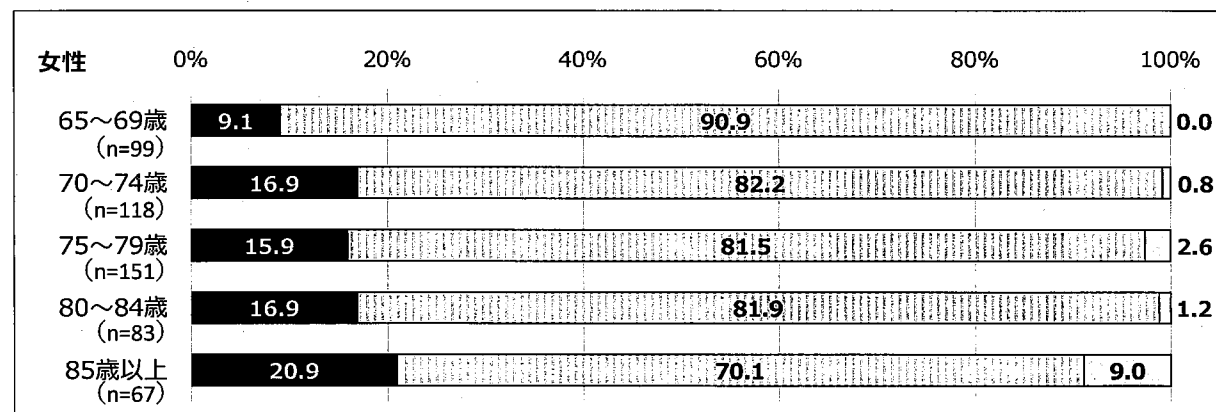
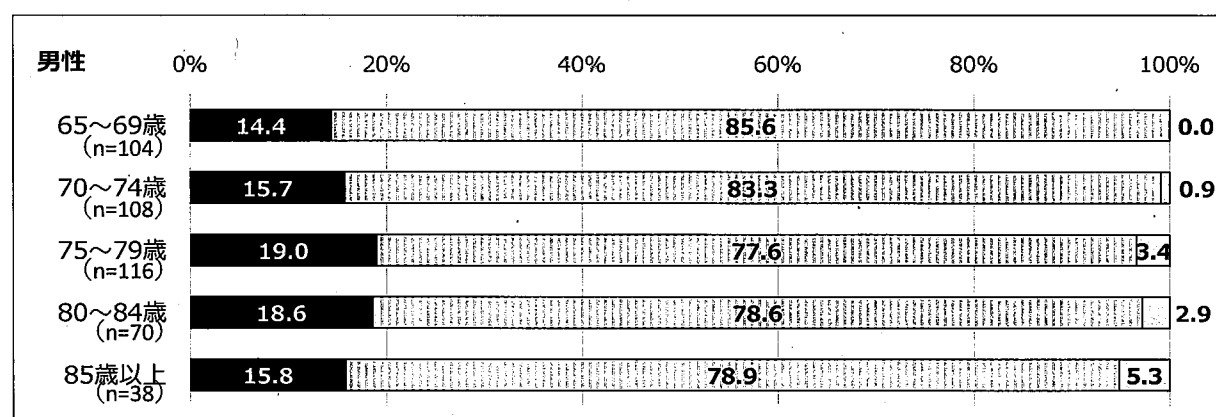
「はい」の割合が16.1%、「いいえ」が81.7%となっています。

性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられますが、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。

家族構成別にみると、1人暮らしで「はい」の割合がやや高く、その他の世帯でやや低くなっています。



※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。

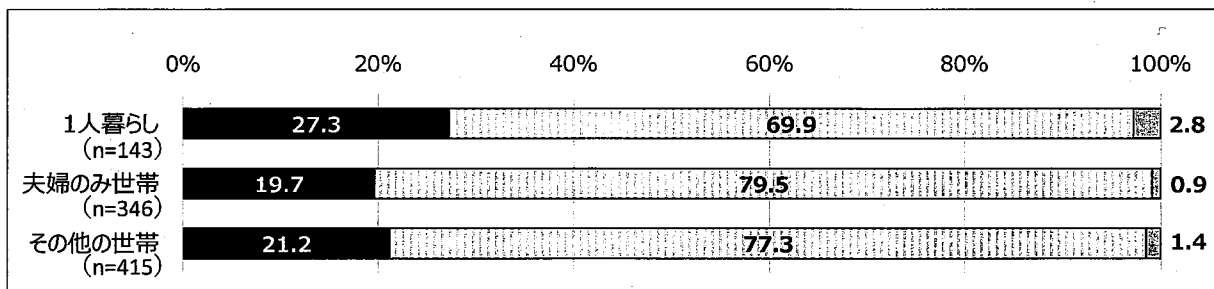
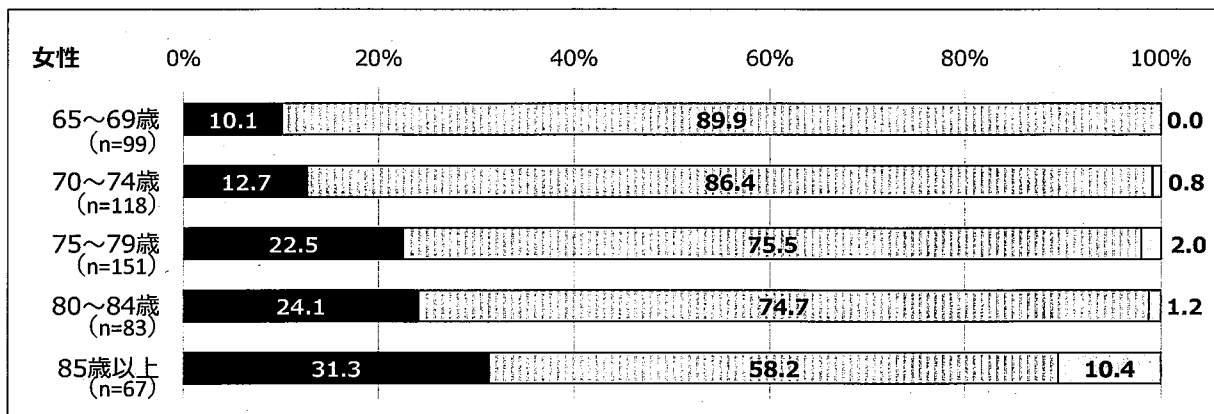
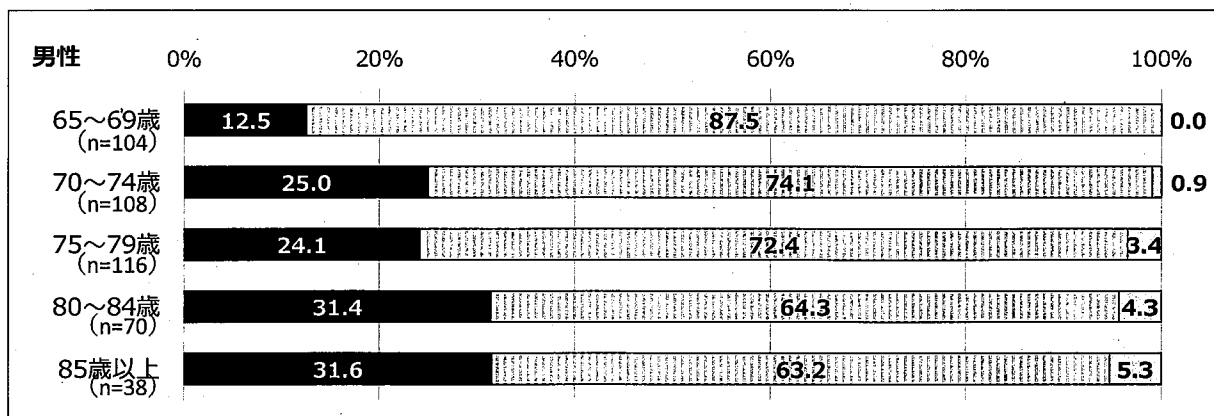
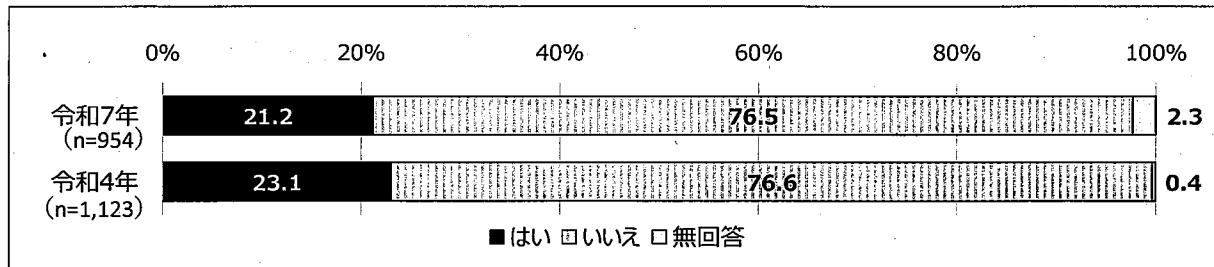


(5) ここ2週間、以前は楽にできていたことがおっくうに感じられる

「はい」の割合が21.2%、「いいえ」が76.5%となっています。

性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなる傾向がみられます。

家族構成別にみると、1人暮らしで「はい」の割合が高くなっています。

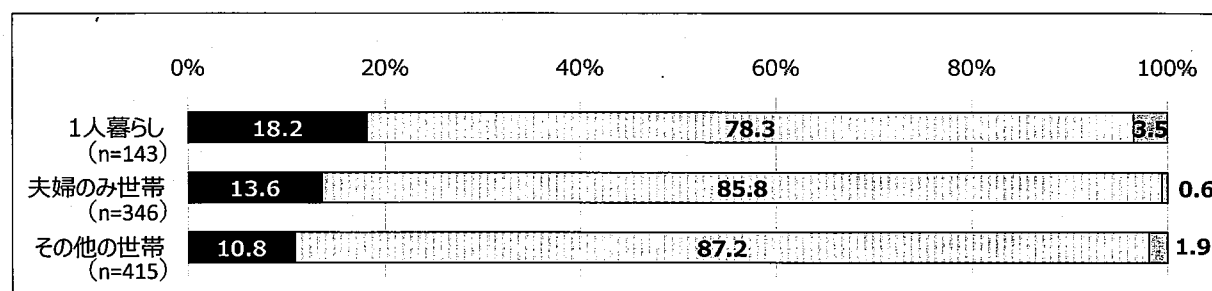
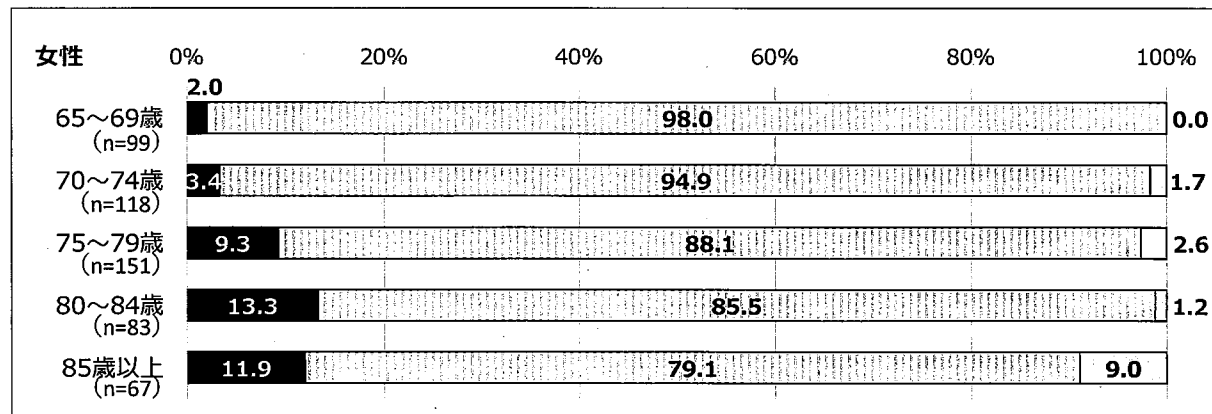
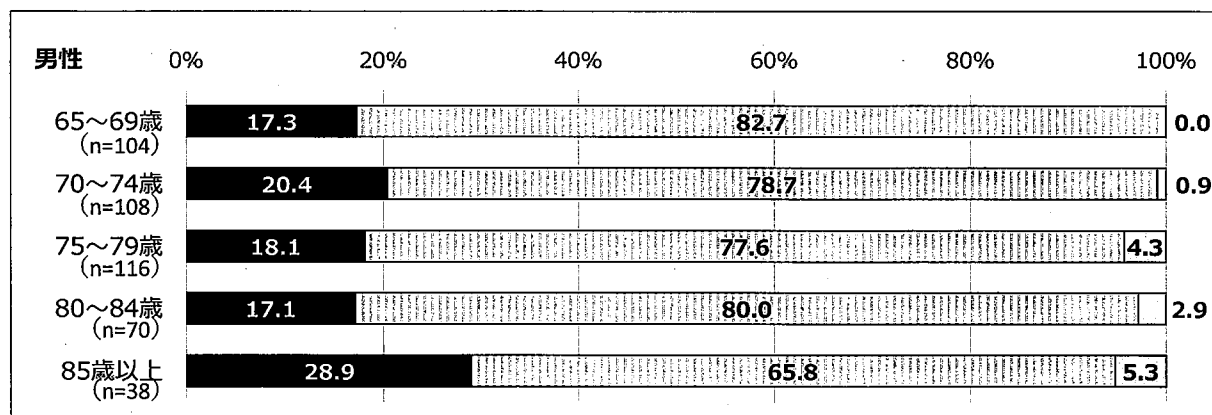
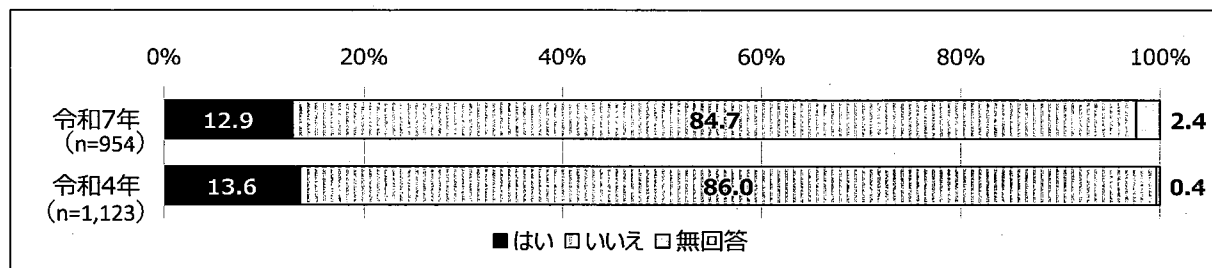


(6) ここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えない

「はい」の割合が12.9%、「いいえ」が84.7%となっています。

性別・年齢別にみると、男性のほうが「はい」の割合が高くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らしで「はい」の割合が高く、その他の世帯で低くなっています。

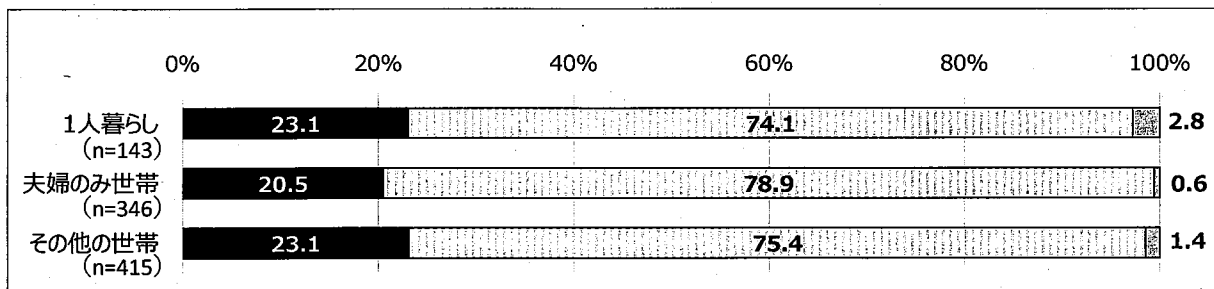
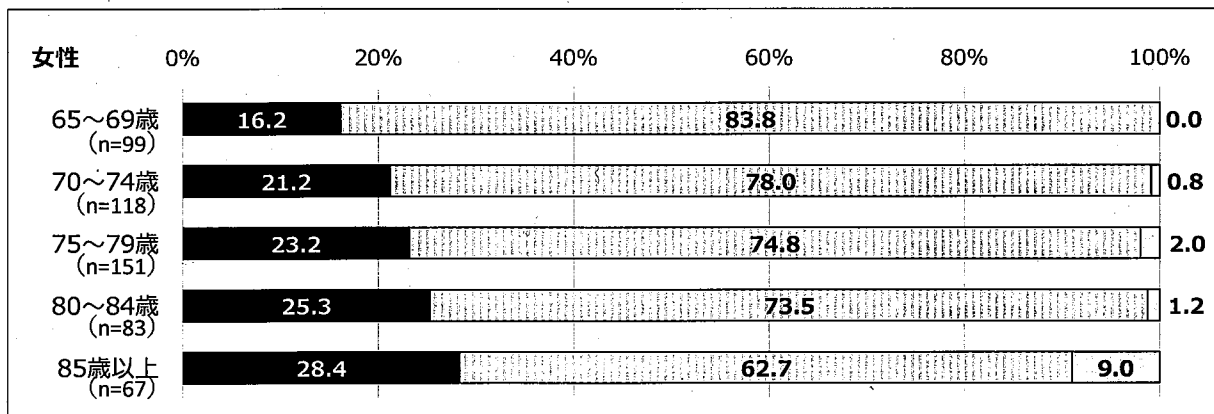
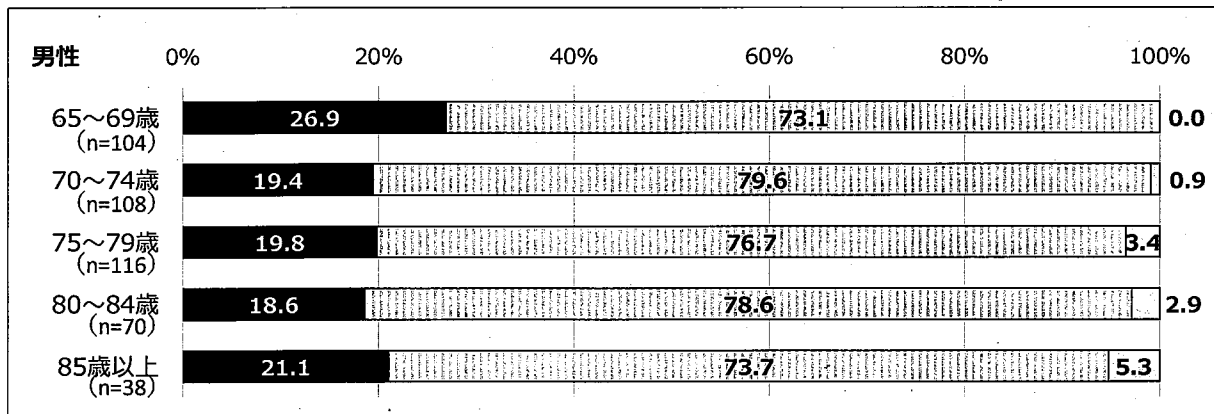
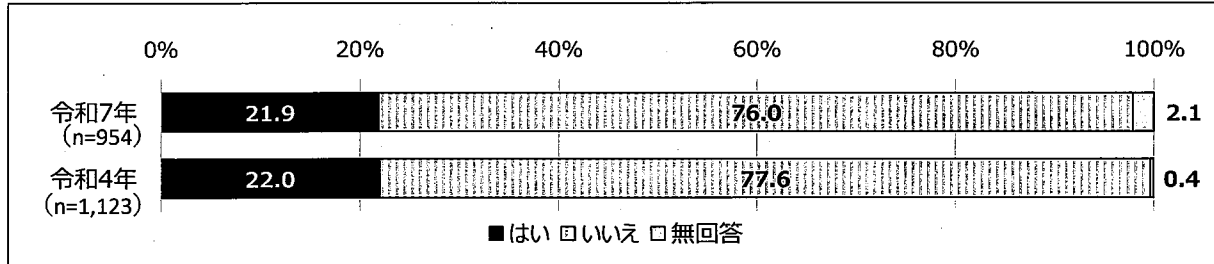


(7) ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがする

「はい」の割合が21.9%、「いいえ」が76.0%となっています。

性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほど「はい」の割合が高くなっていますが、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。

家族構成別にみると、夫婦のみ世帯で「はい」の割合がやや低くなっています。



■ 飲酒・喫煙

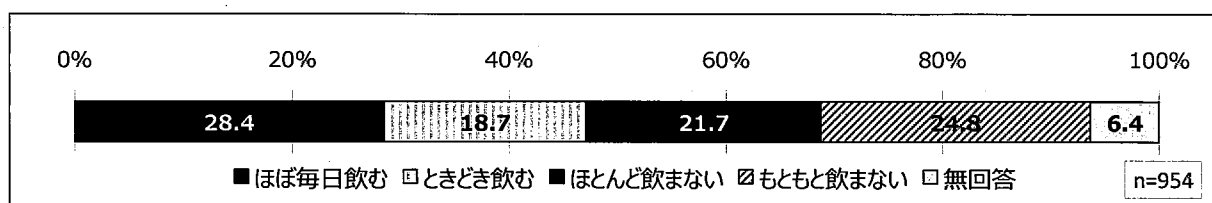
(8) お酒は飲みますか

この設問は、飲酒の習慣を問う設問です。高齢者の健康寿命に影響を与えと考えられる本項目と他項目の関係性を把握することにより、高齢者の特性把握が可能になります。

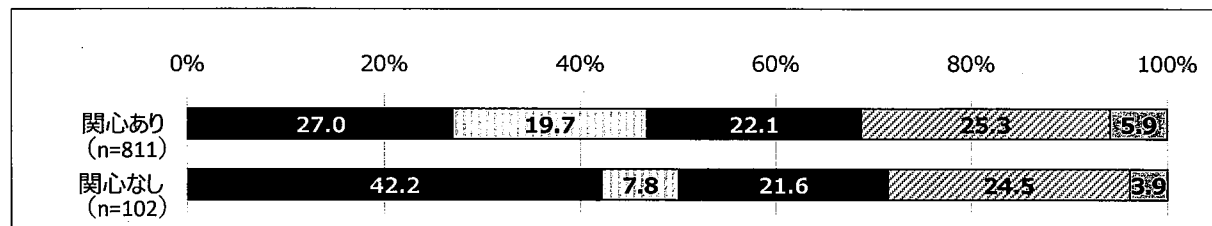
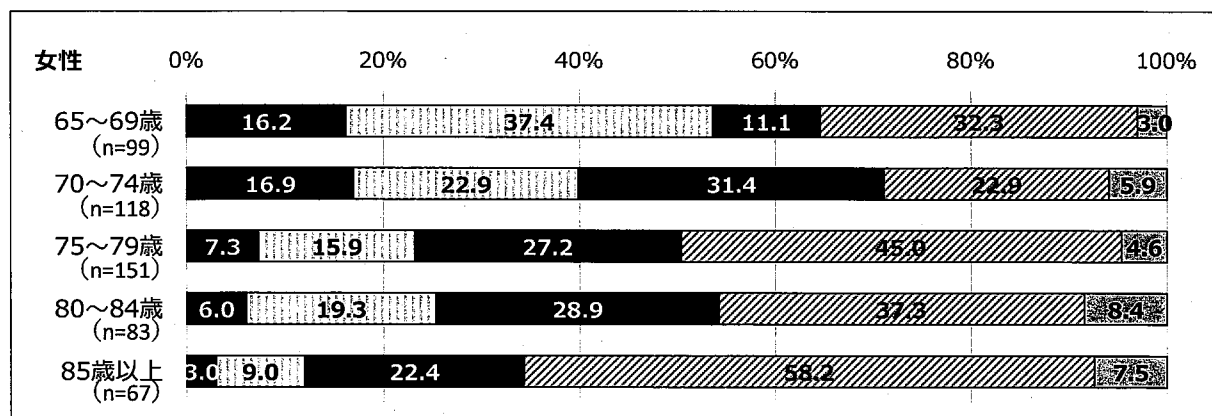
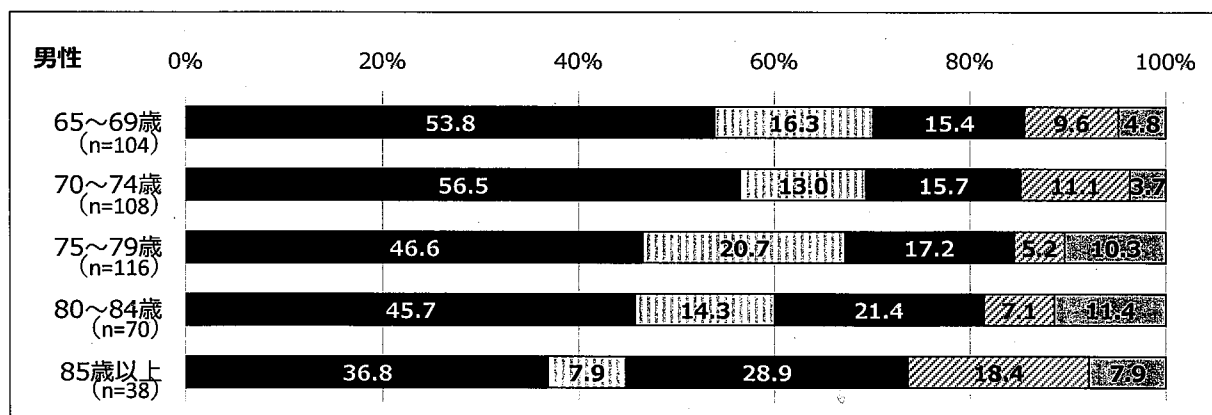
「ほぼ毎日飲む」の割合が 28.4%と最も高く、次いで「もともと飲まない」が 24.8%となっています。

性別・年齢別にみると、「ほぼ毎日飲む」の割合は男性が女性を大きく上回っています。男性・女性ともに年齢が上がるほど「ほぼ毎日飲む」の割合は低くなる傾向がみられます。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心がないほうが「ほぼ毎日飲む」の割合が高くなっています。



※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。



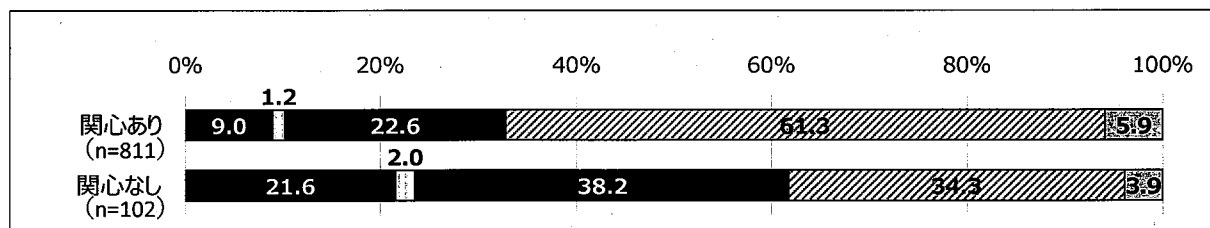
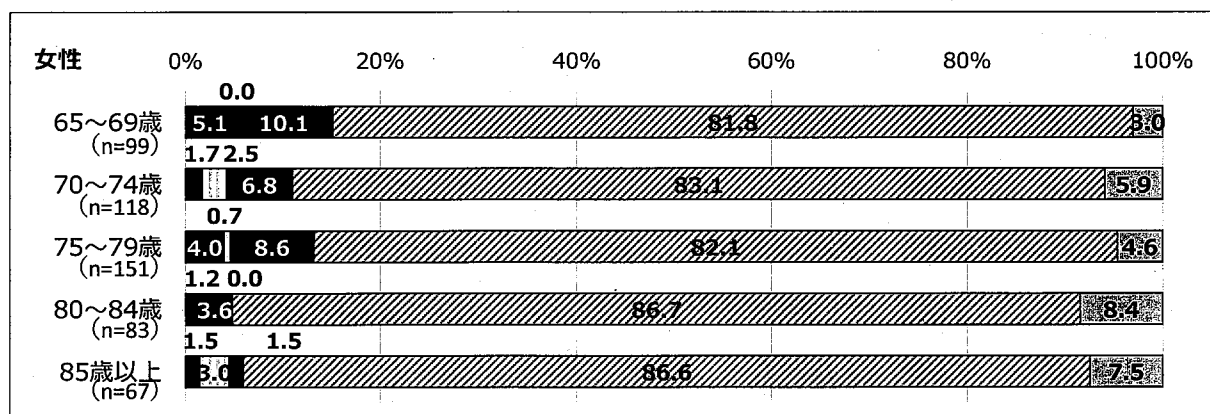
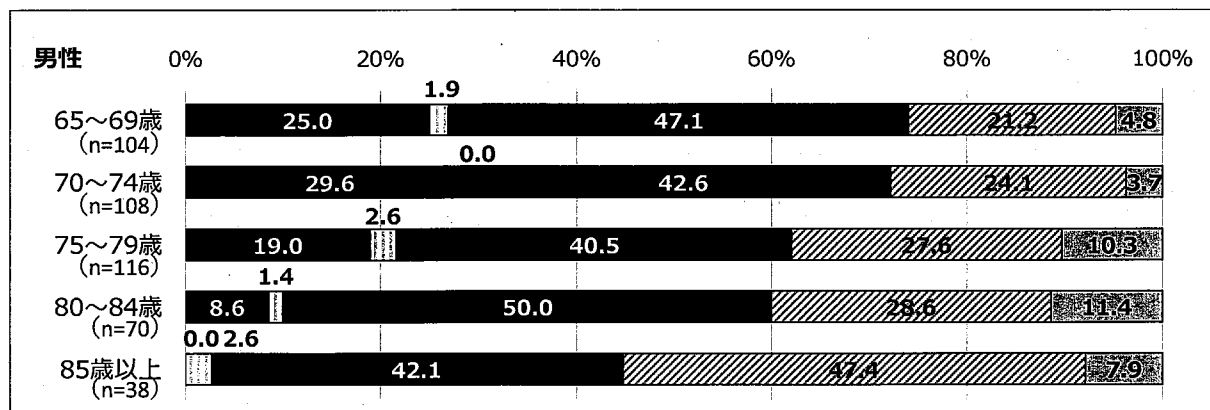
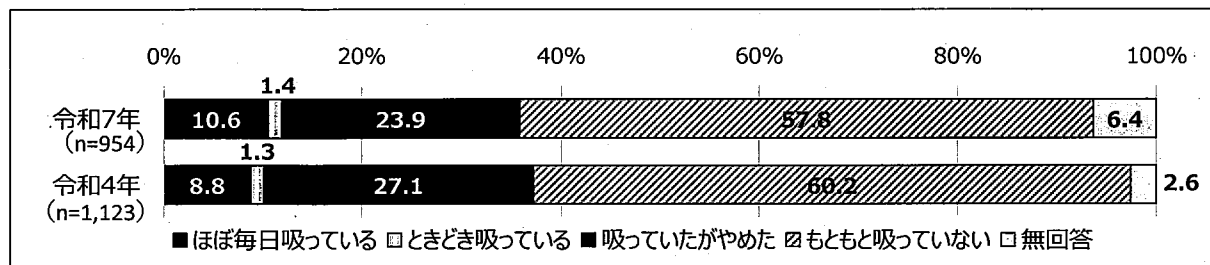
(9) タバコは吸っていますか

この設問は、タバコの習慣を問う設問です。高齢者の健康寿命に影響を与えと考えられる本項目と他項目との関係性を把握することで、高齢者の特性把握が可能になります。

「もともと吸っていない」の割合が57.8%と最も高く、次いで「吸っていたがやめた」が23.9%で、「ほぼ毎日吸っている」は10.6%となっています。

性別・年齢別にみると、女性はすべての年齢層で「もともと吸っていない」が80%程度となっています。男性はすべての年齢層で「吸っていたがやめた」の割合が40%程度となっていますが、79歳以下では「ほぼ毎日吸っている」の割合が20%程度となっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心がないほうが「ほぼ毎日吸っている」の割合が高くなっています。

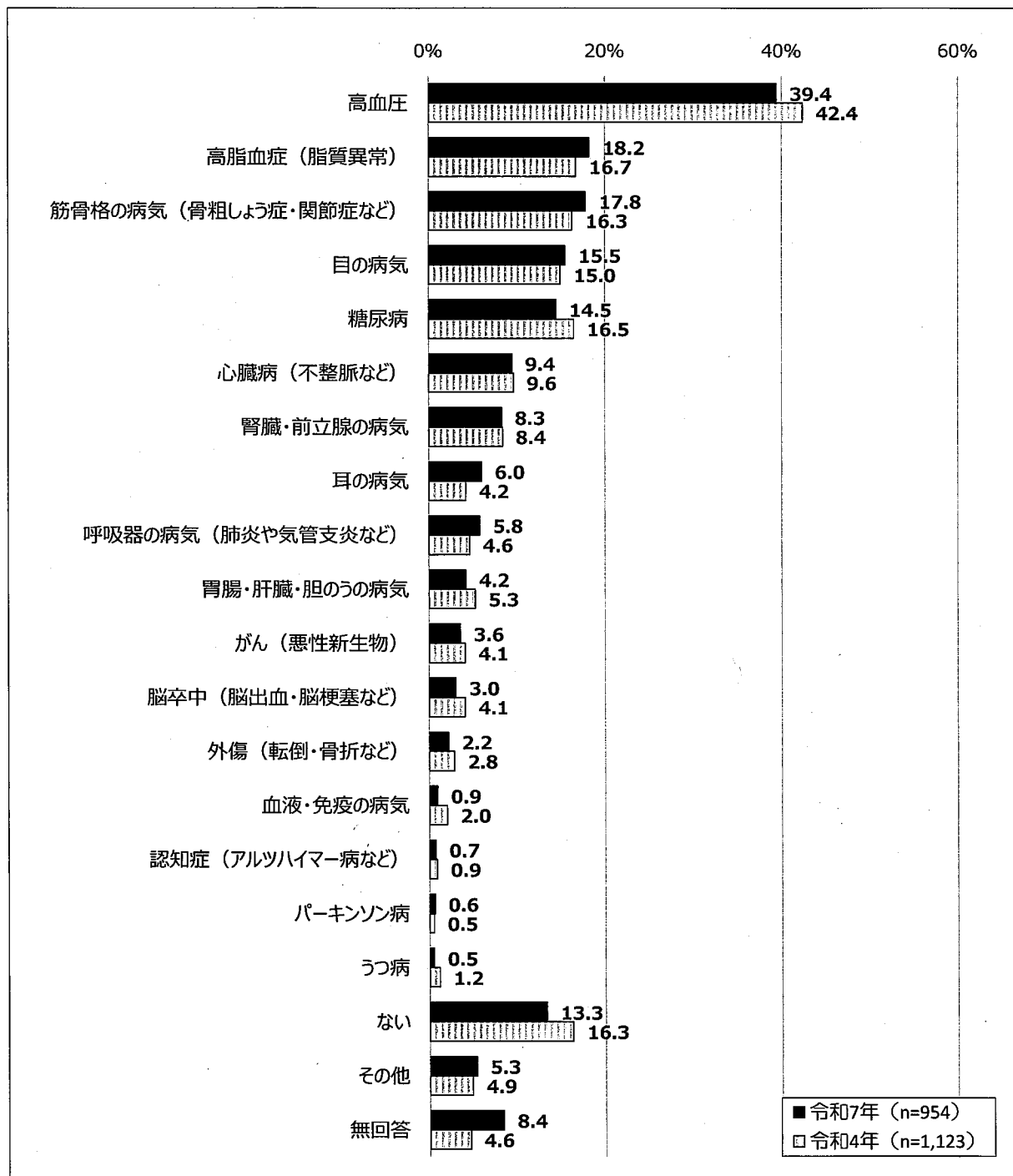


■ 病気について

(10) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか（○はいくつでも）

この設問は、現在治療中の病気等を問う設問です。認定を受けていない高齢者の既往を把握することで、要介護状態になる原因等の課題の把握が可能になります。

「高血圧」の割合が39.4%と最も高くなっています。

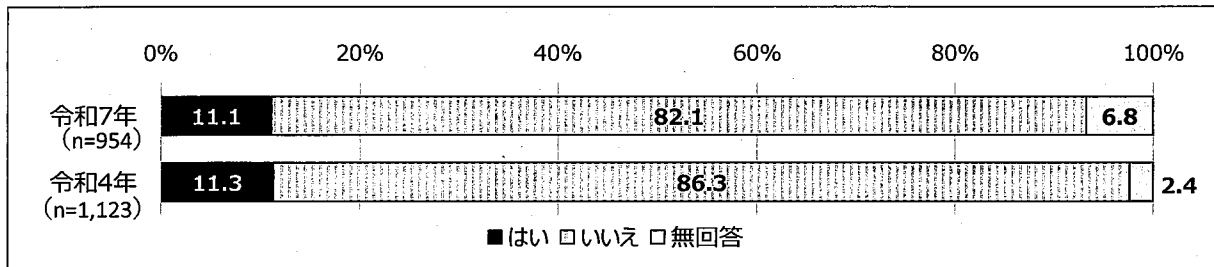


問 8 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか

この設問は、家族を含め認知症の有無を問う設問です。認知症施策推進大綱において、認知症に関する相談体制を整備していくことが求められており、その目標となる相談窓口の認知度について、関係者（認知症当事者本人および家族）と住民（本人および家族以外）の属性の把握が可能となります。

「はい」の割合が11.1%、「いいえ」が82.1%となっています。

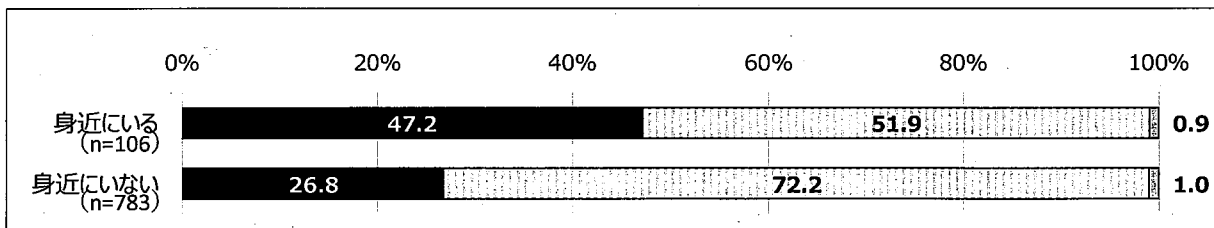
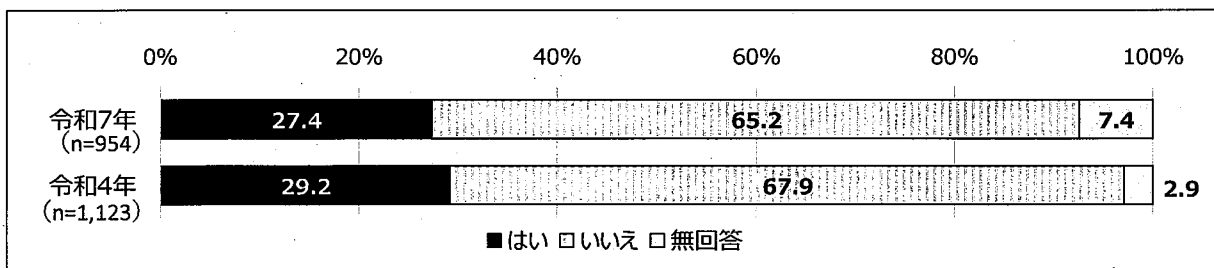


(2) 認知症に関する相談窓口を知っていますか

この設問は、認知症に関する相談窓口の認知度を把握するための設問です。認知症に関する相談窓口の認知度を把握し、周知の必要性等の課題の把握が可能となります。

「はい」が27.4%、「いいえ」が65.2%となっています。

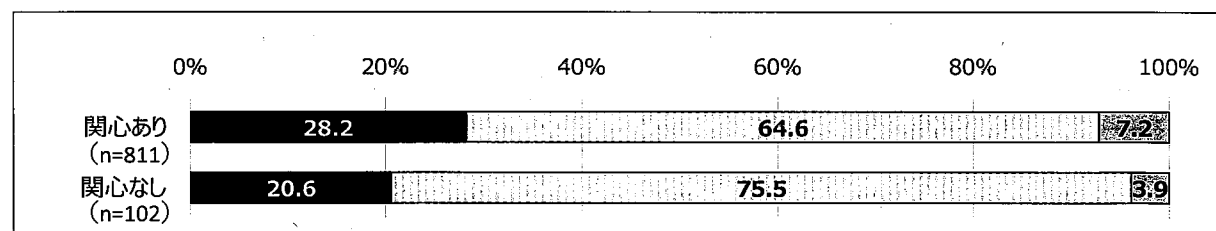
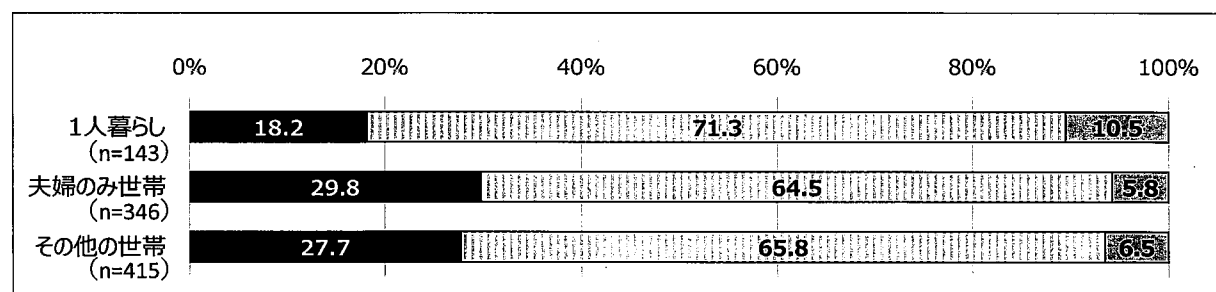
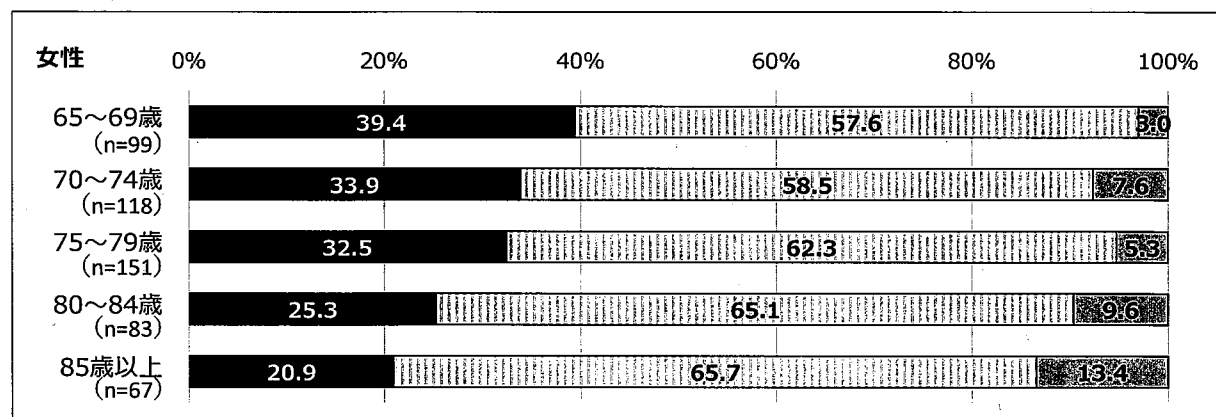
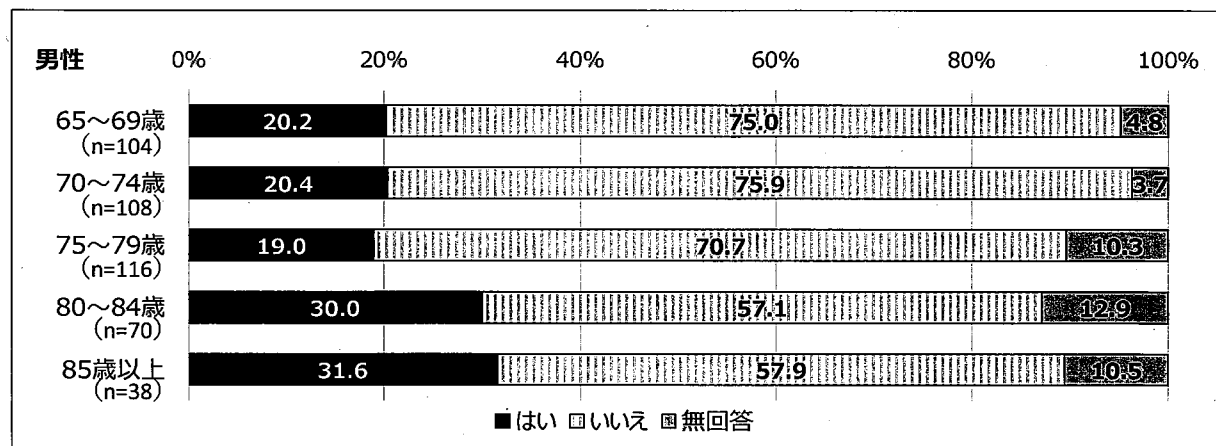
(1) で「はい」と回答した人を認知症の症状のある人が自身を含めて“身近にいる群”、「いいえ」と回答した人を“身近にいない群”として比較すると、認知症の症状のある人が身近にいる人でも半数以上の51.9%が相談窓口を知らない状況です。



性別・年齢別にみると、男性は年齢が上がるほど認知症に関する相談窓口を知っている割合が高くなるのに対し、女性は反対の傾向がみられます。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯で「はい」の割合が低くなっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが「はい」の割合が高くなっています。

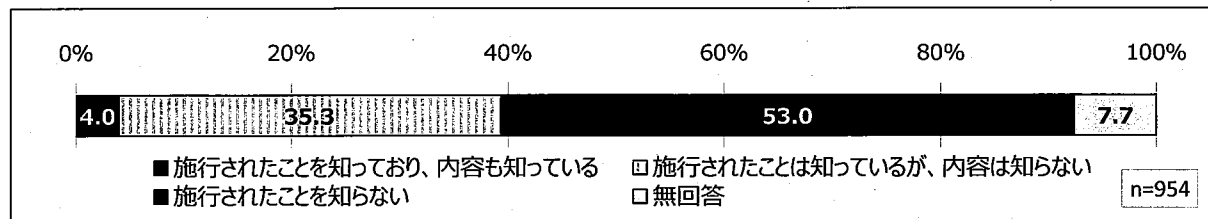


(3) 令和6年10月1日に施行された「認知症とともに生きる笑顔あふれるまち加茂基本条例」について、内容を知っていますか

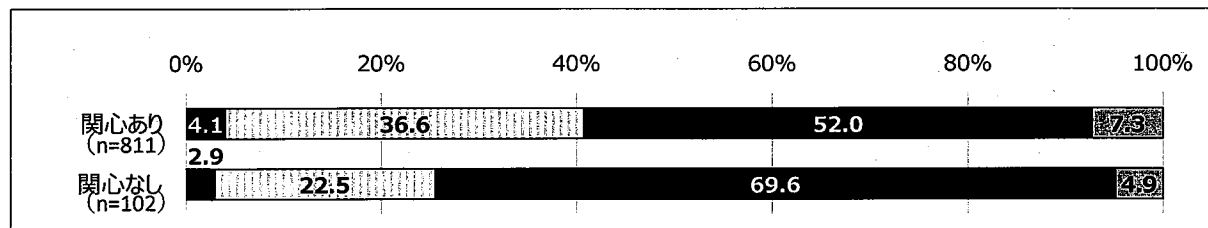
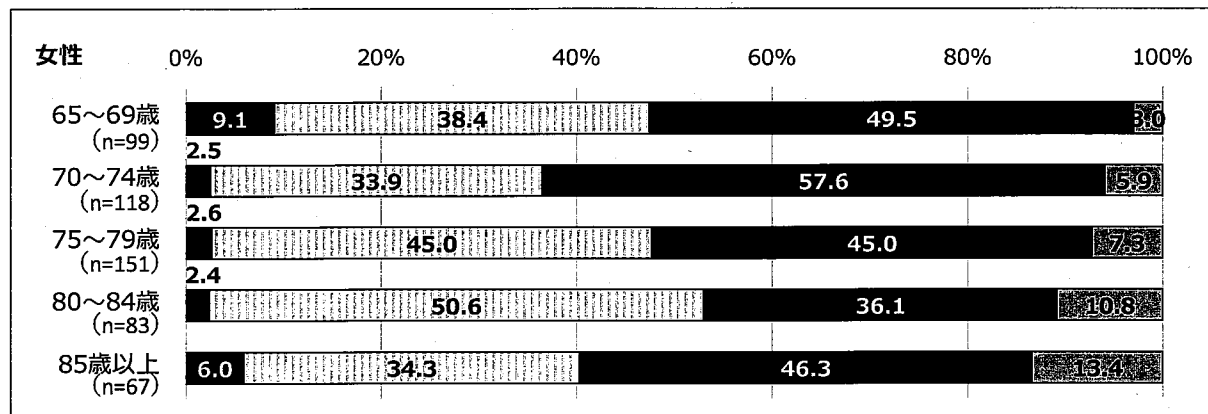
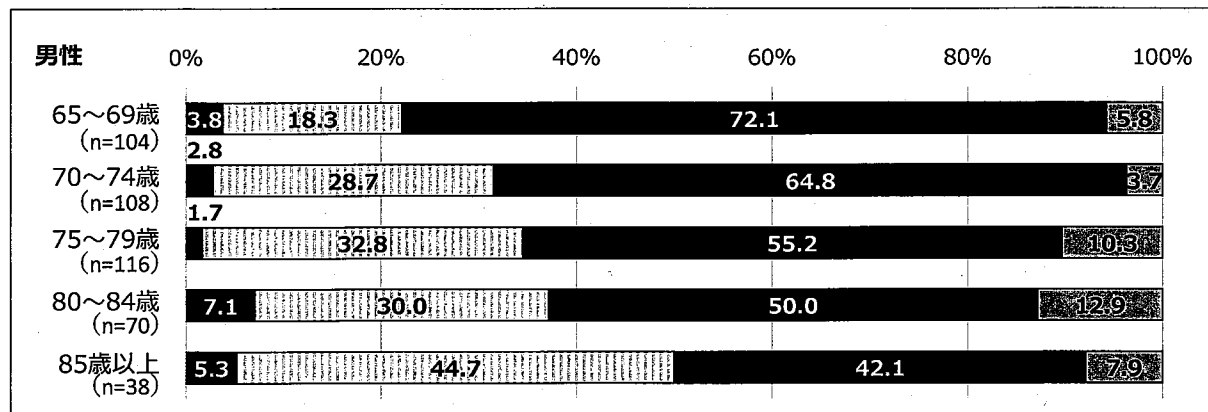
「施行されたことを知らない」の割合が53.0%と最も高く、次いで「施行されたことは知っているが、内容は知らない」が35.3%で、内容まで知っている割合は4.0%となっています。

性別・年齢別にみると、男性は年齢が上がるほど施行されたことを知っている割合が高くなっていますが、内容まで知っている割合に明らかな傾向はみられませんでした。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうが内容まで知っている割合、施行されたことを知っている割合ともにやや高くなっています。



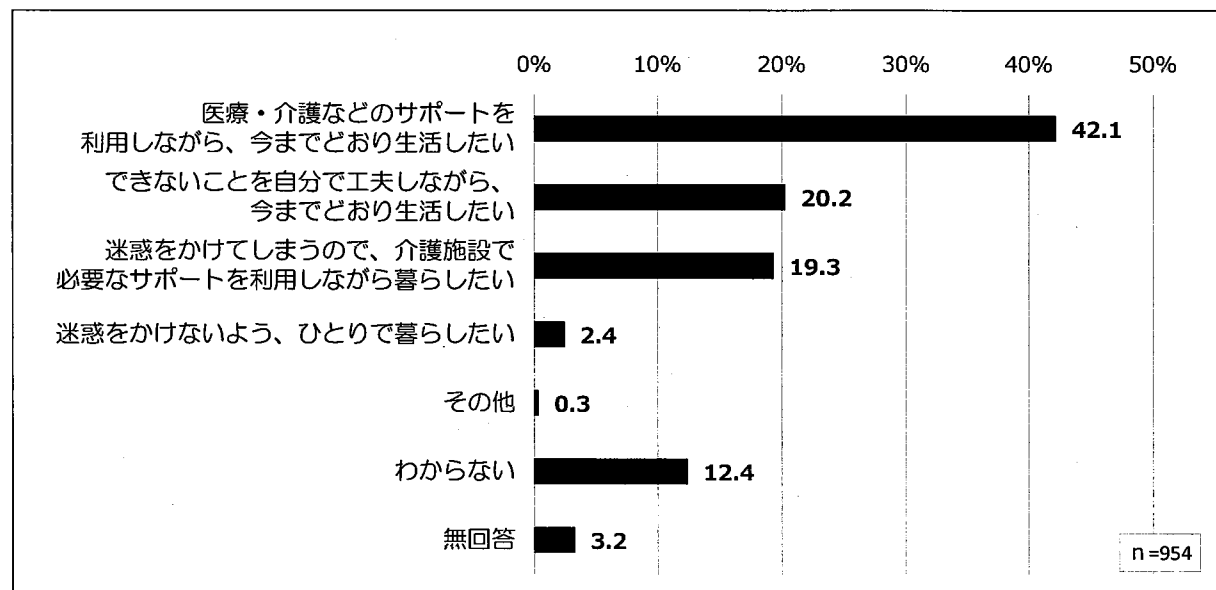
※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。



(4) あなたが認知症になったら、どのように暮らしたいですか

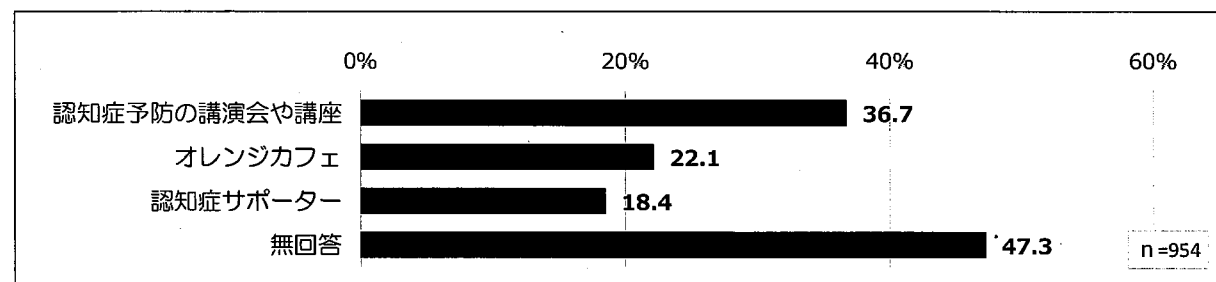
(ご自身が認知症の場合は、今後どのように暮らしたいか○をつけてください)

「医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで通り生活したい」の割合が42.1%と最も高くなっています。



(5) 認知症に対する取り組みで知っているものはありますか (○はいくつでも)

「認知症予防の講演会や講座」の割合36.7%などとなっていますが、いずれも知らない人が含まれる無回答の割合が最も高く47.3%となっています。



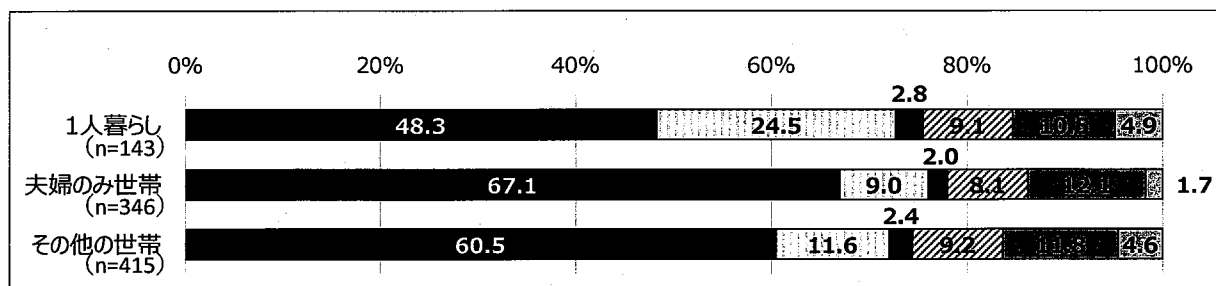
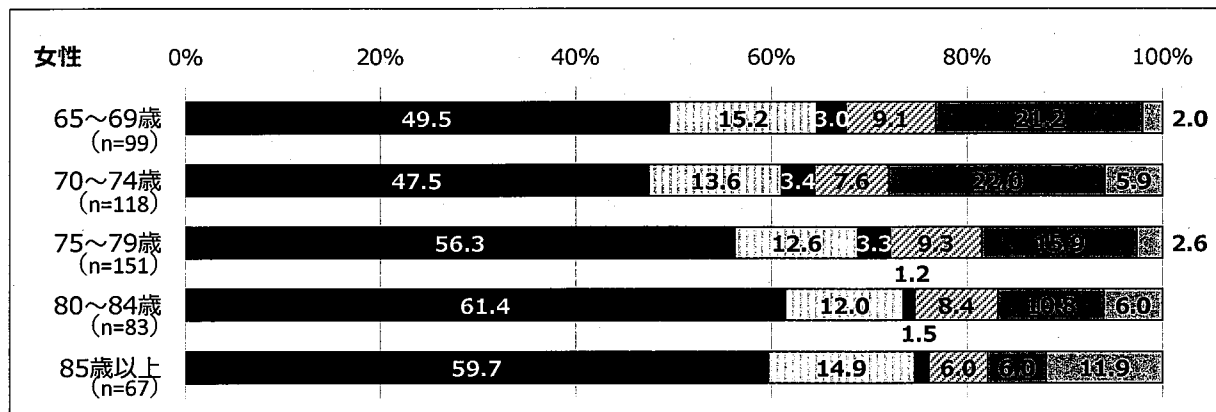
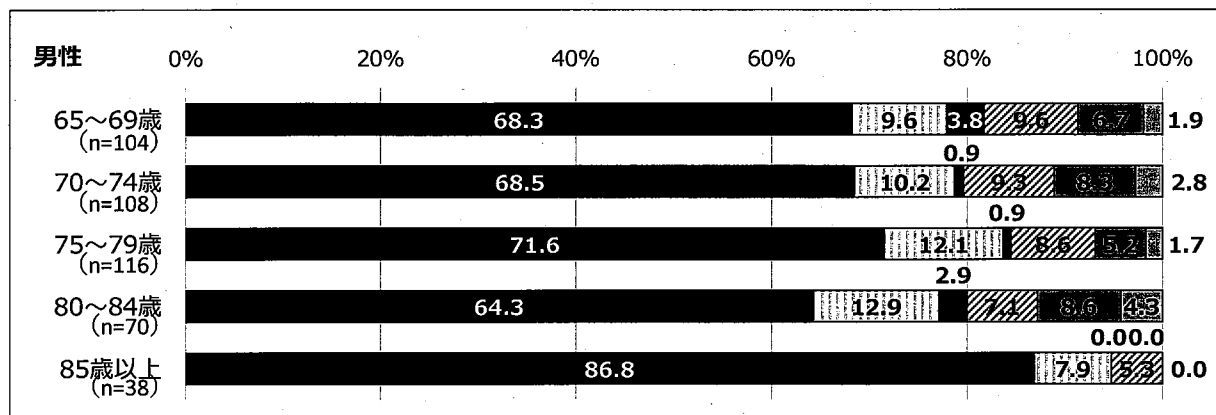
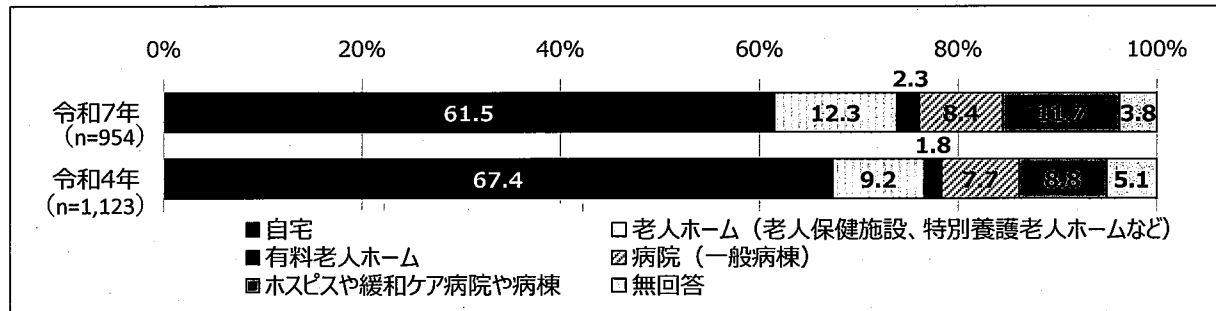
問 9 人生の最期の過ごし方について

(1) 人生の最期をどこで過ごしたいと思いますか

「自宅」の割合が61.5%と最も高くなっています。

性別・年齢別にみると、男性のほうが「自宅」の割合が高くなっています。

家族構成別にみると、夫婦のみ世帯で「自宅」の割合が高く、1人暮らしは他の世帯と比較して「老人ホーム」の割合が高くなっています。

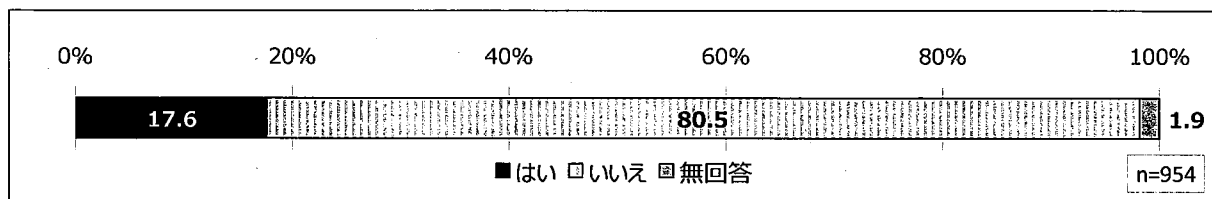


(2) 自分の最期について、どのようにしてほしいかなどを誰かに話したり書面で残したりしていますか

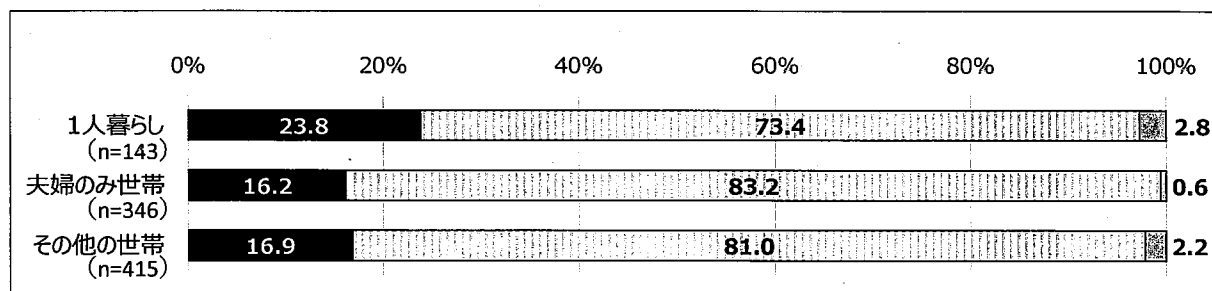
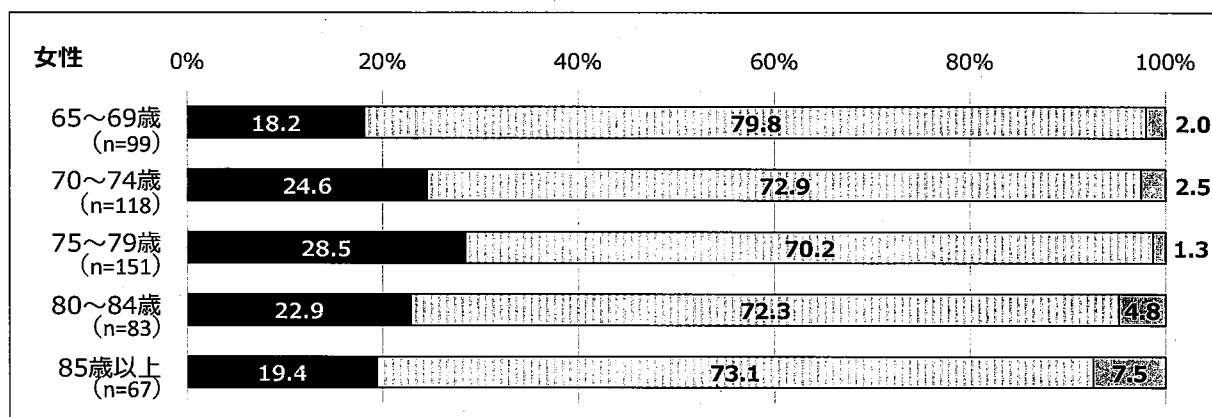
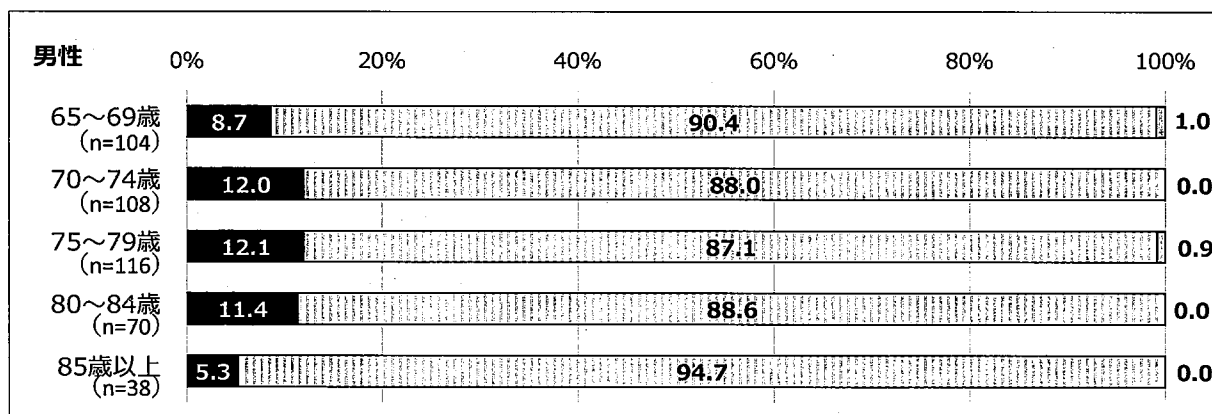
「はい」の割合が17.6%、「いいえ」が80.5%となっています。

性別・年齢別にみると、すべての年齢層で女性のほうが「はい」の割合が高くなっています。

家族構成別にみると、1人暮らしで「はい」の割合が高くなっています。



※ 令和4年の前回調査にこの設問はありませんでした。



3 評価項目別のリスク分析結果

運動器の機能低下

■運動器の機能低下 判定基準

設問	0点	1点
問2(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるししている 2. できるけどしていない	3. できない
問2(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるししている 2. できるけどしていない	3. できない
問2(3) 15分くらい続けて歩いていますか	1. できるししている 2. できるけどしていない	3. できない
問2(4) この1年間に転んだ経験がありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1度ある
問2(5) 転倒に対する不安は大きいですか	3. あまり不安ではない 4. 不安でない	1. とても不安である 2. やや不安である

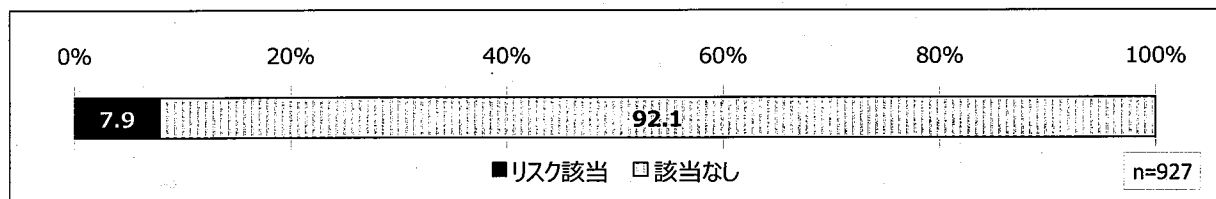
5項目の合計得点	2点以下	3点以上
運動器の機能低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n値が設問により異なります。

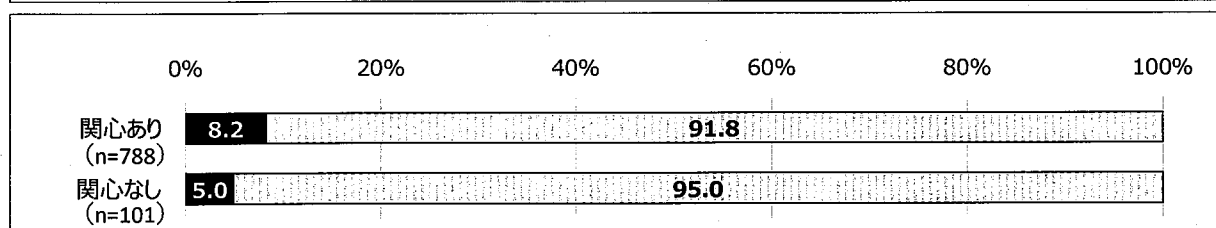
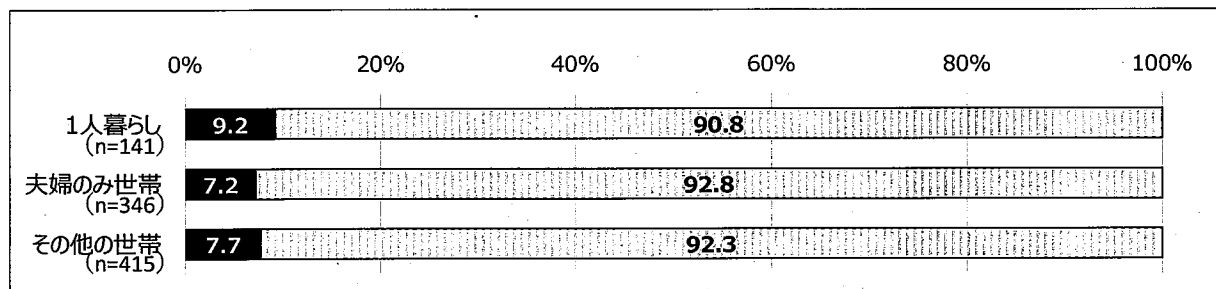
運動器の機能低下のリスク該当率は7.9%となっています。

家族構成別にみると、1人暮らしでリスク該当率がやや高くなっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうがリスク該当率は高くなっています。



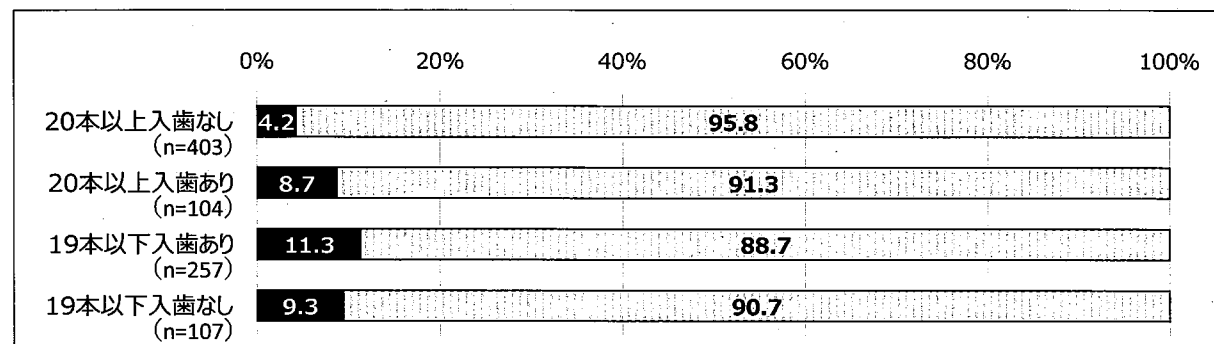
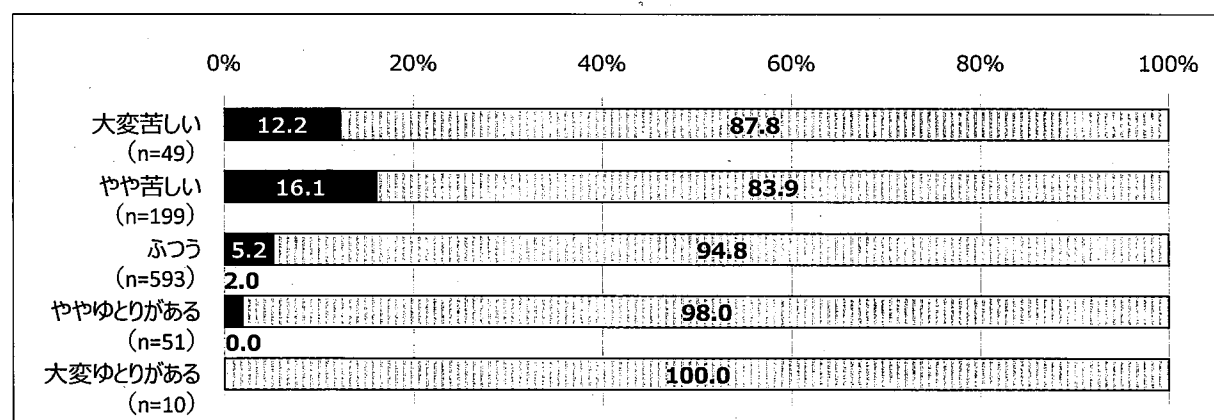
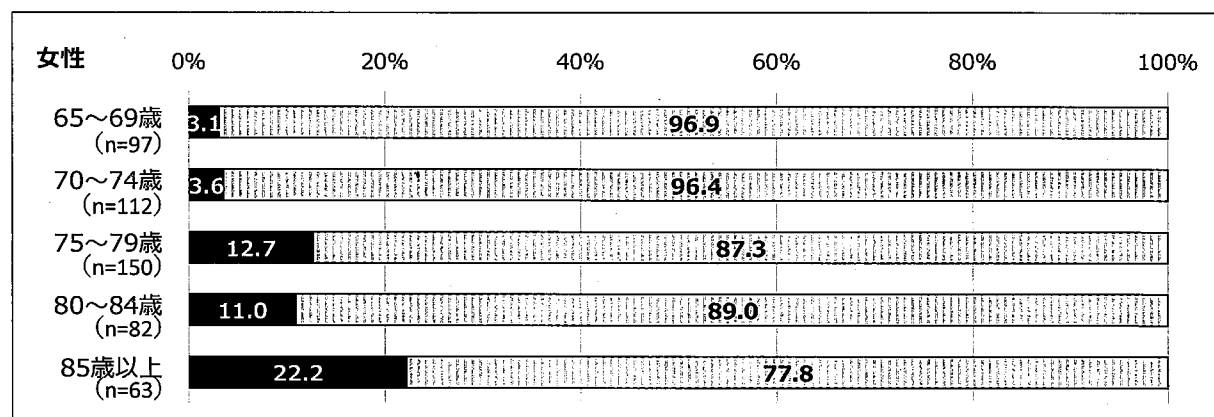
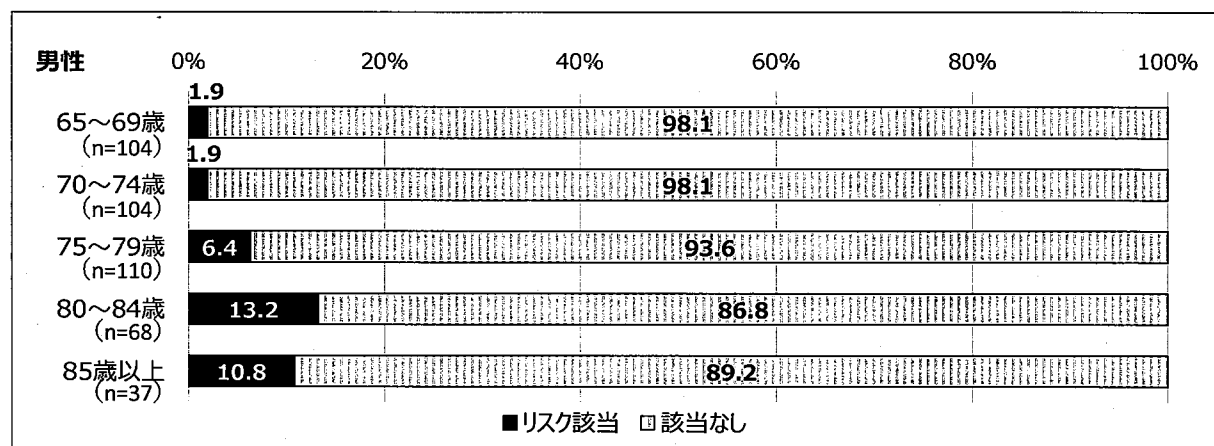
※ 令和4年の前回調査とは判断基準が異なるため比較していません。



性別・年齢別にみると、女性のほうがリスク該当率が高くなっています。

主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほどリスク該当率が低くなっています。

歯と入れ歯の状況別にみると、自分の歯が20本以上・入れ歯なし群でリスク該当率が低くなっています。



転倒

■転倒リスク 判定基準

設問	0 点	1 点
問 2 (4) この 1 年間に転んだ経験がありますか	3. ない	1. 何度もある 2. 1 度ある

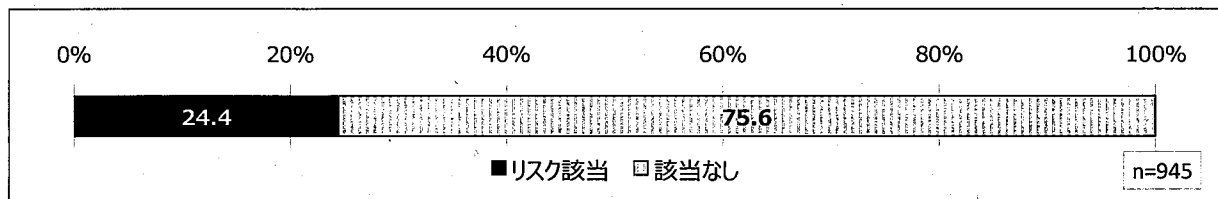
1 項目の合計得点	0 点	1 点
転倒リスク：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n 値が設問により異なります。

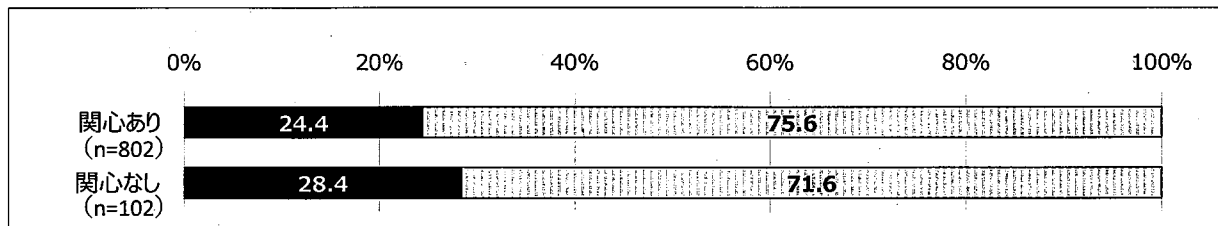
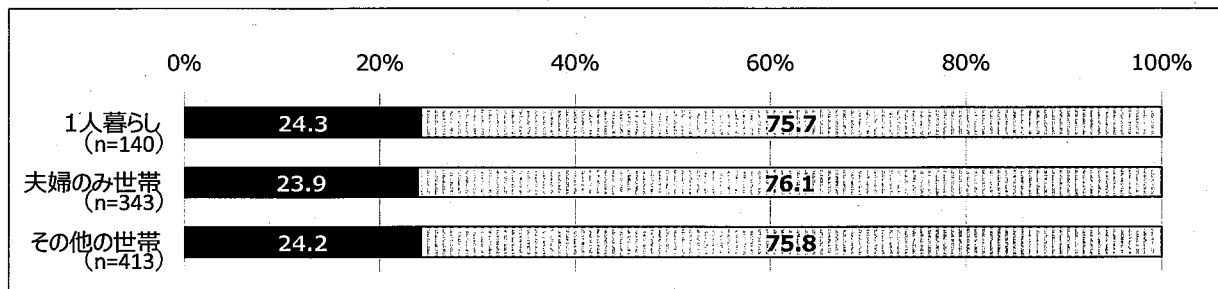
転倒のリスク該当者は 24.4%となっています。

家族構成別に明らかな傾向はみられませんでした。

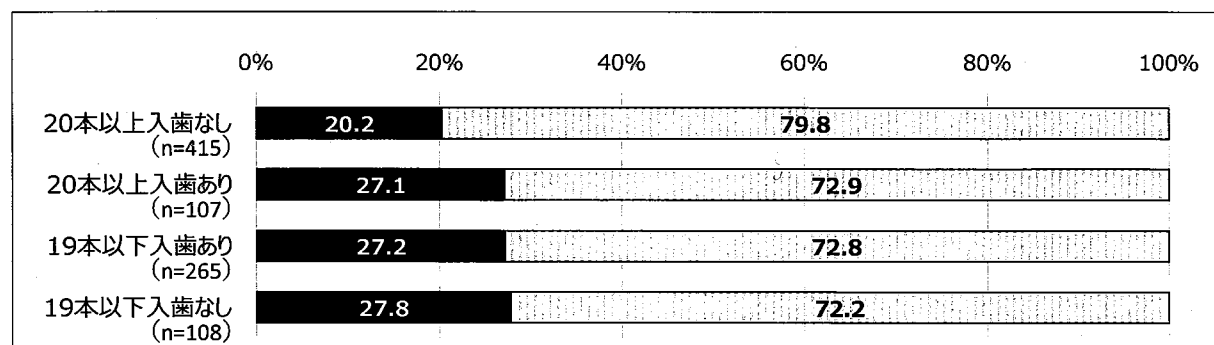
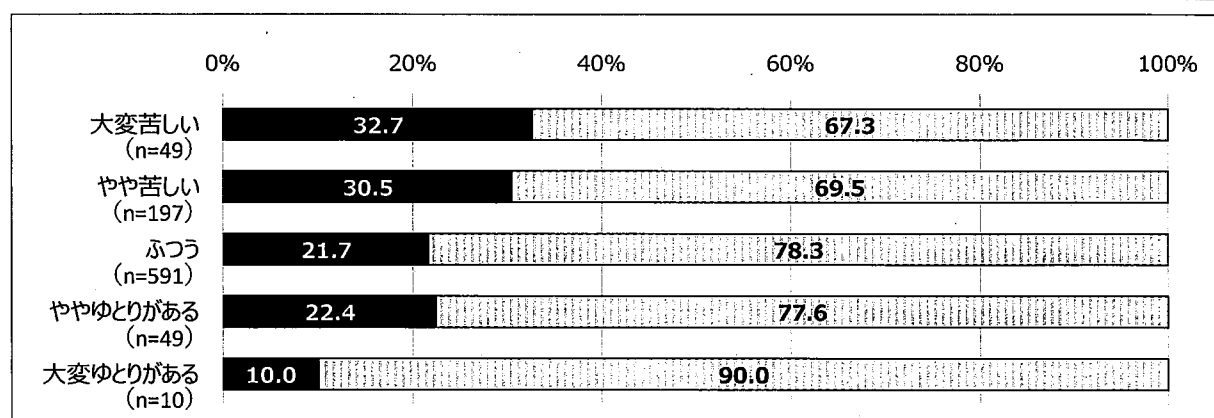
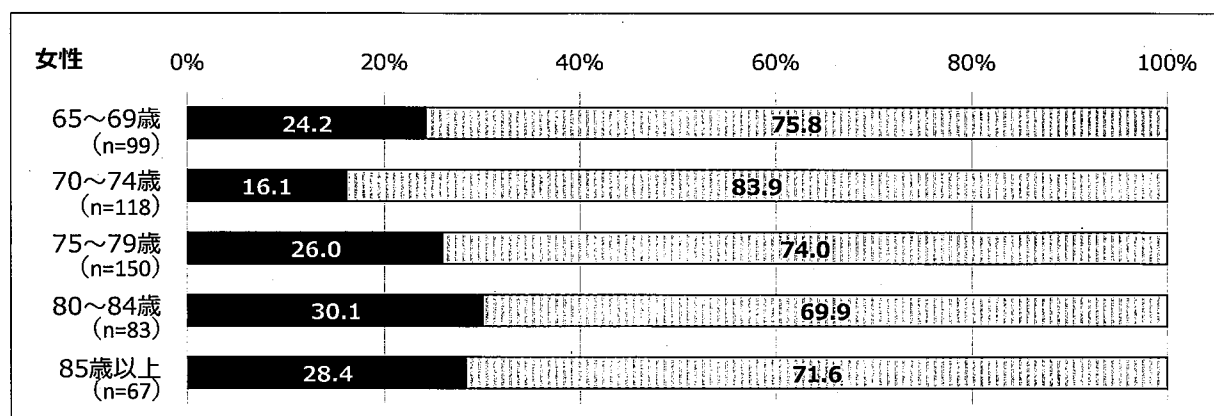
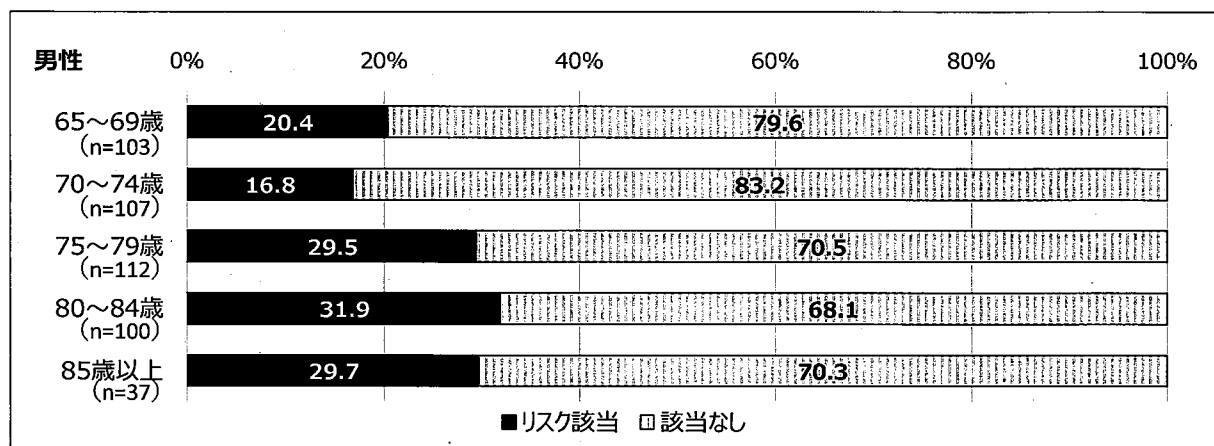
健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうがリスク該当率はやや低くなっています。



※ 令和 4 年の前回調査とは判断基準が異なるため比較していません。



性別・年齢別にみると、男性・女性ともに70～74歳でリスク該当率が低くなっています。
主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほどリスク該当率が低くなっています。
歯と入れ歯の状況別にみると、自分の歯が20本以上・入れ歯なし群でリスク該当率が低くなっています。



閉じこもり

閉じこもり傾向 判定基準

設問	0 点	1 点
問 2 (6) 週に 1 回以上は外出していますか	3. 週 2～4 回 4. 週 5 回以上	1. ほとんど外出しない 2. 週 1 回

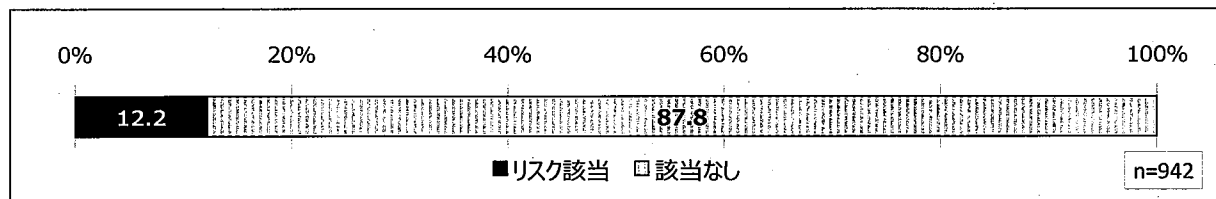
1 項目の合計得点	0 点	1 点
閉じこもり傾向：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n 値が設問により異なります。

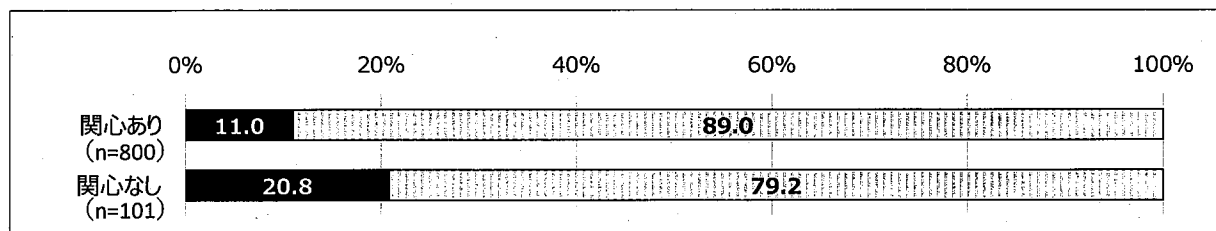
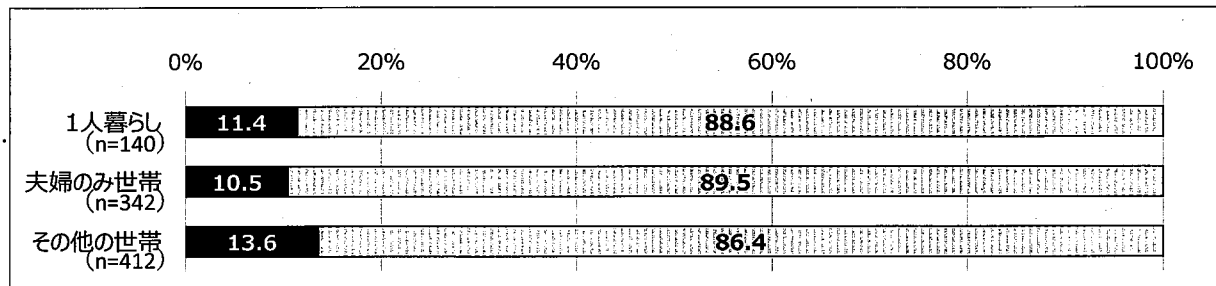
閉じこもりのリスク該当者は 12.2%となっています。

家族構成別にみると、その他の世帯でリスク該当率がやや高くなっています。

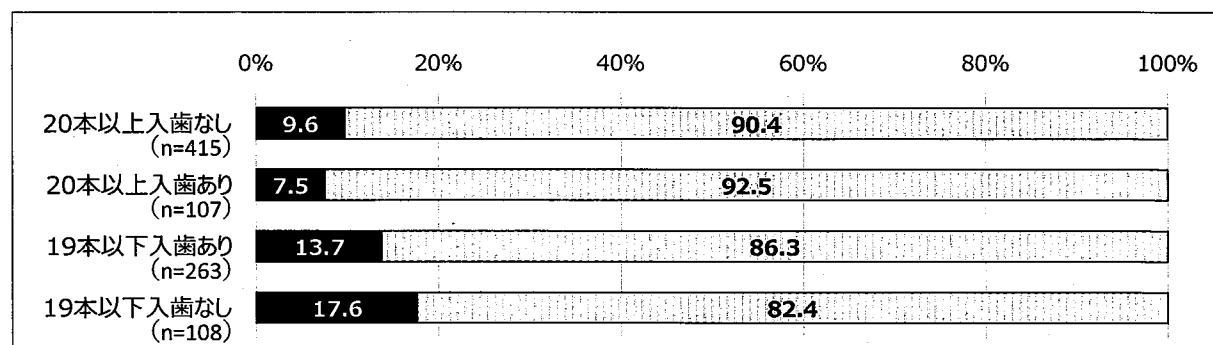
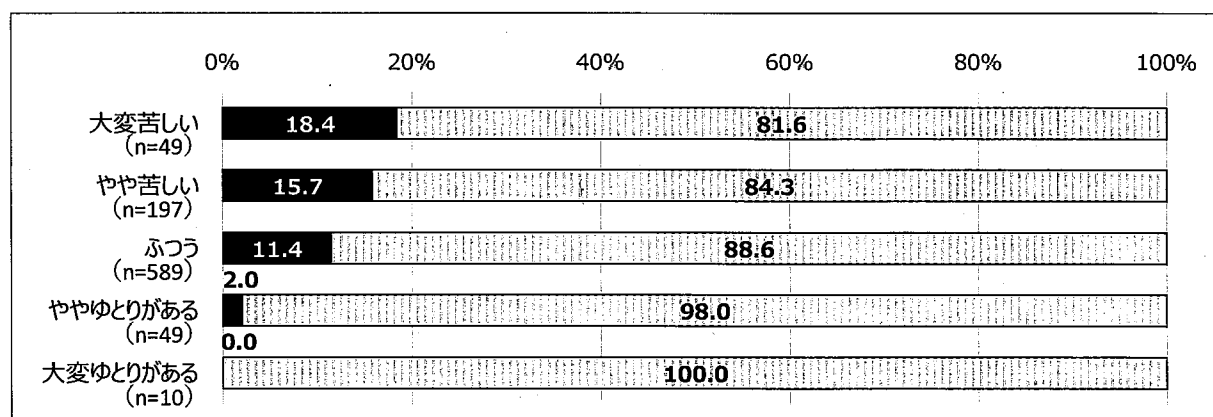
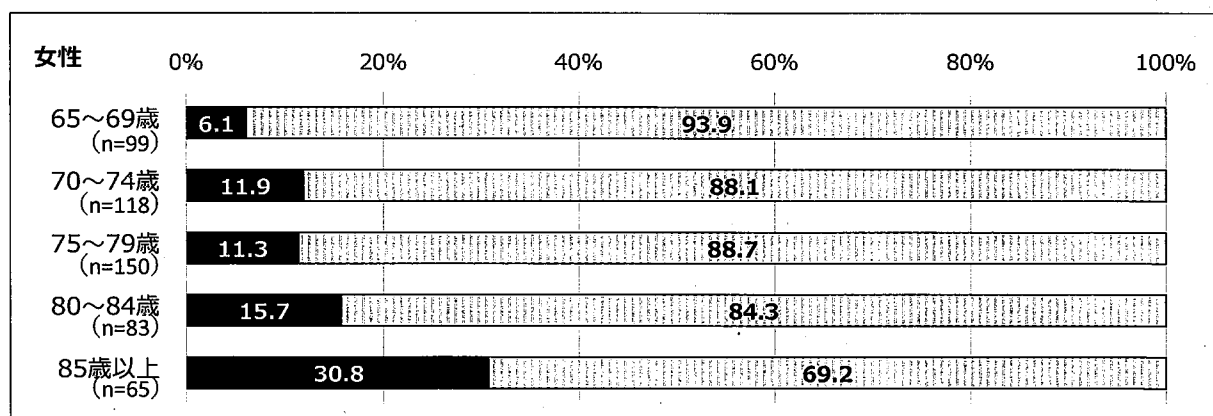
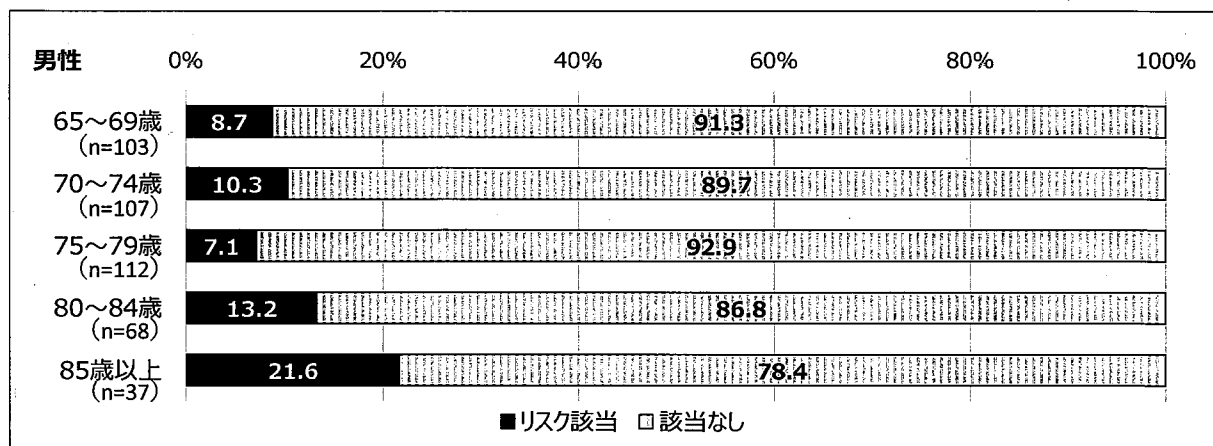
健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうがリスク該当率は低くなっています。



※ 令和 4 年の前回調査とは判断基準が異なるため比較していません。



性別・年齢別にみると、男性・女性ともに年齢が上がるほどリスク該当率が高くなっています。
主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうがリスク該当率が低くなっています。
歯と入れ歯の状況別にみると、自分の歯が 20 本以上ある群でリスク該当率が低くなっています。



低栄養

■ 低栄養の傾向 判定基準

設問	0点	1点
問3(1) BMI(身長・体重)	2. 18.5~25.0未満 3. 25.0以上	1. 18.5未満
問3(7) 6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	2. いいえ	1. はい

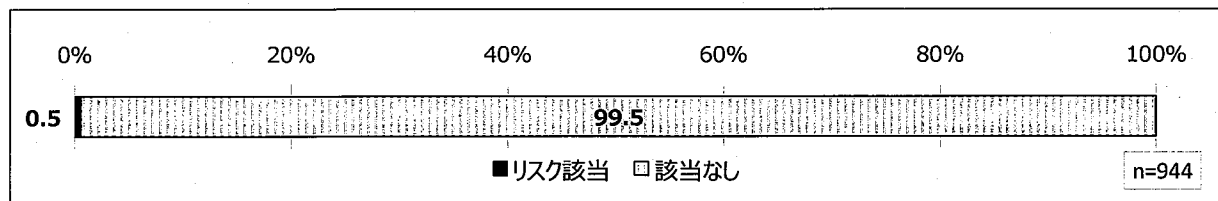
2項目の合計得点	1点以下	2点
低栄養の傾向：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n値が設問により異なります。

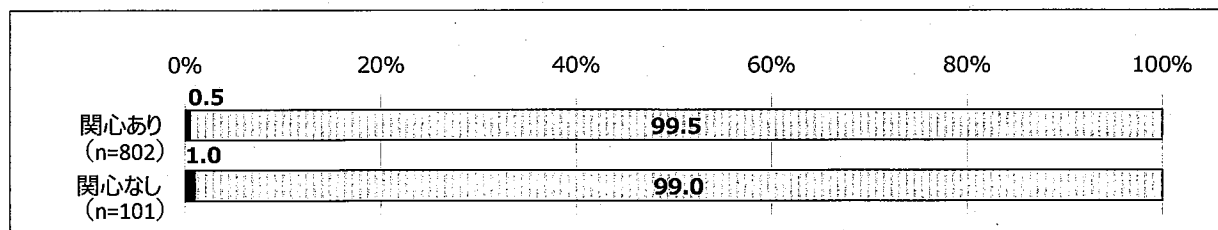
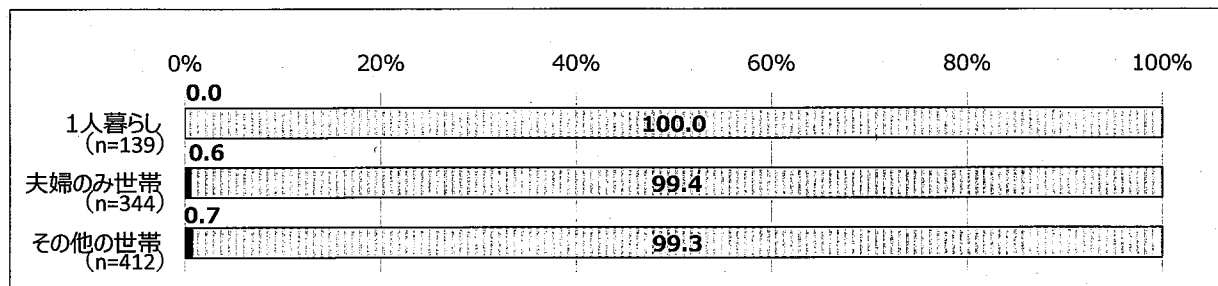
低栄養のリスク該当者は0.5%となっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯はリスク該当者がいませんでした。

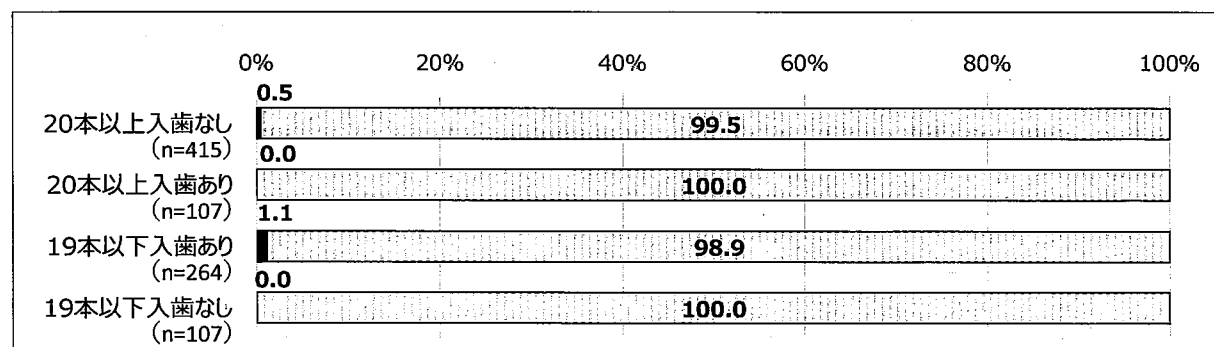
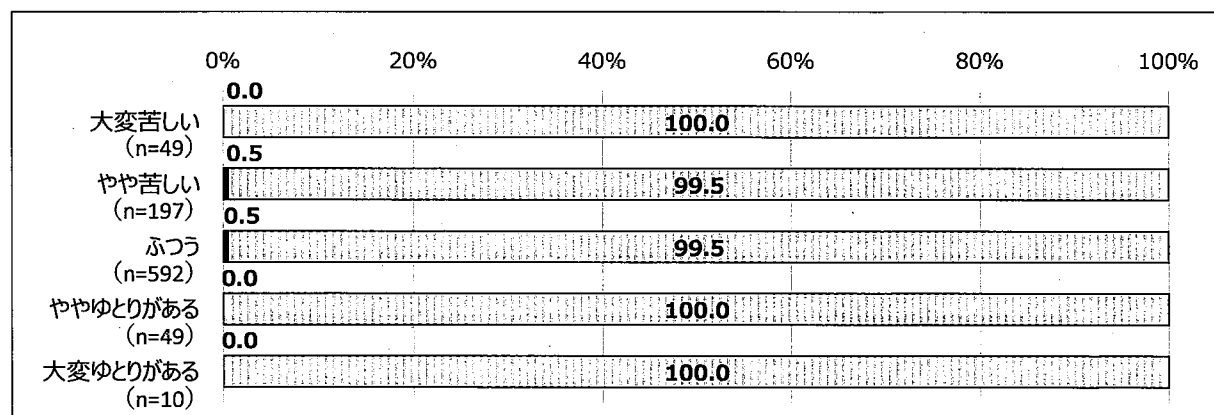
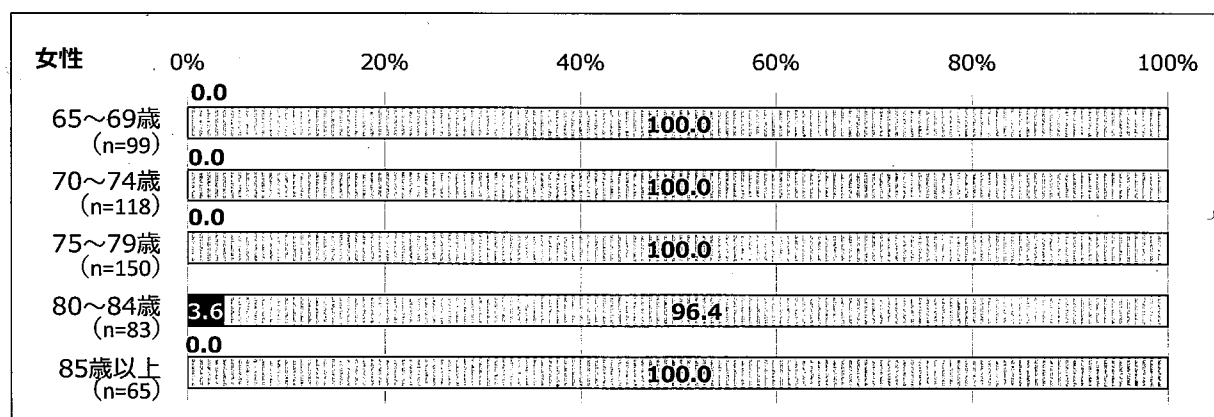
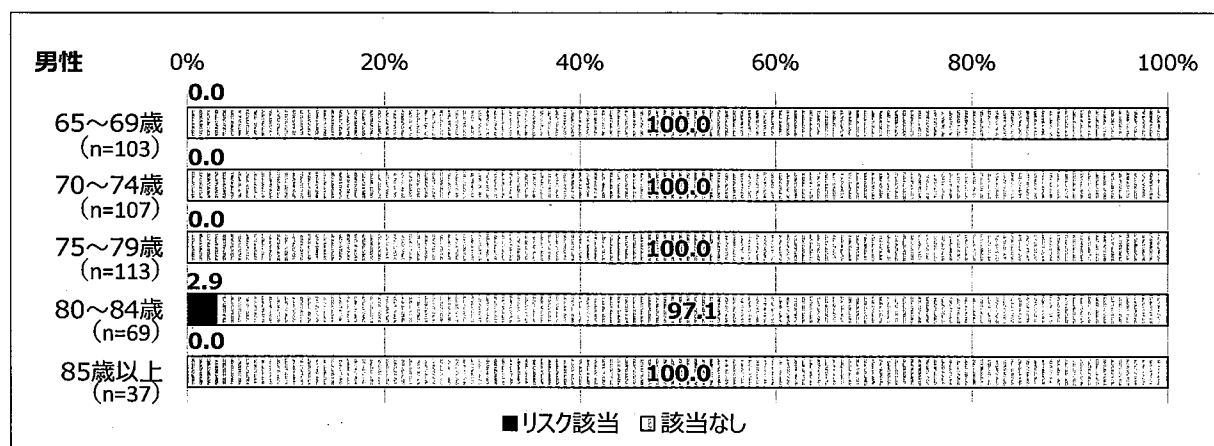
健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうがリスク該当率は低くなっています。



※ 令和4年の前回調査とは判断基準が異なるため比較していません。



性別・年齢別にみると、男性・女性ともにリスク該当者は80～84歳のみとなっています。
主観的経済状況別に明らかな傾向はみられませんでした。
歯と入れ歯の状況別に明らかな傾向はみられませんでした。



口腔機能の低下

■ 口腔機能の低下 判定基準

設問	0点	1点
問3(2) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	2. いいえ	1. はい
問3(3) お茶や汁物などでむせることがありますか	2. いいえ	1. はい
問3(4) 口の渇きが気になりますか	2. いいえ	1. はい

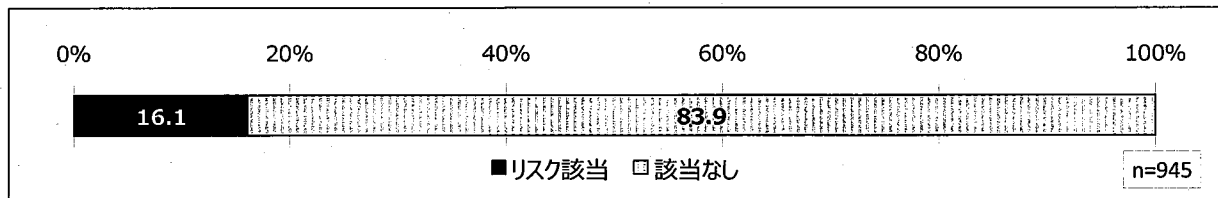
3項目の合計得点	1点以下	2点以上
口腔機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n値が設問により異なります。

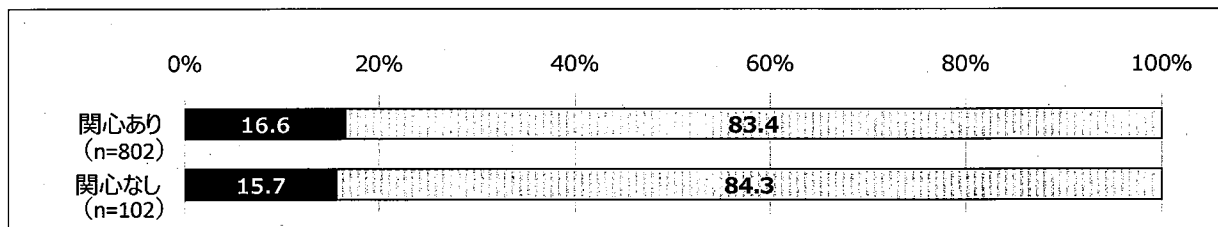
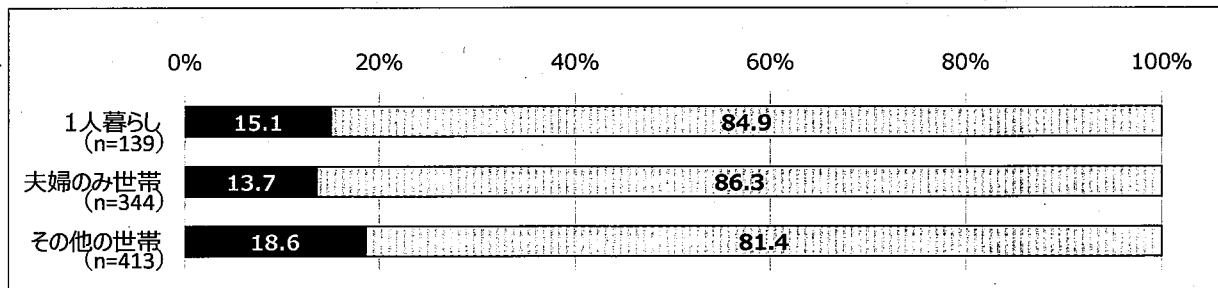
口腔機能の低下のリスク該当者は16.1%となっています。

家族構成別にみると、その他の世帯でリスク該当率が高くなっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうがリスク該当率はやや高くなっています。



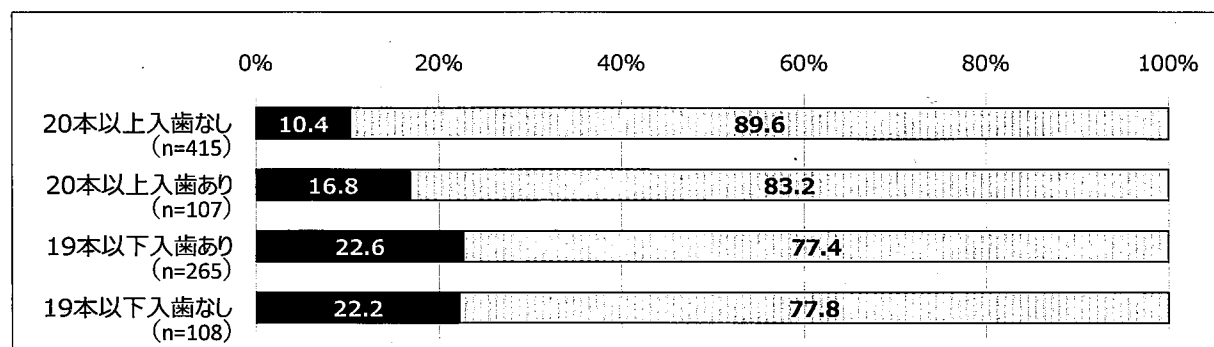
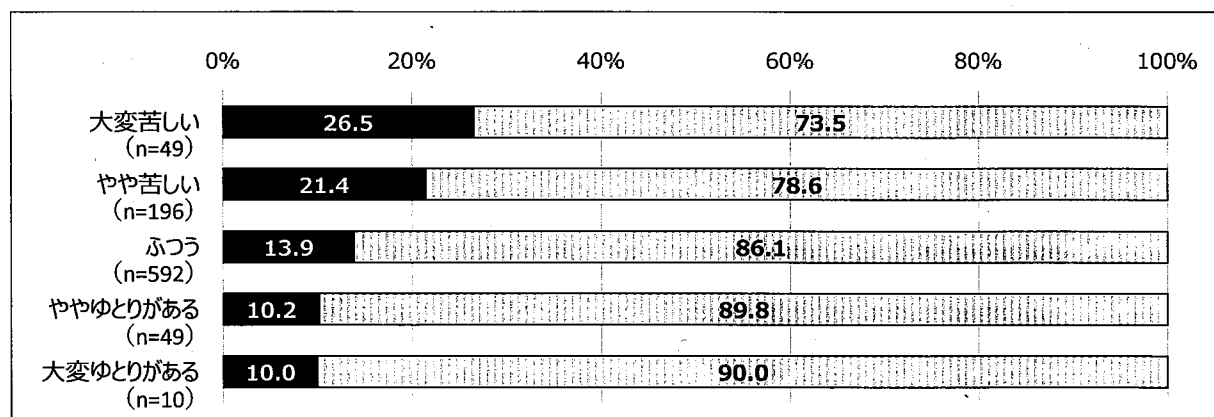
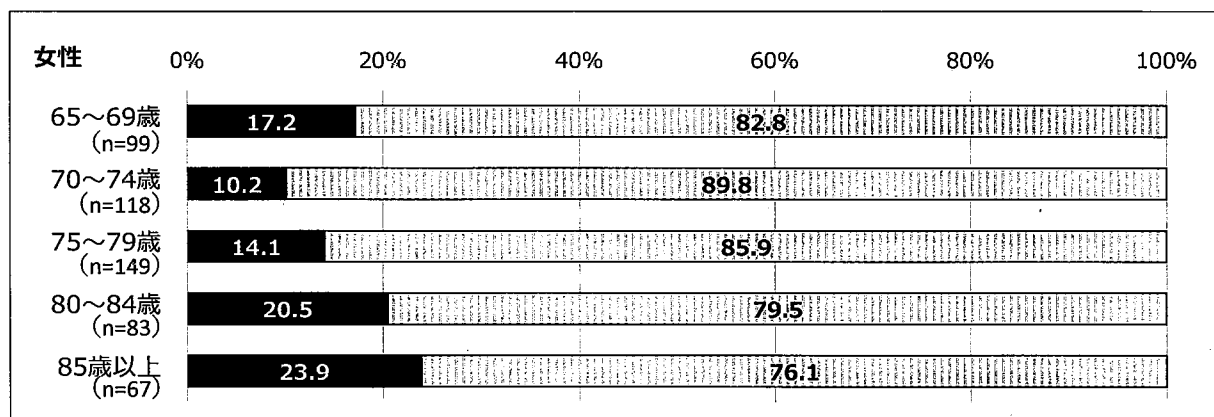
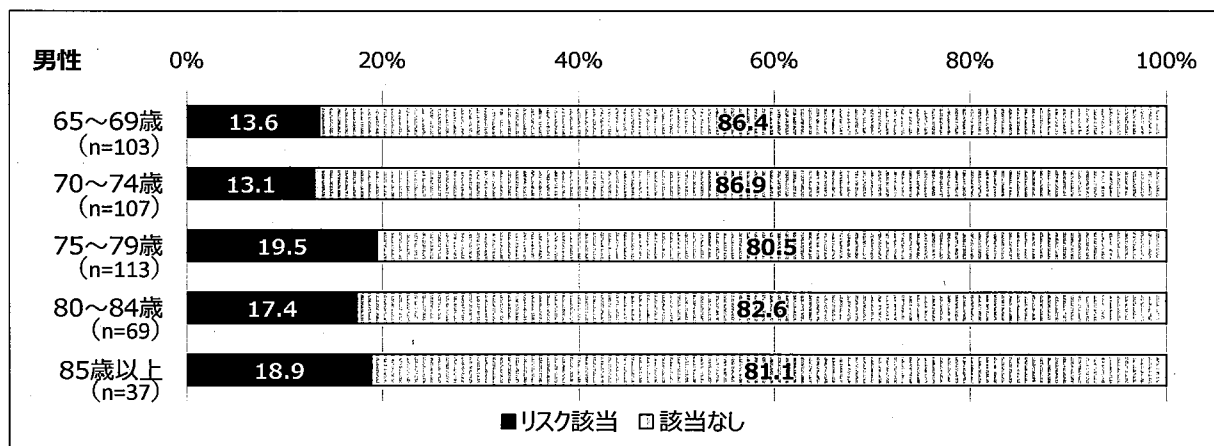
※ 令和4年の前回調査とは判断基準が異なるため比較していません。



性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうがリスク該当率が低くなっています。

歯と入れ歯の状況別にみると、自分の歯が20本以上・入れ歯なし群でリスク該当率が低くなっています。



認知機能の低下

■ 認知機能の低下 判定基準

設問	0 点	1 点
問 4 (1) 物忘れが多いと感じますか	2. いいえ	1. はい

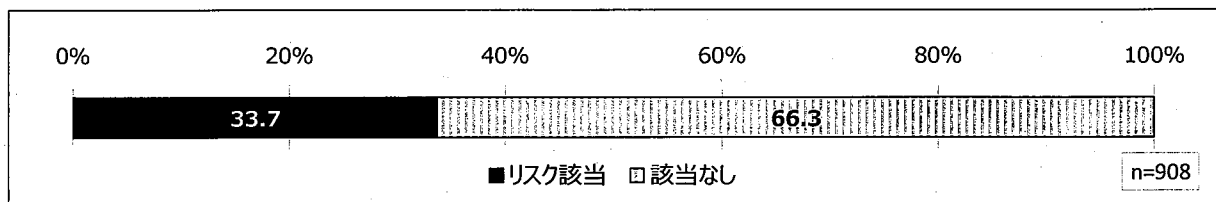
1 項目の合計得点	0 点	1 点
認知機能の低下：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n 値が設問により異なります。

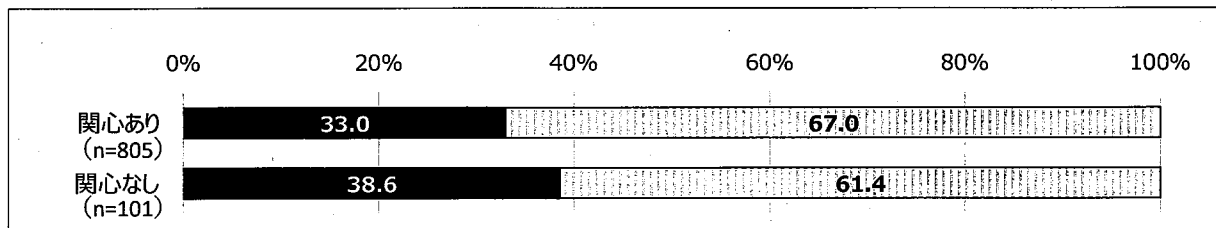
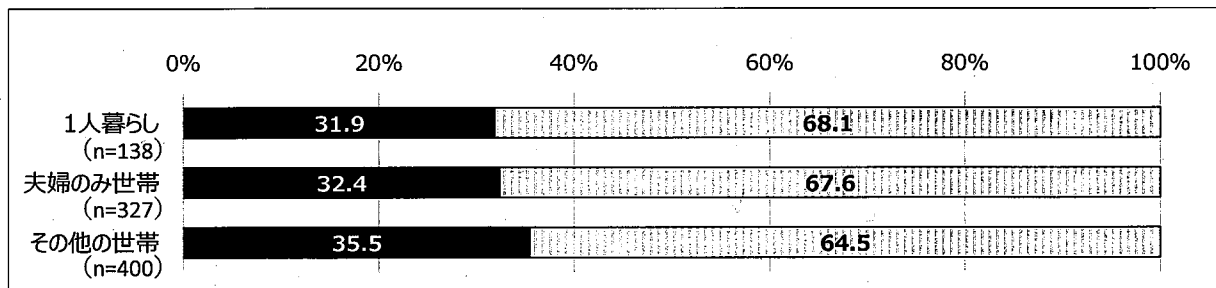
認知機能の低下のリスク該当者は 33.7%となっています。

家族構成別にみると、その他の世帯でリスク該当率が高くなっています。

健康への関心の有無別にみると、健康に関心があるほうがリスク該当率は低くなっています。



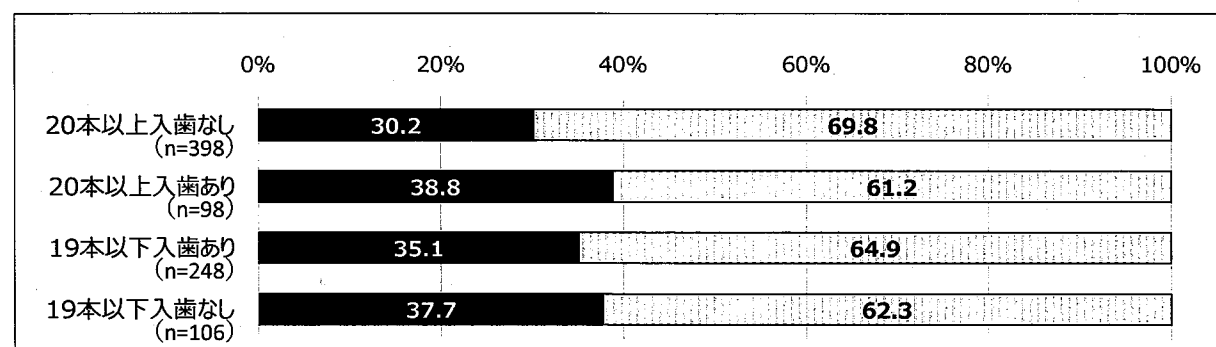
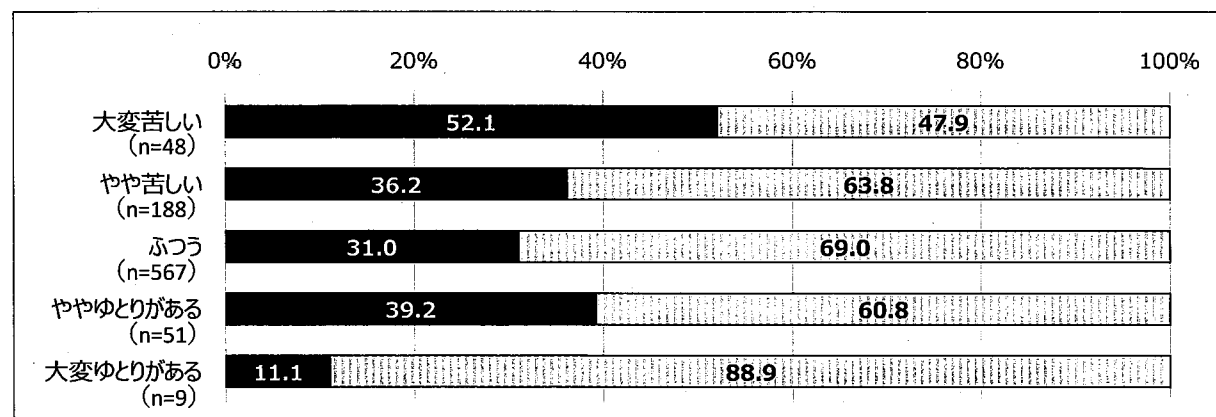
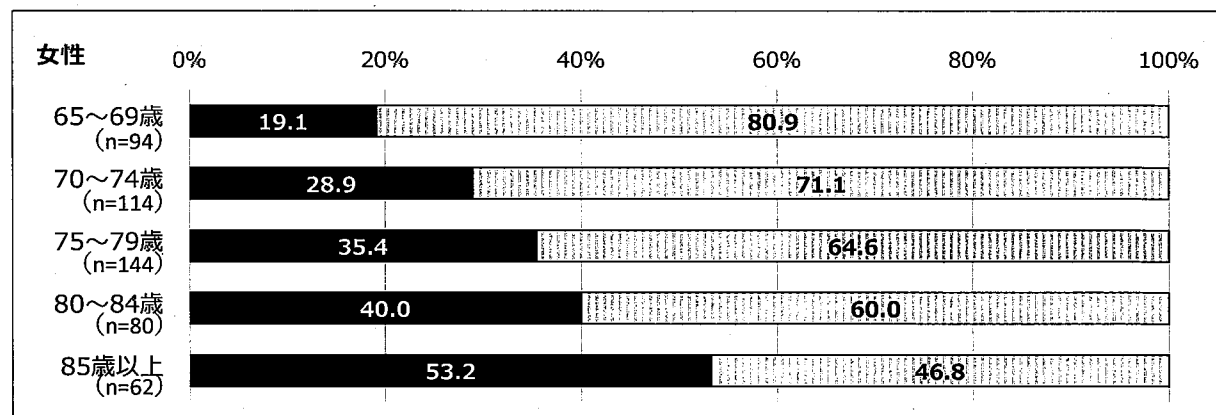
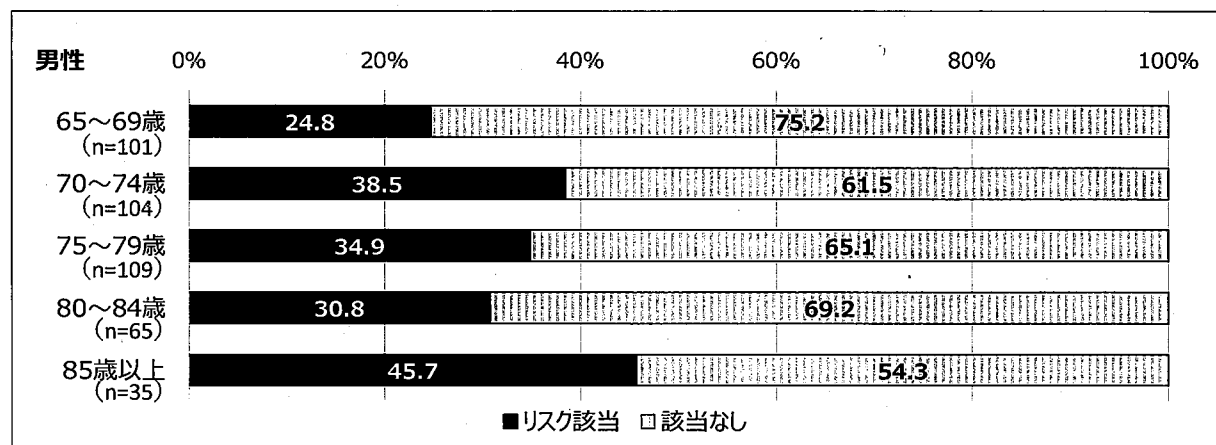
※ 令和 4 年の前回調査とは判断基準が異なるため比較していません。



性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほどリスク該当率が高くなる傾向がみられますが、男性は年齢による明らかな傾向はみられませんでした。

主観的経済状況別にみると、大変苦しいと感じている群でリスク該当率が高くなっています。

歯と入れ歯の状況別にみると、自分の歯が20本以上・入れ歯なし群でリスク該当率が低くなっています。



うつ傾向

■うつ傾向 判定基準

設問	0点	1点
問7(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	2. いいえ	1. はい
問7(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	2. いいえ	1. はい

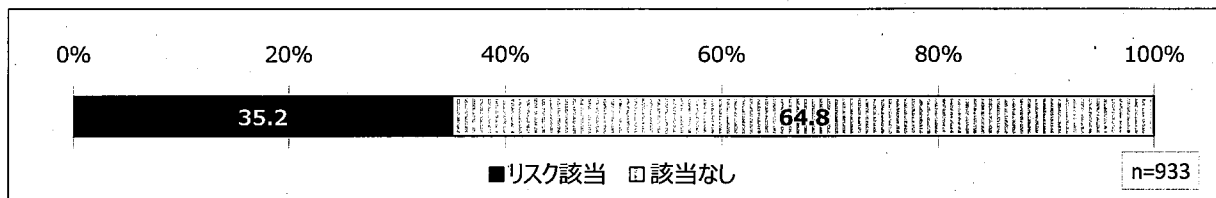
2項目の合計得点	0点	1点以上
うつ傾向：判定カテゴリ	該当なし	リスク該当

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n 値が設問により異なります。

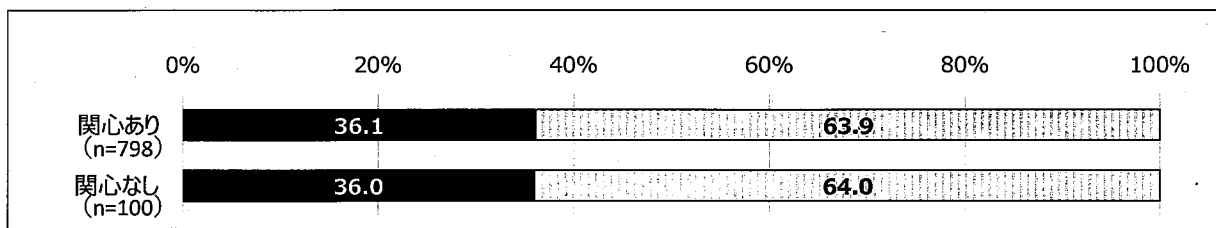
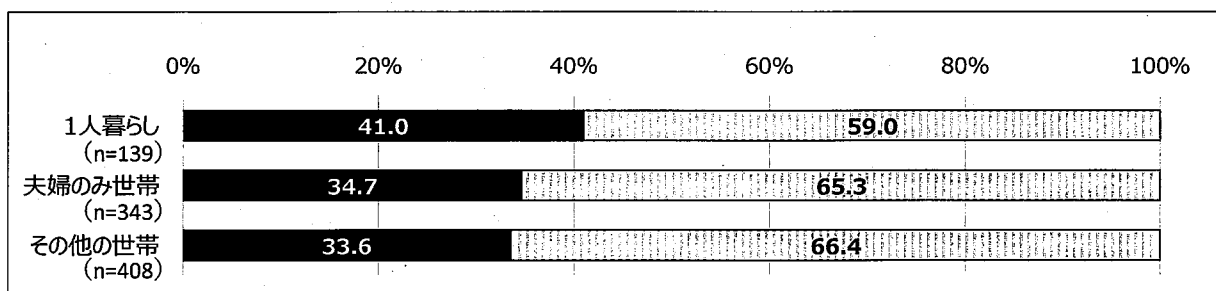
うつ傾向のリスク該当者は 35.2%となっています。

家族構成別にみると、1人暮らし世帯でリスク該当率が高くなっています。

健康への関心の有無別に明らかな傾向はみられませんでした。



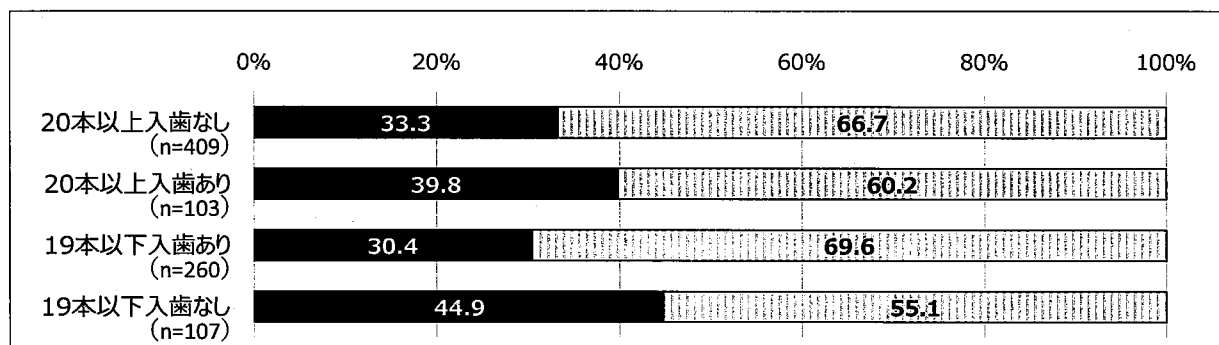
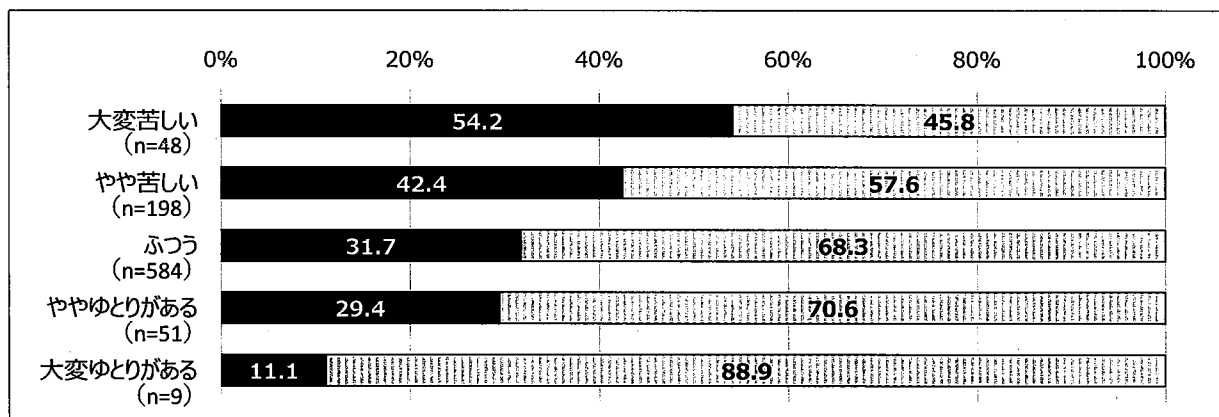
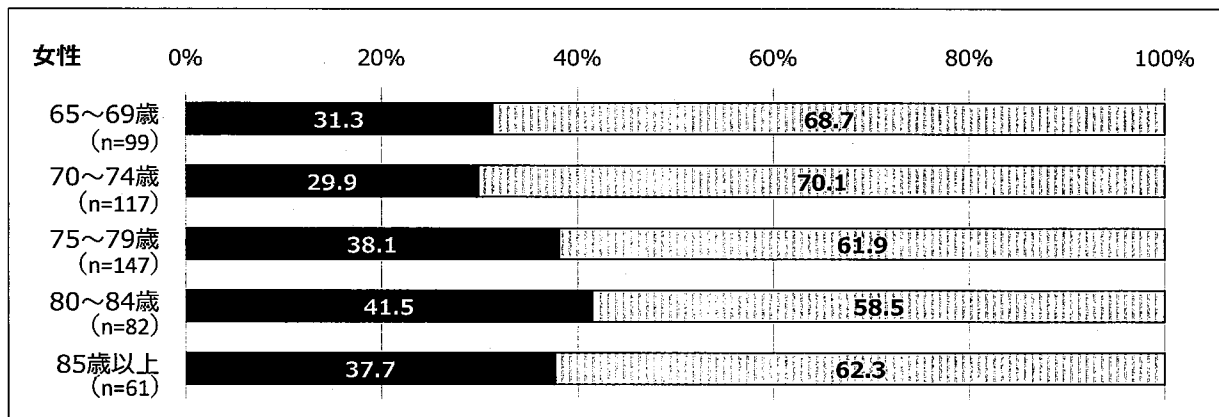
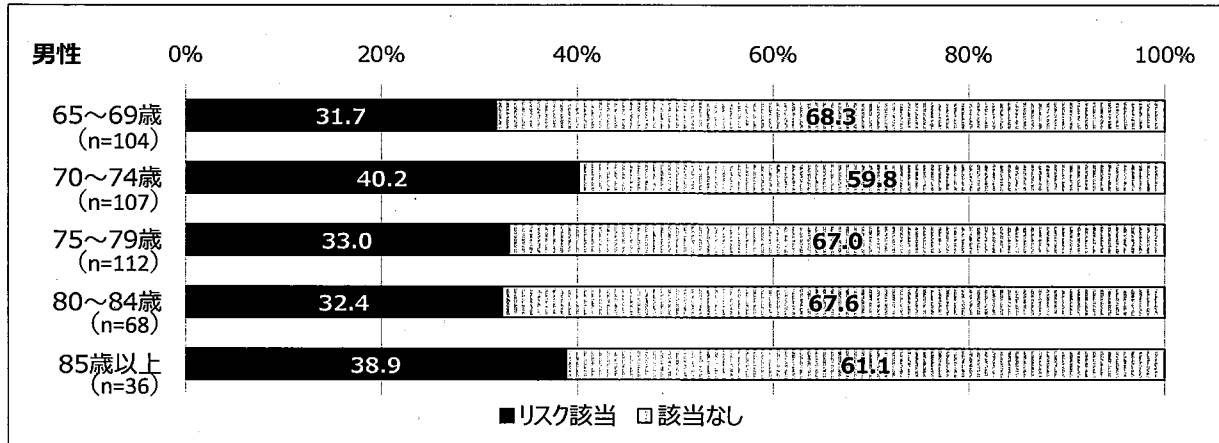
※ 令和4年の前回調査とは判断基準が異なるため比較していません。



性別・年齢別に明らかな傾向はみられませんでした。

主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほどリスク該当率は低くなっています。

歯と入れ歯の状況別に明らかな傾向はみられませんでした。自分の歯が19本以下・入れ歯なし群でリスク該当率が高くなっています。



IADL（手段的 ADL）

■ IADL 判定基準

設問	0 点	1 点
問 4（5） バスや電車を使って 1 人で外出していますか （自家用車でも可）	3. できない	1. できるししている 2. できるけどしていない
問 4（6） 自分で食品・日用品の買い物をしていますか	3. できない	1. できるししている 2. できるけどしていない
問 4（7） 自分で食事の用意をしていますか	3. できない	1. できるししている 2. できるけどしていない
問 4（8） 自分で請求書の支払いをしていますか	3. できない	1. できるししている 2. できるけどしていない
問 4（9） 自分で預貯金の出し入れをしていますか	3. できない	1. できるししている 2. できるけどしていない

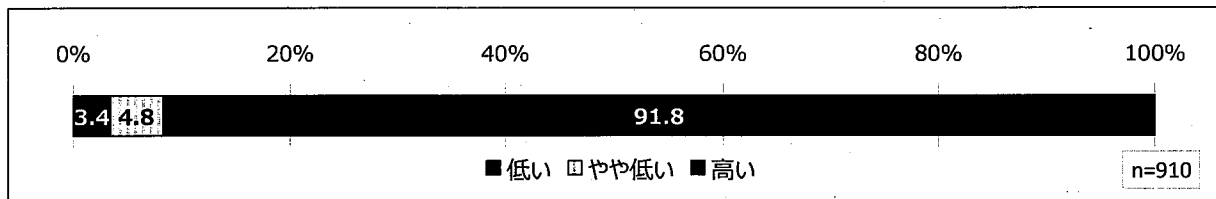
5 項目の合計得点	3 点以下	4 点	5 点
IADL：判定カテゴリ	低い	やや低い	高い

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n 値が設問により異なります。

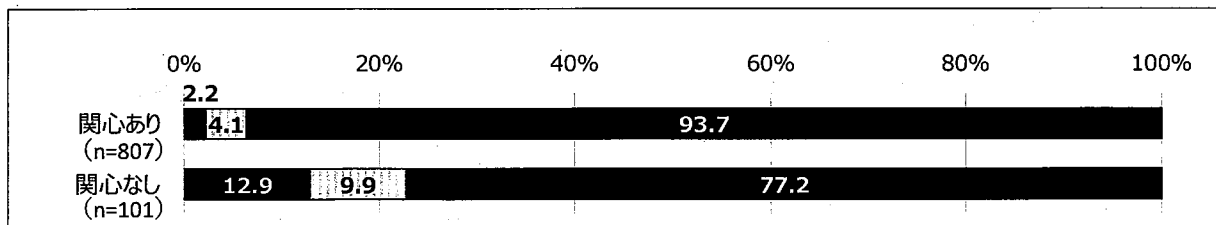
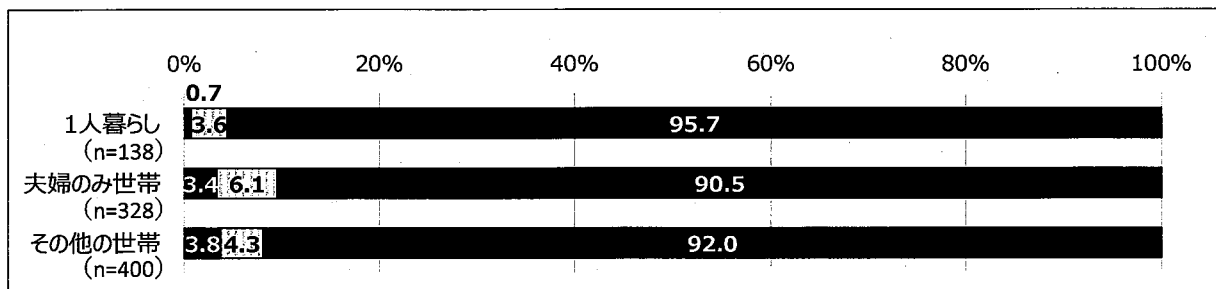
「高い」の割合が 91.8%となっています。

家族構成別にみると、1 人暮らし世帯で「高い」の割合が高くなっています。

健康への関心の有無別にみると、関心があるほうが「高い」の割合が高くなっています。



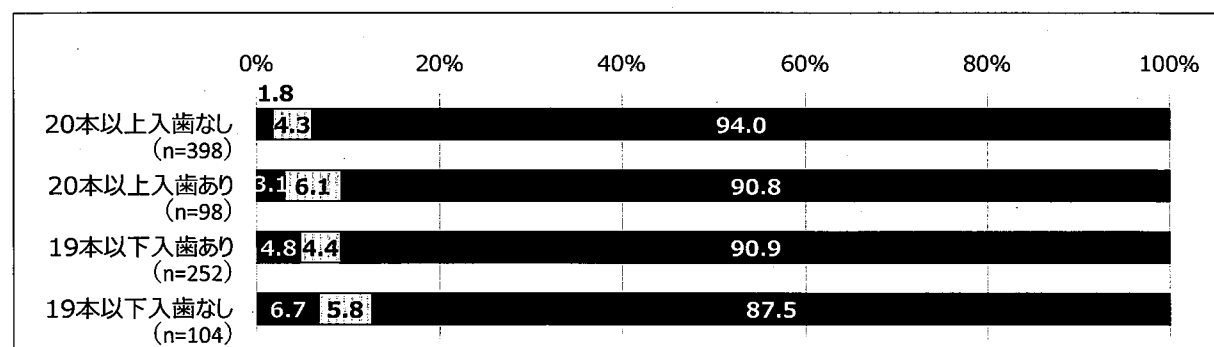
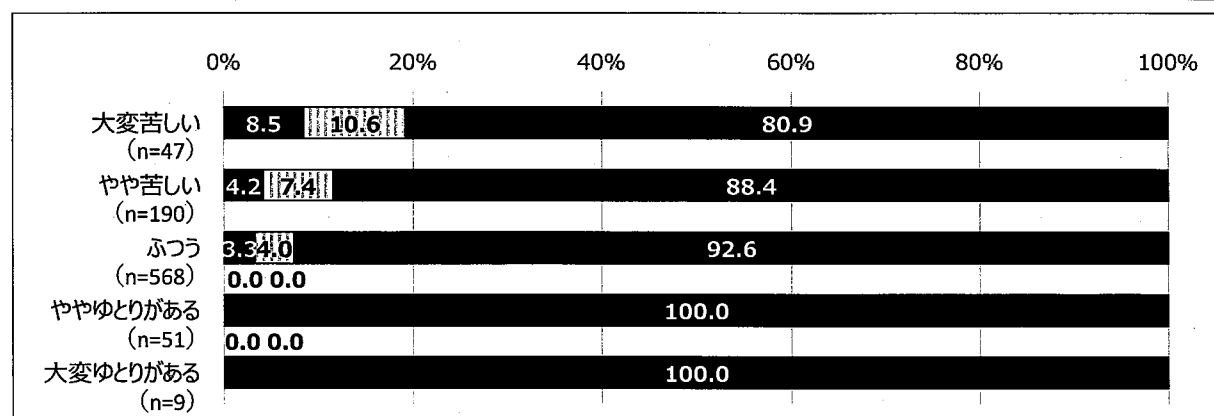
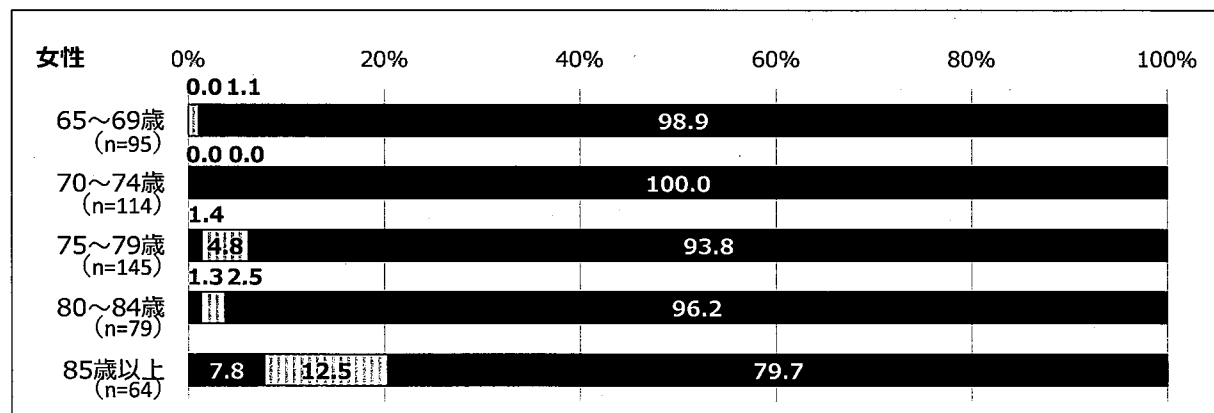
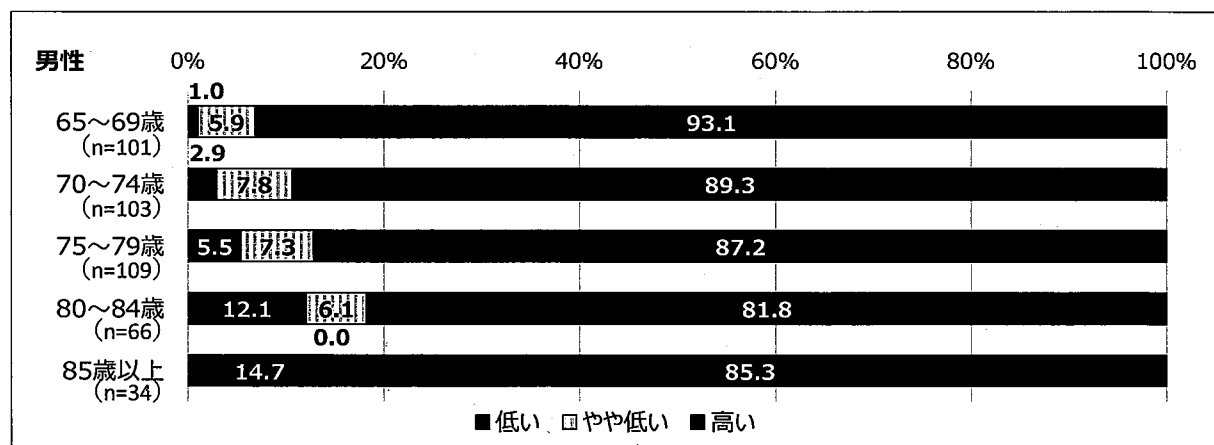
※ 令和 4 年の前回調査では判定していません。



性別・年齢別にみると、女性のほうが「高い」の割合が高くなっていますが、男性・女性ともに年齢が上がるほど「低い」の割合が高くなる傾向がみられます。

主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほど「高い」の割合が高くなっています。

歯と入れ歯の状況別にみると、自分の歯が 20 本以上・入れ歯なし群で「高い」の割合が高くなっています。



知的能動性（知的 ADL）

■ 知的能動性 判定基準

設問	0 点	1 点
問 4 (10) 年金などの書類が書けますか	2. いいえ	1. はい
問 4 (11) 新聞を読んでいますか	2. いいえ	1. はい
問 4 (12) 本や雑誌を読んでいますか	2. いいえ	1. はい
問 4 (13) 健康についての記事や番組に関心がありますか	2. いいえ	1. はい

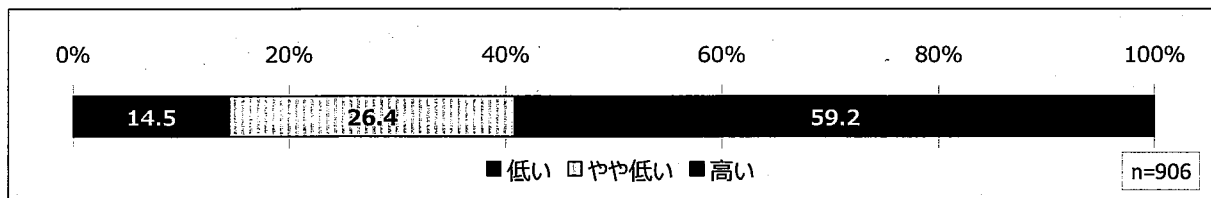
4 項目の合計得点	2 点以下	3 点	4 点
知的能動性：判定カテゴリ	低い	やや低い	高い

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n 値が設問により異なります。

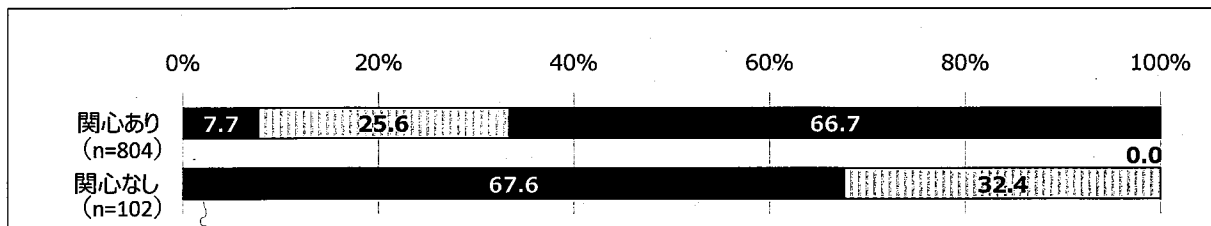
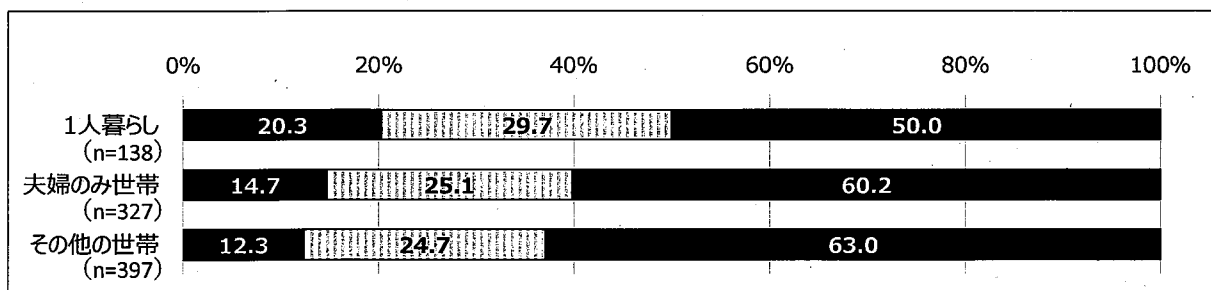
「低い」の割合が 14.5%、「やや低い」が 26.4%で、「高い」は 59.2%となっています。

家族構成別にみると、1 人暮らし世帯で「高い」の割合が低くなっています。

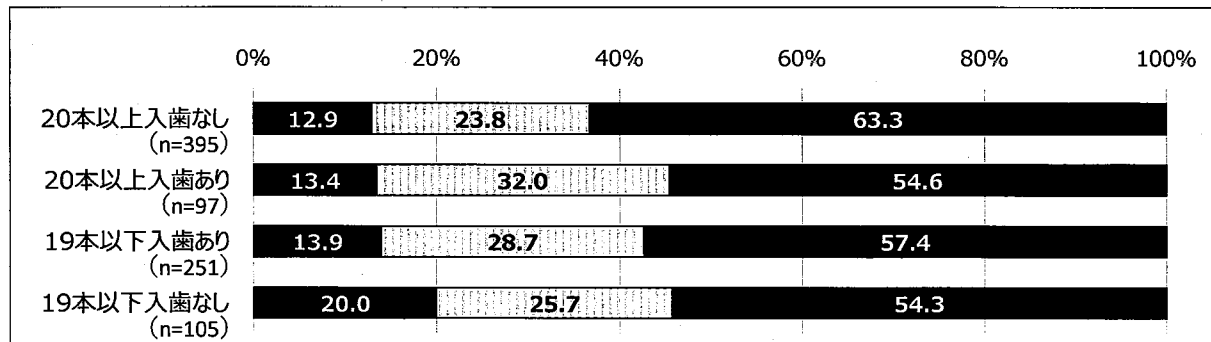
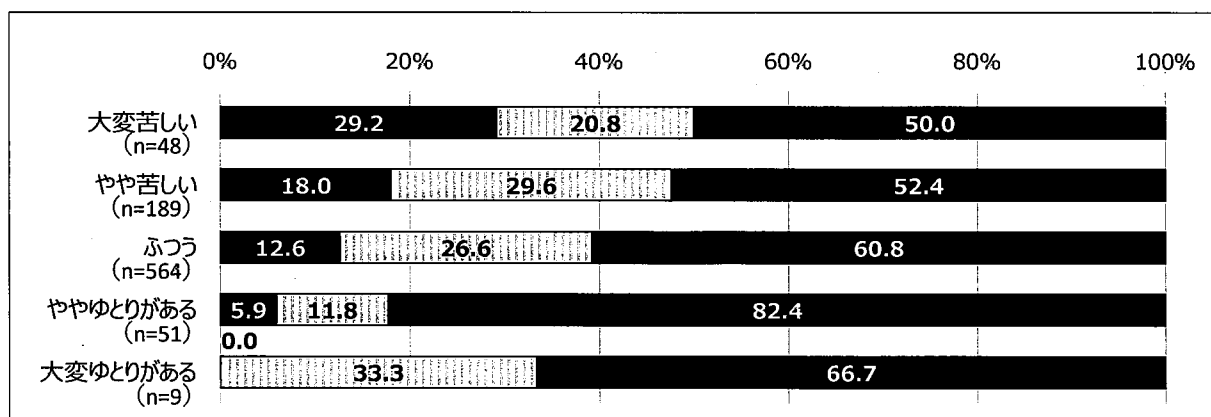
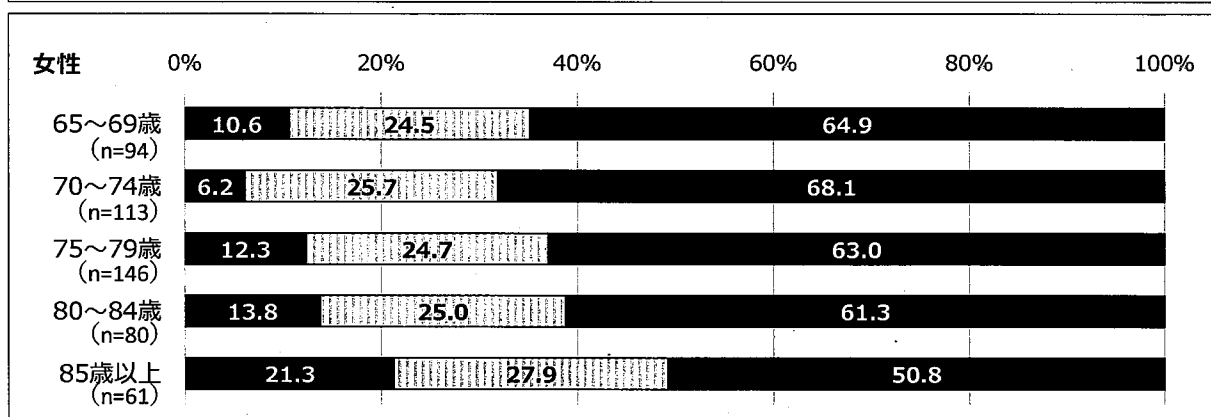
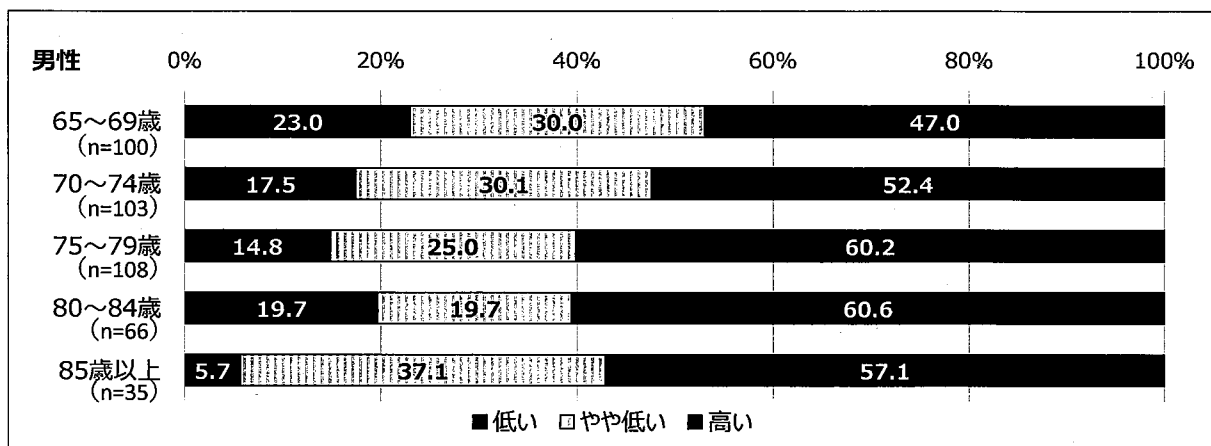
健康への関心の有無別にみると、関心がない群は「低い」の割合が高く 67.6%となっています。



※ 令和 4 年の前回調査では判定していません。



性別・年齢別にみると、女性は年齢が上がるほど「低い」の割合が高くなる傾向がみられます。
主観的経済状況別にみると、経済的に苦しいほど「低い」の割合が高くなっています。
歯と入れ歯の状況別にみると、自分の歯が20本以上・入れ歯なし群で「高い」の割合がやや高くなっています。



社会的役割（社会的 ADL）

■ 社会的役割 判定基準

設問	0 点	1 点
問 4 (14) 友人の家を訪ねていますか	2. いいえ	1. はい
問 4 (15) 家族や友人の相談にのっていますか	2. いいえ	1. はい
問 4 (16) 病人を見舞うことができますか	2. いいえ	1. はい
問 4 (17) 若い人に自分から話しかけることがありますか	2. いいえ	1. はい

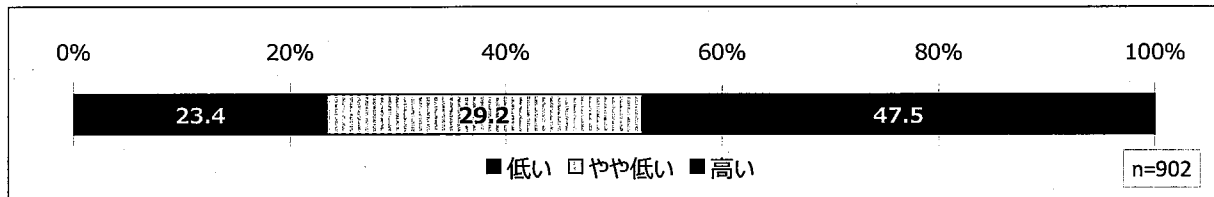
4 項目の合計得点	2 点以下	3 点	4 点
社会的役割：判定カテゴリ	低い	やや低い	高い

※ 判定項目の一部に無回答があり判定できないものを除いて算出しているため、n 値が設問により異なります。

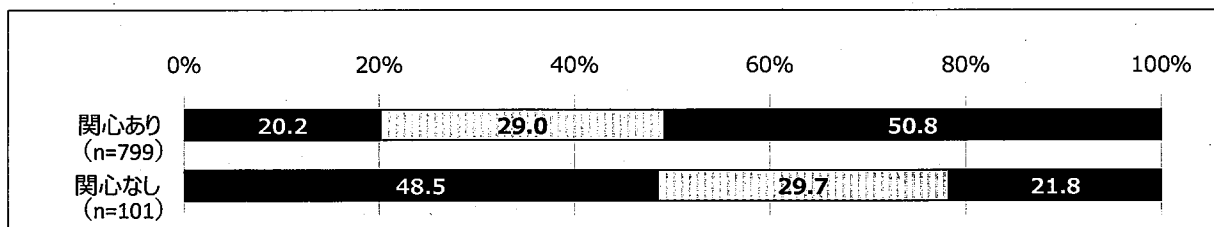
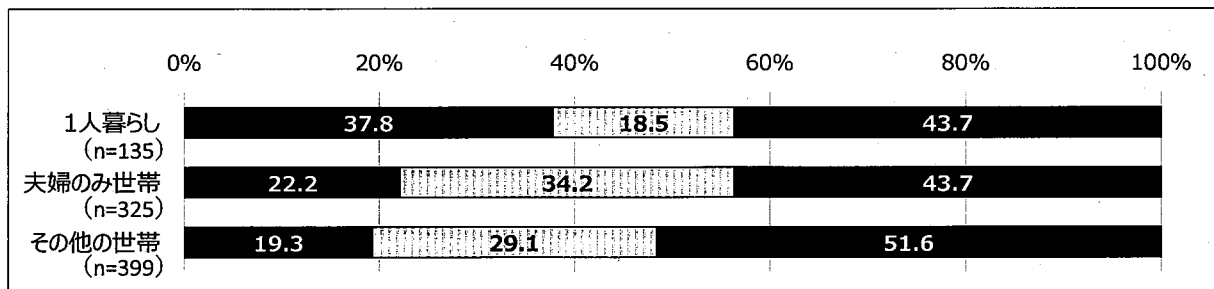
「低い」の割合が 23.4%、「やや低い」が 29.2%で、「高い」は 47.5%となっています。

家族構成別にみると、1 人暮らし世帯で「低い」の割合が高く、その他の世帯で「高い」の割合が高くなっています。

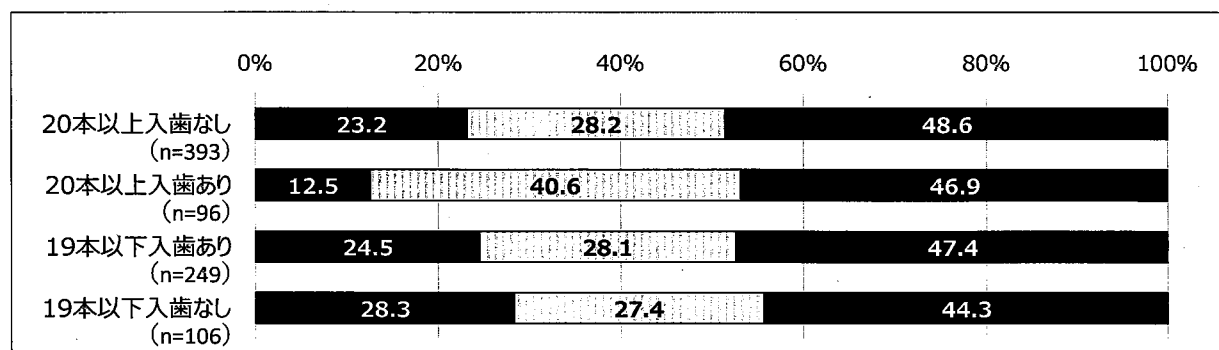
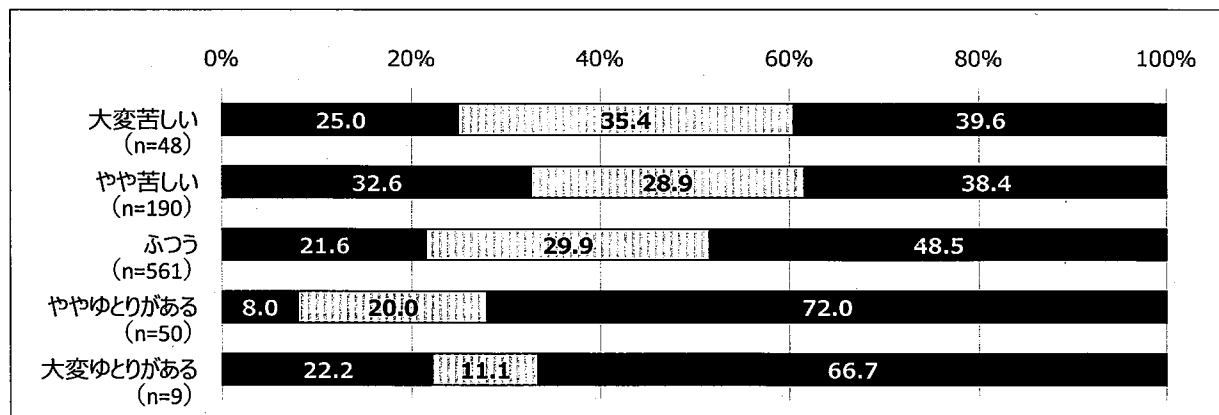
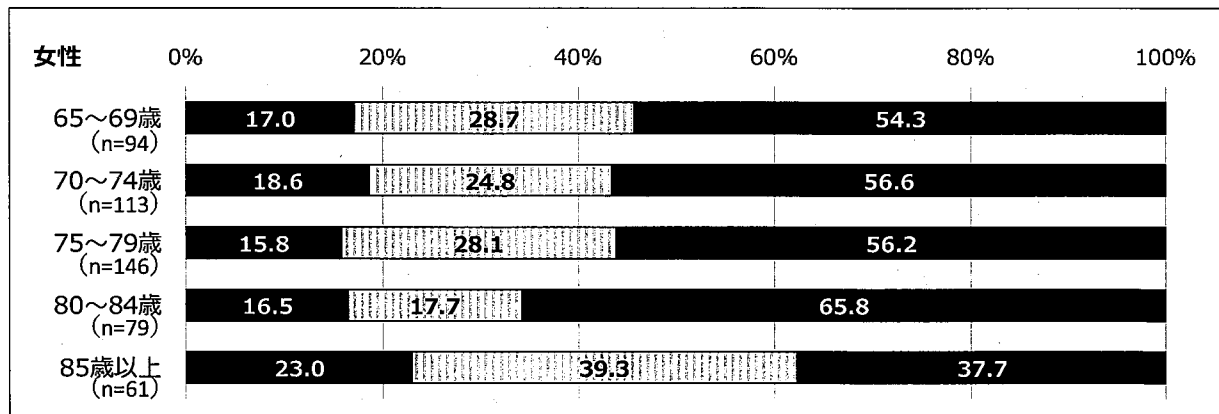
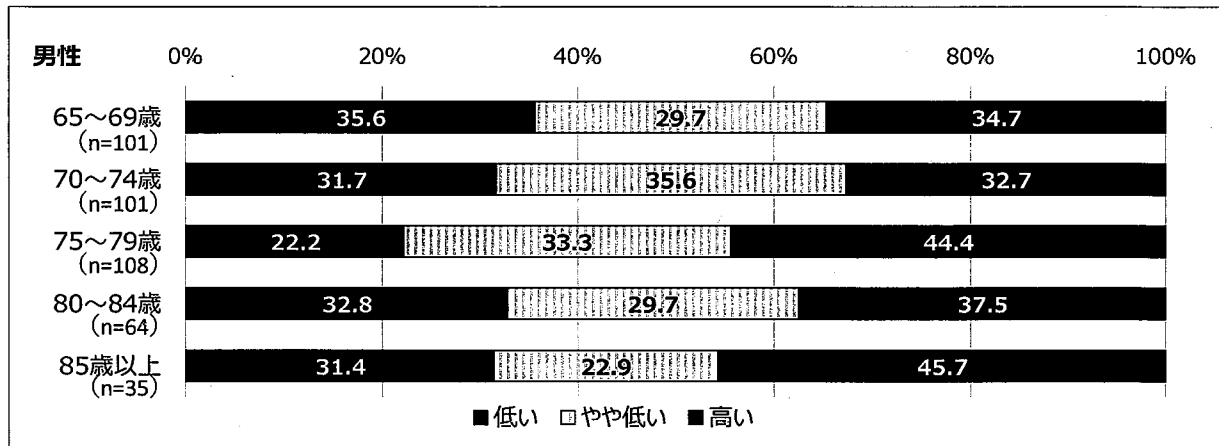
健康への関心の有無別にみると、関心がない群は「低い」の割合が高く 48.5%となっています。



※ 令和 4 年の前回調査では判定していません。



性別・年齢別にみると、女性のほうが「高い」の割合が高くなっています。
主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほど「高い」の割合が高くなっています。
歯と入れ歯の状況別に明らかな傾向はみられませんでした。



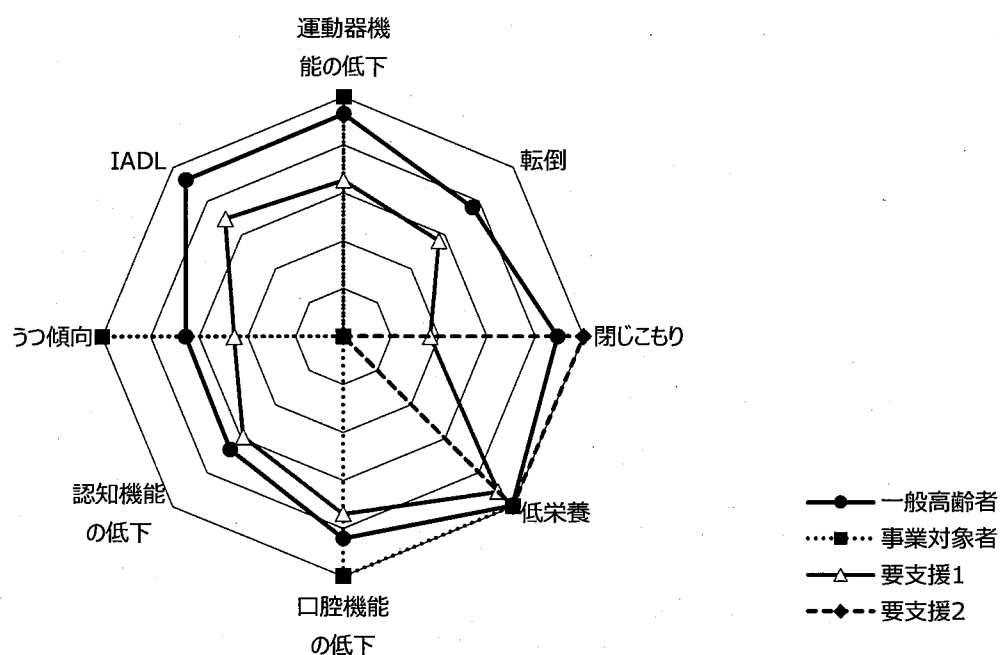
4 考察

リスク判定結果の分析

認定区分別 リスク判定結果

認定区分別に「リスク該当」の割合が高いほど中心部に近づくレーダーチャートにしてみると、今回の調査では総合事業対象者と要支援2は該当者数が1人だったため傾向の把握はできませんが、認定を受けていない一般高齢者と比較して、要支援1の人はすべての項目で「リスク該当」の割合が高くなっています。

特に閉じこもりのリスク該当率は、一般高齢者より52.7ポイント高い63.6%となっています。



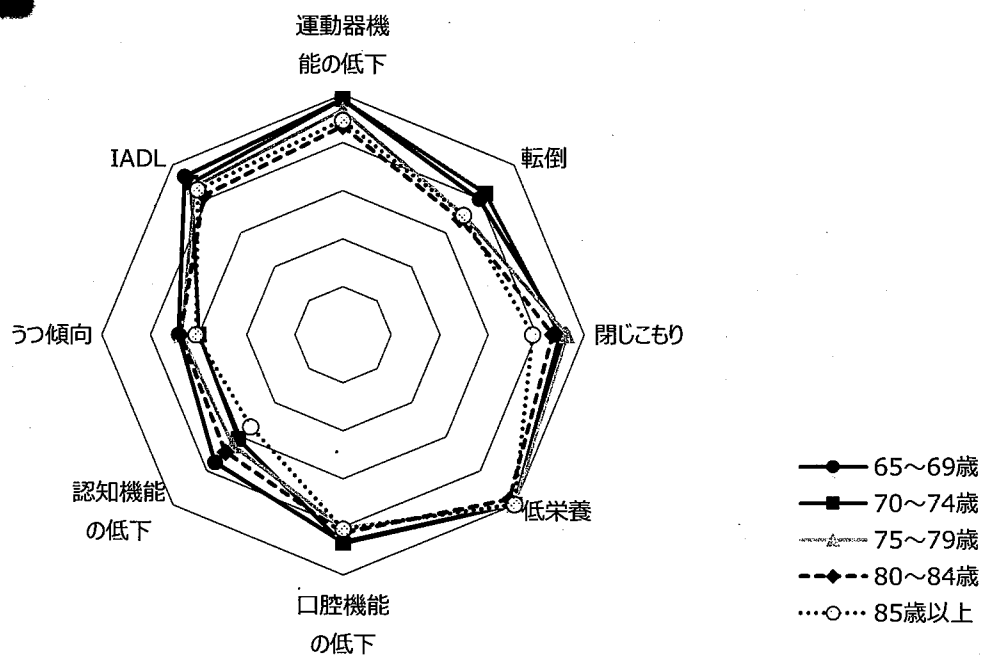
認定状況別 リスク該当の割合

	運動器の機能低下	転倒	閉じこもり	低栄養	口腔機能の低下	認知機能の低下	うつ傾向	IADL (低い+やや低い)
一般高齢者	7.1%	23.8%	10.9%	0.3%	15.8%	33.4%	34.7%	7.5%
事業対象者	0.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
要支援1	34.8%	43.5%	63.6%	8.7%	26.1%	40.9%	54.5%	30.4%
要支援2	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
全体	7.9%	24.4%	12.2%	0.5%	16.1%	33.7%	35.2%	8.2%

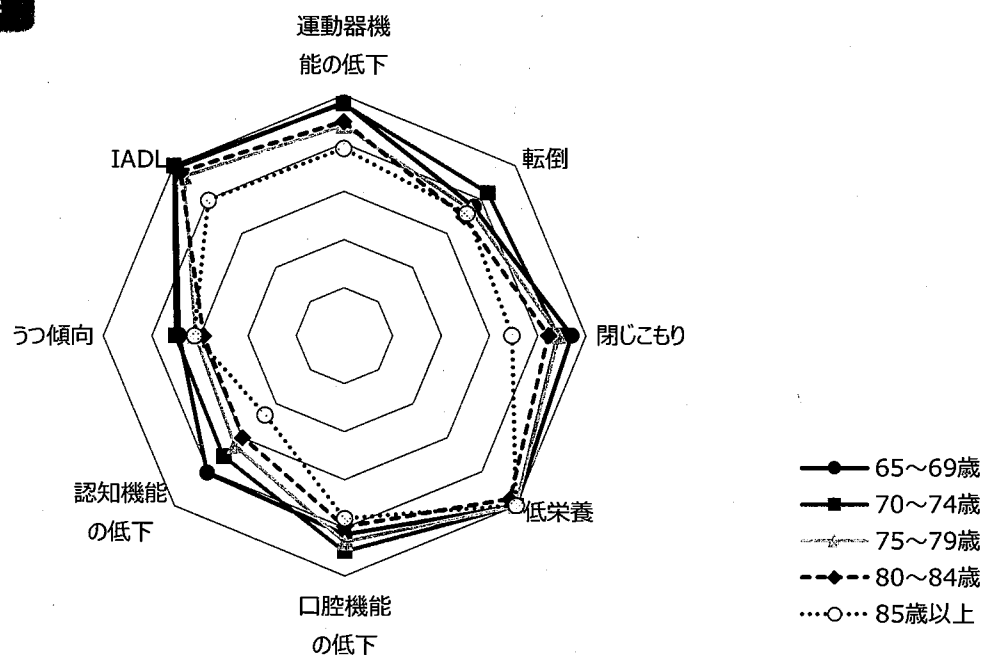
性別・年齢別 リスク判定結果

性別・年齢別に「リスク該当」の割合が高いほど中心部に近づくレーダーチャートにしてみると、男性・女性ともに年齢が上がるほど「リスク該当」の割合が高くなる傾向がみられますが、特に女性でその傾向が明らかとなっています。

男性

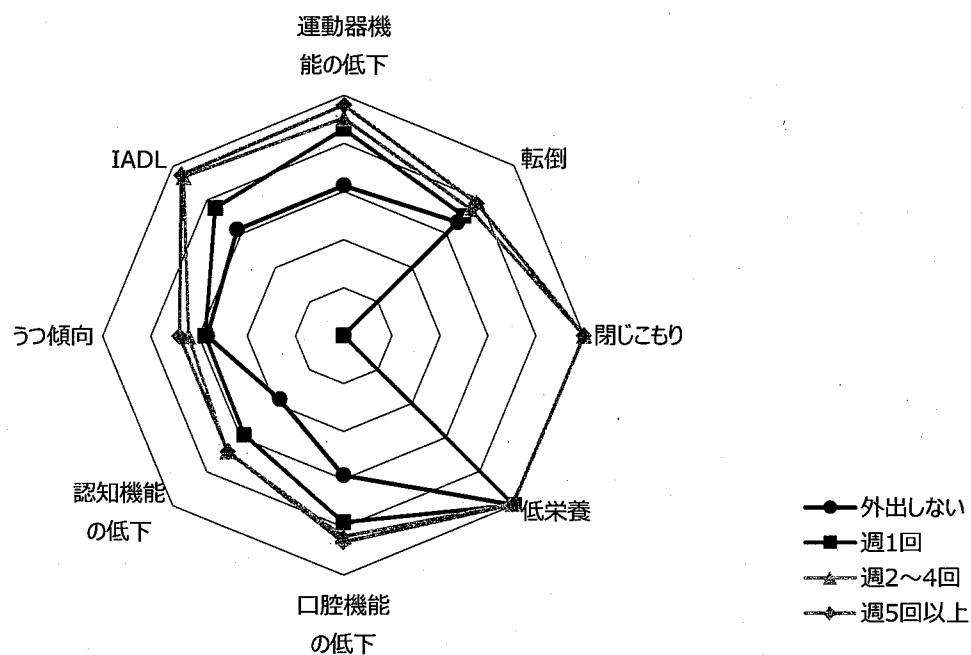


女性



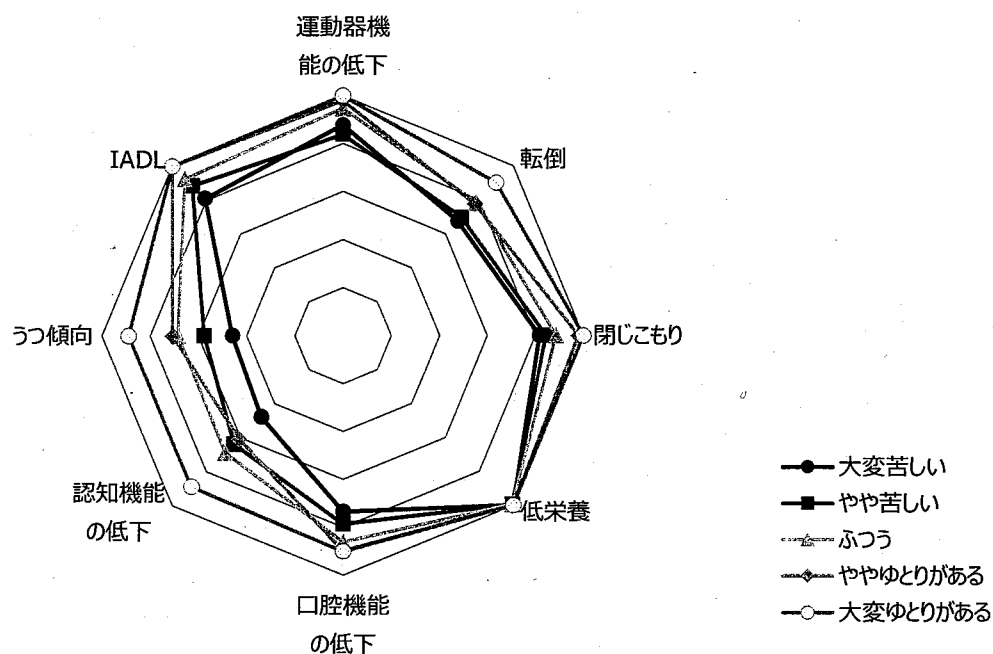
外出の頻度別 リスク判定結果

外出の頻度別に「リスク該当」の割合が高いほど中心部に近づくレーダーチャートにしてみると、外出の頻度が高いほど「リスク該当」の割合が低くなっています。運動器機能や転倒だけでなく、認知機能や口腔機能の低下、うつ傾向、IADLなどの項目についても明らかな差がみられます。



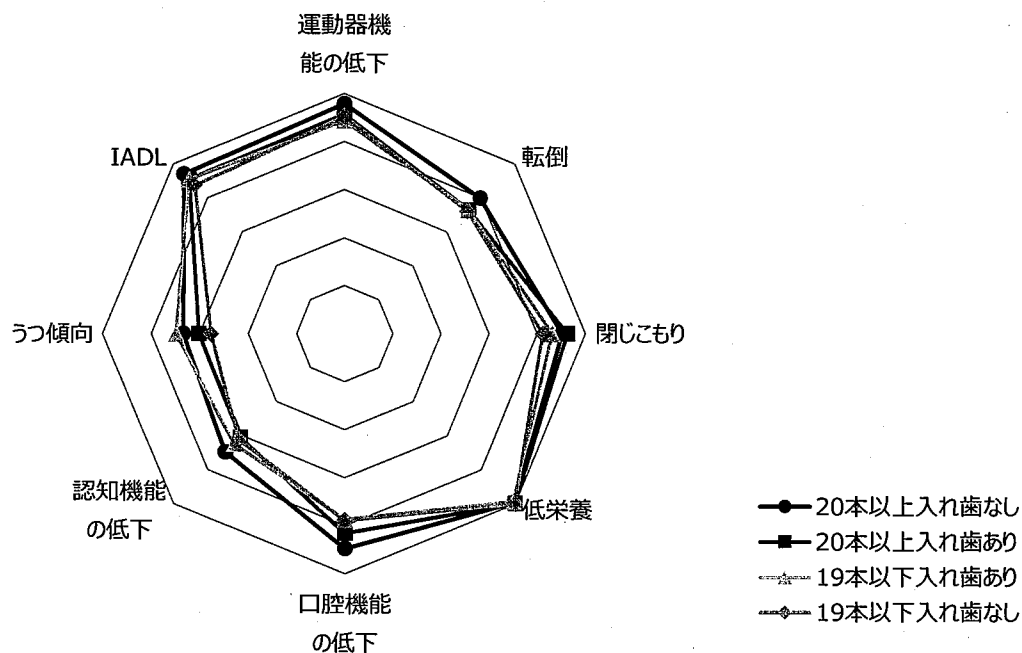
主観的経済状況別 リスク判定結果

主観的経済状況別に「リスク該当」の割合が高いほど中心部に近づくレーダーチャートにしてみると、経済的に苦しいと感じている人のほうが「リスク該当」の割合が高い傾向がみられます。



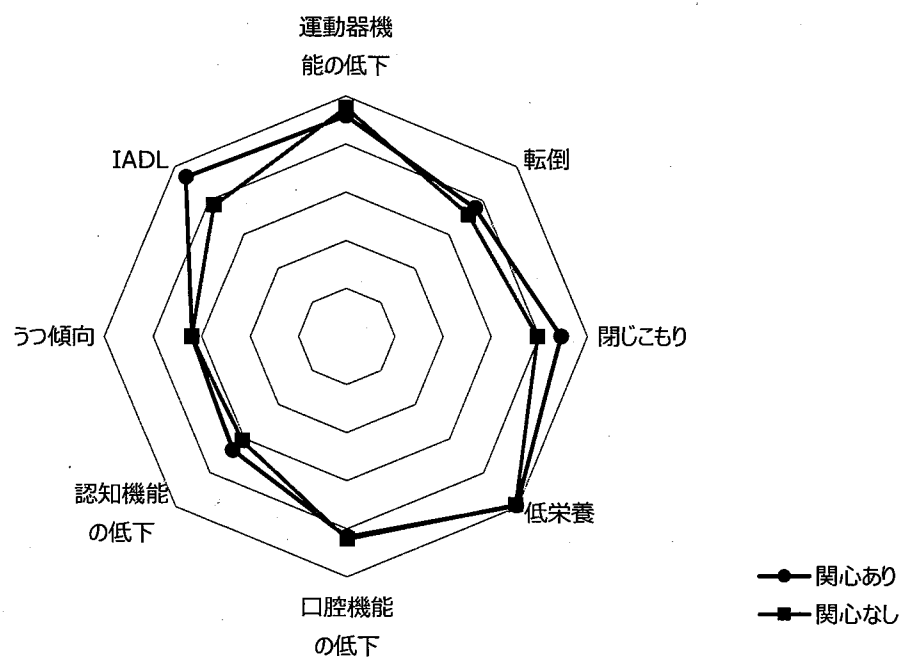
自分の歯と入れ歯の状況別 リスク判定結果

自分の歯と入れ歯の状況別に「リスク該当」の割合が高いほど中心部に近づくレーダーチャートにしてみると、自分の歯が19本以下で入れ歯を使用していない群で「リスク該当」の割合がやや高くなっています。



健康への関心の有無別 リスク判定結果

健康への関心の有無別に「リスク該当」の割合が高いほど中心部に近づくレーダーチャートにしてみると、運動器機能の低下については健康に関心があるほうが「リスク該当」の割合はやや高くなっていますが、IADL、閉じこもり、認知機能の低下などの項目では健康に関心があるほうが「リスク該当」の割合は低くなっています。



介護予防に向けて

● 家族構成に応じた支援の検討

家族構成（p.4）について令和4年の前回調査と比較すると、1人暮らしおよび夫婦のみ世帯の割合が増加している一方で、3世代世帯を含む「その他」の割合が9.2ポイント低い11.4%となっています。核家族化が進行しており、あわせて高齢者のみの世帯が増加傾向にあるといえます。

1人暮らし世帯は、買い物や食事の用意、請求書の支払いなどを行っている割合が高いことからIADLが高くなっていますが、うつ傾向のリスクが高くなっています。誰かと食事を共にする機会が少なく、助けあいの状況（p.64～p.71）では、心配事や愚痴を言いあう相手、看病や世話をしあう相手について「そのような人はいない」と回答する割合が高くなっています。また、1人暮らし世帯は生きがい（p.42）がある割合が低く、幸福度も他の世帯に比較して低い状況です。

これらのことから、今後さらに増えていくと見込まれる高齢者の1人暮らし世帯に対して、地域社会との交流を促進する支援が必要だと考えられます。出前講座や介護予防の集いの際に食事の機会を設けたり、こども食堂などの事業に地域の元気な高齢者をボランティアとして活用したりするなど、高齢者自身の参加による地域交流の新たなしくみづくりを推進していくことが求められます。

● 「できるけどしていない」を「できるししている」にするための取り組みの検討

運動器機能の設問（p.7～p.9）やIADLの設問（p.28～p.32）では、「できるけどしていない」と回答した方が一定割合います。しかし、加齢に伴い筋力が低下する中で、「できるけどしていない」状態が続くと、徐々に「できない」に近づいてしまう可能性があります。

また、食事の用意や預貯金の出し入れ等については特に男性で「できるけどしていない」「できない」の割合が高くなっていますが、配偶者に任せっきりにしていると、配偶者が家事をできない状態になったときに、栄養バランスのよい食事をとることができなくなったり、必要な手続きができなかったりしてしまいます。

「できるうちに行動すること」が介護予防の基本です。そのため、参加が楽しみになる料理教室や、進捗に応じて級（ランク）やポイントを付与する運動教室など、元気な高齢者の参加を促す工夫が重要です。

● 外出への支援

外出の頻度が高いほど「リスク該当」の割合は低く、幸福度の平均点（p.74）が高くなっていることから、高齢者の外出を支援することは、生活の質（QOL）の向上に資すると考えられます。

外出を控える理由（p.15）で最も多かったのは「足腰などの痛み」で46.2%でした。次いで「交通手段がない」が20.2%、「外での楽しみがない」が19.2%などとなっています。

「足腰などの痛み」についてはさまざまな原因が考えられますが、健康診査や健康講座などの機会を通じて適切なトレーニングや専門的なアドバイスの提供等をしていくなど、できるうちからの意識啓発を進めていく必要があります。

「交通手段がない」については、かもんバス（市営バス）、かもんタクシー（乗合タクシー）の運行について周知を図るとともに、ニーズに対応した運営のあり方、また行事やイベントに応じた交通手段の提供などを検討していく必要があります。

「外での楽しみがない」については参加することが楽しみになる場や、高齢者自身がボランティ

アとして社会のために何かをする場、楽しみながらウォーキングができるしくみなどを提供できるよう、検討を進めていきます。

● 地域づくりへの高齢者の参画促進

地域での健康づくり活動や趣味等のグループ活動に参加意向がある割合（すでに参加している人を含む）は、企画・運営（お世話役）として 30%程度、参加者としては 50%程度となっています。

人口減少と少子高齢化が進行するなか、多くの高齢者が地域づくりに参画することは、地域共生社会の実現に資することであるとともに、高齢者自身の介護予防、生きがいづくりにつながります。

社会福祉協議会などの関係団体と連携し、高齢者の地域における活動を支援するしくみを構築し、地域づくりへの高齢者の参画促進に取り組みます。

● 誰も取り残さない支援

主観的経済状況別にリスク判定結果をみると、経済的に苦しいと感じている人のほうが「リスク該当」の割合が高い傾向がみられます。また、主観的健康状態（p.73）が「よくない」「あまりよくない」の割合が高い傾向がみられます。

外出の頻度が高いほど「リスク該当」の割合は低く、幸福度の平均点（p.74）が高くなっていますが、外出を控えている理由（p.15）として「経済的に出られない」をあげる割合は、令和 4 年の前回調査より 8.3 ポイント高い 14.4%となっています。

また、健康についての記事や番組への関心の有無（p.37）について主観的経済状況別にみると、経済的にゆとりがあるほうが健康に関する記事や番組に関心がある割合が高い傾向がみられます。

経済的な状況が原因で介護予防の取り組みができず、介護が必要な状態になってしまうことがないように、子どもだけでなく高齢者も利用できる子ども食堂や有償ボランティアの導入などの取り組みを進めるとともに、アウトリーチを含めた包括的な相談支援体制を充実させることが必要です。

